

フリースクール等に通う不登校児童・生徒支援調査研究事業 報告書

**令和6年8月
東京都教育委員会**

目次

目次	2
図表目次	11
第Ⅰ部 調査の概要	21
第1章 目的	21
第2章 調査の全体構成	21
第3章 調査の体制	23
第Ⅱ部 児童・生徒及びその保護者対象のアンケート調査	24
第1章 目的	24
第2章 方法	24
2－1 調査協力者	24
(1) 対象	24
(2) 調査協力金	24
(3) 回答者数	24
(4) 調査への回答者数の変動	27
2－2 調査の構成と内容	27
(1) 調査の構成	27
(2) 調査項目の構成	27
(3) 調査項目の内容	28
2－3 調査の進め方と結果のまとめ	28
(1) 調査実施の流れ	28
(2) 結果の集計と分析	28

(3) 自由記述回答の分析法.....	28
2-4 調査項目の全体像と結果のまとめの指針	28
第3章 調査の分析結果.....	31
3-0 回答者数（再掲）	31
3-1〔1〕学校に行きたくない：予兆と不登校の要因	31
(1) 不登校の時期.....	31
(2) 休み始めるまでの期間	32
(3) 不登校の相談相手	35
(4) 期待した対応.....	38
(5) 保護者は不登校の要因をどのように捉えているのか	41
3-2〔2〕不登校になり始めの学校の対応・相談・組織.....	43
(1) 別室登校の有無	43
(2) 別室登校の場所	44
(3) 別室登校時の活動	45
(4) 学校で楽しさを感じたこと.....	46
(5) 学校の先生からの関わり	47
(6) 休みたいと思ったときの相談相手	51
3-3〔3〕不登校になり始めでの教育支援センター（適応指導教室）の対応	54
(1) 教育支援センター（適応指導教室）の通室の有無.....	54
(2) 教育支援センター（適応指導教室）での活動内容	54
(3) 教育支援センター（適応指導教室）の通室を辞めた理由.....	57
(4) 教育支援センター（適応指導教室）に再度通室するか	58
(5) 教育支援センター（適応指導教室）に再度通室しない理由.....	59
(6) 通室している教育支援センター（適応指導教室）の活動内容.....	59

3-4〔4〕フリースクール等の選択と活動.....	62
3-4-1 現在通っているフリースクール等について.....	62
(1) フリースクール等のタイプ.....	62
(2) 現在のフリースクール等を知ったきっかけ.....	62
(3) 現在のフリースクール等を選んだ理由.....	63
3-4-2 別のフリースクール等との比較.....	66
(1) 別のフリースクール等の経験.....	66
(2) 以前通っていたフリースクール等のタイプ.....	66
(3) 以前通っていたフリースクール等を辞めた理由.....	66
(4) 現在のフリースクール等に通い始めての変化.....	69
3-4-3 現在のフリースクール等での活動.....	72
(1) フリースクール等での活動内容.....	72
(2) 児童・生徒が楽しさや興味を感じた活動.....	73
(3) 保護者から見て児童・生徒が楽しんでいると思われる活動.....	76
(4) 保護者が関心・期待を寄せる活動.....	78
(5) フリースクール等の支援者からの関わり.....	79
(6) 学習の計画が示されているか.....	82
3-5〔5〕フリースクール等通所に伴う家庭状況：家計と通所状況.....	83
3-5-1 フリースクール等通所に伴う家計の状況.....	83
(1) 世帯収入.....	83
(2) フリースクール等の入会費用.....	84
(3) フリースクール等のひと月当たりの費用（授業料・施設使用料など）.....	85
(4) 交通費.....	86
3-5-2 通所手段と通所時間.....	87
3-5-3 通所に伴う家計負担の様子.....	89

(1) 家計の負担の様子	89
(2) 調査協力金の使い道	90
(3) 調査協力金の収支面での効果	91
3-5-4 通学定期乗車券制度の利用	92
3-6〔6〕フリースクール等での生活に対する児童・生徒の心の様子	92
3-6-1 フリースクール等の居心地感	93
(1) 居心地感の質問への回答状況	93
(2) 居心地感の質問項目間の関係の強さの分析	95
3-6-2 児童・生徒のストレス反応の状況	97
3-7〔7〕フリースクール等と学校等との関係	100
3-7-1 フリースクール等と学校通学の状況	100
(1) 学校通学の状況	100
(2) 学校通学時の活動内容	100
(3) フリースクール等の活動の出席の取り扱い	102
3-7-2 他の機関で支援を受けている・受けた経験	103
(1) 他の機関で支援を受けている・受けた経験	103
(2) 支援を利用した機関	104
3-8〔8〕有効な支援	105
3-9〔9〕12 か月間の縦断的回答に見られる変化の様子：学校通学・教育支援センター（適応指導教室）通室・フリースクール等通所について	109
3-9-1 学校通学・教育支援センター（適応指導教室）通室・フリースクール等通所の割合の月ごとの変化	109
3-9-2 学校通学・教育支援センター（適応指導教室）通室・フリースクール等通所の日数の月ごとの変化	111
3-10〔10〕12 か月間の縦断的回答に見られる変化の様子：学校	112

3-10-1 学校での活動内容	112
3-10-2 居心地感の変化	113
3-10-3 学校の先生からの関わりの変化	116
3-11〔11〕12か月間の縦断的回答に見られる変化の様子：教育支援センター（適応指導教室）	119
3-11-1 教育支援センター（適応指導教室）の活動内容	119
3-12〔12〕12か月間の縦断的回答に見られる変化の様子：フリースクール等	121
3-12-1 フリースクール等の活動内容	121
3-12-2 フリースクール等で児童・生徒が興味や楽しさを感じた活動内容	123
3-12-3 フリースクール等の支援者からの関わりの変化	126
3-12-4 学校の先生とフリースクール等の支援者からの関わりの変化を比較する	128
3-13〔13〕12か月間の縦断的回答に見られる変化の様子：家庭と家計	131
3-13-1 調査協力金の使い道の変化	131
3-13-2 調査協力金があることによる収支面での効果	133
3-14〔14〕今後に向けて	134
3-14-1 フリースクール等の課題と期待	134
(1) フリースクール等通所上の課題の有無	134
(2) 課題の内容	135
(3) フリースクール等への期待	136
3-14-2 児童・生徒の今後の進路	139
(1) 小学生について	139
(2) 中学生について	140
3-14-3 児童・生徒のストレス反応について	140
(1) 児童・生徒のストレス反応の様相	140
(2) 保護者による児童・生徒のストレス反応の捉え方	143

(3) 児童・生徒のストレス反応の様子と保護者の認識との一致について	145
3-14-4 今後期待したい支援	147
第4章 考察.....	149
4-1 本事業の目的に応える6観点	149
4-1-1 分析の6観点の設定.....	149
4-1-2 6観点から明らかになった点	149
観点(1) フリースクール等に通う以前の状態：不登校への初期対応の重要性	149
観点(2) 通所・通学・通室状況：フリースクール等、学校、教育支援センター（適応指導教室）での 様子	150
観点(3) フリースクール等での支援内容：活動の内容・フリースクール等の支援者との関係.....	151
観点(4) 希望している進路：進路予定、進路関係の相談など	152
観点(5) 児童・生徒及びその保護者が必要としている支援内容：有効な支援の在り方など	152
観点(6) 授業料及び入会金などの会費と諸経費：状況、金額、負担感など.....	153
4-2 特に留意・検討すべき論点	153
4-2-1 (論点1) 学校の先生の初期対応の重要性とその具体例.....	154
4-2-2 (論点2) 教育支援センター（適応指導教室）での支援	154
(1) 有効な支援としての教育支援センター（適応指導教室）への期待	154
(2) 教育支援センター（適応指導教室）の活用	155
(3) 「再度の通室を検討するか」の質問への回答から	155
4-2-3 (論点3) 児童・生徒の学校居心地感と学校の先生からの関わり：小学生と中学生の比較	155
(1) 明らかになったこと	155
(2) 居心地感の向上をもたらしているもの：自己有用感と自己効力感の育成.....	158
補遺（第Ⅱ部関係）	159

補遺（１）テキストマイニング	159
補遺（２）主成分分析.....	159
補遺（３）重回帰分析.....	159
補遺（４） χ^2 検定・ t 検定・効果量(ES)	161
調査項目Ⅰ：保護者 初回調査	162
調査項目Ⅱ：保護者 定期調査	170
調査項目Ⅲ：児童・生徒 初回調査	175
調査項目Ⅳ：児童・生徒 定期調査	178
第Ⅲ部 フリースクール等への訪問及び聞き取り調査.....	181
第１章 目的.....	181
第２章 方法.....	181
２－１ 調査対象スクール等の選定.....	181
２－２ 調査方法と内容	181
２－３ 調査実施の手順	181
第３章 結果.....	182
３－１ 施設概要.....	182
３－１－１ 法人格.....	182
３－１－２ 設立年.....	182
３－１－３ スタッフの総数	183
３－１－４ １日当たりのスタッフ数.....	183
３－１－５ スタッフの構成	184
３－１－６ スタッフが所有している資格	184
３－１－７ 活動場所.....	185

3-1-8 活動場所の面積.....	186
3-1-9 活動する部屋の数	186
3-1-10 設備	187
3-1-11 日常的に行っている屋外での活動の場所	187
3-1-12 開所日数	188
3-2 入会金・授業料・施設使用料.....	188
3-3 在籍人数.....	190
3-3-1 受け入れ対象年齢	190
3-3-2 在籍人数	191
3-4 児童・生徒の入所までのおおまかな流れ	192
3-5 不登校の要因についての情報	192
3-6 フリースクール等の位置付け	193
3-7 児童・生徒がフリースクール等に求めていること	194
3-8 主な活動内容	195
3-9 学習計画の提示	197
3-9-1 活動計画の有無.....	197
3-9-2 活動計画の報告状況	197
3-10 ICT の活用実態.....	198
3-10-1 活用している ICT 機器	198
3-10-2 ICT 機器の費用負担者.....	199
3-10-3 ICT 活用の目的・用途	199
3-11 進路.....	200
3-11-1 進路に関する支援	200
3-11-2 進路の内訳.....	201
3-11-2-1 フリースクール等退所後.....	201

3-11-2-2 小学校卒業後の所属	202
3-11-2-3 小学校卒業後の所属（主な活動場所以外）	202
3-11-2-4 中学校卒業後の進路	203
3-12 在籍校・在籍校以外との連携	204
3-13 アウトリーチ支援	207
3-14 保護者との情報共有	208
3-15 成果報告	209
3-16 運営する上での課題	209
3-17 その他	211
第4章 施設一覧	212
4-1 施設名と所在地	212
4-2 施設の概要	221
付録 調査内容	244
参考	246
1 参考文献・資料	246
2 国立大学法人東京学芸大学 担当者・執筆者一覧	246
3 東京都教育庁指導部 担当者一覧	246

※ 第Ⅱ部第3章の番号〔1〕～〔14〕は、図 2-4-1（p.30）の太破線の囲み番号に対応している。

図表目次

No.	タイトル	ページ
【第Ⅰ部】 調査の概要		
1	図 2-1 調査の構成	21
2	図 2-2-R4 令和 4 年度 フリースクール等調査のデータ構造と人数	22
3	図 2-2-R5 令和 5 年度 フリースクール等調査のデータ構造と人数	22
【第Ⅱ部】 児童・生徒及びその保護者対象のアンケート調査		
4	図 2-1-1-R4 学年別・校種別 回答者数（初回調査時点 N=509）	25
5	図 2-1-1-R5 学年別・校種別 回答者数（初回調査時点 N=1282）	25
6	図 2-1-2-R4 学年別・校種別 回答者割合（初回調査時点 N=509）	26
7	図 2-1-2-R5 学年別・校種別 回答者割合（初回調査時点 N=1282）	26
8	表 2-2-1 調査の構成（対象と実施時期）	27
9	図 2-4-1 項目の全体構造図（改訂版）	30
10	表 3-0-1-R4 学年別及び校種別人数（令和 4 年度）	31
11	表 3-0-1-R5 学年別及び校種別人数（令和 5 年度）	31
12	表 3-1-1-R4 不登校になった時期（令和 4 年度）（N=502）	31
13	表 3-1-1-R5 不登校になった時期（令和 5 年度）（N=1272）	32
14	図 3-1-1-R4 休み始めるまでの期間（N=508）	32
15	図 3-1-1-R5 休み始めるまでの期間（N=1281）	33
16	図 3-1-2-R4 学校を休み始めるまでの期間の学年別比較（令和 4 年度）（N=502）	33
17	図 3-1-2-(a)-R4 学校を休み始めるまでの期間の学年別比較（N=502）	34
18	図 3-1-2-R5 学校を休み始めるまでの期間の学年別比較（令和 5 年度）（N=1264）	34
19	図 3-1-2-(a)-R5 学校を休み始めるまでの期間の学年別比較（令和 5 年度）（N=1264）	35
20	図 3-1-2-(b)-R4 休み始めるまでの間の相談相手（保護者の回答）	36
21	図 3-1-2-(b)-R5 休み始めるまでの間の相談相手（保護者の回答）	37
22	図 3-1-3-R4 期待した対応	39
23	図 3-1-3-R4 のデータ表	39
24	図 3-1-3-R5 期待した対応	40

25	図 3-1-3-R5 のデータ表	40
26	表 3-1-2 保護者は不登校の要因をどのように考えているのか	41
27	図 3-2-1-R4 別室登校の有無	43
28	図 3-2-1-R5 別室登校の有無	43
29	図 3-2-2-R4 別室登校時に過ごした場所	44
30	図 3-2-2-R5 別室登校時に過ごした場所	44
31	図 3-2-3-R4 別室登校時の活動	45
32	図 3-2-3-R5 別室登校時の活動	45
33	図 3-2-4-R4 学校で楽しさを感じたこと	46
34	図 3-2-4-R4 のデータ表	46
35	図 3-2-4-R5 学校で楽しさを感じたこと	47
36	図 3-2-4-R5 のデータ表	47
37	図 3-2-5-R4 学校の先生からの関わりに関する質問の選択結果	48
38	図 3-2-5-R4 のデータ表	49
39	図 3-2-5-R5 学校の先生からの関わりに関する質問の選択結果	50
40	図 3-2-5-R5 のデータ表	51
41	表 3-2-3 学校の先生からの関わりに関する 4 概念の選択率（「当てはまる」）の比較	51
42	図 3-2-6-R4 休みたいと思ったときの相談相手（児童・生徒の回答）	52
43	図 3-2-6-R4 のデータ表	52
44	図 3-2-6-R5 休みたいと思ったときの相談相手（児童・生徒の回答）	53
45	図 3-2-6-R5 のデータ表	53
46	図 3-3-1-R4 教育支援センター（適応指導教室）の通室経験	54
47	図 3-3-1-R5 教育支援センター（適応指導教室）の通室経験	54
48	図 3-3-2-R4 教育支援センター（適応指導教室）での活動内容	55
49	図 3-3-2-R4 のデータ表	55
50	図 3-3-2-R5 教育支援センター（適応指導教室）での活動内容	56
51	図 3-3-2-R5 のデータ表	56
52	図 3-3-3-R4 教育支援センター（適応指導教室）の通室を辞めた理由（重み付け得点順）	57
53	図 3-3-3-R5 教育支援センター（適応指導教室）の通室を辞めた理由（重み付け得点順）	57
54	図 3-3-4-R4 教育支援センター（適応指導教室）への再度の通室を検討するか	58

55	図 3-3-4-R5 教育支援センター（適応指導教室）への再度の通室を検討するか	58
56	表 3-3-1 教育支援センター（適応指導教室）に再度通室しない理由	59
57	図 3-3-5-R4 現在通室している教育支援センター（適応指導教室）の活動内容	60
58	図 3-3-5-R4 のデータ表	60
59	図 3-3-5-R5 現在通室している教育支援センター（適応指導教室）の活動内容	61
60	図 3-3-5-R5 のデータ表	61
61	表 3-4-1 通っているフリースクール等の類型（タイプ）	62
62	図 3-4-1-(a)-R4 現在通っているフリースクール等を知ったきっかけ	62
63	図 3-4-1-(a)-R5 現在通っているフリースクール等を知ったきっかけ	63
64	図 3-4-1-(b)-R4 現在のフリースクール等を選んだ理由（重み付け得点順）	64
65	図 3-4-1-(c)-R4 現在のフリースクール等を選んだ理由（小中別）	64
66	図 3-4-1-(b)-R5 現在のフリースクール等を選んだ理由（重み付け得点順）	65
67	図 3-4-1-(c)-R5 現在のフリースクール等を選んだ理由（小中別）	65
68	表 3-4-2 別のフリースクール等に通っていたか	66
69	表 3-4-2-(a) 以前通っていたフリースクール等の類型（タイプ）	66
70	図 3-4-2-(b)-R4 以前のフリースクール等を辞めた理由（全体）（重み付け得点順）	67
71	図 3-4-2-(b)-R5 以前のフリースクール等を辞めた理由（全体）（重み付け得点順）	67
72	図 3-4-2-(c)-R4 以前のフリースクール等を辞めた理由（小中別人数）（第1位の回答）	68
73	図 3-4-2-(c)-R5 以前のフリースクール等を辞めた理由（小中別人数）（第1位の回答）	69
74	図 3-4-2-(d)-R4 現在のフリースクール等に通い始めてからの変化（全体）（重み付け得点順）	70
75	図 3-4-2-(d)-R5 現在のフリースクール等に通い始めてからの変化（全体）（重み付け得点順）	70
76	図 3-4-2-(e)-R4 現在のフリースクール等に通い始めてからの変化（小中別人数）（第1位の回答）	71
77	図 3-4-2-(e)-R5 現在のフリースクール等に通い始めてからの変化（小中別人数）（第1位の回答）	71
78	図 3-4-3-R4 フリースクール等が用意している活動内容	72
79	図 3-4-3-R4 のデータ表	72
80	図 3-4-3-R5 フリースクール等が用意している活動内容	73
81	図 3-4-3-R5 のデータ表	73
82	図 3-4-3-(a)-R4 児童・生徒がフリースクール等で楽しさや興味を感じる活動（全体）（重み付け得点順）	74
83	図 3-4-3-(a)-R5 児童・生徒がフリースクール等で楽しさや興味を感じる活動（全体）（重み付け得点順）	74

84	図 3-4-3-(b)-R4 児童・生徒がフリースクール等で楽しさや興味を感じる活動（小中別）（第1位の回答）	75
85	図 3-4-3-(b)-R5 児童・生徒がフリースクール等で楽しさや興味を感じる活動（小中別）（第1位の回答）	76
86	図 3-4-3-(c)-R4 保護者から見て、児童・生徒が特に楽しんでいる活動内容（重み付け得点順）	77
87	図 3-4-3-(c)-R5 保護者から見て、児童・生徒が特に楽しんでいる活動内容（重み付け得点順）	77
88	図 3-4-3-(d)-R4 フリースクール等で保護者が関心・期待を示す活動（重み付け得点順）	78
89	図 3-4-3-(d)-R5 フリースクール等で保護者が関心・期待を示す活動（重み付け得点順）	79
90	図 3-4-3-(e)-R4 フリースクール等の支援者からの関わり	80
91	図 3-4-3-(e)-R4 のデータ表	80
92	図 3-4-3-(e)-R5 フリースクール等の支援者からの関わり	81
93	図 3-4-3-(e)-R5 のデータ表	81
94	表 3-4-3-(b) フリースクール等の支援者からの関わりに関する4概念の選択率（「当てはまる」）の比較	82
95	図 3-4-3-(f)-R4 現在のフリースクール等より学習の計画が示されているか	82
96	図 3-4-3-(f)-R5 現在のフリースクール等より学習の計画が示されているか	83
97	図 3-5-1-R4 世帯の年収	83
98	図 3-5-1-R5 世帯の年収	84
99	図 3-5-1-(a)-R4 フリースクール等の入会費用	84
100	図 3-5-1-(a)-R5 フリースクール等の入会費用	84
101	表 3-5-1-(a) フリースクール等のひと月あたりの費用（授業料・施設使用料など）の統計量	85
102	図 3-5-1-(b)-R4 フリースクール等のひと月あたりの費用（授業料・施設使用料など）	85
103	図 3-5-1-(b)-R5 フリースクール等のひと月あたりの費用（授業料・施設使用料など）	85
104	表 3-5-1-(c) ひと月あたりの交通費の統計量	86
105	図 3-5-1-(c)-R4 フリースクール等通所の交通費	86
106	図 3-5-1-(c)-R5 フリースクール等通所の交通費	87
107	図 3-5-2-(a) 通所の交通手段	87
108	表 3-5-2 通所の所要時間の統計量	87
109	図 3-5-2-(b)-R4 通所の所要時間	88
110	図 3-5-2-(b)-R5 通所の所要時間	88
111	図 3-5-3-R4 フリースクール等通所に伴う家計の負担感	89
112	図 3-5-3-R5 フリースクール等通所に伴う家計の負担感	89

113	図 3-5-3-(a)-R4 調査協力金の使い道	90
114	図 3-5-3-(a)-R5 調査協力金の使い道	90
115	図 3-5-3-(b)-R4 調査協力金の収支面での効果	91
116	図 3-5-3-(b)-R5 調査協力金の収支面での効果	91
117	図 3-5-4-(a)-R4 通学定期乗車券制度の利用	92
118	図 3-5-4-(a)-R5 通学定期乗車券制度の利用	92
119	表 3-5-4 交通機関ごとの通学定期乗車券制度の利用者	92
120	図 3-6-1-R4 居心地感の質問に対する 5 段階評価の出現率	93
121	図 3-6-1-R4 のデータ表	93
122	図 3-6-1-R5 居心地感の質問に対する 5 段階評価の出現率	94
123	図 3-6-1-R5 のデータ表	94
124	表 3-6-1-R4 居心地感の質問に対する小学生と中学生の比較	95
125	表 3-6-1-R5 居心地感の質問に対する小学生と中学生の比較	95
126	表 3-6-2 フリースクール等の居心地感の質問項目について相互の関係の強さ（ピアソンの積率相関係数）	96
127	図 3-6-1-(a) 居心地感 10 項目の関係の強さを基にしたまとまりの図	96
128	図 3-6-2-R4 児童・生徒のストレス反応の項目別選択率	98
129	図 3-6-2-R4 のデータ表	98
130	図 3-6-2-R5 児童・生徒のストレス反応の項目別選択率	99
131	図 3-6-2-R5 のデータ表	99
132	図 3-7-1-R4 現在の学校への通学状況	100
133	図 3-7-1-R5 現在の学校への通学状況	100
134	図 3-7-1-(b)-R4 通学時の活動内容	101
135	図 3-7-1-(b)-R4 のデータ表	101
136	図 3-7-1-(b)-R5 通学時の活動内容	102
137	図 3-7-1-(b)-R5 のデータ表	102
138	図 3-7-1-(c)-R4 フリースクール等の活動の出席の取り扱い	103
139	図 3-7-1-(c)-R5 フリースクール等の活動の出席の取り扱い	103
140	図 3-7-2-R4 他の機関で支援を受けた経験	104
141	図 3-7-2-R5 他の機関で支援を受けた経験	104
142	表 3-7-2-R4 どこで・どのような支援を受けていたか（抜粋）	105

143	表 3-7-2-R5 どこで・どのような支援を受けていたか（抜粋）	105
144	表 3-8-1 有効な支援	106
145	図 3-9-1-R4 学校通学・教育支援センター（適応指導教室）通室・フリースクール等通所の割合	110
146	図 3-9-1-R4 のデータ表	110
147	図 3-9-1-R5 学校通学・教育支援センター（適応指導教室）通室・フリースクール等通所の割合	110
148	図 3-9-1-R5 のデータ表	110
149	図 3-9-2-R4 学校通学・教育支援センター(適応指導教室)通室・フリースクール等通所月別日数	111
150	図 3-9-2-R4 のデータ表	111
151	図 3-9-2-R5 学校通学・教育支援センター(適応指導教室)通室・フリースクール等通所月別日数	111
152	図 3-9-2-R5 のデータ表	111
153	図 3-10-1-R4 月ごとの学校での活動内容	112
154	図 3-10-1-R4 のデータ表	112
155	図 3-10-1-R5 月ごとの学校での活動内容	113
156	図 3-10-1-R5 のデータ表	113
157	図 3-10-2-R4 学校の居心地感尺度の月別変化（５段階得点：平均）小中別	114
158	図 3-10-2-R4 のデータ表	114
159	図 3-10-2-R5 学校の居心地感尺度の月別変化（５段階得点：平均）小中別	115
160	図 3-10-2-R5 のデータ表	115
161	図 3-10-3-R4 学校の先生からの関わり項目の選択数の変化	117
162	図 3-10-3-R4 のデータ表	117
163	図 3-10-3-R5 学校の先生からの関わり項目の選択数の変化	118
164	図 3-10-3-R5 のデータ表	118
165	図 3-11-1-R4 教育支援センター（適応指導教室）での活動内容の変化	119
166	図 3-11-1-R4 のデータ表	119
167	図 3-11-1-R5 教育支援センター（適応指導教室）での活動内容の変化	120
168	図 3-11-1-R5 のデータ表	120
169	図 3-12-1-R4 フリースクール等での活動内容（保護者定期より）	121
170	図 3-12-1-R4 のデータ表	122
171	図 3-12-1-R5 フリースクール等での活動内容（保護者定期より）	122
172	図 3-12-1-R5 のデータ表	123

173	図 3-12-2-R4 児童・生徒が興味・関心を示したフリースクール等での活動	124
174	図 3-12-2-R4 のデータ表	124
175	図 3-12-2-R5 児童・生徒が興味・関心を示したフリースクール等での活動	125
176	図 3-12-2-R5 のデータ表	125
177	表 3-12-1 支援者からの関わりの 4 概念の質問項目	126
178	図 3-12-3-R4 フリースクール等の支援者からの関わりの変化（9 月と 3 月の比較）	127
179	図 3-12-3-R4 のデータ表	127
180	図 3-12-3-R5 フリースクール等の支援者からの関わりの変化（9 月と 3 月の比較）	128
181	図 3-12-3-R5 のデータ表	128
182	図 3-12-4-R4 支援者からの関わりの 4 概念と「⑨どれにもあてはまらない」の選択率月別変化： 学校の先生、フリースクール等の支援者別	129
183	図 3-12-4-R4 のデータ表	129
184	図 3-12-4-R5 支援者からの関わりの 4 概念と「⑨どれにもあてはまらない」の選択率月別変化： 学校の先生、フリースクール等の支援者別	130
185	図 3-12-4-R5 のデータ表	130
186	図 3-13-1-R4 調査協力金の使い道の月別変化	131
187	図 3-13-1-R4 のデータ表	131
188	図 3-13-1-R5 調査協力金の使い道の月別変化	132
189	図 3-13-1-R5 のデータ表	132
190	図 3-13-2-R4 調査協力金の収支面での効果に関する月別変化	133
191	図 3-13-2-R4 のデータ表	133
192	図 3-13-2-R5 調査協力金の収支面での効果に関する月別変化	134
193	図 3-13-2-R5 のデータ表	134
194	表 3-14-1 フリースクール等通所上の課題の有無	134
195	図 3-14-1-(a)-R4 フリースクール等通所上の課題の内容（多い順）	135
196	図 3-14-1-(a)-R4 のデータ表	135
197	図 3-14-1-(a)-R5 フリースクール等通所上の課題の内容（多い順）	136
198	図 3-14-1-(a)-R5 のデータ表	136
199	図 3-14-2-(a) フリースクール等にどのようなことを期待しているか（小学生の保護者）	137
200	図 3-14-2-(a) のデータ表	137
201	図 3-14-2-(b) フリースクール等にどのようなことを期待しているか（中学生の保護者）	138

202	図 3-14-2-(b) のデータ表	138
203	図 3-14-3-R4 児童（小学生）の進路についての現在の考え（方向性）	139
204	図 3-14-3-R5 児童（小学生）の進路についての現在の考え（方向性）	139
205	図 3-14-3-(a)-R4 生徒（中学生）の進路についての現在の考え（方向性）	140
206	図 3-14-3-(a)-R5 生徒（中学生）の進路についての現在の考え（方向性）	140
207	図 3-14-4-R4 児童・生徒のストレス反応（定期調査時点）	141
208	図 3-14-4-R4 のデータ表	141
209	図 3-14-4-R5 児童・生徒のストレス反応（定期調査時点）	142
210	図 3-14-4-R5 のデータ表	142
211	図 3-14-4-(a)-R4 保護者から見た児童・生徒のストレス反応	143
212	図 3-14-4-(a)-R5 保護者から見た児童・生徒のストレス反応	144
213	表 3-14-2-(b)-R4 保護者から見た児童・生徒のストレス反応の比較（小学生と中学生）	144
214	表 3-14-2-(b)-R5 保護者から見た児童・生徒のストレス反応の比較（小学生と中学生）	145
215	図 3-14-4-(b)-R4 児童・生徒のストレス反応項目選択数と保護者の評価との関係	146
216	図 3-14-4-(b)-R5 児童・生徒のストレス反応項目選択数と保護者の評価との関係	146
217	表 3-14-3 今後期待したい支援	147
218	表 4-1-1-R4 通所・通学・通室の人数と日数（令和 4 年度）	150
219	表 4-1-1-R5 通所・通学・通室の人数と日数（令和 5 年度）	150
220	表 4-2-1 学校の先生の対応：保護者が有効な支援と考えた事案（例）	154
221	表 4-2-2 教育支援センター（適応指導教室）の支援：保護者が有効だと考えた事案（例）	154
222	図 4-2-1 居心地感 10 項目の関係の強さを基にしたまとまりの図（図 3-6-1-(a)の再掲）	156
223	表 4-2-3 居心地感に影響を及ぼす学校の先生からの関わりの要素（重回帰分析）	157
224	付表 1 居心地感に影響を及ぼす学校の先生からの関わりの要素の重回帰分析結果	160
【第Ⅲ部】 フリースクール等への訪問及び聞き取り調査		
225	図 3-1-1 法人格	182
226	図 3-1-2 設立年ごとの施設数の推移	182
227	図 3-1-3 運営に関係しているスタッフ数	183
228	図 3-1-4 1 日当たりのスタッフ数	183
229	図 3-1-5 スタッフの構成	184
230	図 3-1-6 スタッフが所有している資格	184

231	図 3-1-7 フリースクール等の活動場所	185
232	図 3-1-8 活動場所の広さ	186
233	図 3-1-9 活動する部屋の数	186
234	図 3-1-10 施設の設備	187
235	図 3-1-11 屋外での活動場所	187
236	図 3-1-12 開所日数	188
237	図 3-2-1 入会金	188
238	図 3-2-2 授業料	189
239	図 3-2-3 施設利用料	189
240	図 3-3-1 受け入れ対象年齢	190
241	図 3-3-2 【小学校段階】2018（平成 30）年度～2023（令和 5）年度における施設ごとの在籍者の割合	191
242	図 3-3-3 【中学校段階】2018（平成 30）年度～2023（令和 5）年度における施設ごとの在籍者の割合	191
243	図 3-6 フリースクール等の位置付け	193
244	図 3-7 児童・生徒がフリースクール等に求めていること	194
245	図 3-8 主な活動内容	195
246	図 3-9-1 活動計画の有無	197
247	図 3-9-2 学習計画の報告状況	197
248	図 3-10-1 活用している ICT 機器	198
249	図 3-10-2 ICT 機器の費用負担者	199
250	図 3-10-3 ICT 活用の目的・用途	199
251	図 3-11-1 進路支援	200
252	表 3-11-1 フリースクール等退所後の所属先 順位別の施設数	201
253	表 3-11-2 小学校卒業後の所属先（主な活動場所） 順位別の施設数	202
254	表 3-11-3 小学校卒業後の所属先(2つ以上所属している場合の主な活動場所以外)順位別の施設数	202
255	表 3-11-4 中学校卒業後の所属先 順位別の施設数	203
256	図 3-12-1 在籍校・在籍校以外との連携	204
257	図 3-12-1(a) 児童・生徒の直接的な支援を目的とした連携頻度	204
258	図 3-12-1(b) 他機関との交流を目的とした連携頻度	205
259	図 3-13 アウトリーチ支援の有無	207

260	図 3-13(a) アウトリーチ支援の頻度	208
261	図 3-15 成果・課題の確認の方法	209
262	4 - 1 施設名と所在地	212
263	4 - 2 施設の概要	221
264	付録 1 調査内容	244

※ 図表数

第Ⅰ部 = 3 点

第Ⅱ部 = 221 点

第Ⅲ部 = 40 点 計 264 点

第Ⅰ部 調査の概要

第1章 目的

「フリースクール等に通う不登校児童・生徒支援調査研究事業」（以下、本事業）の目的は、都内公立小・中学生のうち、フリースクール等に通う不登校児童・生徒及び保護者の支援ニーズや児童・生徒の進路、フリースクール等の活動内容やその分類、調査協力金の支払いによる効果等を把握し、東京都教育委員会の今後の施策立案に生かすことである。そこで、本事業では、関連する様々な調査を実施、情報の収集、分析を行い、「フリースクール等に通う不登校児童・生徒支援調査研究事業報告書」（以下、報告書）を作成した。

調査の対象は、フリースクール等に通う不登校児童・生徒及びその保護者、フリースクール等とする。収集した情報を基に、「①フリースクール等に通う以前の状態」、「②通所・通学・通室状況」、「③フリースクール等での支援内容」、「④希望している進路」、「⑤児童・生徒及びその保護者が必要としている支援内容」、「⑥授業料及び入会金などの会費と諸経費」の6観点で諸様相を分析し、評価する。

なお、本事業の調査は、東京都教育委員会からの委託に基づき、令和4年度と令和5年度（一部、令和6年4月上旬まで）のおよそ2年間にわたって、国立大学法人東京学芸大学が実施した。

第2章 調査の全体構成

調査の構成は、図2-1のとおりである。

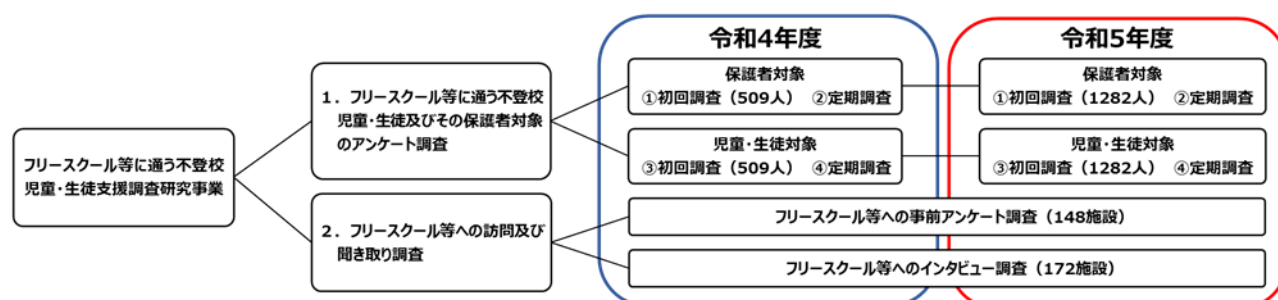


図2-1 調査の構成

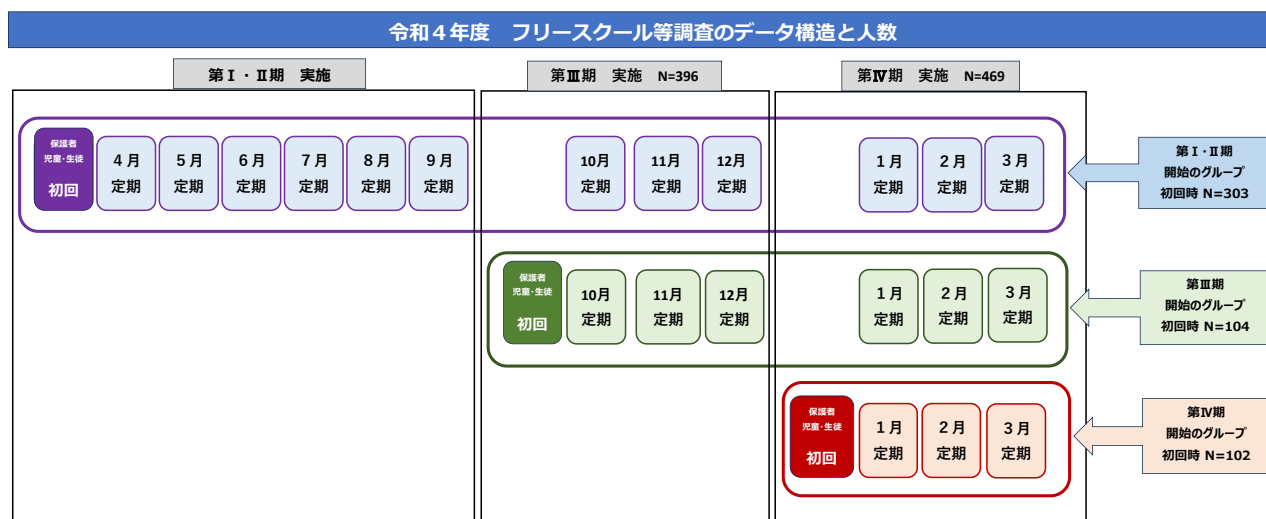
図2-1の「1. フリースクール等に通う不登校児童・生徒及びその保護者対象のアンケート調査」の対象者は、初回調査時点で、令和4年度は、同一世帯から保護者、児童・生徒それぞれ509人ずつ、令和5年度は、1282人ずつであった。児童・生徒の年齢・学年構成は、図2-1-1-R4（p.25）及び図2-1-1-R5（p.25）に示す。

調査は、保護者、児童・生徒のいずれも、初回調査及び定期調査の2種類を実施した。初回調査とは、調査対象者として初めて回答するもの、定期調査とは、初回調査に回答後、令和4年度は、令和4年4月から令和5年3月まで、令和5年度は、令和5年4月から令和6年3月まで（年度途中から対象者となった場合はこの限りではない。）、それぞれ毎月の様子について回答する調査のことである。

初回調査と定期調査の詳細及び回答者数については、図2-2-R4（p.22）、図2-2-R5（p.22）に示す。なお、図2-2-R4及び図2-2-R5では、Nの数（回答数）に不一致が見られるが、これは、回答者数が、初回調査時点に比べ、定期調査を実施していく中で徐々に減少したためである。

図2-2-R4は、令和4年度のデータ構造を示したものである。図に示すように、定期調査は、調査開始時期によって、同一対象（グループ）の次の3グループからなる。それぞれのグループの開始時期によって、第Ⅰ・Ⅱ期、第Ⅲ期、第Ⅳ期とする。

- (1) 12 か月調査（令和4年4月 ～ 令和5年3月）：第Ⅰ・Ⅱ期開始のグループ
- (2) 6 か月調査（令和4年10月 ～ 令和5年3月）：第Ⅲ期開始のグループ
- (3) 3 か月調査（令和5年1月 ～ 令和5年3月）：第Ⅳ期開始のグループ



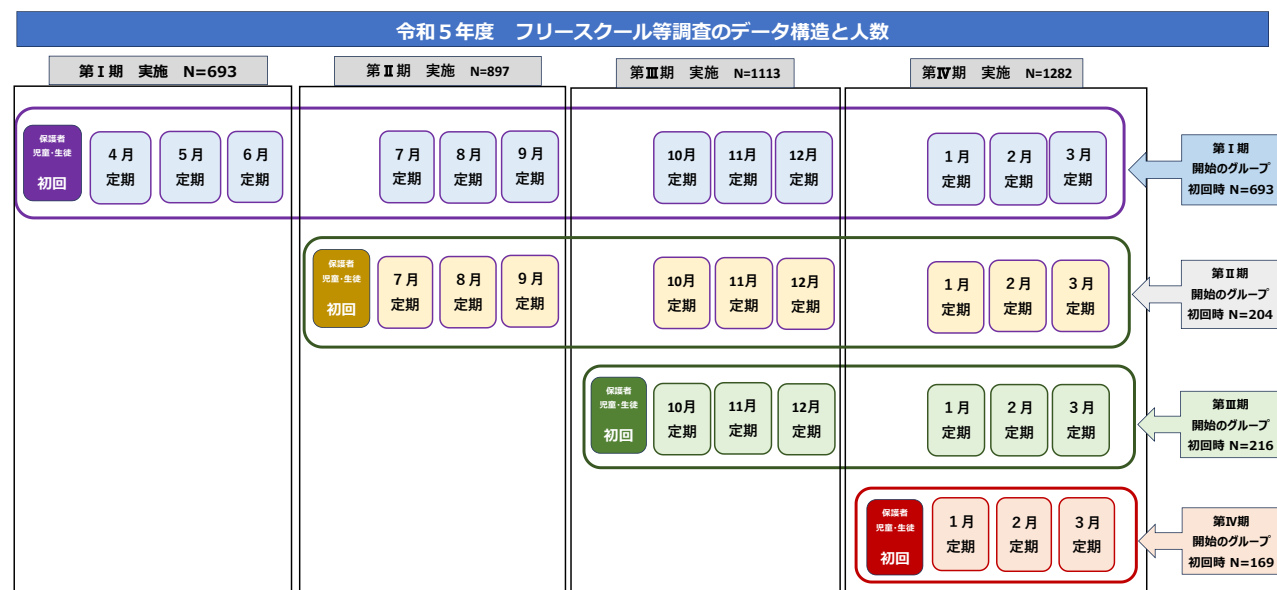
※ 各実施及びグループに記載のNの数は、分析の際の有効回答数である。

図 2-2-R4 令和4年度 フリースクール等調査のデータ構造と人数

図 2-2-R5 は、令和5年度のデータ構造を示したものである。図に示すように、定期調査は、調査開始時期によって、同一対象（グループ）の次の4グループからなる。それぞれのグループの開始時期によって、第Ⅰ期、第Ⅱ期、第Ⅲ期、第Ⅳ期とする。

- (1) 12 か月調査（令和5年4月 ～ 令和6年3月）：第Ⅰ期開始のグループ
- (2) 9 か月調査（令和5年7月 ～ 令和6年3月）：第Ⅱ期開始のグループ
- (3) 6 か月調査（令和5年10月 ～ 令和6年3月）：第Ⅲ期開始のグループ
- (4) 3 か月調査（令和6年1月 ～ 令和6年3月）：第Ⅳ期開始のグループ

令和4年度及び令和5年度の調査結果の報告は、第Ⅱ部に記載した。



※ 各実施及びグループに記載のNの数は、分析の際の有効回答数である。

図 2-2-R5 令和5年度 フリースクール等調査のデータ構造と人数

図 2-1 (p.21) の「2. フリースクール等への訪問及び聞き取り調査」においては、「1. フリースクール等に通う不登校児童・生徒及びその保護者対象のアンケート調査」の協力者が通所しているフリースクール等への訪問や聞き取りを通して、フリースクール等における支援の状況や課題、効果的事例に関する情報収集・分析を行った。

調査は、フリースクール等への訪問の前に送付し、回答していただく事前アンケートと、訪問調査（Web 訪問を含む）からなり、令和4年10月から令和6年4月までの期間に実施した。

調査結果の報告は第Ⅲ部に記載した。

第3章 調査の体制

東京都教育委員会及び国立大学法人東京学芸大学は、不登校児童・生徒の社会的自立に向け、多様な教育の機会を充実させるために必要な東京都教育委員会の不登校施策を検討することを目的とし、「フリースクール等に通う不登校児童・生徒支援調査研究事業実施要綱」第4に基づき、協定を締結した。協定に基づき、国立大学法人東京学芸大学は、東京都教育委員会より業務の委託を受け、調査研究を実施した。

東京都教育委員会の担当組織は、東京都教育庁指導部である。委託先の国立大学法人東京学芸大学の担当組織は、教育インキュベーション推進機構（機構長：令和4・5年度 松田 恵示、令和6年度 國仙 久雄）、事務組織は、財務・研究推進部、研究・連携推進課である。

第Ⅱ部 児童・生徒及びその保護者対象のアンケート調査

第1章 目的

本調査は、都内公立小・中学校、義務教育学校、中等教育学校前期課程、特別支援学校小学部・中学部（以下、都内公立小・中学校等）に在籍し、フリースクール等民間団体・民間施設（以下、フリースクール等）に通う不登校児童・生徒及びその保護者の支援ニーズやフリースクール等での活動内容などを把握することを目的とする。それにより、支援ニーズ、進路、フリースクール等での活動内容や分類、調査協力金の支給による効果等を把握し、東京都教育委員会の今後の施策立案に生かすものとする。

第2章 方法

2-1 調査協力者

（1）対象

調査協力者は、東京都教育委員会のホームページによる公募により、調査協力者になられた方である。

募集に際しての条件は、次のとおりである。

児童・生徒については、

ア 都内公立小・中学校等に在籍し、不登校の状態にある方（校長の証明による。）

イ 不登校児童・生徒への支援を主たる目的とするフリースクール等に通って相談・指導を受けている方

保護者については、

ア 児童・生徒の在籍校と日常的に連絡が取れる方

また、通所している施設は、次の3点の条件を全て満たすものとする。

ア 不登校の児童・生徒に対する相談・指導を行うことを主たる目的とし、活動実績のある通所型の施設

イ 児童・生徒の在籍校及び区市町村教育委員会との連携・協力体制が構築できる施設

ウ 児童・生徒の健全育成を図っている施設

（2）調査協力金

調査に御協力いただいた保護者には、児童・生徒一人につき、令和4年度はひと月当たり1万円（税込）、年間最大12万円、令和5年度はひと月当たり2万円（税込）、年間最大24万円をお支払いした。

（3）回答者数

調査回答に御協力いただいた児童・生徒の学年と校種別人数は、次の図 2-1-1-R4 と図 2-1-1-R5、図 2-1-2-R4 と図 2-1-2-R5 のとおりである。令和4年度は、保護者初回調査の回答者が N=509 人、児童・生徒初回調査の回答者が N=509 人であった。校種別では、小学生 52.1%、中学生 47.9%であった。令和5年度は、保護者初回調査の回答者が N=1282 人、児童・生徒初回調査の回答者が N=1282 人であった。校種別では、小学生 54.8%、中学生 45.2%であった。

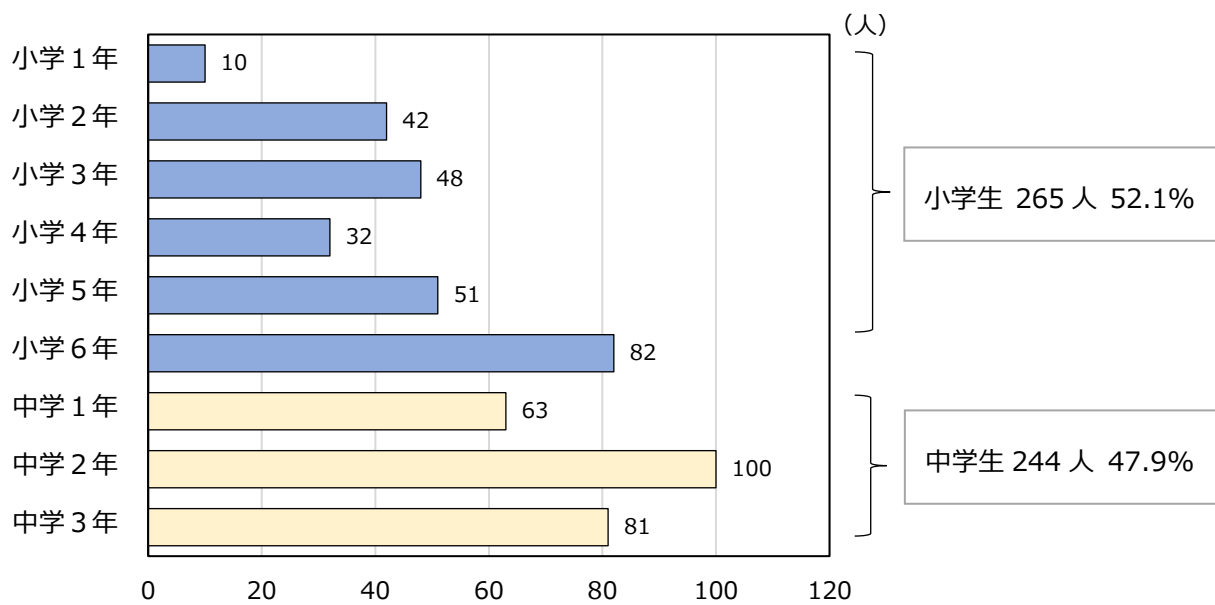


図 2-1-1-R4 学年別・校種別 回答者数 (初回調査時点 N=509)

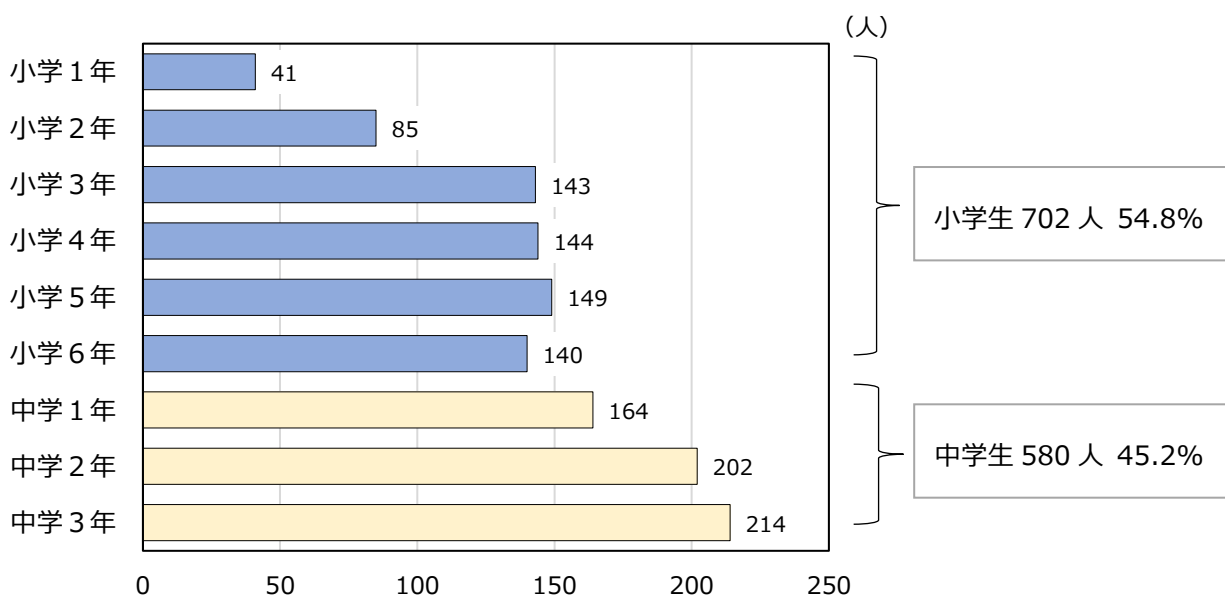


図 2-1-1-R5 学年別・校種別 回答者数 (初回調査時点 N=1282)

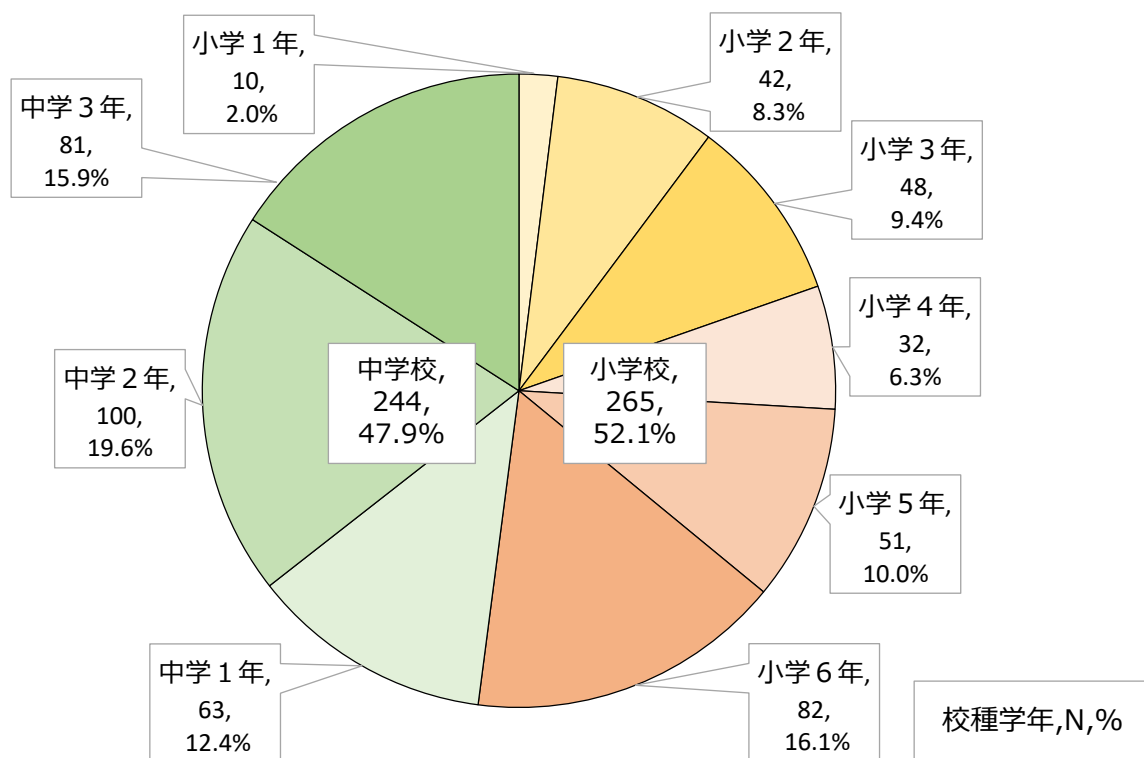


図 2-1-2-R4 学年別・校種別 回答者割合（初回調査時点 N=509）

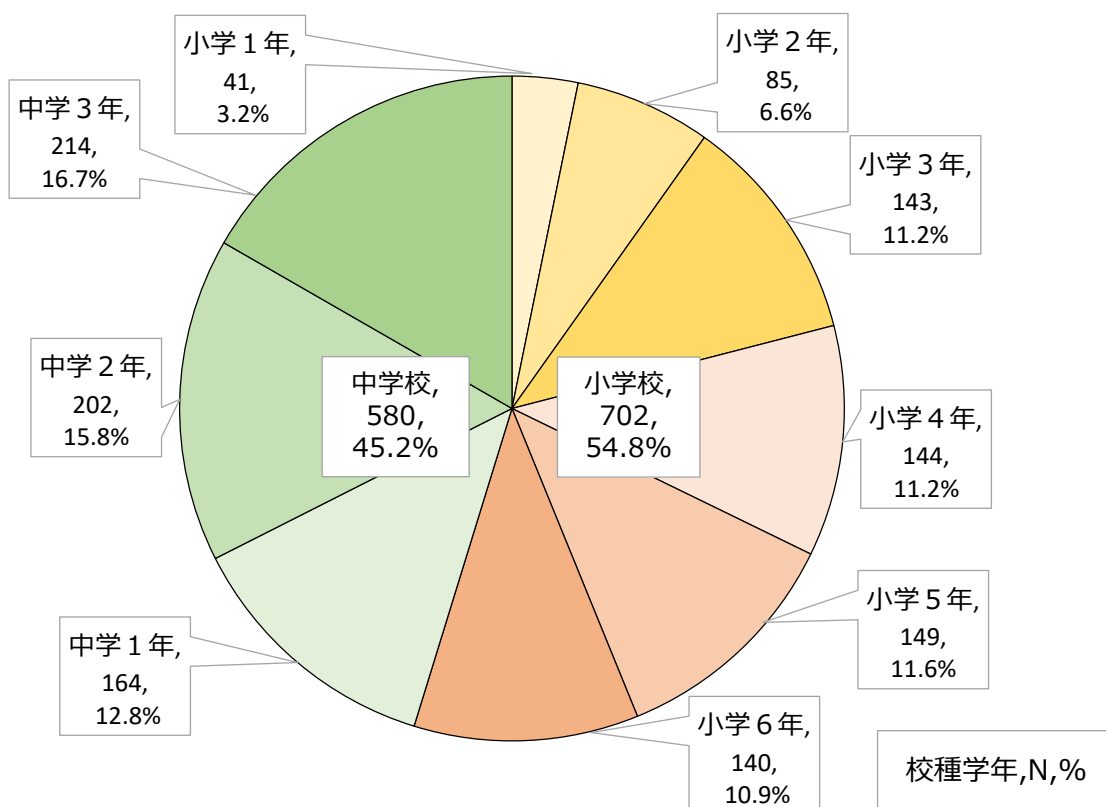


図 2-1-2-R5 学年別・校種別 回答者割合（初回調査時点 N=1282）

（４）調査への回答者数の変動

調査回答者数は、前項（３）で記載のとおりであるが、次の２点の要因によって減少・変動した。１点目は最長１２か月間の定期調査を実施する中で回答者の減少が起きたこと、２点目は、調査項目ごとで、集計不能の回答や回答漏れなどがあったことが挙げられる。したがって、集計時の回答者数（N）は結果ごとに注記した。

２－２ 調査の構成と内容

（１）調査の構成

調査は、表 2-2-1 に示す４タイプから構成される。初回調査は、保護者の御協力承諾後、Web によって実施した。児童・生徒に対しては、保護者の御協力承諾後に実施した。定期調査は、初回調査後、各月の児童・生徒の様子を想起しながら月別に回答してもらった。なお、定期調査では、各月の質問内容は同一である。

表 2-2-1 調査の構成（対象と実施時期）

	初回調査	定期調査
保護者	・協力承諾後実施 ・計 93 項目 ・調査項目Ⅰ p.162～169 参照	・初回実施後、継続して実施 ・計 73 項目（各月は同じ 16 項目） ・調査項目Ⅱ p. 170～174 参照
児童・生徒	・保護者からの伝達で協力承諾後実施 ・計 19 項目 ・調査項目Ⅲ p. 175～177 参照	・初回実施後、継続して実施 ・計 50 項目（各月は同じ 14 項目） ・調査項目Ⅳ p. 178～180 参照

（２）調査項目の構成

調査項目は、次のようなカテゴリーからなる。「現在のフリースクール等について」、「フリースクール等での活動」、「不登校の要因」、「家計の状況」、「フリースクール等通所に伴う経費」、「学校での活動」、「学校との連絡状況」、「教育支援センター（適応指導教室）について」、「御家庭での状況」、「進路についての考え」、「有効な支援」、「希望する支援」などである。

これらに加えて、児童・生徒の回答により、心理面についても調査している。心理面に関する調査項目は、次の３点からなる。

ア 居心地感尺度（河内・小林，2009）：10 項目からなり、学校の居心地感とフリースクール等の居心地感のそれぞれについて質問した。質問項目は、フリースクール等については児童・生徒初回調査の Q18、学校については児童・生徒定期調査の Q15 である。

イ 支援者からの関わり質問（早川・松添・小林・大月，2020）：支援者とは、学校の先生及びフリースクール等のスタッフである。8 項目からなり、2 項目ずつで 4 概念を質問している。概念は、「肯定的関わり」、「存在受容」、「主体性の育成」、「主張性の育成」で、この順序で 2 項目ずつの構成である。質問項目は、児童・生徒初回調査の Q12、Q15、児童・生徒定期調査の Q16 である。

ウ ストレス反応尺度（国立成育医療研究センター，2021）：尺度の中から 7 項目（児童・生徒用では「どれにもあてはまらない」を加えた 8 項目）を抜粋して使用した（※抜粋使用の許諾あり）。質問項目は、児童・生徒初回調査の Q19、児童・生徒定期調査の Q50、保護者定期調査の Q66 である。

（３）調査項目の内容

調査項目の一覧は、本報告書の p.162～p.180 に示す。表 2-2-1（p.27）に示した調査項目Ⅰは保護者初回調査、調査項目Ⅱは保護者定期調査、調査項目Ⅲは児童・生徒初回調査、調査項目Ⅳは児童・生徒定期調査である。

２－３ 調査の進め方と結果のまとめ

（１）調査実施の流れ

調査は、主に Web 調査の形式で実施した。一部は質問紙の形式で実施したが、調査内容は Web 調査の形式と同一である。

（２）結果の集計と分析

結果の集計と分析は、回答頻度を主体とした量的分析と、自由記述回答による言語データの質的分析を併用した。また、項目間の相関関係や因果関係の分析、定期回答の場合は、一定期間内における変化の分析も行った。

（３）自由記述回答の分析法

自由記述回答については、テキストマイニング手法を用いて分析した（補遺(1)、p159）。

このテキストマイニング手法によって分析したものは、以下の４点である。

- ① 表 3-1-2 保護者は不登校の要因をどのように考えているのか（p.41）
- ② 表 3-3-1 教育支援センター（適応指導教室）に再度通室しない理由（p.59）
- ③ 表 3-8-1 有効な支援（p.106）
- ④ 表 3-14-3 今後期待したい支援（p.147）

本報告で実施したテキストマイニング手法は、「文の主題分析」である。主題分析とは、全文章を整形した後、単語単位の集計・分析ではなく、個々の文に含まれる語彙を手掛かりにして、個々の文が述べようとしている「主題」（本報告では「概念」とする。）を明らかにしていくものである。

主題分析による概念の分類抽出は、自動処理で行い、分類数は分析者が指定した。分類数の指定は、各分類の基となる文の数がおおむね 10 文以上になるようにし、かつ、多数の文からなる分類は、できる限り分割されるように、分類数を試行錯誤的に調整・指定した。その後、概念の分類ごとに名称を付け、分類の手掛かりとなるキーワードを抽出した。

２－４ 調査項目の全体像と結果のまとめの指針

本調査の総調査項目数は 235 項目で、回答者や内容も多岐にわたっている。そこで、これらの項目がどのようなカテゴリー構成をなし、調査目的に対する回答はどのような位置付けになっているかを明らかにするため、図 2-4-1（p.30）として全体構造をまとめた。なお、目次で記載されている〔1〕のような〔 〕で示す番号は、図 2-4-1（p.30）内の〔1〕～〔14〕の太破線の囲み番号を表す。

図 2-4-1（p.30）は、最左列に時系列で項目のカテゴリーを示している。カテゴリーは、「（学校に）行きたくない・休みがち」から「（保護者と担任の先生の）対応開始」、次に、「（組織としての）対応・相談」、「フリースクール等探し」から「フリースクール等が主体」、そして、「定期回答」（フリースクール等に通り始めてからの経時変化）である。

第3章では、この時系列に沿って、調査項目に対する回答を分析し、結果を示した。

なお、太破線の囲みの番号は、以下のような構成となっている。

- 〔1〕 学校に行きたくない：予兆と不登校の要因
- 〔2〕 不登校になり始めの学校の対応・相談・組織
- 〔3〕 不登校になり始めでの教育支援センター（適応指導教室）の対応
- 〔4〕 フリースクール等の選択と活動
- 〔5〕 フリースクール等通所に伴う家庭状況：家計と通所状況
- 〔6〕 フリースクール等での生活に対する児童・生徒の心の様子
- 〔7〕 フリースクール等と学校等との関係
- 〔8〕 有効な支援
- 〔9〕 12 か月間の縦断的回答に見られる変化の様子：学校通学・教育支援センター（適応指導教室）
通室・フリースクール等通所について
- 〔10〕 12 か月間の縦断的回答に見られる変化の様子：学校
- 〔11〕 12 か月間の縦断的回答に見られる変化の様子：教育支援センター（適応指導教室）
- 〔12〕 12 か月間の縦断的回答に見られる変化の様子：フリースクール等
- 〔13〕 12 か月間の縦断的回答に見られる変化の様子：家庭と家計
- 〔14〕 今後に向けて

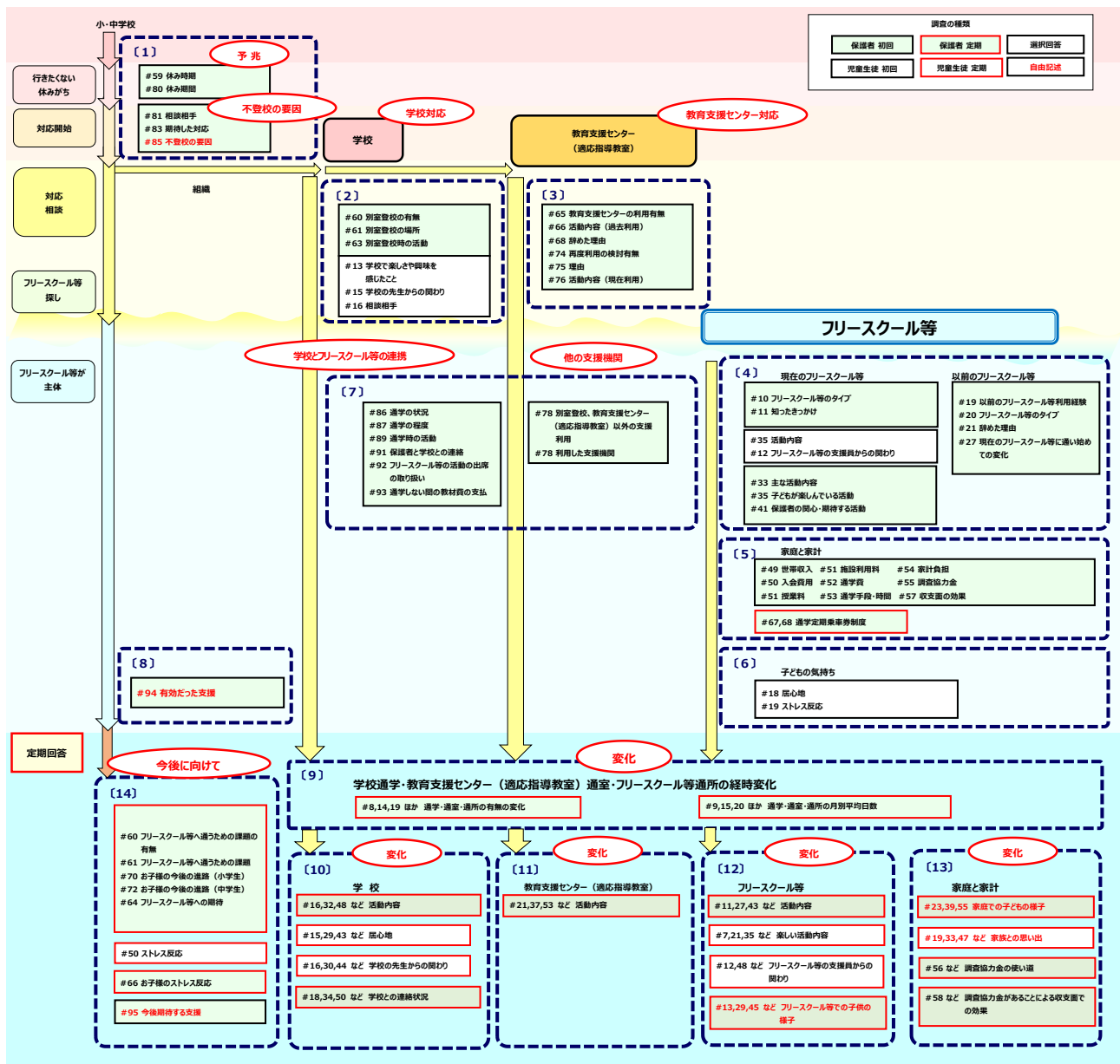


図 2-4-1 項目の全体構造図

第3章 調査の分析結果

3-0 回答者数（再掲）

回答した児童・生徒の学年別、校種別人数は、表 3-0-1-R4 と表 3-0-1-R5 のとおりである。

表 3-0-1-R4 学年別及び校種別人数（令和4年度）

校種	学年	人数（人）	割合（%）	校種別人数	校種別%
小学校	第1学年	10	2.0	265	52.1
	第2学年	42	8.3		
	第3学年	48	9.4		
	第4学年	32	6.3		
	第5学年	51	10.0		
	第6学年	82	16.1		
中学校	第1学年	63	12.4	244	47.9
	第2学年	100	19.6		
	第3学年	81	15.9		
計		509	100.0	509	100.0

表 3-0-1-R5 学年別及び校種別人数（令和5年度）

校種	学年	人数（人）	割合（%）	校種別人数	校種別%
小学校	第1学年	41	3.2	702	54.8
	第2学年	85	6.6		
	第3学年	143	11.2		
	第4学年	144	11.2		
	第5学年	149	11.6		
	第6学年	140	10.9		
中学校	第1学年	164	12.8	580	45.2
	第2学年	202	15.8		
	第3学年	214	16.7		
計		1282	100.0	1282	100.0

3-1〔1〕学校に行きたくない：予兆と不登校の要因

ここからは、図 2-4-1 の全体構造図に基づいて結果を示していく。最初は太破線の囲いの図中〔1〕の内容である。

（1）不登校の時期

保護者初回調査の Q59 にて、児童・生徒が学校を休み始めた時期を質問した。結果は、表 3-1-1-R4 と表 3-1-1-R5 である。

表は左側部分と右側部分がある。左側は月単位である。保護者からの回答で、月が明確でなく学期で回答していたケースがあったため、その情報を分けて右側の表に記載した。

表 3-1-1-R4 不登校になった時期（令和4年度）（N=502）（※集計不能が7件あり）

		月													不明小計		学期			小計	総計	%
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	1			2	3				
小学校	第1学年	18	12	10	7	1	13	12	3	2	4	5	1	3	91	3	9	4	16	107	21.3	
	第2学年	6	3	11	3	1	9	6		6	4	2	2	8	61	1	10	3	14	75	14.9	
	第3学年	9	8	4	5	1	17	5	2	4	2	1	1	7	66	3	4	2	9	75	14.9	
	第4学年	5	5	5	4	1	9	4	5		4	2	4	7	55	1	5	1	7	62	12.4	
	第5学年	5	8	7	3	1	9	9	5	2	2	1	2	6	60	1	6	1	8	68	13.5	
	第6学年	3	6	3	2		4		2	1	1	1		2	25		3		3	28	5.6	
中学校	第1学年	8	6	4	6	1	8	9		3	4	3	1	1	54	2	5	3	10	64	12.7	
	第2学年	2	5	2	1	1	3		1			1			16		3		3	19	3.8	
	第3学年		1	1		1								1	4				0	4	0.8	
小学校・計		46	42	40	24	5	61	36	17	15	17	12	10	33	358	9	37	11	57	415		
中学校・計		10	12	7	7	3	11	9	1	3	4	4	1	2	74		2	8	3	13		87
総計		56	54	47	31	8	72	45	18	18	21	16	11	35	432		11	45	14	70		502
%		13.0	12.5	10.9	7.2	1.9	16.7	10.4	4.2	4.2	4.9	3.7	2.5	8.1								

表 3-1-1-R5 不登校になった時期（令和 5 年度）（N=1272）（※集計不能が 7 件あり）

		月												不明	小計	学期			小計	総計	%
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3			1	2	3			
小学校	第 1 学年	43	33	31	12	3	49	27	11	12	15	9	3	6	254	5	7	6	18	272	21.4
	第 2 学年	20	26	22	10		32	20	7	6	12	6	4	7	172	1	9	9	19	191	15.0
	第 3 学年	10	15	13	13	2	37	23	11	7	14	8	7	7	167	4	6	5	15	182	14.3
	第 4 学年	17	13	19	7	1	22	19	11	7	9	5	4	8	142	3	6	4	13	155	12.2
	第 5 学年	11	15	7	8	1	29	12	5	5	5	6	4	11	119		3	4	7	126	9.9
	第 6 学年	10	8	10	4	1	11	13	3	5	3	2	1	7	78		8		8	86	6.8
中学校	第 1 学年	14	27	25	16	1	37	19	13	8	10	5	4	6	185		7	1	8	193	15.2
	第 2 学年	8	10		3	1	15	2	2	3	2	3	1	1	51		2	1	3	54	4.2
	第 3 学年		1		1	1	1							1	6				0	6	0.5
	幼・保			1						1	1		2	2	7				0	7	0.6
	小学校・計	111	110	102	54	8	180	114	48	42	58	36	23	46	932	13	39	28	80	1012	
	中学校・計	22	38	25	20	3	53	21	15	11	12	8	6	8	242	0	9	2	11	253	
	総計	133	148	128	74	11	233	135	63	54	71	44	31	56	1181	13	48	30	91	1272	
	%	11.3	12.5	10.8	6.3	0.9	19.7	11.4	5.3	4.6	6.0	3.7	2.6	4.7							

令和 4 年度の結果は、学年別に見ると、小学校第 1 学年～第 3 学年の回答が多かった。月別では、4 月や 9 月の学期始め、5 月や 6 月であった。全体で回答数が最も多かったのは、小学校第 1 学年の 4 月、次いで小学校第 3 学年の 9 月であった。

令和 5 年度の結果は、学年別に見ると、小学校第 1 学年が 21.4%と、令和 4 年度と同様に最も多かった。次いで中学校第 1 学年、小学校第 2 学年が多かった。月別では、9 月、5 月、10 月の順であった。令和 5 年度の回答では、幼稚園・保育園からの不登校という回答があったため、カテゴリー化した。

（２）休み始めるまでの期間

保護者初回調査の Q80 にて、休み始めるまでの期間を質問した。結果は、図 3-1-1-R4 と図 3-1-1-R5 である。1 か月未満が、令和 4 年度で 43.9%、令和 5 年度で 44.0%と最も多い。次いで 1 か月以上 6 か月未満が多く、6 か月未満の合計は令和 4 年度で 75.0%、令和 5 年度で 75.1%であった。

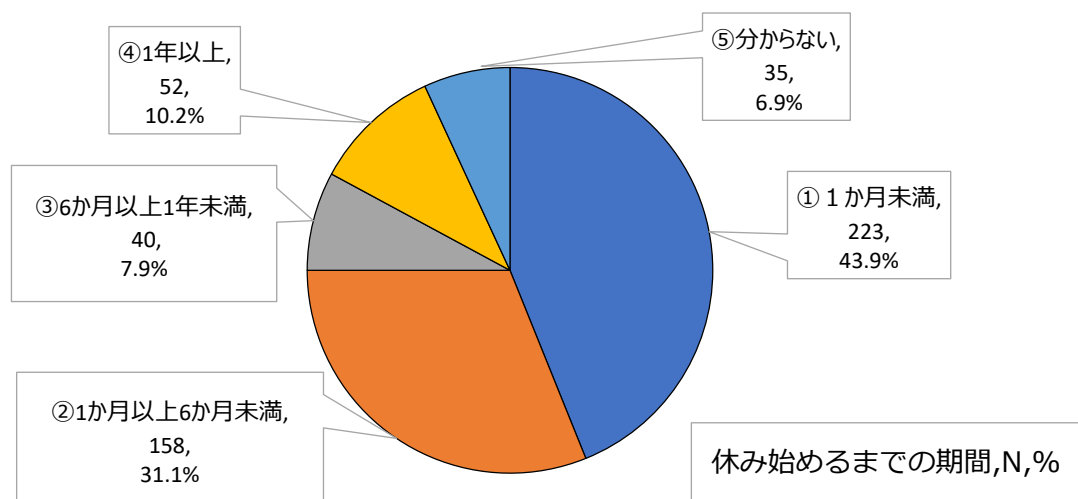


図 3-1-1-R4 休み始めるまでの期間（N=508）（※集計不能が 1 人）

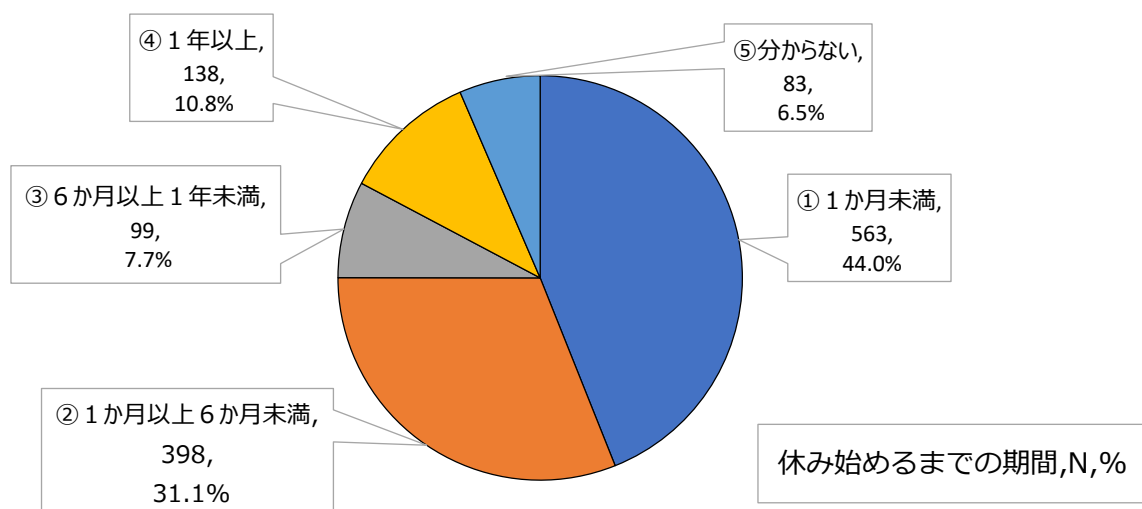


図 3-1-1-R5 休み始めるまでの期間 (N=1281) (※集計不能が1人)

次に、休み始めるまでの期間を学年別に比較したものが、図 3-1-2-R4 と図 3-1-2-R5 である。令和4年度は、小学校第1学年と中学校第1学年において、1か月未満が半数以上であり、両学年とも、6か月未満の割合が80%超になっていた。

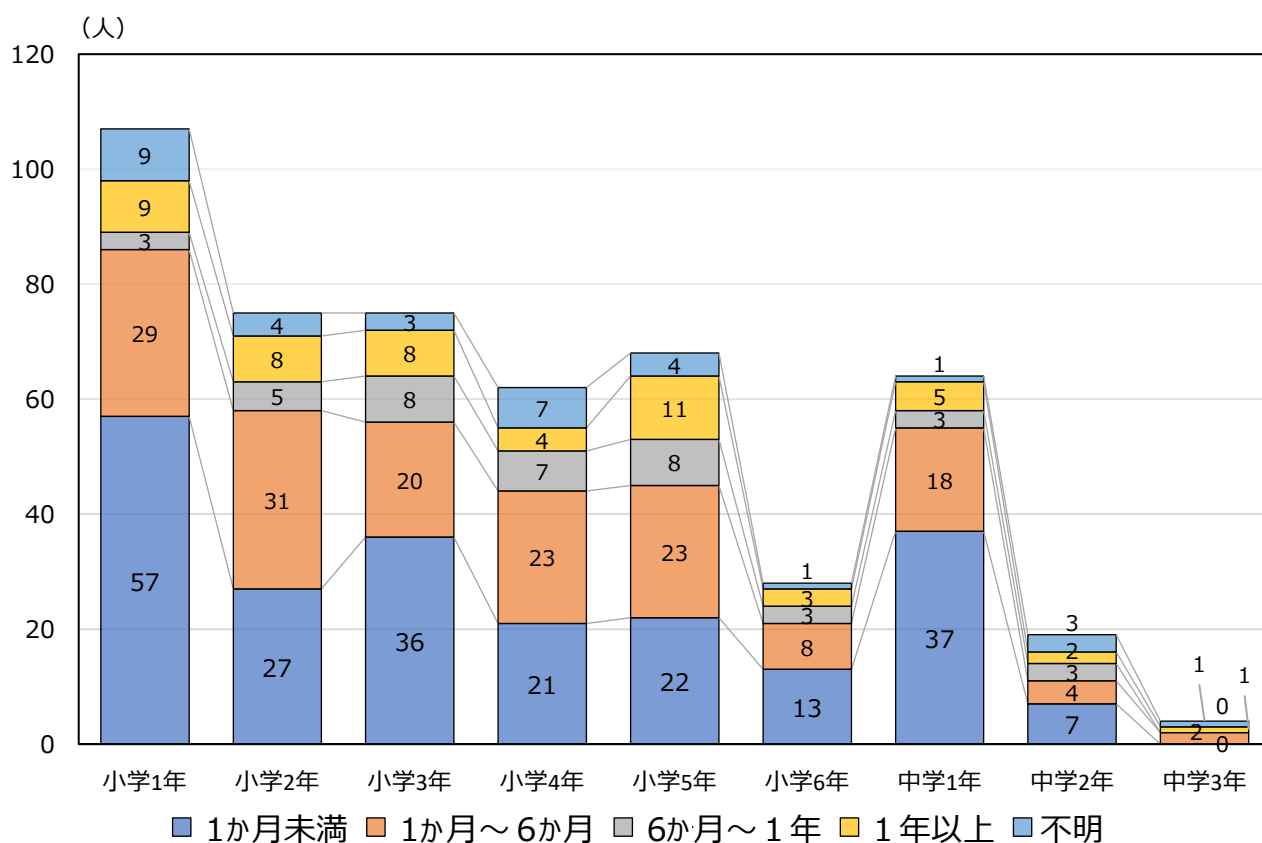


図 3-1-2-R4 学校を休み始めるまでの期間の学年別比較 (令和4年度) (N=502)

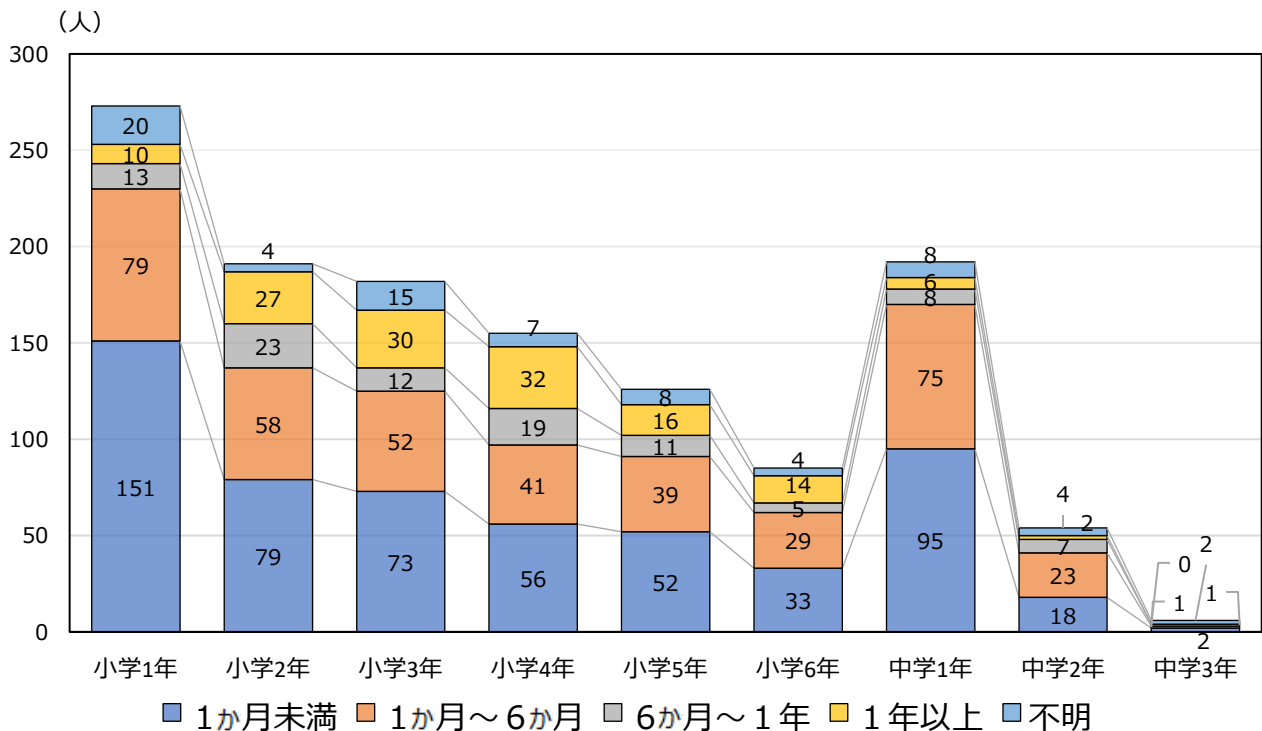


図 3-1-2-R5 学校を休み始めるまでの期間の学年別比較（令和 5 年度）（N=1264）

次の図 3-1-2-(a)-R4 及び図 3-1-2-(a)-R5 は、図 3-1-2-R4 及び図 3-1-2-R5 を全体 100%となる帯グラフで表したものである。

令和 4 年度の結果から、小学 1 年と中学 1 年で、1 か月未満の割合が多いことが分かった。

令和 5 年度の結果も、回答者数の少なかった中学 3 年を除き、令和 4 年度の結果と類似した特徴を示していた。

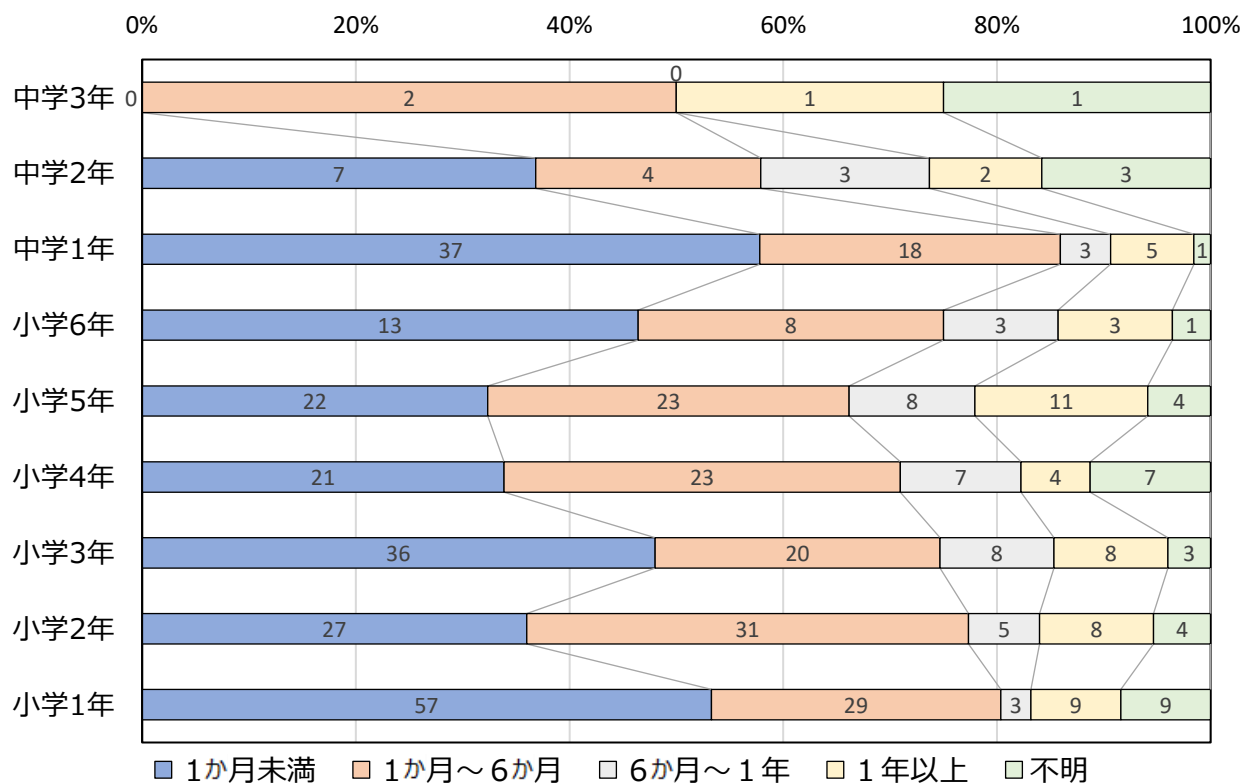


図 3-1-2-(a)-R4 学校を休み始めるまでの期間の学年別比較（令和 4 年度）（N=502）

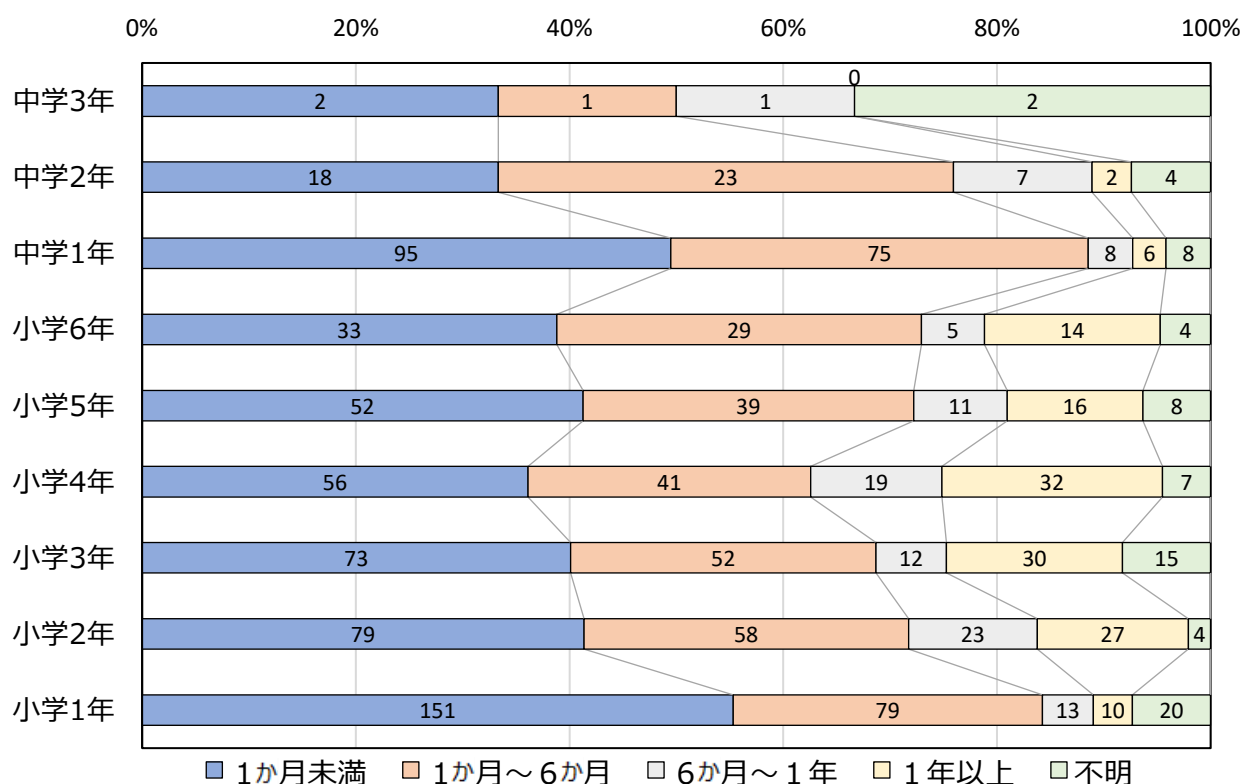


図 3-1-2-(a)-R5 学校を休み始めるまでの期間の学年別比較（令和 5 年度）（N=1264）

（3）不登校の相談相手

保護者初回調査の Q81 では、保護者が、休み始めるまでの相談相手について質問した。

令和 4 年度の結果をまとめたのが、図 3-1-2-(b)-R4 である。相談相手を「①学校の先生」と回答した保護者が、77.2%と最も多かった。一方で、「⑧誰にも相談しなかった」と回答した保護者の割合は 2.9%であった。相談相手を校種で比較すると、「⑦医療機関」は、小学生の保護者よりも中学生の保護者が有意に多かった（ χ^2 検定）。

令和 5 年度の結果をまとめたのが、図 3-1-2-(b)-R5 である。令和 5 年度においても、相談相手を「①学校の先生」と回答した保護者が 74.9%と最も多く、令和 4 年度と同様の傾向であった。また、「⑧誰にも相談しなかった」と回答した保護者の割合は、6.0%であった。相談相手を校種で比較すると、「③学校にいるカウンセラー」、「④家族」に相談するのは小学生の保護者が有意に多く、「⑦医療機関」への相談は中学生の保護者が有意に多かった（ χ^2 検定）。

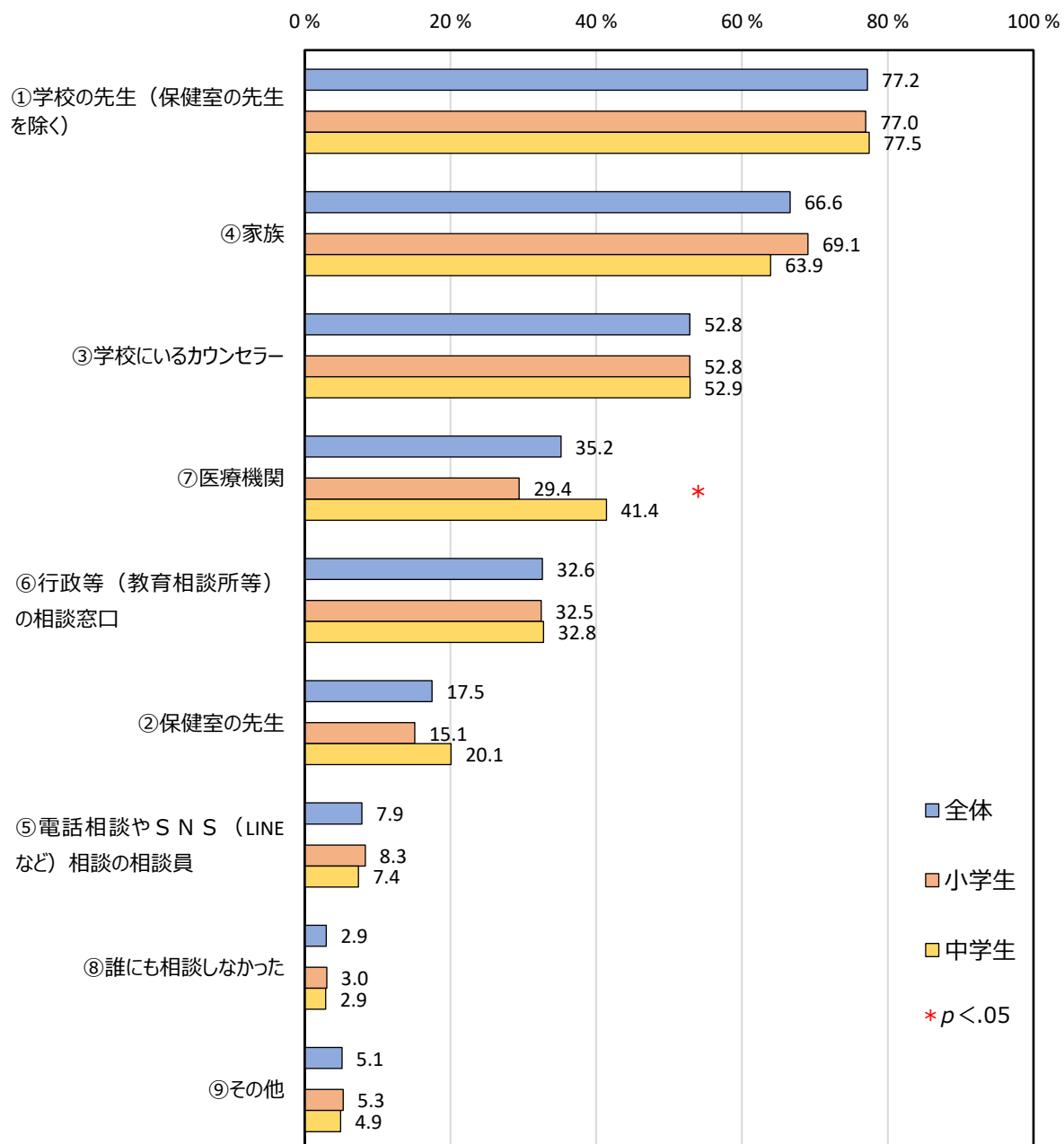


図 3-1-2-(b)-R4 休み始めるまでの間の相談相手（保護者の回答）（複数回答）（%）（N=509）

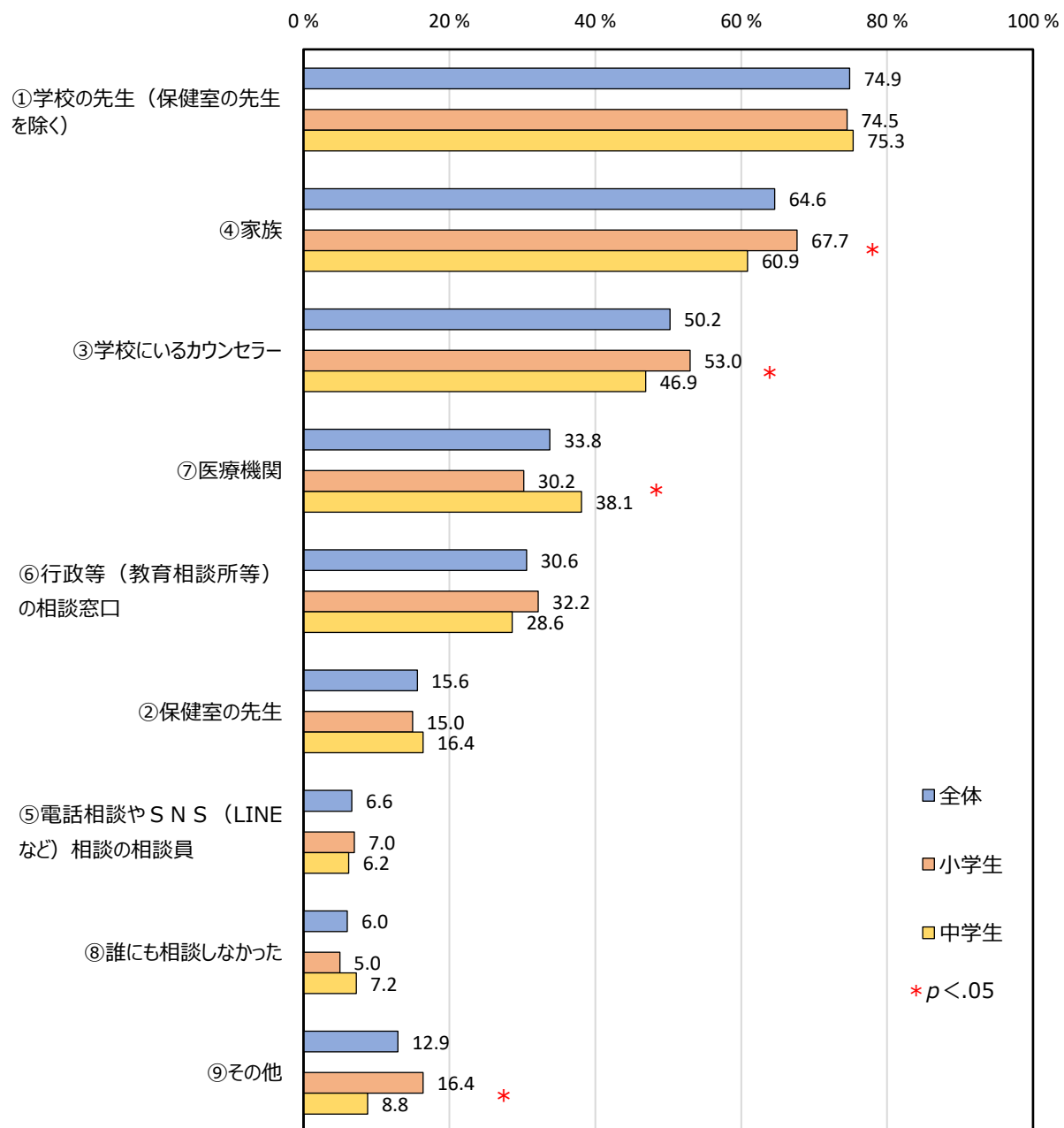


図 3-1-2-(b)-R5 休み始めるまでの間の相談相手（保護者の回答）（複数回答）（%）（N=1282）

（４）期待した対応

保護者初回調査の Q83 では、休み始めたときの対応として期待したものを質問した。

令和４年度の結果をまとめたものが、図 3-1-3-R4 である。回答数が多かったのは、「①学校の先生からの声かけ」、「⑥個別対応（放課後を含む）」、「②学校にいるカウンセラーとの面談」、「⑨不登校の要因の解決」であった。

期待した対応について、校種で比較すると、中学生の保護者は、「③学校の友達からの声かけ」、「⑤部活動などへの参加の声かけ」が有意に多く、いずれも声かけへの期待が大きかった。一方、小学生の保護者は、「⑧教育支援センター（適応指導教室）やフリースクール等の紹介」が有意に多く、小学生の保護者と中学生の保護者では、期待する対応は同じではないことが分かった（ χ^2 検定）。

令和５年度の結果をまとめたものが、図 3-1-3-R5 である。令和５年度の結果においても同様の傾向が見られ、中学生の保護者は、「①学校の先生からの声かけ」、「③学校の友達からの声かけ」、「⑤部活動への参加の声かけ」、「⑨不登校の要因の解決」が有意に多く、いずれも「声かけ」への期待が大きいたことが明らかになった。一方、小学生の保護者は、「⑦行政等の相談窓口の紹介」が有意に多かった（ χ^2 検定）。

なお、「⑩その他」の意見の中には、「家庭訪問」、「登校刺激をしないこと」などがあつた。

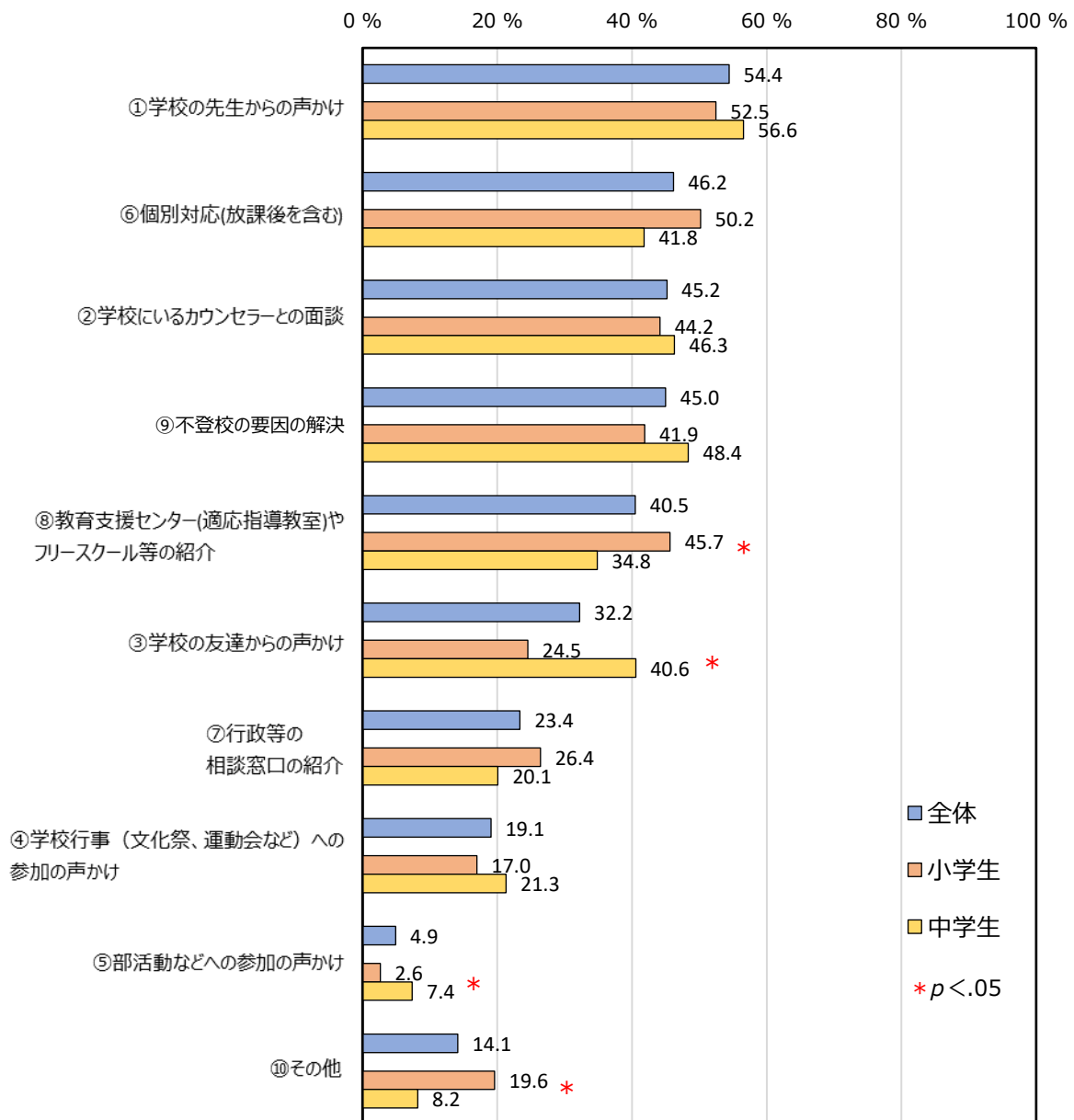


図 3-1-3-R4 期待した対応 (N=509) (複数回答可)

図 3-1-3-R4 のデータ表 (選択数の多い順)

	N	%
①学校の先生からの声かけ	277	54.4
⑥個別対応(放課後を含む)	235	46.2
②学校にいるカウンセラーとの面談	230	45.2
⑨不登校の要因の解決	229	45.0
⑧教育支援センター(適応指導教室)やフリースクール等の紹介	206	40.5
③学校の友達からの声かけ	164	32.2
⑦行政等の相談窓口の紹介	119	23.4
④学校行事(文化祭、運動会など)への参加の声かけ	97	19.1
⑤部活動などへの参加の声かけ	25	4.9
⑩その他	72	14.1

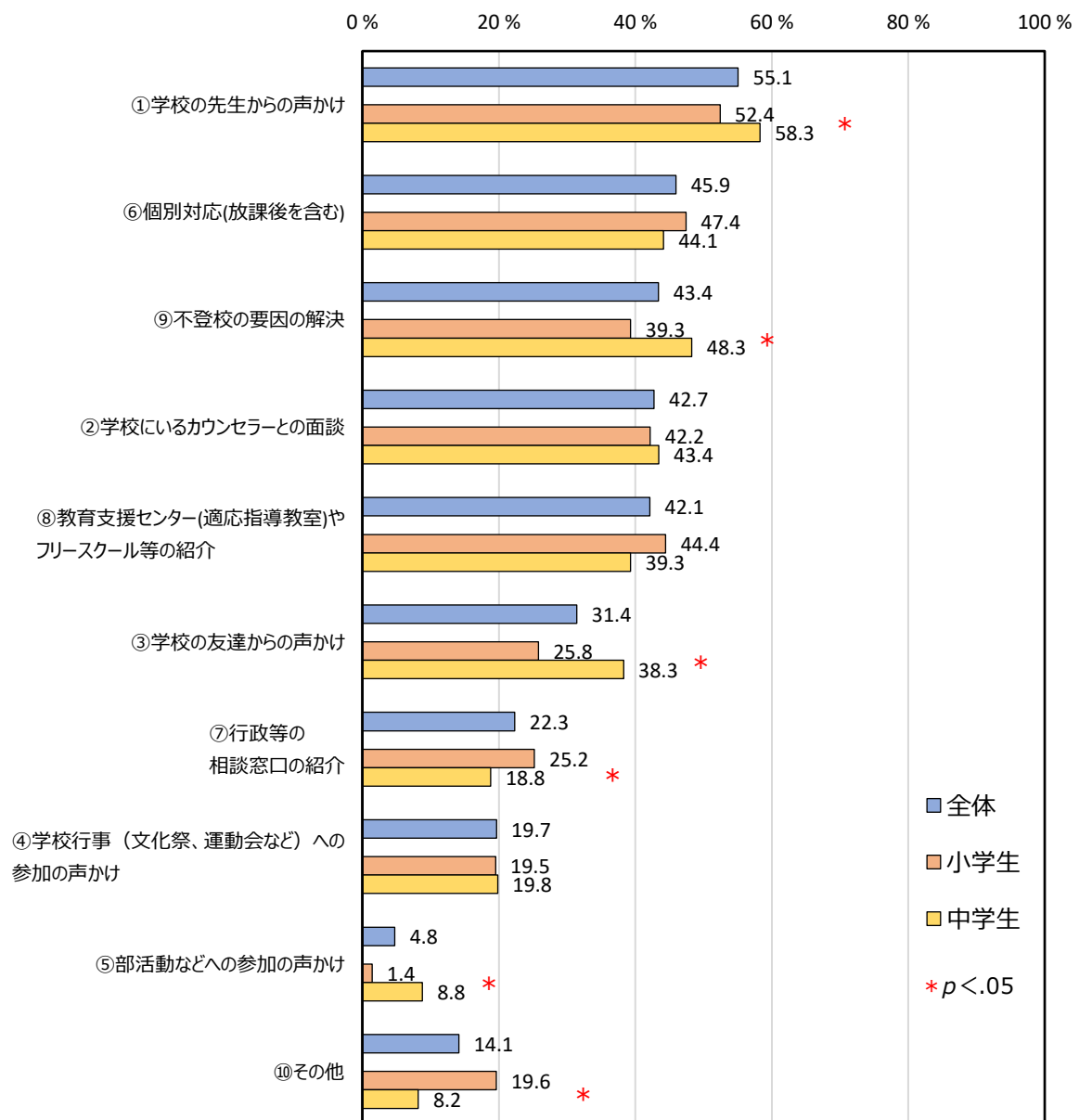


図 3-1-3-R5 期待した対応 (N=1282) (複数回答可)

図 3-1-3-R5 のデータ表 (選択数の多い順)

	N	%
①学校の先生からの声かけ	706	55.1
⑥個別対応(放課後を含む)	589	45.9
⑨不登校の要因の解決	556	43.4
②学校にいるカウンセラーとの面談	548	42.7
⑧教育支援センター(適応指導教室)やフリースクール等の紹介	540	42.1
③学校の友達からの声かけ	403	31.4
⑦行政等の相談窓口の紹介	286	22.3
④学校行事(文化祭、運動会など)への参加の声かけ	252	19.7
⑤部活動などへの参加の声かけ	61	4.8
⑩その他	170	14.1

(5) 保護者は不登校の要因をどのように捉えているのか

保護者初回回答のQ85 では、保護者に、不登校の要因として考えられることについて質問した。令和4年度の自由記述回答を、テキストマイニング分析によってまとめたものが、表 3-1-2 である。表 3-1-2 では、分析の結果に基づき、1 から 8 までの概念（主題）をまとめ、それぞれの概念を表す代表的な意見内容を示した。

8 概念は、[1 .学校適応]、[2 .担任の指導]、[3 .授業・ルール・進め方]、[4 .集団生活]、[5 .学習・苦手・学習障害]、[6 .発達障害]、[7 .ストレス・プレッシャー]、[8 .人間関係]であった。

概念とそれぞれの主な意見内容は、次のとおりである。

表 3-1-2 保護者は不登校の要因をどのように考えているのか

1. 学校適応
・コロナによる 3 か月の休校により、学校生活に適応できなくなった。また、コロナ不安から外出できなくなった。発達障害グレーであることから集団生活にうまくなじめなかった。
・読み書きができにくく、学校の環境との不適応。本人はみんなと違うことを非常に嫌がり、学校で頑張りすぎて毎日家でパニックになった。
・親が通っているカウンセリングの心理士より WISC を勧められ検査を実施。数値がいわゆるギフテッドの範囲で、学校に適応できない特性の状況があったと思われる。
・集団行動が苦手で、ルールや課題に意味を見いだせない取り組みめない。周りのペースに合わせられない。学校のペースに付いていけない。
2. 担任の指導
・我が家はバイリンガルで、小学校入学当初は、まだ英語がメインで、日本語の授業がきつかったと思います。2 年生は子供と気が合う先生で、少し行きでしたが、3 年生になって、今度は本当に行かないようになり、フリースクールに通うようになりました。
・先生からの指示をこなせない。保育園の家庭的な生育環境とのギャップ。
3. 授業・ルール・進め方
・潰瘍性大腸炎の発症があり、授業中やテストの際にも下痢のためトイレに行くことが苦痛になっていました。
・ADHD や自閉症スペクトラムの疑いがあり、集団生活での困りごと、例えば、板書に付いていけない、授業中じっと座ってられない、リコーダーなど指先を器用に使うこと、クラスの友達と同じような行動をすることができない、物事の急な変更でパニックになってしまうなど困難なことが多くなり、劣等感や苦手なことのため、みんなと同じように授業についていくことが難しくなり、学校へ行くことが嫌になった。
・本人からすると理不尽に感じるルールが多かったり、簡単な授業が続くことが耐え難かったりと、全体として「学校」の空気感に順応できなかったものと考えています。
・元々は学校が好きだった息子ですが、3 年生に進級してから板書のスピードが追い付かないことに悩んでいました。
4. 集団生活
・自閉症スペクトラムの特性があるため、集団行動が苦痛だったと思われます。また、コロナの休校による影響もあるように感じます。
・クラス単位の大きな集団が苦手なことで緊張が強いこと、発達上の特性や感覚過敏があり不安が強かったこと、精神年齢が高めで同年齢の子たちとの集団生活が苦痛だったこと、集団学習が合わないこと。
・発達特性上、こだわりが強く、感覚過敏で集団生活困難。学習進度が合わず苦痛になる。
・人が大勢いる場所が苦手。意思表示が苦手。
5. 学習・苦手・学習障害
・学習障害があり、授業で言っていることが分からなくなってきたため。
・学習に付いていけなくなった、特性により周りとうまくやっていけなくなった、自己認識が芽生えてきたため。
・自分の理想とする字等を書けないと何度も書き直し、授業はもちろん宿題も相当な負担があった。自分の気持ちを表現するのも難しく、自分を責めたり傷付けたりしていた。
・文字への興味が薄く、読み書きが苦手です。読み書き以外のことは楽しいようで、集団生活もできている感じはします。
6. 発達障害
・発達障害（ASD、ADHD）が主な原因だと思います。LD の要素もあるらしく、斜めの線をかけなかったようで漢字が難しくなってきたあたりから、宿題ができず、困っていました。見通しを立てるのも苦手なようで、学校でのいろいろなことに不安を感じていたようです。今だに、その特性はあります。
・発達障害児のため、教室で座っていることに苦痛を感じてしまって、パニックを起こしてしまう。

・発達障害による二次障害。認知の歪み。学校教育が娘には合わない（学校は最大限協力していただきました）。
・発達障害が顕著に現れてきたため。
7. ストレス・プレッシャー
・不安や緊張が強く、また、こだわりが強いまじめな性格のため、日々の課題や宿題をこなすのに忙しく、休み時間が十分に取れず疲弊していた。また、人との関わりが苦手なので、コロナの長期休校明け、クラスになじみにくくなってしまった。
・WISC で ADHD と ASD と診断されたので、症状として表れてきたこと。音や匂いに過敏すぎて、騒がしいところにいると具合が悪くなること。うるさい、暴力的な生徒が嫌でストレスになりおびえたこと。自分が良いと思えないことも多数の人が良いと思っていると、それに合せて話をするのに気を遣って疲れたこと。書字が遅く、大量の書字による勉強がストレスになること。宿題と塾と部活で自由な時間が少なくやりたいことができなかったこと。コロナが不安であったこと。東日本大震災の影響か、災害、地震などを非常に不安がること。
・場面緘黙もあり、発表ができなかったこと、集団で同じように過ごさなければならないことのストレス、クラスの子供の人数が多いこと。
・特別支援学級に在籍しています。昨年以前、コロナで活動制限や行事などの制限も多く、本人の前向きな希望もあり、フリースクールに通いました。
8. 人間関係
・なぜ不登校になったのか、本人も理由が分からないと言っています。いじめられたわけでもなく、友人がいないわけでもなく、本人と何度も話し合いを重ねてきましたが、はっきりとした理由が分からないようです。
・友達との人間関係がうまく築けないこと、苦手教科の遅れ、集団行動への不適応。
・友達との関わりや、授業中に自由な発言ができない経験、親からの「学校に行かねば」の圧があったことが考えられます。
・小学 1 年生の頃から行きたくないと言っていたが、友達と遊ぶために学校に通っていた。昨年から弟と一緒に登校するのを楽しみにしていたが、弟が不登校になった。小学 4 年生になったばかりの頃、友達とケンカをし、担任が仲裁に入り仲直りしたが、その頃から、学校に行きたくなくなってきた。

3-2〔2〕不登校になり始めの学校の対応・相談・組織

ここからは、学校での対応に関連する結果を示す。項目の全体構成図（図 2-4-1）の太破線囲い〔2〕である。

（1）別室登校の有無

保護者初回調査の Q60 では、別室登校の有無を質問した。令和 4 年度の結果は、図 3-2-1-R4 である。過半数の 55.5%が、別室登校をしていないことが分かった。校種で比較すると、回答の比率に大きな差は見られなかった。

令和 5 年度の結果は、図 3-2-1-R5 である。令和 4 年度の結果とほぼ同じ傾向であることが分かった。

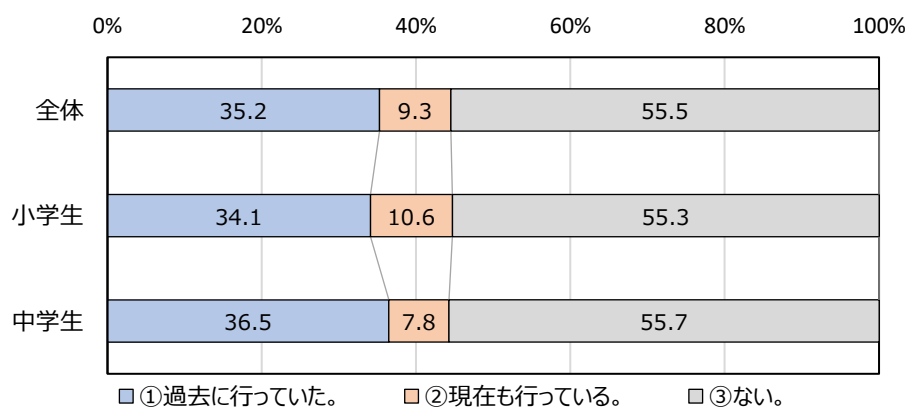


図 3-2-1-R4 別室登校の有無（N=508）（※集計不能 1 人）

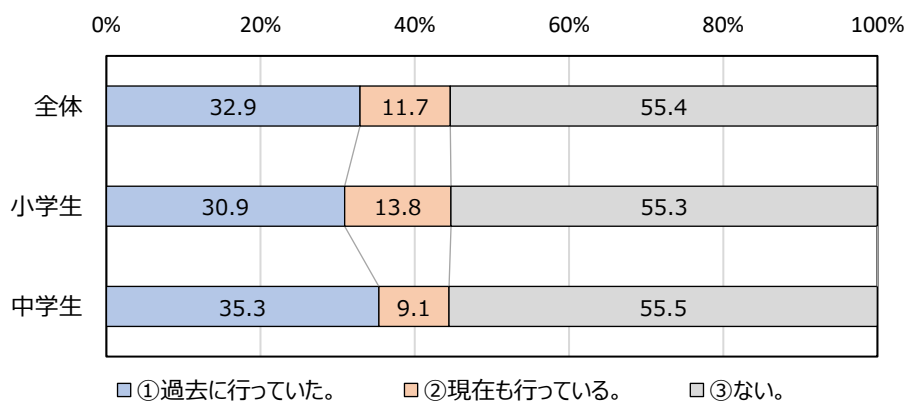


図 3-2-1-R5 別室登校の有無（N=1282）

（２）別室登校の場所

保護者初回調査の Q61 では、別室登校の場所を質問した。令和４年度に別室登校を行っている（いた）回答者 44.5%の児童・生徒に対して、どこで過ごしていたかを尋ねたものであり、その結果をまとめたものが、図 3-2-2-R4 である。別室登校専用の教室を用意しているのは、38.5%であり、それ以外は様々な場所で過ごしている。「⑥その他」の主な回答には、「図書室」、「校長室」、「空き教室」などがあつた。

令和５年度の結果は、別室登校を行っている（いた）対象者 572 人についての回答を集計したものである。その結果をまとめたものが、図 3-2-2-R5 である。回答の傾向は、令和４年度の結果と同様であつた。

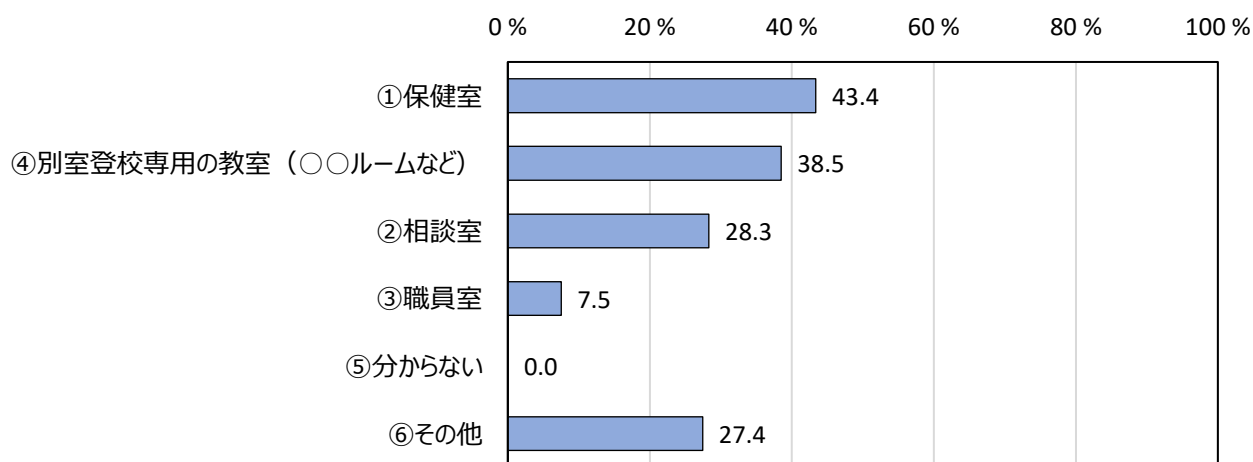


図 3-2-2-R4 別室登校時に過ごした場所（複数回答）（N=226）

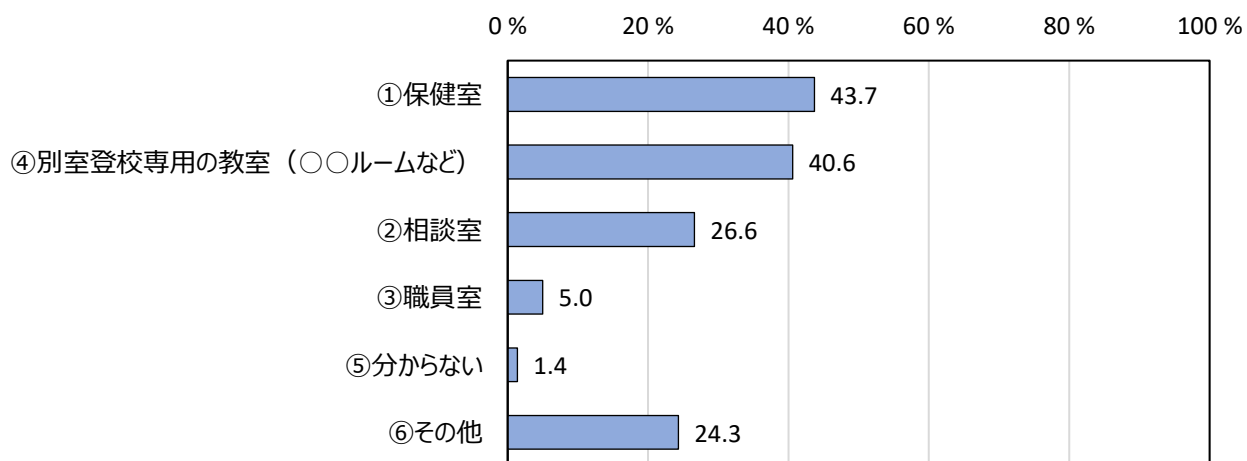


図 3-2-2-R5 別室登校時に過ごした場所（複数回答）（N=572）

(3) 別室登校時の活動

別室登校時の活動について、令和4年度の結果をまとめたものが、図3-2-3-R4である。回答が多い選択肢順で示している。結果は、「①個別学習」が67.7%と半数以上であった。「⑦その他」の主な回答には、「先生とのお話や学習」、「読書」、「ボードゲームなどの遊び」などがあり、多様な活動が行われていることが分かった。

令和5年度の結果をまとめたものが、図3-2-3-R5である。活動内容で最も多かったのは、「①個別学習」の70.8%で、令和4年度の結果と同様であった。さらに、6点の選択項目の選択数順位も令和4年度と同一であった。

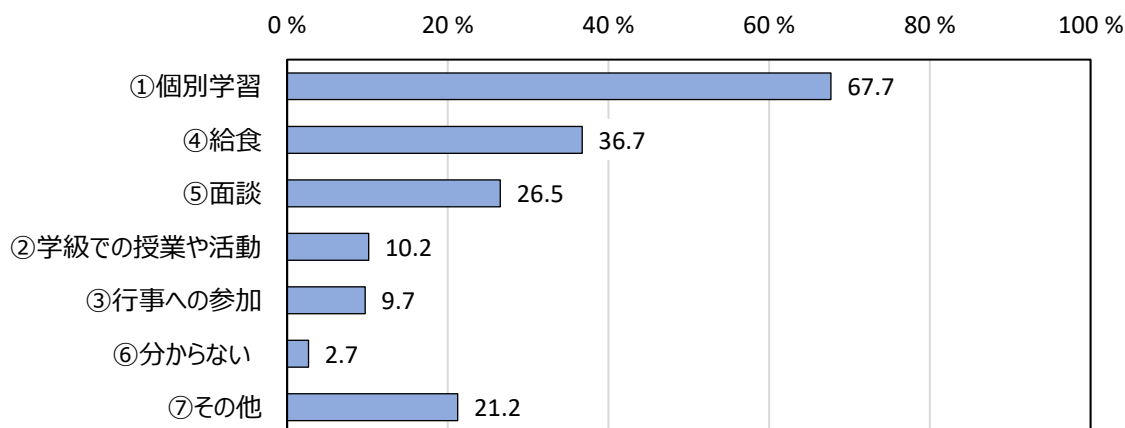


図3-2-3-R4 別室登校時の活動 (N=226)

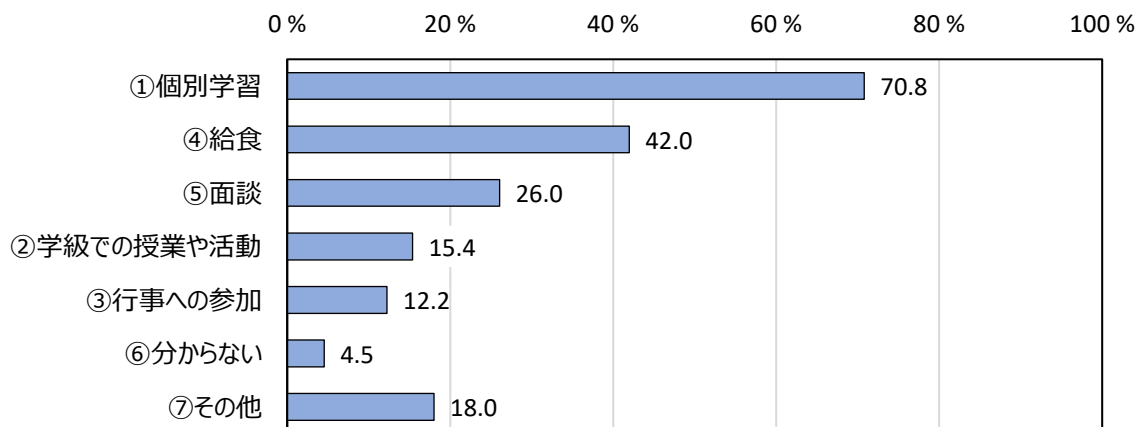


図3-2-3-R5 別室登校時の活動 (N=572)

(4) 学校で楽しさを感じたこと

児童・生徒初回調査の Q13 では、学校で楽しさや興味を感じたことを質問した。

令和 4 年度の結果をまとめたものが、図 3-2-4-R4 である。「①友達と会話したり、遊んだりしていたとき」と回答した割合が 60.9%と、最も多かった。その一方、「⑩楽しいと感じたことはない。」と回答した割合が 20.2%であった。

令和 5 年度の結果をまとめたものが、図 3-2-4-R5 である。結果は、「①友達と会話したり、遊んだりしていたとき」、「⑥休み時間」、「④好きな教科の授業を受けているとき」、「⑦給食」の上位 4 項目が、順位の入れ替わりはあるものの、令和 4 年度の上位 4 項目と同じであった。

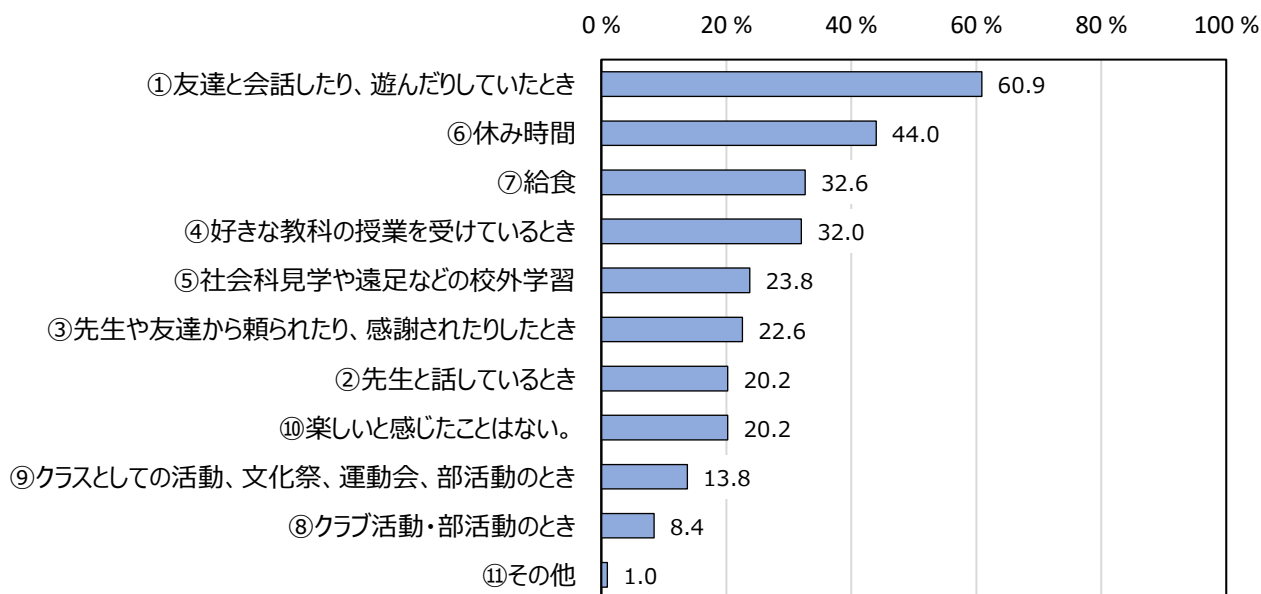


図 3-2-4-R4 学校で楽しさを感じたこと（複数回答）（多い順）令和 4 年度（N=509）

図 3-2-4-R4 のデータ表（多い順）（N=509）

	N	%
①友達と会話したり、遊んだりしていたとき	310	60.9
⑥休み時間	224	44.0
⑦給食	166	32.6
④好きな教科の授業を受けているとき	163	32.0
⑤社会科見学や遠足などの校外学習	121	23.8
③先生や友達から頼られたり、感謝されたりしたとき	115	22.6
②先生と話しているとき	103	20.2
⑩楽しいと感じたことはない。	103	20.2
⑨クラスとしての活動、文化祭、運動会、部活動のとき	70	13.8
⑧クラブ活動・部活動のとき	43	8.4
⑪その他	5	1.0

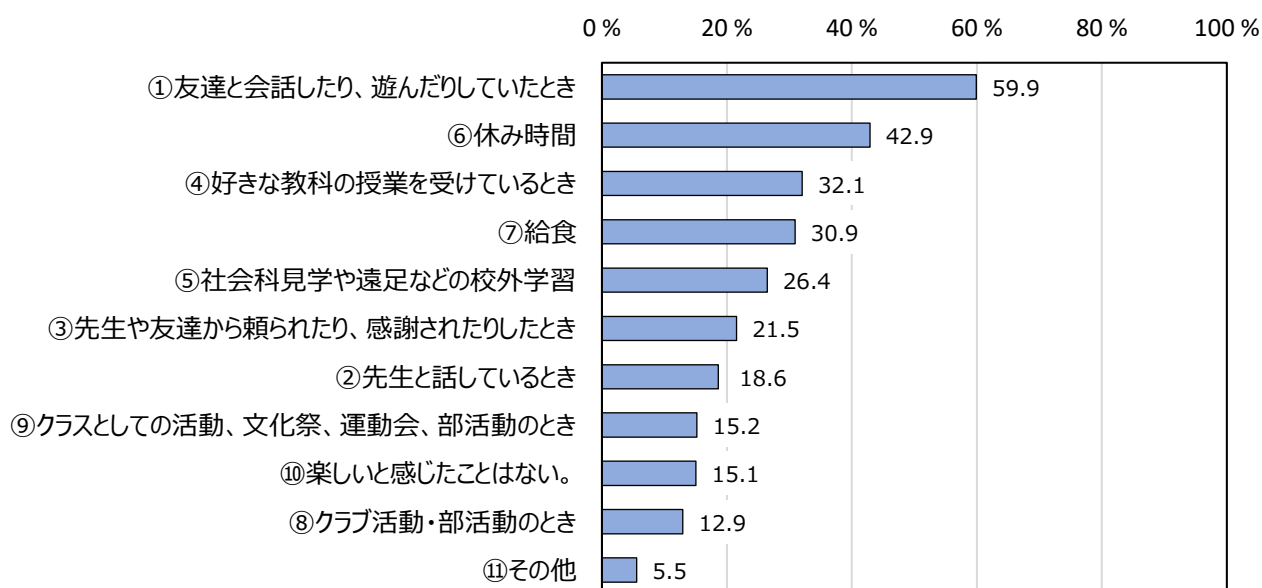


図 3-2-4-R5 学校で楽しさを感じたこと（複数回答）（多い順）令和 5 年度（N=1282）

図 3-2-4-R5 のデータ表（多い順）（N=1282）

	N	%
①友達と会話したり、遊んだりしていたとき	768	59.9
⑥休み時間	550	42.9
④好きな教科の授業を受けているとき	411	32.1
⑦給食	396	30.9
⑤社会科見学や遠足などの校外学習	339	26.4
③先生や友達から頼られたり、感謝されたりしたとき	276	21.5
②先生と話しているとき	239	18.6
⑨クラスとしての活動、文化祭、運動会、部活動のとき	195	15.2
⑩楽しいと感じたことはない。	193	15.1
⑧クラブ活動・部活動のとき	166	12.9
⑪その他	71	5.5

（５）学校の先生からの関わり

児童・生徒初回調査の Q15 では、初回の調査時点で、児童・生徒が学校の先生から関わりをどのように捉えているかについて質問している。これは 2-2 の（２）のイで示した「支援者からの関わり質問」（早川・松添・小林・大月，2020）で、児童・生徒が、学校の先生から自分への関わりについて「当てはまる」かどうかを判断している。質問は 4 概念 2 項目ずつで構成され、概念は「①②肯定的関わり」、「③④存在受容」、「⑤⑥主体性の育成」、「⑦⑧主張性の育成」となっている。

令和 4 年度の結果では、図 3-2-5-R4 に示すように、選択率が一番多かったのが、選択肢「⑨どれにもあてはまらない」（42.0％）であり、児童・生徒が、学校の先生からの 4 概念のような関わりをあまり実感していないことが明らかになった。項目の選択率を校種で比較すると、①～⑨の項目のいずれも、選択率はほぼ同じであり、有意な差が見られた項目はなかった。

一方、令和5年度の結果については、R4の結果に続いて図3-2-5-R5に示した。校種別の比較では、いくつかの項目で有意差が見られ、「①自由に話をしやすいようなふんいきにしてくれる。」では「小学生<中学生」、「②何かが少しできるようになったり、わかるようになったら、よろこんでほめてくれる。」では「小学生>中学生」のように、選択率に違いが見られた(χ^2 検定)。なお、「⑨どれも、あてはまらない。」の選択率が40%を超える特徴は、小学生と中学生に共通していた。

結果における項目の記載順は、選択率の高い順ではなく、「支援者からの関わり質問」(早川・松添・小林・大月, 2020)に従った。

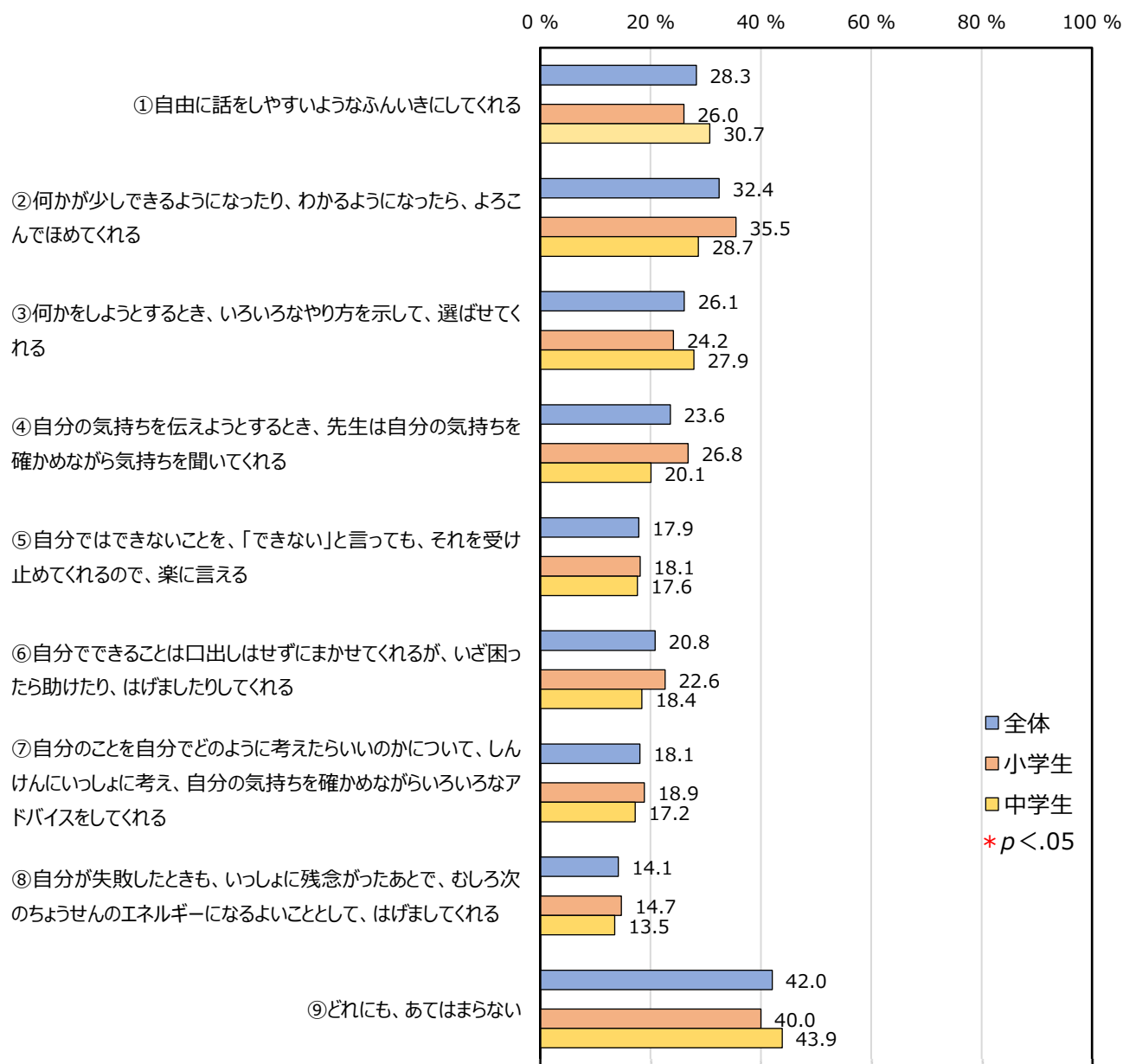


図3-2-5-R4 学校の先生からの関わりに関する質問の選択結果(複数回答) (N=509)

図 3-2-5-R4 のデータ表 (N=509)

	N	%
①自由に話をしやすいようなふんいきにしてくれる。	144	28.3
②何かが少しできるようになったり、わかるようになったら、よろこんでほめてくれる。	165	32.4
③何かをしようとするとき、いろいろなやり方を示して、選ばせてくれる。	133	26.1
④自分の気持ちを伝えようとするとき、先生は自分の気持ちを確かめながら気持ちを聞いてくれる。	120	23.6
⑤自分ではできないことを、「できない」と言っても、それを受け止めてくれるので、楽に言える。	91	17.9
⑥自分でできることは口出しはせずにまかせてくれるが、いざ困ったら助けたり、はげまし たりしてくれる。	106	20.8
⑦自分のことを自分でどのように考えたらいいのかについて、しんけんにいっしょに考え、 自分の気持ちを確かめながらいろいろなアドバイスをしてくれる。	92	18.1
⑧自分が失敗したときも、いっしょに残念がったあとで、むしろ次のちょうせんのエネルギー になるよいこととして、はげましてくれる。	72	14.1
⑨どれにも、あてはまらない。	214	42.0

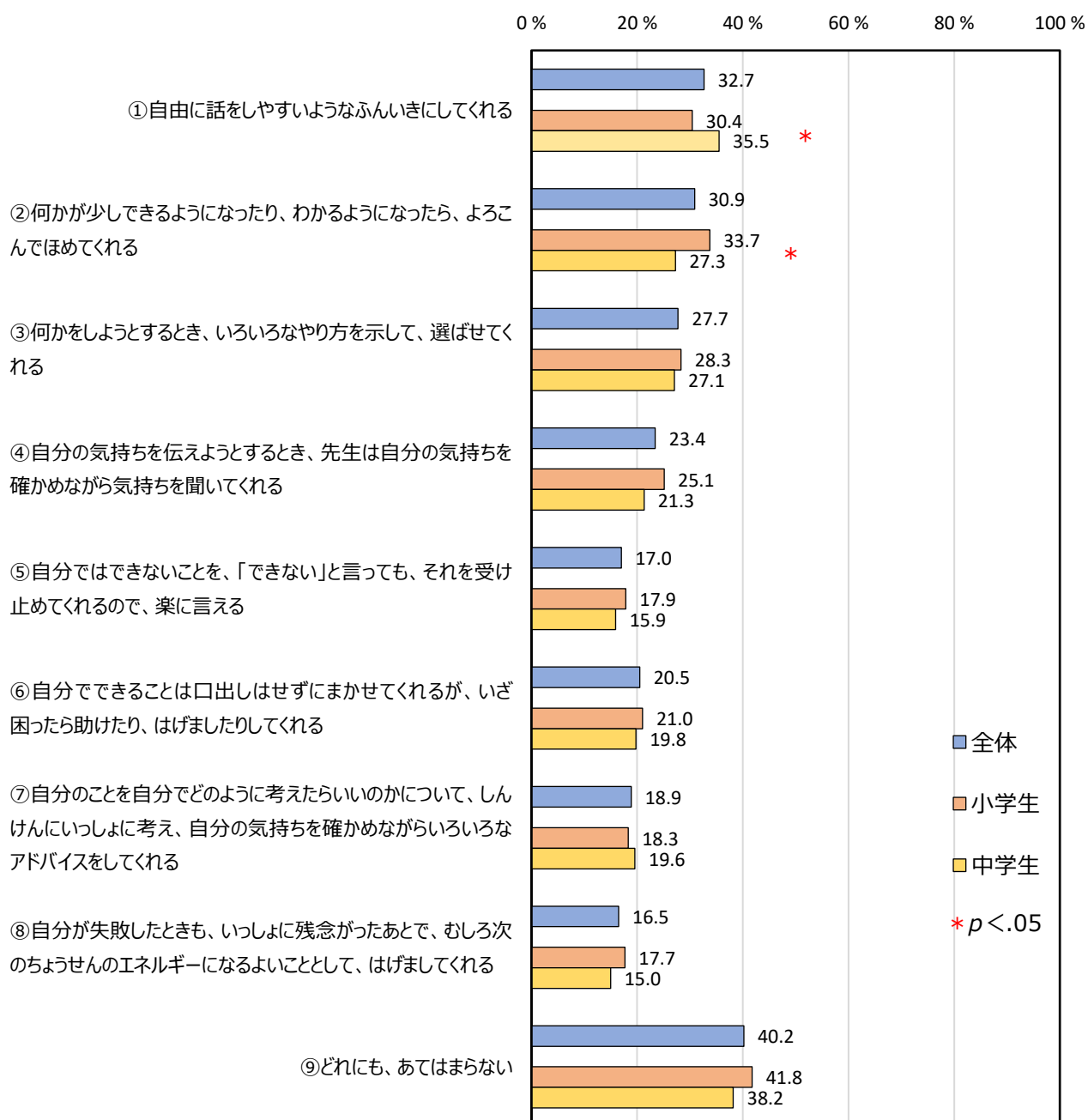


図 3-2-5-R5 学校の先生からの関わりに関する質問の選択結果（複数回答）（N=1182）

図 3-2-5-R5 のデータ表 (N=1182)

	N	%
①自由に話をしやすいようなふんいきにしてくれる。	386	32.7
②何かが少しできるようになったり、わかるようになったら、よろこんでほめてくれる。	365	30.9
③何かをしようとするとき、いろいろなやり方を示して、選ばせてくれる。	328	27.7
④自分の気持ちを伝えようとするとき、先生は自分の気持ちを確かめながら気持ちを聞いてくれる。	277	23.4
⑤自分ではできないことを、「できない」と言っても、それを受け止めてくれるので、楽に言える。	201	17.0
⑥自分ではできることは口出しはせずにまかせてくれるが、いざ困ったら助けたり、はげましたりしてくれる。	242	20.5
⑦自分のことを自分でどのように考えたらいいのかについて、しんけんにいっしょに考え、自分の気持ちを確かめながらいろいろなアドバイスをしてくれる。	223	18.9
⑧自分が失敗したときも、いっしょに残念がったあとで、むしろ次のちょうせんのエネルギーになるよいこととして、はげましてくれる。	195	16.5
⑨どれも、あてはまらない。	475	40.2

次に、関わりの4概念「①②肯定的関わり」、「③④存在受容」、「⑤⑥主体性の育成」、「⑦⑧主張性の育成」について、それぞれ2項目の平均選択率を示したのが、表 3-2-3 である。選択率を見ると、令和4年度、令和5年度とも大小順が同じで、大きい方から「肯定的関わり」、「存在受容」、「主体性の育成」、「主張性の育成」の順であった。

表 3-2-3 学校の先生からの関わりに関する4概念の選択率（「当てはまる」）の比較（表内数値は%）

4概念	令和4年度	令和5年度	項目
肯定的関わり	30.4	31.8	①自由に話をしやすいようなふんいきにしてくれる。
			②何かが少しできるようになったり、わかるようになったら、よろこんでほめてくれる。
存在受容	24.9	25.6	③何かをしようとするとき、いろいろなやり方を示して、選ばせてくれる。
			④自分の気持ちを伝えようとするとき、先生は自分の気持ちを確かめながら気持ちを聞いてくれる。
主体性の育成	19.4	18.8	⑤自分ではできないことを、「できない」と言っても、それを受け止めてくれるので、楽に言える。
			⑥自分ではできることは口出しはせずにまかせてくれるが、いざ困ったら助けたり、はげましたりしてくれる。
主張性の育成	16.1	17.7	⑦自分のことを自分でどのように考えたらいいのかについて、しんけんにいっしょに考え、自分の気持ちを確かめながらいろいろなアドバイスをしてくれる。
			⑧自分が失敗したときも、いっしょに残念がったあとで、むしろ次のちょうせんのエネルギーになるよいこととして、はげましてくれる。

N=509

N=1182

（6）休みたいと思ったときの相談相手

児童・生徒初回調査のQ16では、休みたいと思ったときの相談相手を質問している。

令和4年度の結果をまとめたものが、図 3-2-6-R4 である。「⑤家族」に相談している割合が75.0%と最も多く、次いで「⑦誰にも相談しなかった」、「③学校にいるカウンセラー」の順であった。さらに、「⑤家族」に相談しなかったと回答した25.0%の児童・生徒は、どの選択肢を選んでいたかを集計してみると、73.0%が「⑦誰にも相談しなかった」と回答した。相談相手を校種で比較すると、8項目の選択肢の中で、「⑤家族」への相談は小学生の方が有意に多く、「⑦誰にも相談しなかった」は中学生の方が有意に多かった（補遺(4)、p.161）。

令和5年度の結果をまとめたものが、図 3-2-6-R5 である。「⑤家族」に相談している割合が79.2%と最も多く、次いで、「⑦誰にも相談しなかった」、「③学校にいるカウンセラー」の順であった。「⑦誰にも相談しなかった」と回答した割合は、小学生よりも中学生の方が有意に多かった。

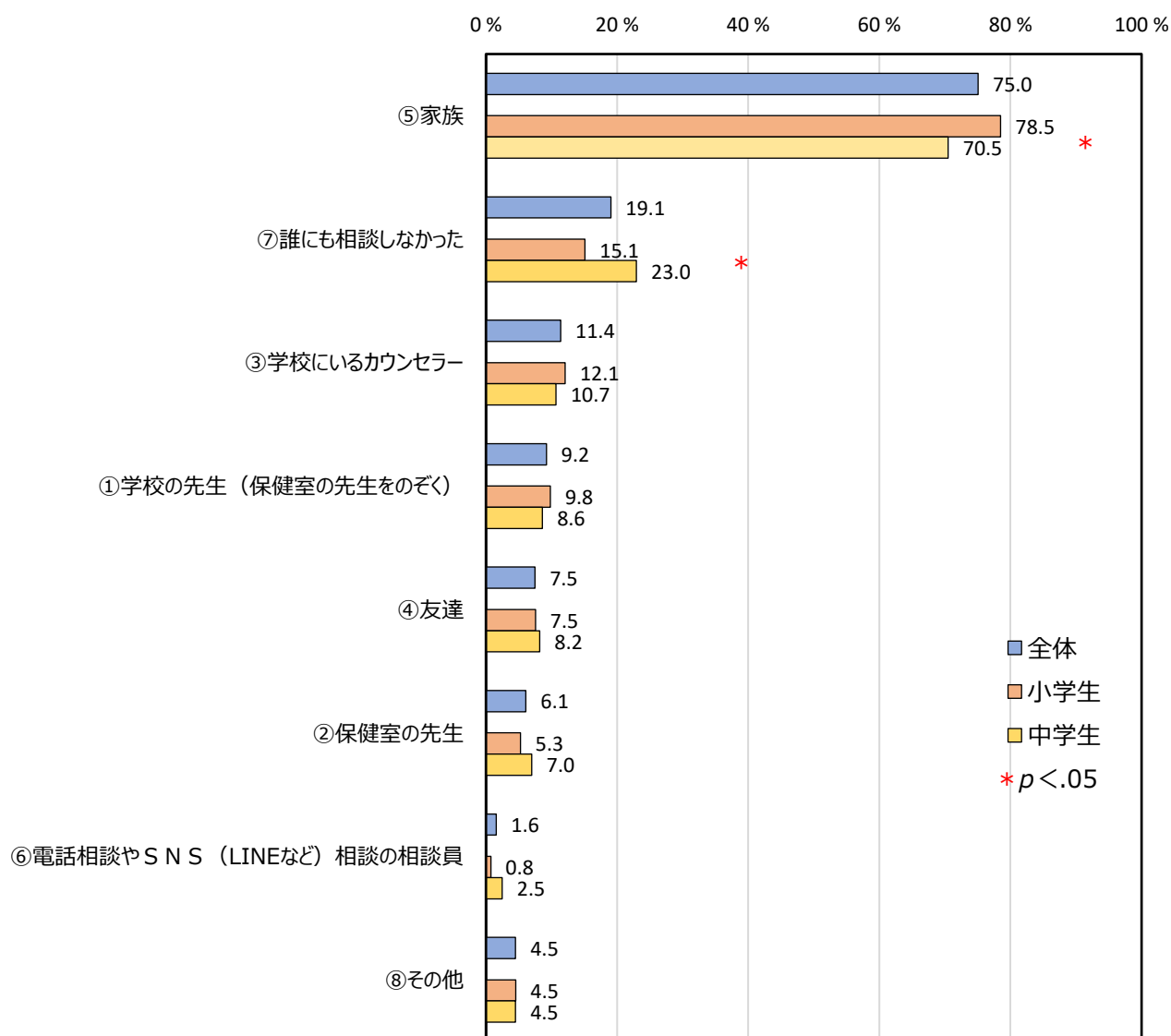


図 3-2-6-R4 休みたいと思ったときの相談相手（児童・生徒の回答）（複数回答）（N=509）

図 3-2-6-R4 のデータ表

選択肢	N	%
⑤ 家族	382	75.0
⑦ 誰にも相談しなかった	97	19.1
③ 学校にいるカウンセラー	58	11.4
① 学校の先生（保健室の先生をのぞく。）	47	9.2
④ 友達	38	7.5
② 保健室の先生	31	6.1
⑥ 電話相談やSNS（LINEなど）相談の相談員	8	1.6
⑧ その他	23	4.5

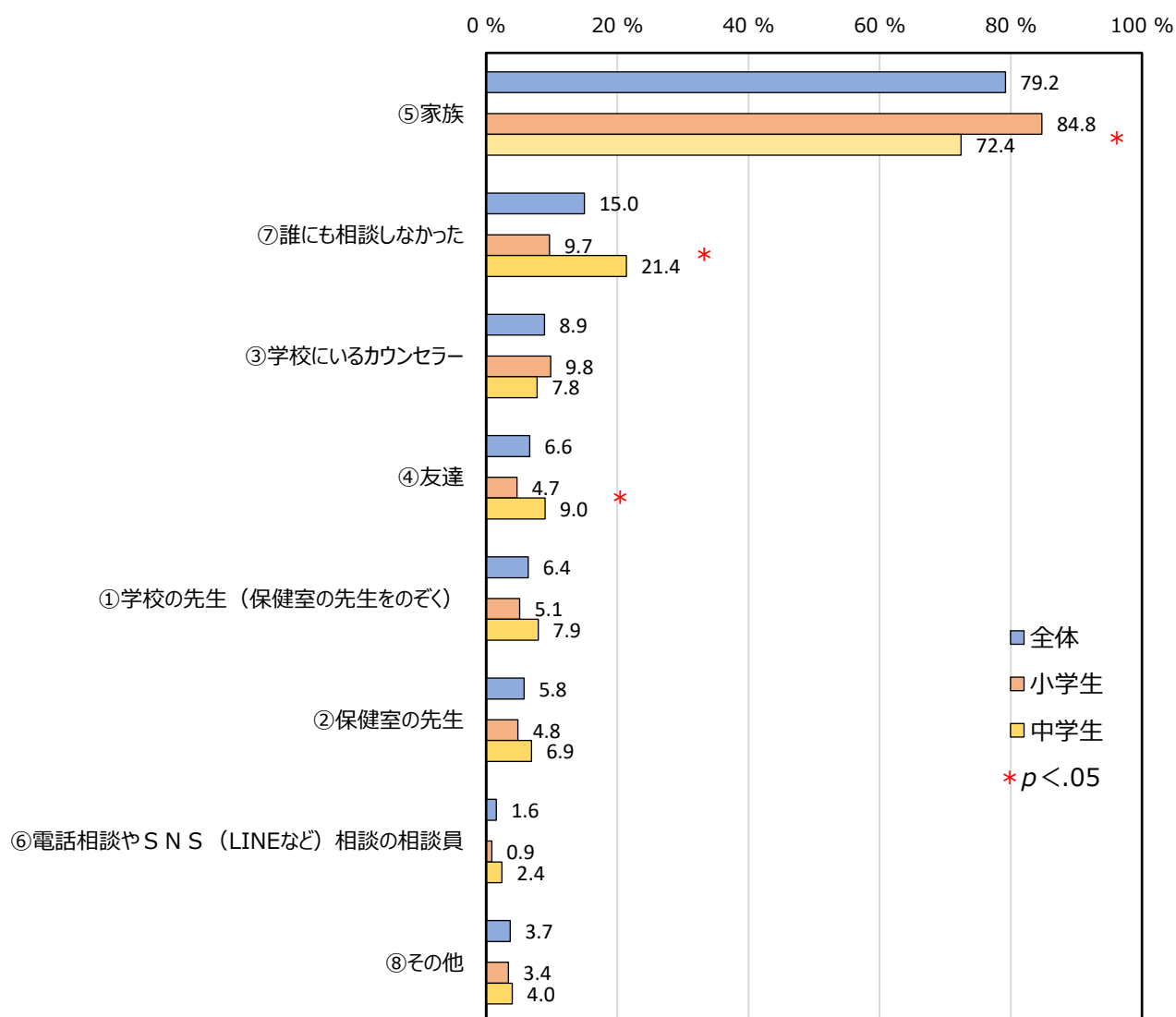


図 3-2-6-R5 休みたいと思ったときの相談相手（児童・生徒の回答）（複数回答）（N=1282）

図 3-2-6-R5 のデータ表

選択肢	N	%
⑤家族	1015	79.2
⑦誰にも相談しなかった	192	15.0
③学校にいるカウンセラー	114	8.9
④友達	85	6.6
①学校の先生（保健室の先生をのぞく。）	82	6.4
②保健室の先生	74	5.8
⑥電話相談やSNS（LINEなど）相談の相談員	20	1.6
⑧その他	47	3.7

3-3〔3〕不登校になり始めでの教育支援センター（適応指導教室）の対応

ここからは教育支援センター（適応指導教室）での対応の結果を示す。図 2-4-1 の太破線囲みの〔3〕である。

（１）教育支援センター（適応指導教室）の通室の有無

保護者初回の Q65 では、教育支援センター（適応指導教室）の通室の有無を質問した。

令和 4 年度の結果は、図 3-3-1-R4 に示すように、通室経験有りが合わせて 25.2%で、74.8%が利用していなかった。また、校種で比較すると、大きな違いは見られなかった。

令和 5 年度の結果をまとめたものが、令和 4 年度の次の図 3-3-1-R5 である。結果は、令和 4 年度の傾向と同様であった。

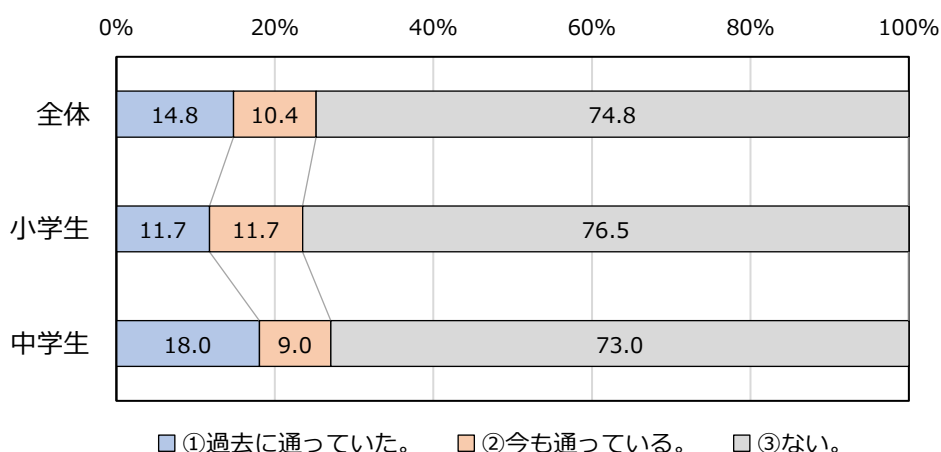


図 3-3-1-R4 教育支援センター（適応指導教室）の通室経験（N=508）（集計不能 1 人）

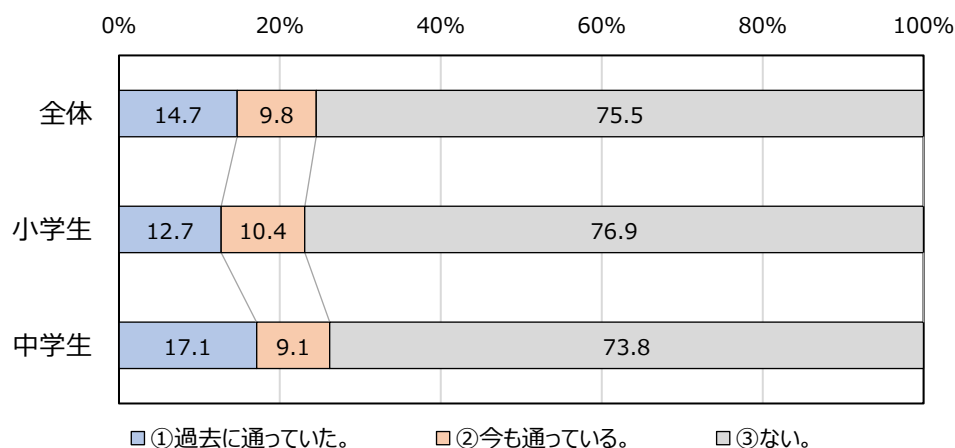


図 3-3-1-R5 教育支援センター（適応指導教室）の通室経験（N=1282）

（２）教育支援センター（適応指導教室）での活動内容

保護者初回 Q66 では、教育支援センター（適応指導教室）での活動内容を質問している。

令和 4 年度については、図 3-3-1-R4 の通室有りの対象者に活動内容を質問したところ、図 3-3-2-R4 に示す結果となった。45.3%の児童・生徒が、個別のドリル学習を行っていた。

令和 5 年度についても、図 3-3-2-R5 のとおり、個別のドリル学習が選択率の第 1 位で 46.8%であった。

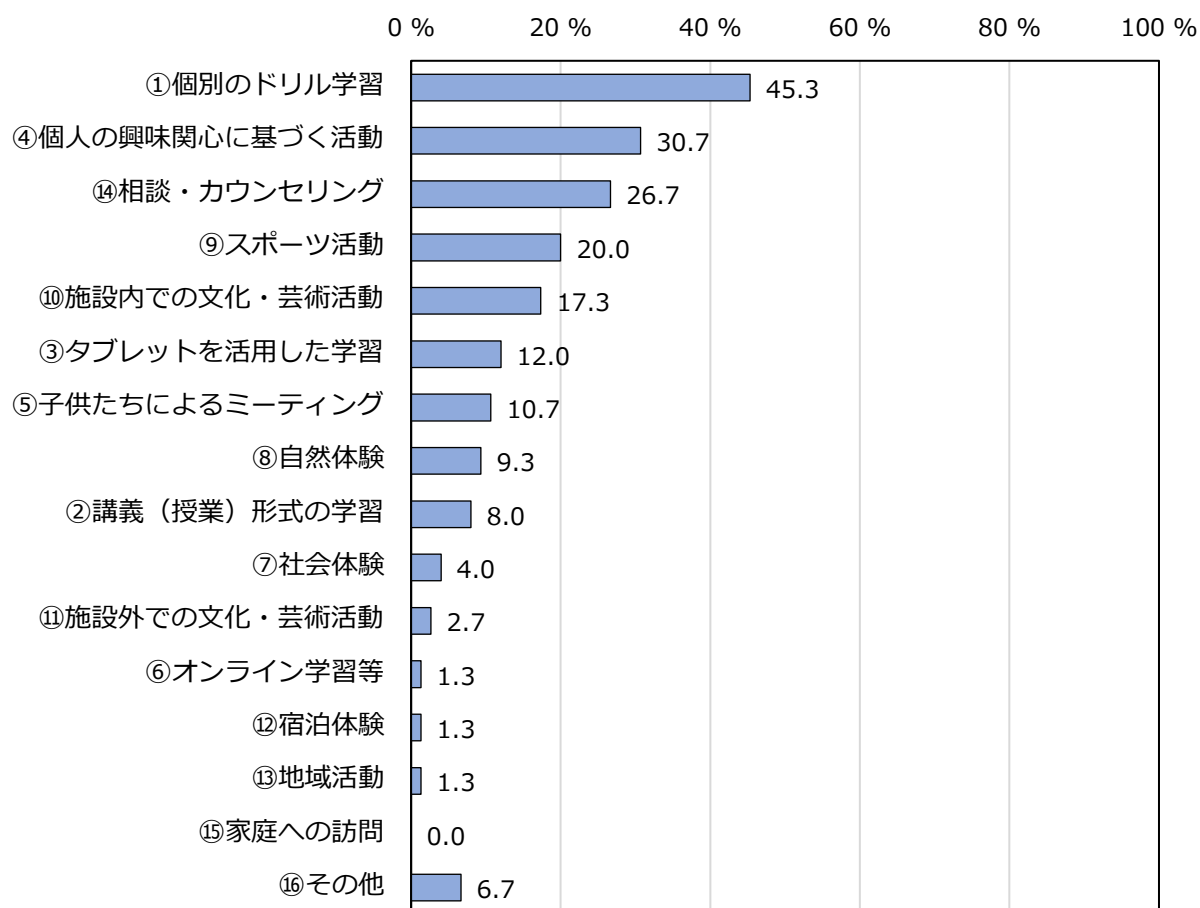


図 3-3-2-R4 教育支援センター（適応指導教室）での活動内容（多い順）（N=75）

図 3-3-2-R4 のデータ表（多い順）（N=75）

選択肢	N	%
①個別のドリル学習	34	45.3
④個人の興味関心に基づく活動	23	30.7
⑭相談・カウンセリング	20	26.7
⑨スポーツ活動	15	20.0
⑩施設内での文化・芸術活動（調理、音楽活動、工芸など）	13	17.3
③タブレットを活用した学習（ドリル・インターネット等）	9	12.0
⑤子供たちによるミーティング	8	10.7
⑧自然体験（自然観察、農業体験など）	7	9.3
②講義（授業）形式の学習	6	8.0
⑦社会体験（見学、職場体験など）	3	4.0
⑪施設外での文化・芸術活動（お菓子づくり、音楽活動、工芸など）	2	2.7
⑥オンライン学習等（自宅、施設内含む）	1	1.3
⑫宿泊体験	1	1.3
⑬地域活動（地域住民や施設との連携）	1	1.3
⑮家庭への訪問	0	0.0
⑯その他	5	6.7

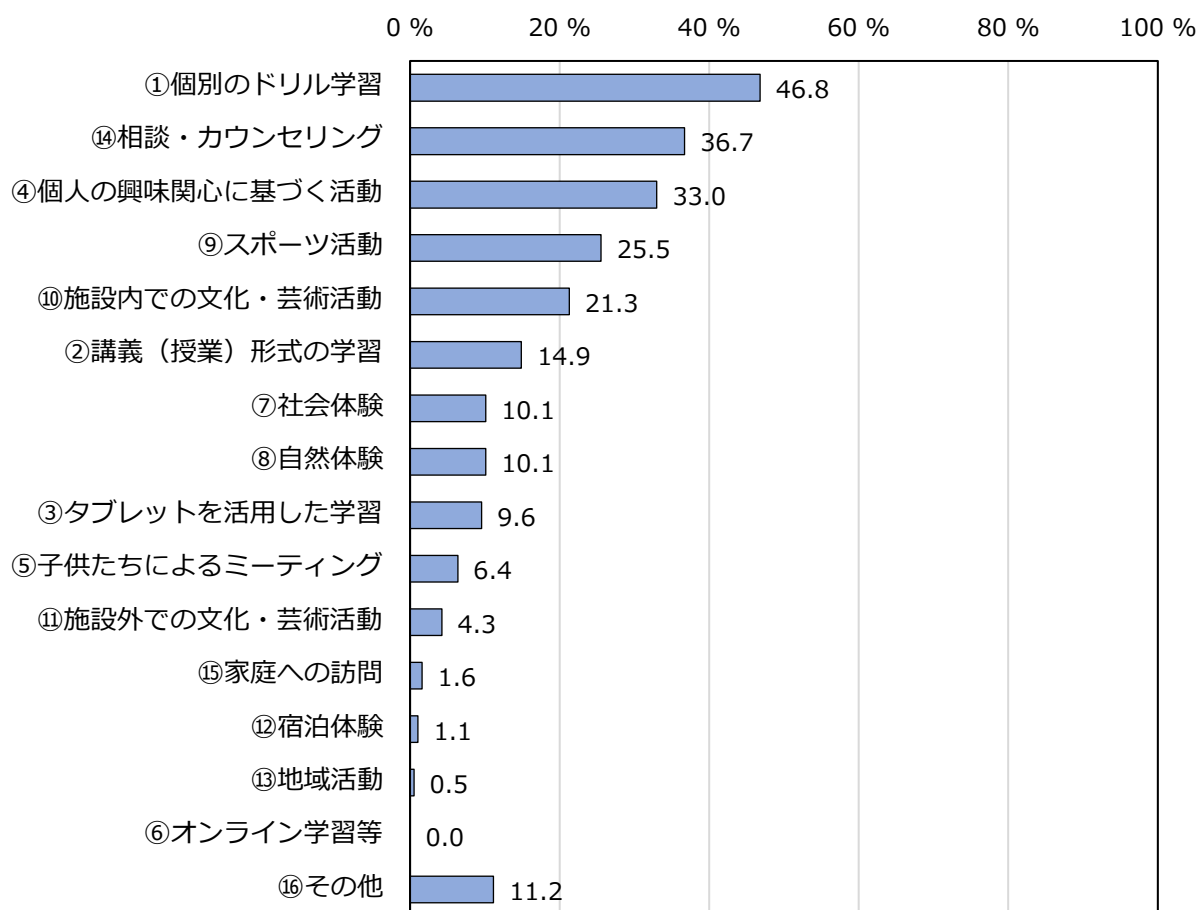


図 3-3-2-R5 教育支援センター（適応指導教室）での活動内容（多い順）（N=188）

図 3-3-2-R5 のデータ表（多い順）（N=188）

選択肢	N	%
①個別のドリル学習	88	46.8
⑭相談・カウンセリング	69	36.7
④個人の興味関心に基づく活動	62	33.0
⑨スポーツ活動	48	25.5
⑩施設内での文化・芸術活動（調理、音楽活動、工芸など）	40	21.3
②講義（授業）形式の学習	28	14.9
⑦社会体験（見学、職場体験など）	19	10.1
⑧自然体験（自然観察、農業体験など）	19	10.1
③タブレットを活用した学習（ドリル・インターネット等）	18	9.6
⑤子供たちによるミーティング	12	6.4
⑪施設外での文化・芸術活動（お菓子づくり、音楽活動、工芸など）	8	4.3
⑮家庭への訪問	3	1.6
⑫宿泊体験	2	1.1
⑬地域活動（地域住民や施設との連携）	1	0.5
⑥オンライン学習等（自宅、施設内含む）	0	0.0
⑯その他	21	11.2

（３）教育支援センター（適応指導教室）の通室を辞めた理由

保護者初回調査 Q68 では、教育支援センター（適応指導教室）の通室を辞めた理由について質問している。

令和４年度の結果をまとめたものが、図 3-3-3-R4 である。「⑨お子様の反応」や「⑬フリースクール等の方が子供に合っていた」という理由で通室を辞めたケースが多いことが分かる。また、「⑦雰囲気」や「⑧スタッフの対応」など、対人的な要因も挙げられていた。「⑮その他」の回答には、「転校」や「卒業」などが見られた。

令和５年度の結果をまとめたものが、図 3-3-3-R5 である。選択された上位４項目、「⑨お子様の反応」、「⑬フリースクール等の方が子供に合っていた」、「⑤活動内容」、「⑦雰囲気」は、順位が異なるものの、令和４年度と同様であった。

なお、結果は、「第１位回答者数×３＋第２位回答者数×２＋第３位回答者数」で重み付け得点化をし、その大小順を示している。

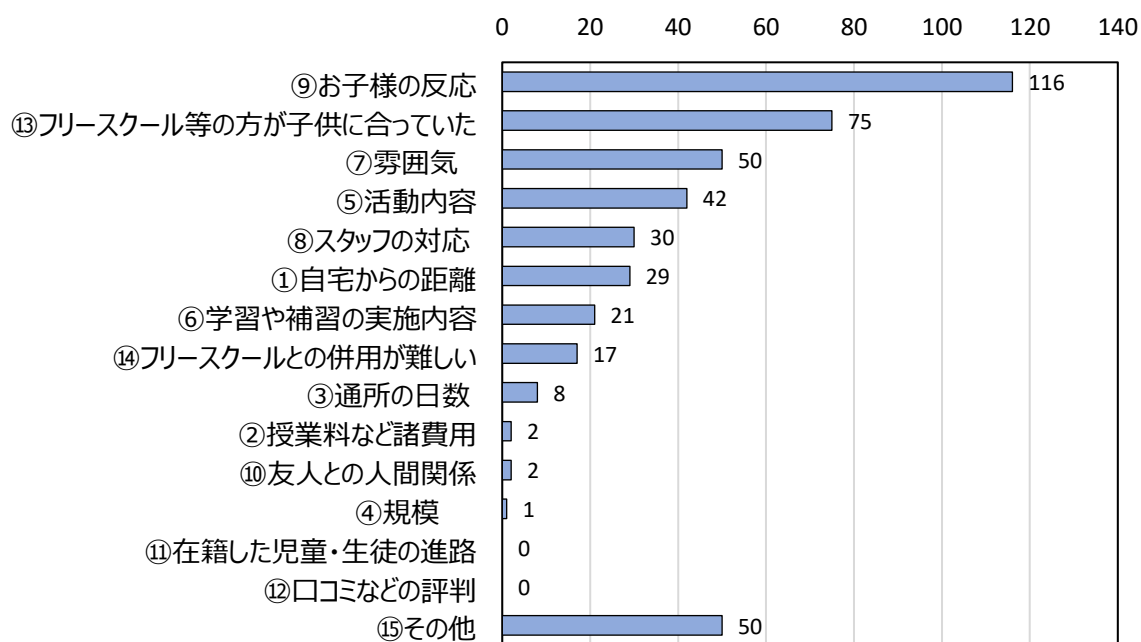


図 3-3-3-R4 教育支援センター（適応指導教室）の通室を辞めた理由（重み付け得点）（多い順）（N=75）

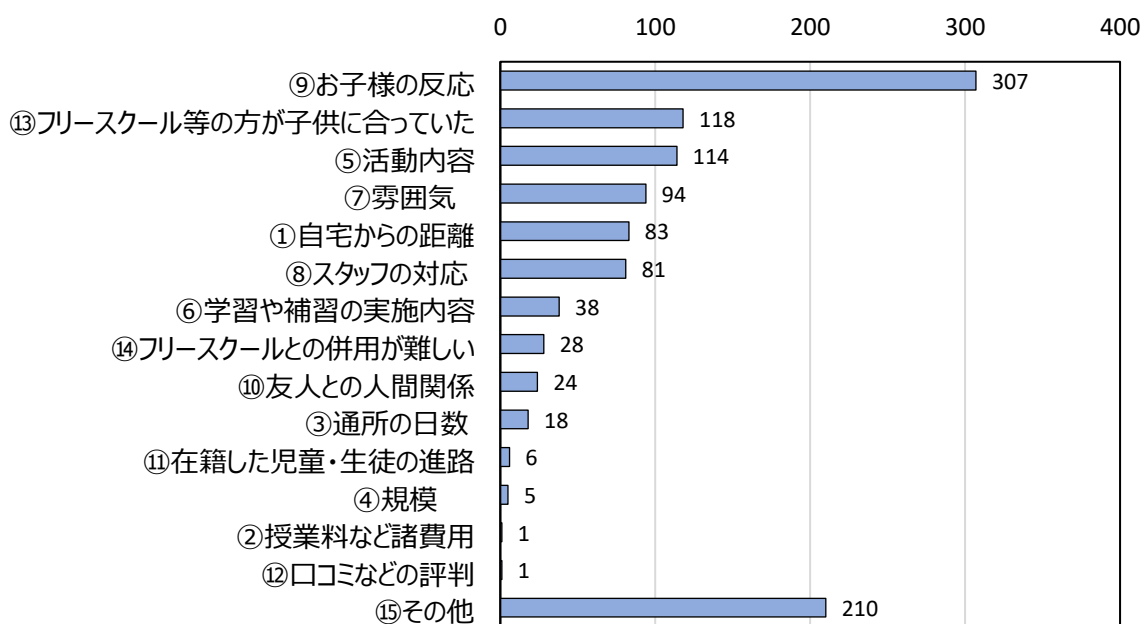


図 3-3-3-R5 教育支援センター（適応指導教室）の通室を辞めた理由（重み付け得点）（多い順）（N=188）

（４）教育支援センター（適応指導教室）に再度通室するか

保護者初回調査 Q74 で、教育支援センター（適応指導教室）の通室を辞めた人に対して、再度通室を検討しているかを質問した。

令和４年度の結果は、図 3-3-4-R4 であり、88.0%の人が検討していないことが分かった。校種ごとに集計した結果では、「②検討していない」が中学生の保護者の方が若干多かった程度で有意な差は見られなかった（補遺(4)、p.161）。

令和５年度の結果は、図 3-3-4-R5 であり、令和４年度と比べて、小学生の保護者で「①検討している」と回答した人が若干多いものの、全体的な傾向は変わらなかった。

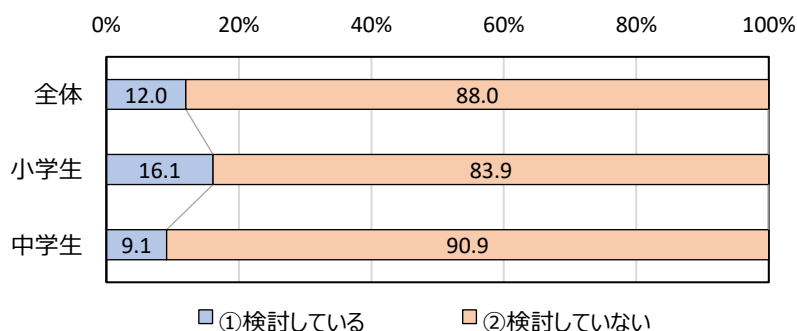


図 3-3-4-R4 教育支援センター（適応指導教室）への再度の通室を検討するか（N=75）

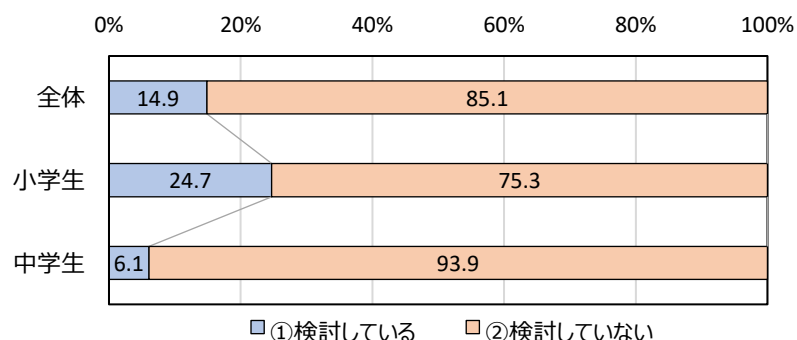


図 3-3-4-R5 教育支援センター（適応指導教室）への再度の通室を検討するか（N=188）

（５）教育支援センター（適応指導教室）に再度通室しない理由

保護者初回調査 Q74、Q75 では、教育支援センター（適応指導教室）に再度通室しない理由を質問している。テキストマイニング分析によって、理由を概念に分類した結果をまとめたものが、表 3-3-1 である。

表では、理由として、「１．フリースクール等：楽しさ・前向き」、「２．本人：希望しない」、「３．適応：適応指導教室・授業・指導」、「４．子供：子供の気持ち・拒否・居心地」、「５．雰囲気・様子：通室距離・活動内容」の 5 概念が抽出された。

概念とそれぞれの主な意見内容は、次のとおりである。

表 3-3-1 教育支援センター（適応指導教室）に再度通室しない理由

【１．フリースクール等】：楽しさ・前向き
・本人が今のフリースクールを気に入っている。フリースクールでは一人ひとりの特性に対応した指導を行ってくれる。
・本人が望んでいないし、今はフリースクールに毎日楽しく能動的に通えているので。
・今のフリースクールに楽しんで行っているため再開する必要性を感じない。
【２．本人】：希望しない
・学校の雰囲気が苦手であり、適応指導教室も同様のようで本人が希望していないため。
・本人の希望がない。学習内容が学校に準ずるとのこと本人の特性に合わない。
・学習が十分できるわけではないし、人数も少ないので人との関わりもあまりなく、本人が行こうという気にならない。
【３．適応】：適応指導教室・授業・指導
・自分のペースで学年相当の勉強ができるよう進めることに集中したいそうなので。しかし、親としては費用面で楽になるので、子供の希望に合うならば適応指導教室が一番助かります。
・学習を補うタイプのフリースクールではなく、適応指導教室は金銭面でも無料のため、ゆくゆくは通わせたい。
【４．子供】：子供の気持ち・拒否・居心地
・今のフリースクールの方が子供の興味（音楽、ピアノ、演劇）に即しているため。またお友達も仲良くしているため。
・iPad などが持ち込めず、Wi-Fi 環境も無いので、子供が得意な分野を生かせない。
・他の子供との相性の悪さ。
【５．雰囲気・様子】：通室距離・活動内容
・活動内容、雰囲気が、子供が求めているものとかけ離れていたため、通わなかった。
・子供は周りに誰もいない環境でマンツーマン指導でないと学習が難しかったためです。また、遊ぶときの活動内容が本人は飽きてきて楽しめなかったと思います。同学年のお友達がおらず、楽しい活動が無く、先生も高齢の方で物足りない様子でした。主な目的が勉強することであったため、初めはパズルや卓球などもして楽しめたが、通ううちに飽きてしまった。
・駅から歩いて 20 分以上かかり、坂道で大変だった。起立性調節障害を患っていて通うのが難しかった。
・学校に対する嫌な気持ちがまだ消えず、学校と同じような雰囲気の場所を嫌う傾向があるため。
・現在はフリースペースで、活動できているため、その必要性を感じていない。高学年になり、学習面で本人が行きたいと言えば行くこともあるかもしれない。

（６）通室している教育支援センター（適応指導教室）の活動内容

保護者初回調査の Q76 では、現在、教育支援センター（適応指導教室）に通室している人に活動内容を質問している。

令和 4 年度の結果をまとめたものが、図 3-3-5-R4 である。「⑭相談・カウンセリング」が 40.0%で一番多く、学校の別室登校の結果とは特徴が異なっていた。

令和 5 年度の結果をまとめたものが、図 3-3-5-R5 である。上位の 5 項目は「⑭相談・カウンセリング」、「①個別のドリル学習」、「④個人の興味関心にもとづく活動」、「⑨スポーツ活動」、「⑩施設内での文化・芸術活動」で、順序は多少異なるものの、令和 4 年度の結果とほぼ同様であった。

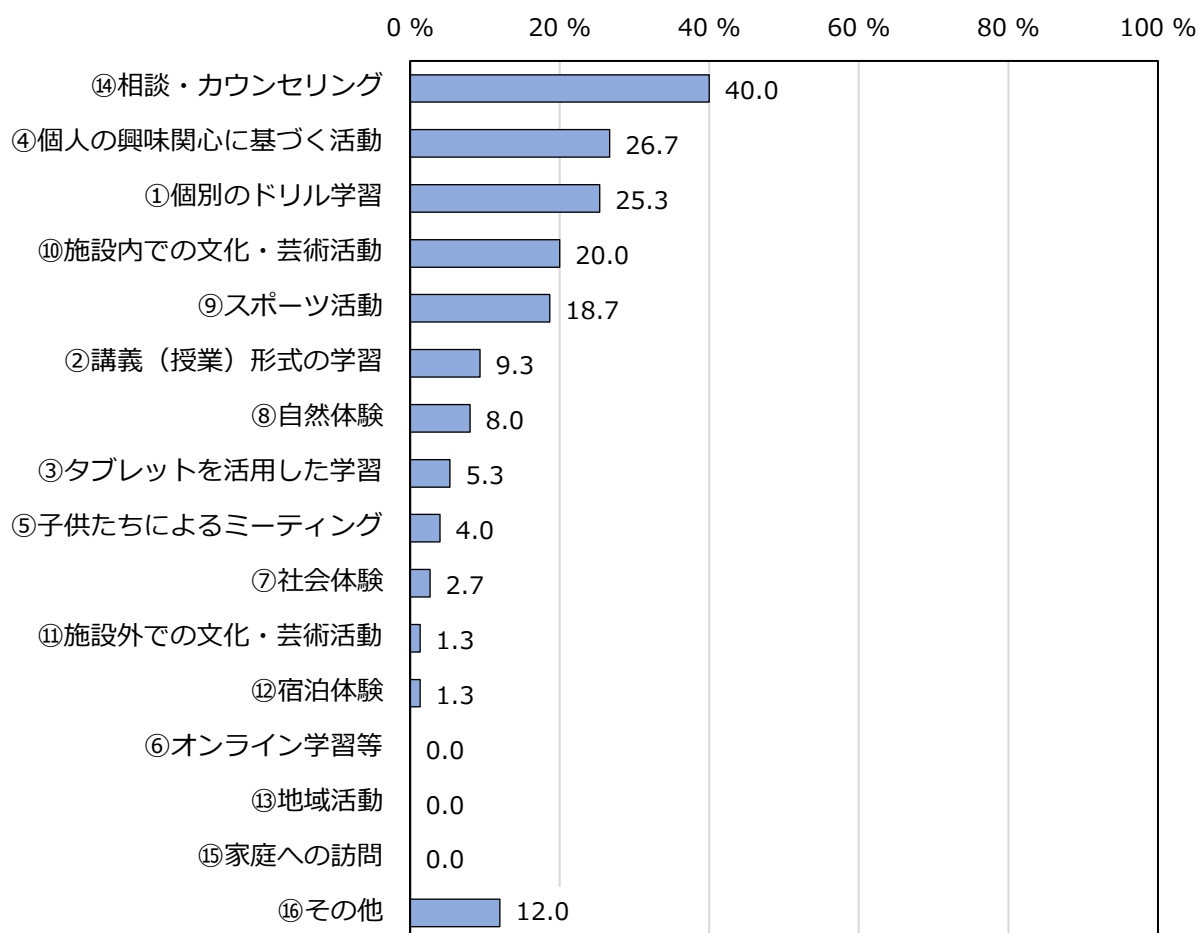


図 3-3-5-R4 現在通室している教育支援センター（適応指導教室）の活動内容（多い順）（N=75）

図 3-3-5-R4 のデータ表（多い順）

	N	%
⑭相談・カウンセリング	30	40.0
④個人の興味関心に基づく活動	20	26.7
①個別のドリル学習	19	25.3
⑩施設内での文化・芸術活動（調理、音楽活動、工芸など）	15	20.0
⑨スポーツ活動	14	18.7
②講義（授業）形式の学習	7	9.3
⑧自然体験（自然観察、農業体験など）	6	8.0
③タブレットを活用した学習（ドリル・インターネット等）	4	5.3
⑤子供たちによるミーティング	3	4.0
⑦社会体験（見学、職場体験など）	2	2.7
⑪施設外での文化・芸術活動（お菓子づくり、音楽活動、工芸など）	1	1.3
⑫宿泊体験	1	1.3
⑥オンライン学習等（自宅、施設内含む）	0	0.0
⑬地域活動（地域住民や施設との連携）	0	0.0
⑮家庭への訪問	0	0.0
⑯その他	9	12.0

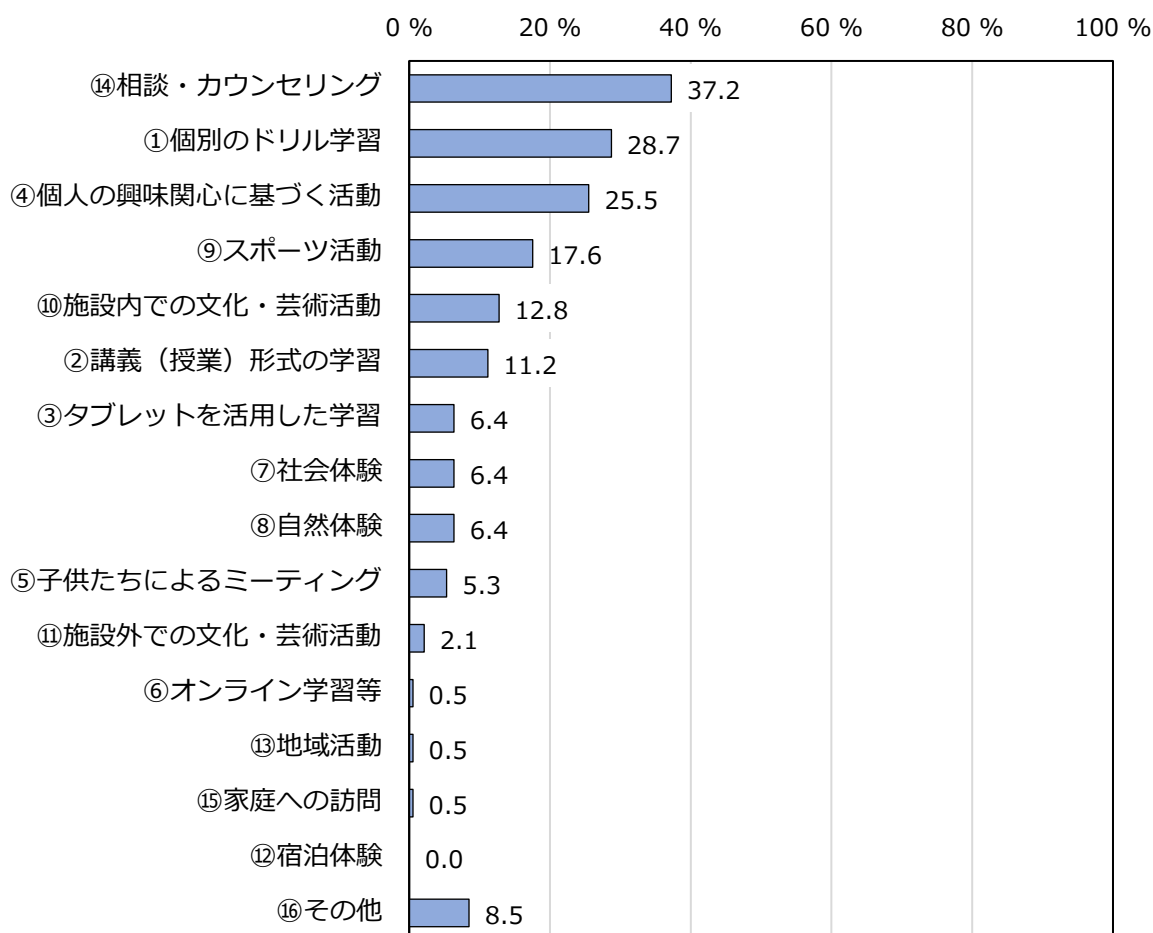


図 3-3-5-R5 現在通室している教育支援センター（適応指導教室）の活動内容（多い順）（N=188）

図 3-3-5-R5 のデータ表（多い順）

	N	%
⑭相談・カウンセリング	70	37.2
①個別のドリル学習	54	28.7
④個人の興味関心に基づく活動	48	25.5
⑨スポーツ活動	33	17.6
⑩施設内での文化・芸術活動（調理、音楽活動、工芸など）	24	12.8
②講義（授業）形式の学習	21	11.2
③タブレットを活用した学習（ドリル・インターネット等）	12	6.4
⑦社会体験（見学、職場体験など）	12	6.4
⑧自然体験（自然観察、農業体験など）	12	6.4
⑤子供たちによるミーティング	10	5.3
⑪施設外での文化・芸術活動（お菓子づくり、音楽活動、工芸など）	4	2.1
⑥オンライン学習等（自宅、施設内含む）	1	0.5
⑬地域活動（地域住民や施設との連携）	1	0.5
⑮家庭への訪問	1	0.5
⑫宿泊体験	0	0.0
⑯その他	16	8.5

3-4〔4〕フリースクール等の選択と活動

ここでは、フリースクール等に通所しはじめて以降の活動などについて質問している。図 2-4-1 の太破線囲いの〔4〕である。

3-4-1 現在通っているフリースクール等について

（１）フリースクール等のタイプ

保護者初回調査の Q10 では、現在通っているフリースクール等のタイプを質問している。

令和 4 年度は、表 3-4-1 の左側のように、87.2%が「①フリースクール（フリースペースを含む）」のタイプであった。

令和 5 年度についても、表 3-4-1 の右側のように、86.0%で、その傾向はおおむね変化がなかった。

表 3-4-1 通っているフリースクール等の類型（タイプ）

	令和 4 年度		令和 5 年度	
	N	%	N	%
①フリースクール（フリースペースを含む）	444	87.2	1103	86.0
④特色ある教育を行う施設	41	8.1	105	8.2
③学習塾	7	1.4	47	3.7
⑤よく分からない	8	1.6	27	2.1
②親の会	1	0.2	0	0.0
⑥その他	8	1.6	0	0.0
	509		1282	

（２）現在のフリースクール等を知ったきっかけ

保護者初回調査の Q11 では、現在通っているフリースクール等を知ったきっかけを質問している。

令和 4 年度の回答は、図 3-4-1-(a)-R4 に示すように、半数近くがホームページを参照していた。その傾向は、図 3-4-1-(a)-R5 に示す令和 5 年度も同様だった。また、「⑦その他」の回答には、「S C・臨床心理士の紹介」、「ネット・SNS」、「家族兄弟の関係」、「幼稚園・保育園の紹介」などがあり、多様な方法でフリースクール等の情報を得ていることが分かった。

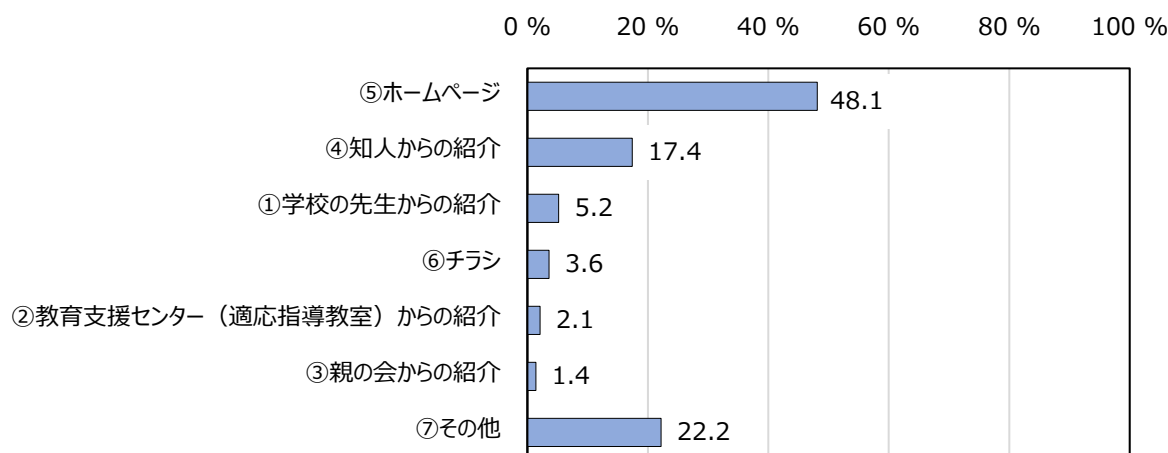


図 3-4-1-(a)-R4 現在通っているフリースクール等を知ったきっかけ（多い順）（N=509）

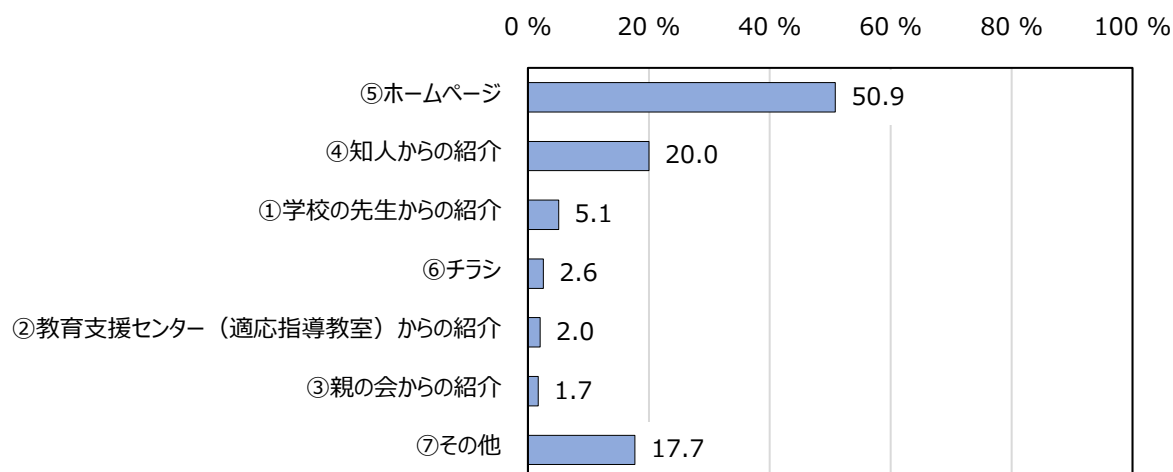


図 3-4-1-(a)-R5 現在通っているフリースクール等を知ったきっかけ（多い順）（N=1282）

（３）現在のフリースクール等を選んだ理由

保護者初回調査の Q12 では、現在のフリースクール等を選んだ理由について第 1 位～第 3 位を選ぶよう質問している。

令和 4 年度の結果をまとめたものが、図 3-4-1-(b)-R4 である。選んだ理由は「⑨お子様の反応」、「⑤活動内容」、「①自宅からの距離」、「⑧スタッフの対応」の順であった。なお、結果は、「第 1 位回答者数×3 + 第 2 位回答者数×2 + 第 3 位回答者数」で重み付け得点化をし、その大小順を示している。

次に小学生と中学生の理由を比較するために、図 3-4-1-(c)-R4 では第 1 位の選択理由に着目して集計したところ、「⑧スタッフの対応」は小学生の保護者の方が、「⑨お子様の反応」は中学生の保護者の方が、それぞれ有意に多かった。

令和 5 年度の結果では、選んだ理由について、「⑨お子様の反応」、「⑤活動内容」、「①自宅からの距離」が上位であり、令和 4 年度の結果と同じであった。また、校種別に、第 1 位の理由を比較した結果では、「⑤活動内容」にて有意差が見られ、小学生の保護者の方が活動内容を重視していた。

なお、「⑬その他」の回答には、「ゲーム」、「卓球」、「知能検査（WISC）」、「教材持ち込み」などが挙がっていた。

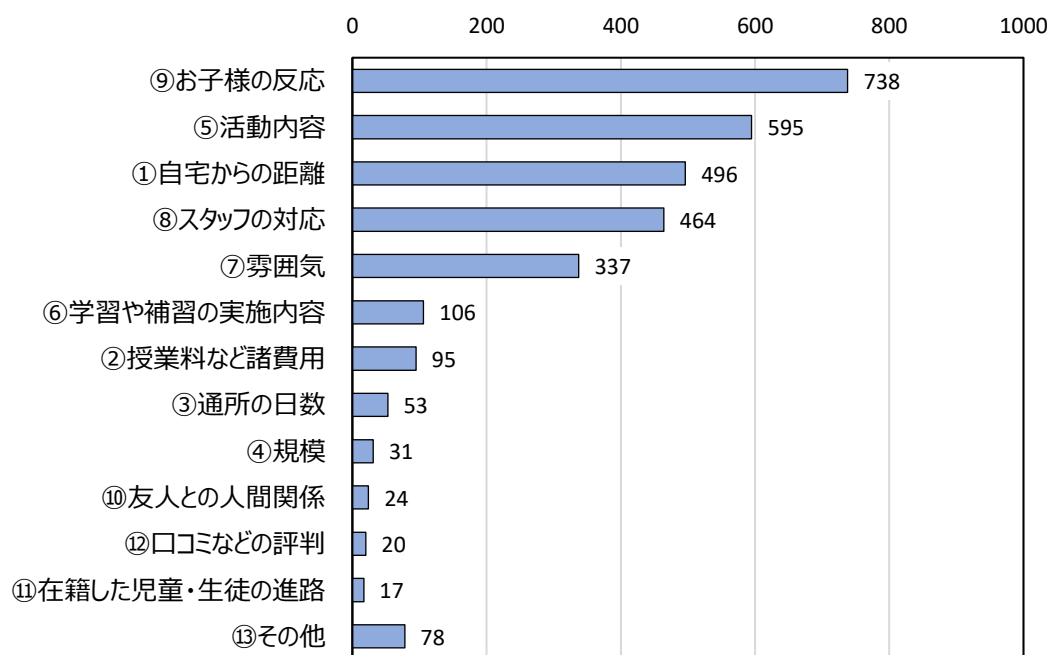


図 3-4-1-(b)-R4 現在のフリースクール等を選んだ理由（重み付け得点順）（全体）（N=509）

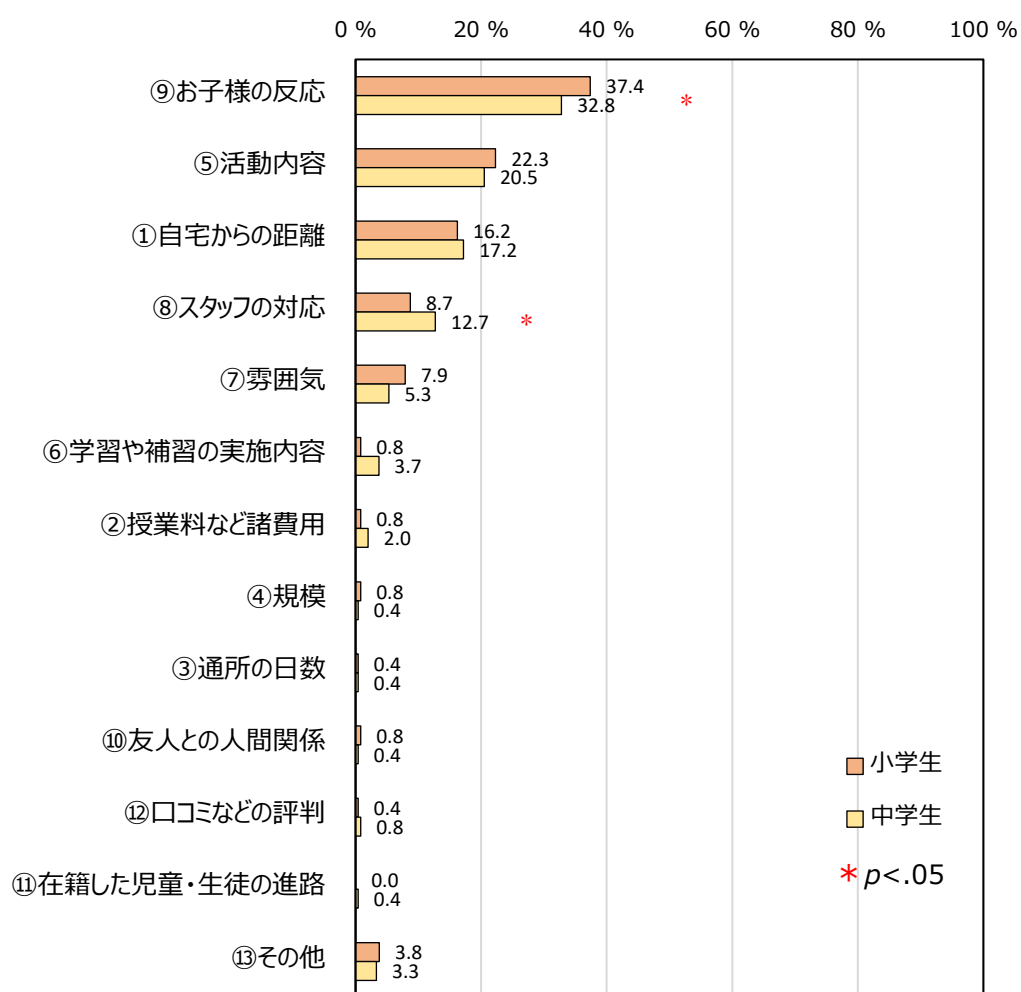


図 3-4-1-(c)-R4 現在のフリースクール等を選んだ理由（小中別）（第1位）（N=509）

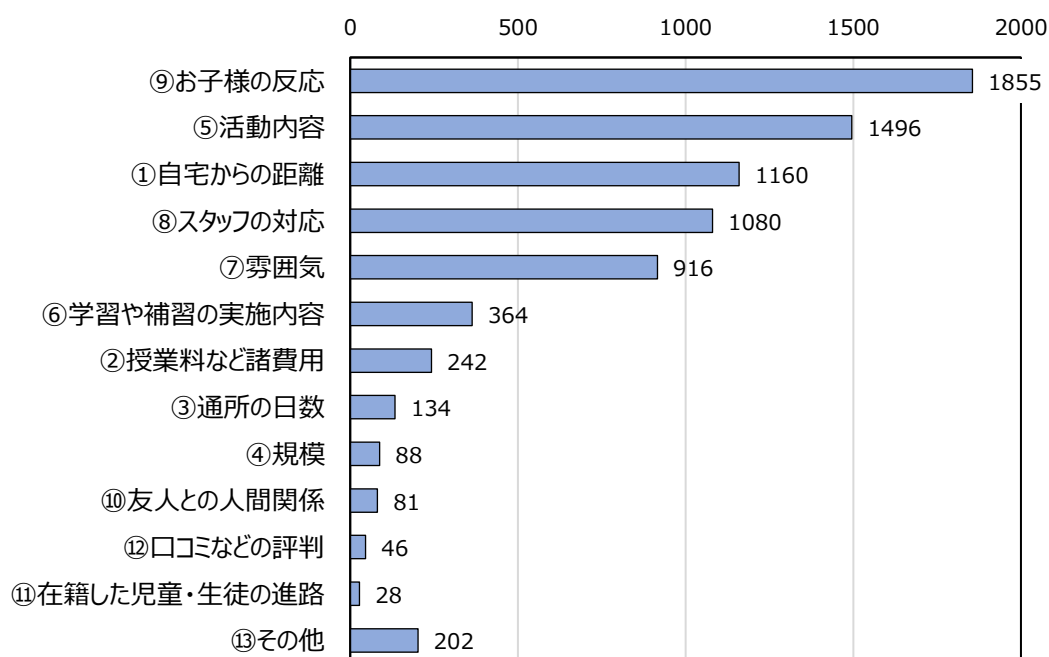


図 3-4-1-(b)-R5 現在のフリースクール等を選んだ理由（重み付け得点）（N=1282）

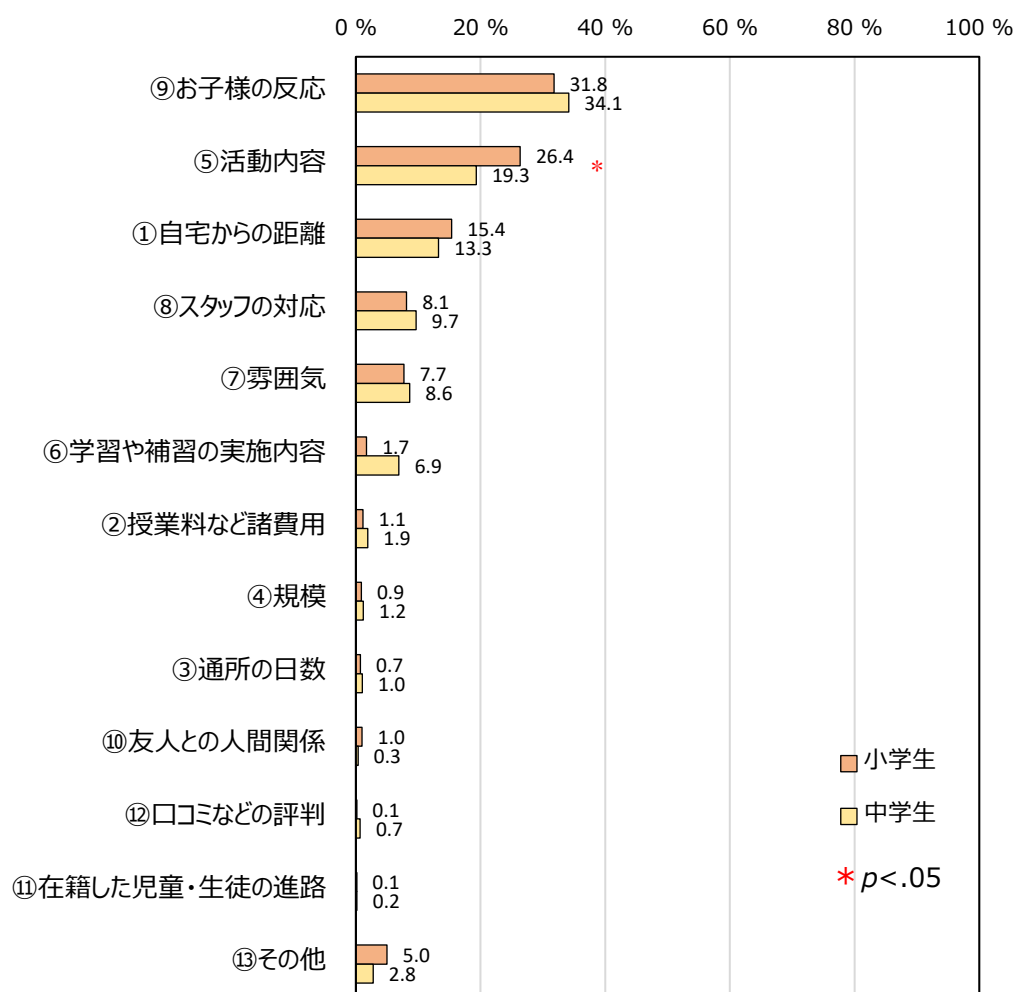


図 3-4-1-(c)-R5 現在のフリースクール等を選んだ理由（小中別）（第1位）（N=1282）

3-4-2 別のフリースクール等との比較

(1) 別のフリースクール等の経験

保護者初回調査のQ19では、現在通っているフリースクール等の前に、別のフリースクール等に通ったかどうかを質問している。令和4年度の結果では、表3-4-2に示したように、別のフリースクール等を経験しているのは11.4%であった。また、令和5年度の結果も、別のフリースクール等を経験しているのは11.1%で、ほぼ同様であった。

表3-4-2 別のフリースクール等に通っていたか（令和4年度と令和5年度）

別のフリースクール等	令和4年度		令和5年度	
	N	%	N	%
①通っていた	58	11.4	142	11.1
②通っていない	451	88.6	1140	88.9

(2) 以前通っていたフリースクール等のタイプ

前項の3-4-2の(1)で、「別のフリースクール等に通っていた」と回答した人に対して、そのタイプを質問した。

令和4年度の結果は、表3-4-2-(a)で、「①フリースクール（フリースペースを含む）」と回答した割合が72.4%であった。

令和5年度において、「①フリースクール（フリースペースを含む）」と回答した割合は78.9%で、令和4年度と同様の傾向であった。ただ、この割合は、表3-4-1(p.62)に示したように、令和4年度の結果で87.2%が、令和5年度の結果で86.0%が、「現在、フリースクール（フリースペースを含む）に通っている」と回答した結果と比べると少なかった。

表3-4-2-(a) 以前通っていたフリースクール等の類型（タイプ）（令和4年度と令和5年度）

以前のフリースクール等	令和4年度		令和5年度	
	N	%	N	%
①フリースクール（フリースペースを含む）	42	72.4	112	78.9
④特色ある教育を行う施設	6	10.3	15	10.6
③学習塾	1	1.7	8	5.6
⑤よく分からない	1	1.7	6	4.2
②親の会	0	0.0	0	0.0
⑥その他	8	13.8	1	0.7

(3) 以前通っていたフリースクール等を辞めた理由

保護者初回調査Q21では、以前通っていたフリースクール等を辞めた理由を質問している。回答では、該当する理由の第1位～第3位を選んでもらった。結果は、「第1位回答者数×3＋第2位回答者数×2＋第3位回答者数」で重み付け得点化をし、その大小順を示している。

令和4年度の結果は、図3-4-2-(b)-R4のとおり、「⑨お子様の反応」が最も多かった。「⑬その他」については、「オンラインによる併用になったので辞めていない」、「両方に通っている」などの回答が見られた。さらに、理由を校種別に比較するため、図3-4-2-(c)-R4には第1位の選択理由を集計した。その結果、「⑨お子様の反応」を理由とするのが小学生の保護者で顕著に多かったが、他の理由に大きな差は見られなかった。

令和5年度の結果も、重み付け得点順位の第3位までは、「⑨お子様の反応」、「①自宅からの距離」、「⑤活動内容」となっており、令和4年度と同様であった。

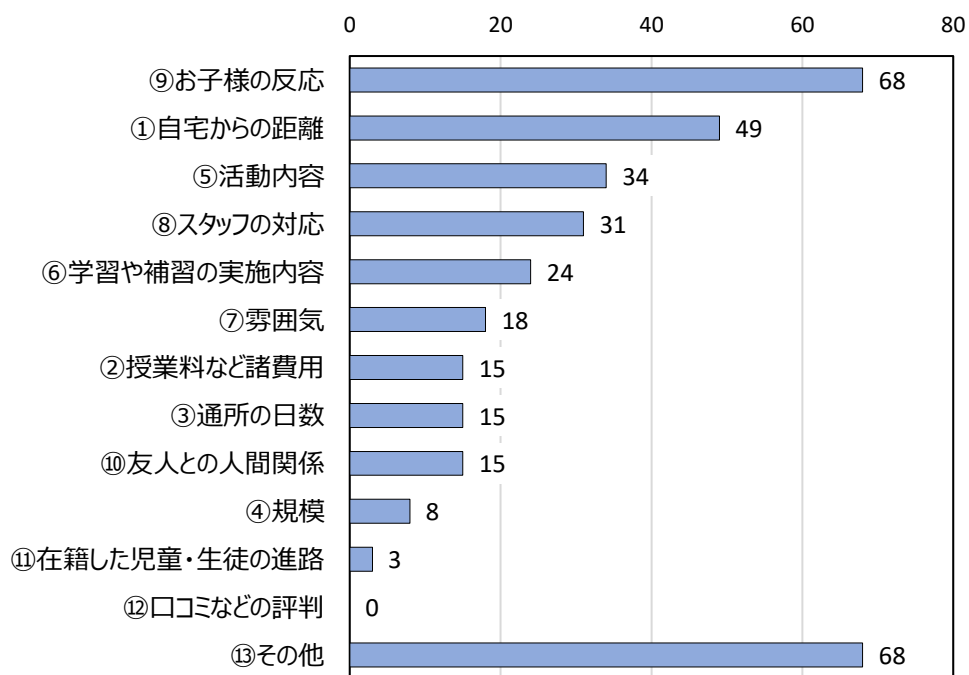


図 3-4-2-(b)-R4 以前のフリースクール等を辞めた理由（全体）（重み付け得点順）（N=58）

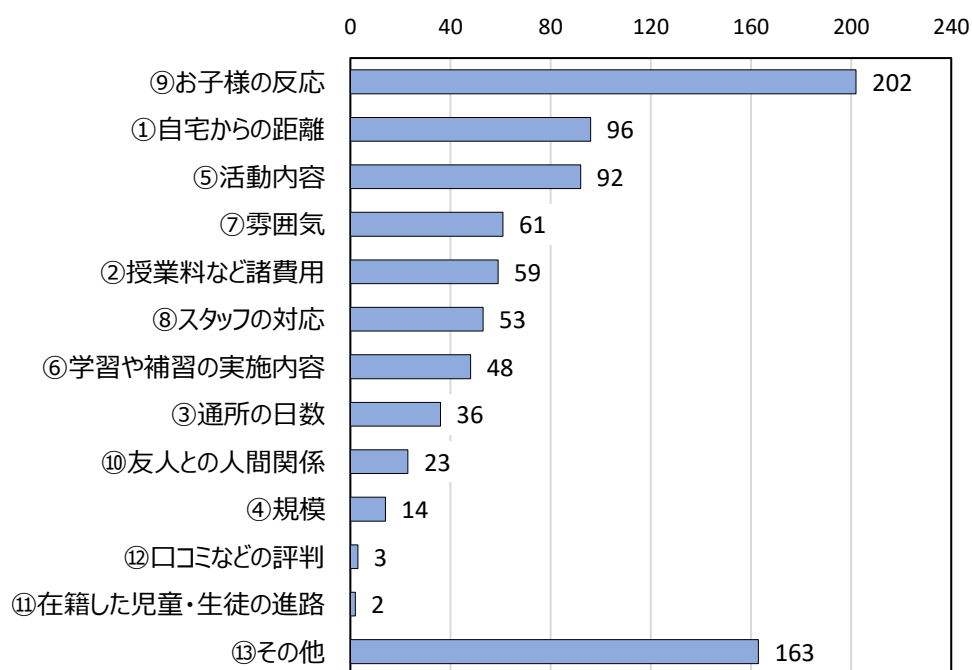


図 3-4-2-(b)-R5 以前のフリースクール等を辞めた理由（全体）（重み付け得点順）（N=142）

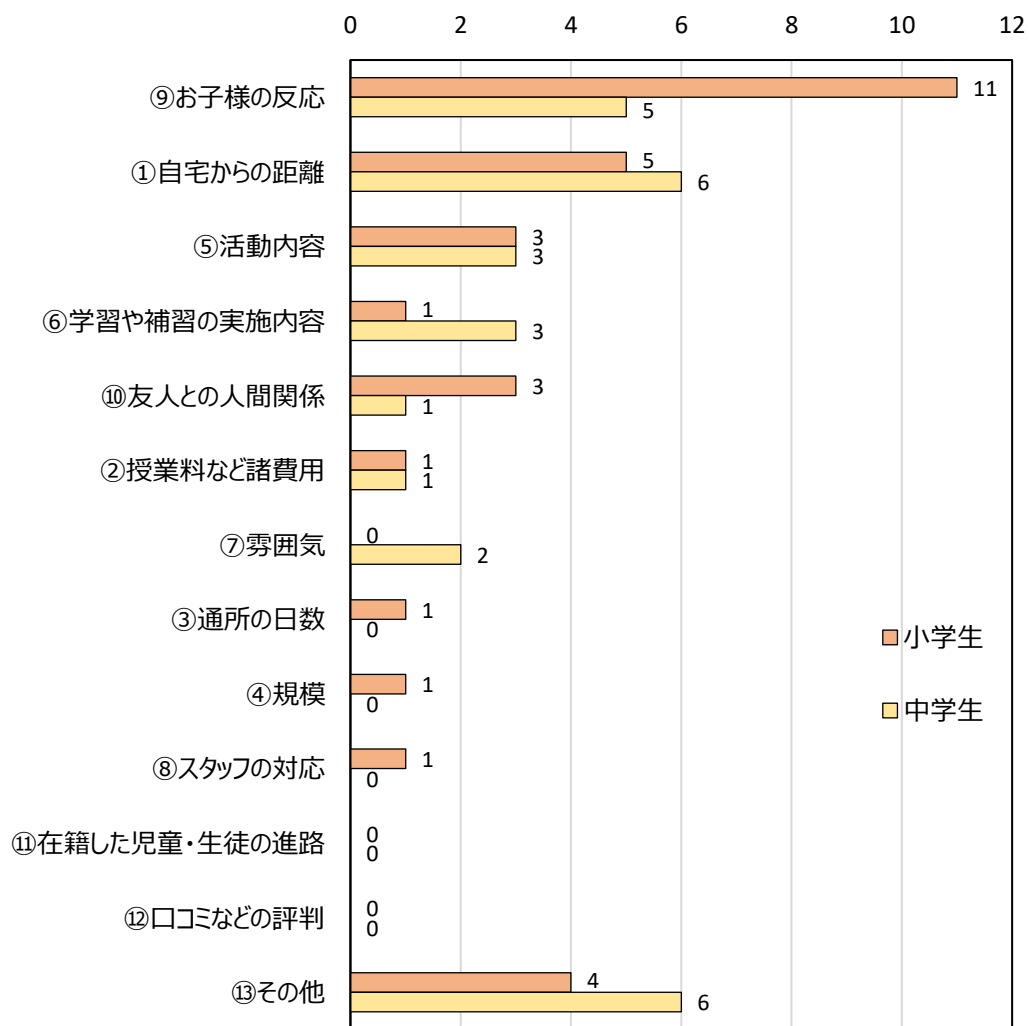


図 3-4-2-(c)-R4 以前のフリースクール等を辞めた理由（小中別人数）（第 1 位の回答）（N=58）

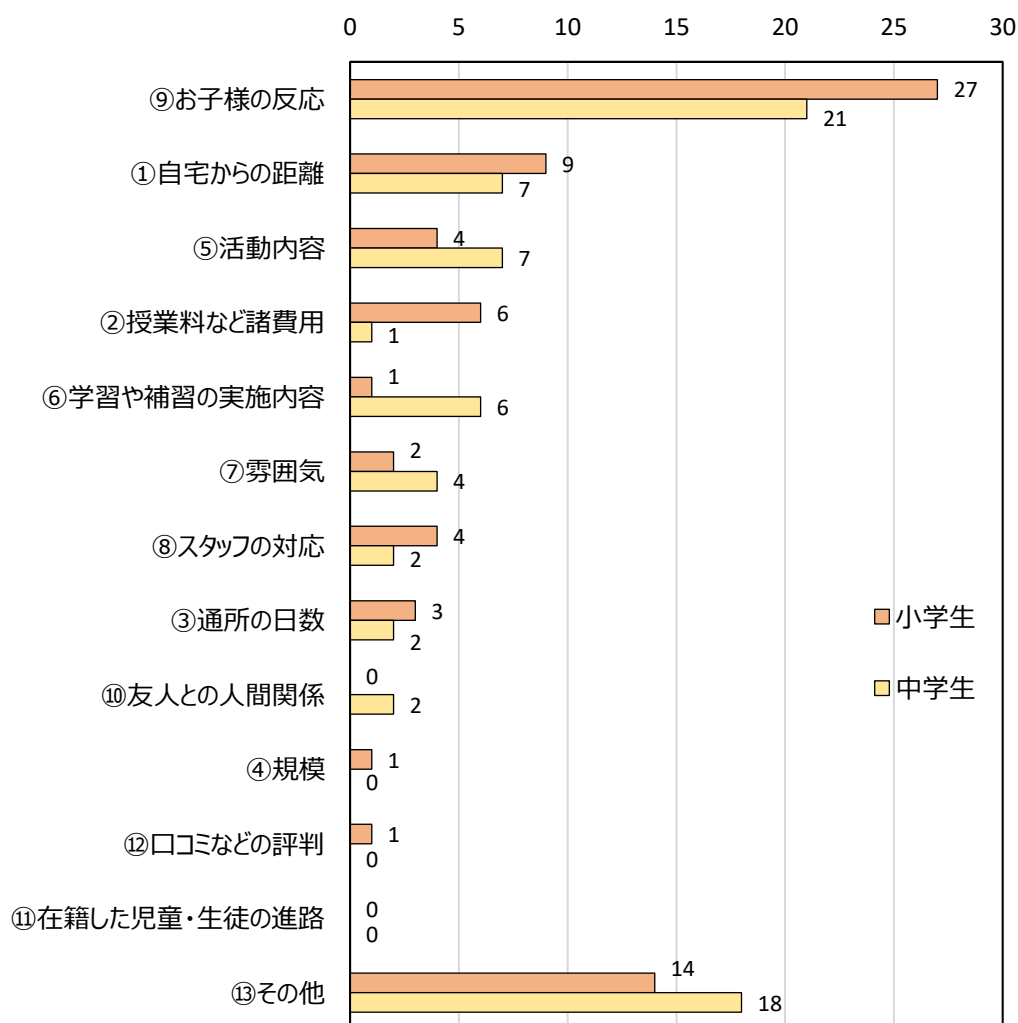


図 3-4-2-(c)-R5 以前のフリースクール等を辞めた理由（小中別人数）（第 1 位の回答）（N=142）

（４）現在のフリースクール等に通い始めての変化

保護者初回調査の Q27 にて、現在のフリースクール等に移ってからの児童・生徒の変化を第 1 位～第 3 位まで選ぶ形式で質問している。結果は、「第 1 位回答者数×3 + 第 2 位回答者数×2 + 第 3 位回答者数」で重み付け得点化をし、その大小順を示している。

令和 4 年度の結果は、図 3-4-2-(d)-R4 のとおり、「⑥居場所を得た」の回答が最も多く、友人との会話の増加、家族でのフリースクール等の話の増加など、話の量に変化が見られていた。

さらに、校種別の理由の違いを比べるために、第 1 位の選択理由を取り上げて比較した。結果は、図 3-4-2-(e)-R4 で、「⑥居場所を得た」を選んだ小学生の保護者が中学生の保護者と比べて特に多く、その一方、「③友人との会話が増えた」、「④スタッフとのコミュニケーションが増えた」はいずれも小学生の保護者で選択した人はおらず、中学生の保護者のみであった。このことから、中学生の保護者にとって会話やコミュニケーション面での変化がポイントになることが分かった。なお、「⑨その他」の回答では、「特になし」が一番多く、「社会との接点が増えた」などが見られた。

なお、令和 5 年度の調査では、回答対象者を変更したため、令和 4 年度に比べ、重み付け得点が大きく増えた。「⑥居場所を得た」の回答が最も多い点など、結果の全体的な傾向は令和 4 年度と同様だった。

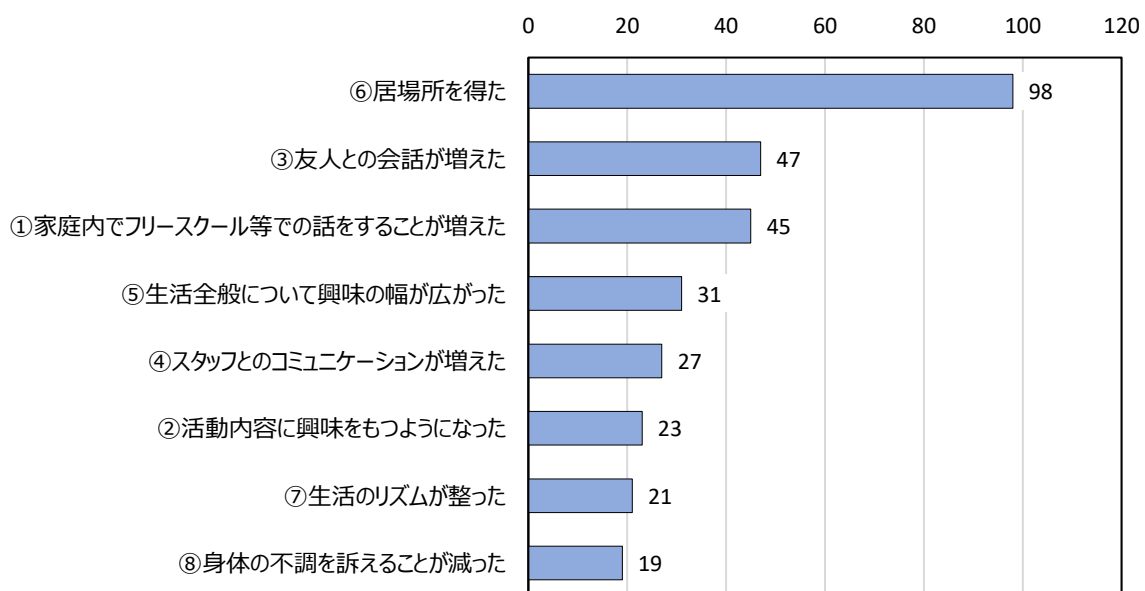


図 3-4-2-(d)-R4 現在のフリースクール等に通い始めてからの変化（全体）（重み付け得点）（N=58）

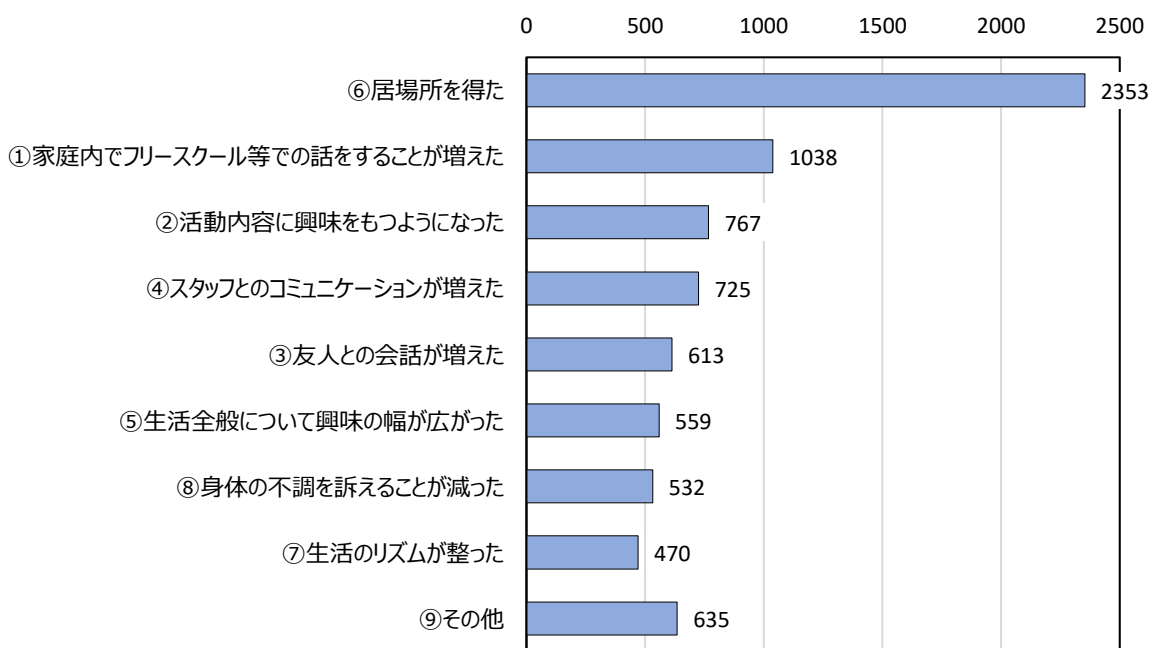


図 3-4-2-(d)-R5 現在のフリースクール等に通い始めてからの変化（全体）（重み付け得点）（N=1282）

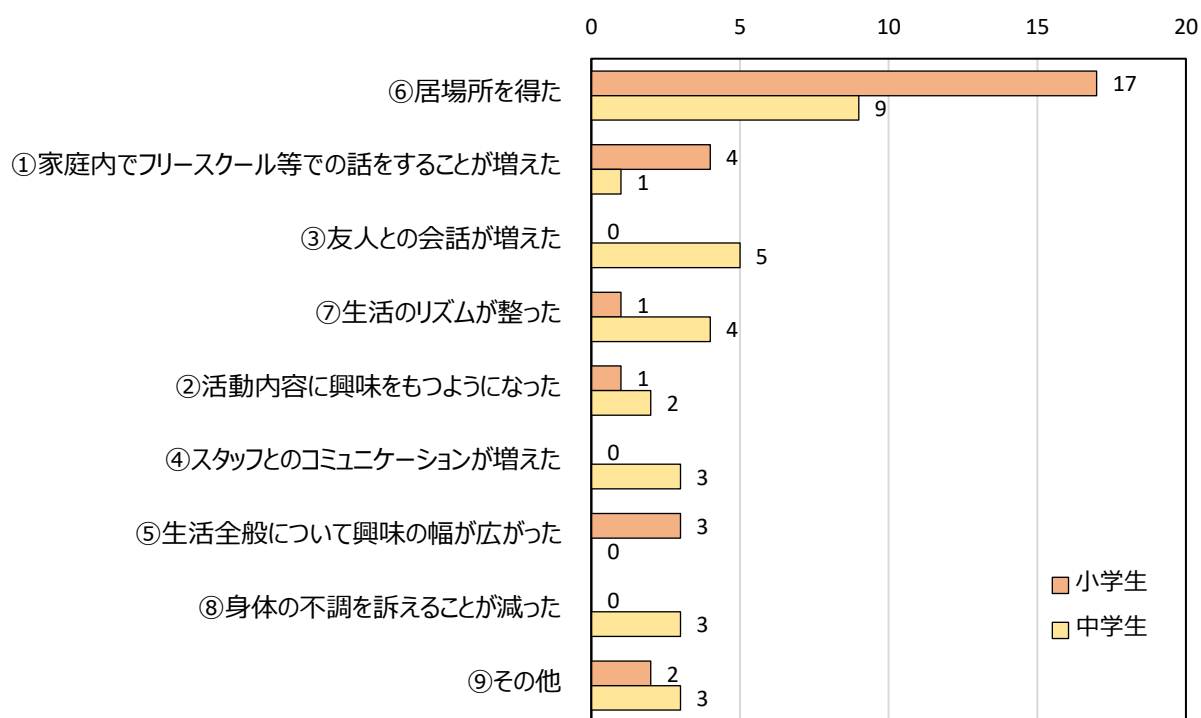


図 3-4-2-(e)-R4 現在のフリースクール等に通い始めてからの変化（小中別人数）（第1位の回答）（N=58）

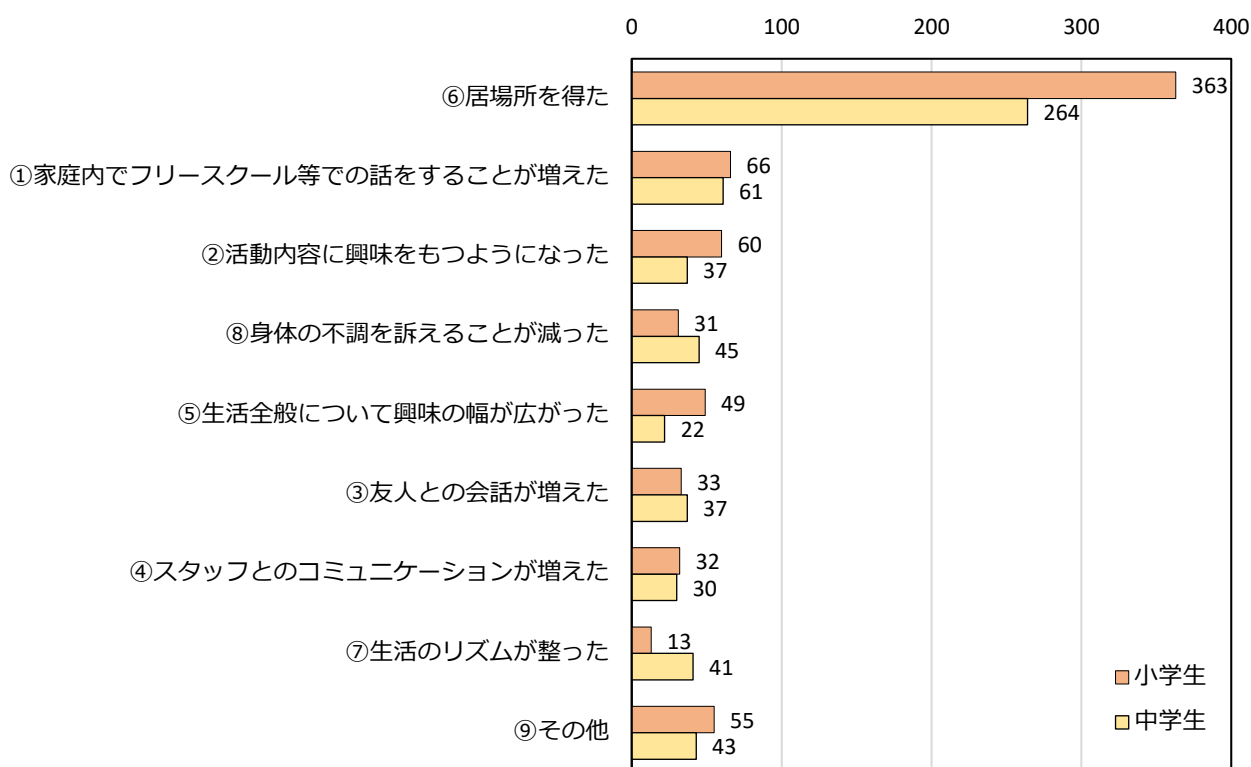


図 3-4-2-(e)-R5 現在のフリースクール等に通い始めてからの変化（小中別人数）（第1位の回答）（N=1282）

3-4-3 現在のフリースクール等での活動

(1) フリースクール等での活動内容

保護者初回調査の Q33 では、フリースクール等が用意している活動内容の種類を質問している。

令和 4 年度の結果は図 3-4-3-R4 のとおり、「④個人の興味関心に基づく活動」、「⑩施設内での文化・芸術活動」や「⑧自然体験」が上位であった。次いで回答した割合が多かったのが、「⑤子供たちによるミーティング」、「⑭相談・カウンセリング」であった。

令和 5 年度の結果は、図 3-4-3-R5 に示した。令和 4 年度と同様に、「④個人の興味に基づく活動」、「⑩施設内での文化・芸術活動」、「⑤子供たちによるミーティング」、「⑧自然体験」、「⑭相談・カウンセリング」の 5 項目が、多少の順位の入れ替えはあるものの、上位を占めていた。

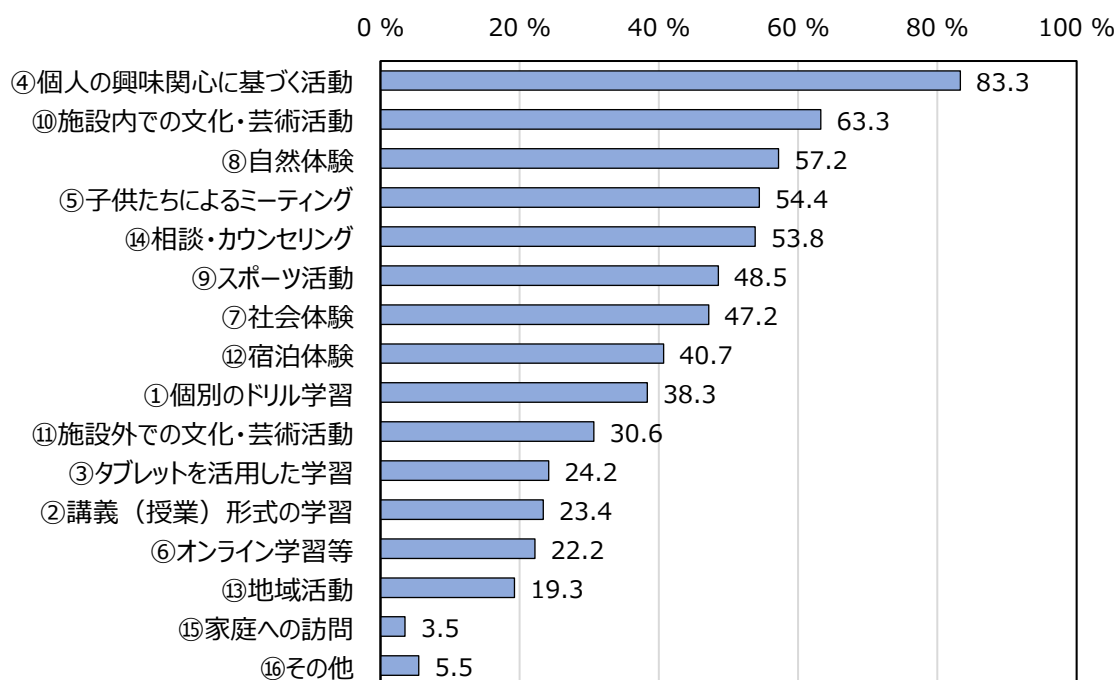


図 3-4-3-R4 フリースクール等が用意している活動内容（複数回答）（多い順）（N=509）

図 3-4-3-R4 のデータ表（多い順）

選択肢	N	%
④個人の興味関心に基づく活動	424	83.3
⑩施設内での文化・芸術活動（調理、音楽活動、工芸など）	322	63.3
⑧自然体験（自然観察、農業体験など）	291	57.2
⑤子供たちによるミーティング	277	54.4
⑭相談・カウンセリング	274	53.8
⑨スポーツ活動	247	48.5
⑦社会体験（見学、職場体験など）	240	47.2
⑫宿泊体験	207	40.7
①個別のドリル学習	195	38.3
⑪施設外での文化・芸術活動（お菓子づくり、音楽活動、工芸など）	156	30.6
③タブレットを活用した学習（ドリル・インターネット等）	123	24.2
②講義（授業）形式の学習	119	23.4
⑥オンライン学習等（自宅、施設内含む）	113	22.2
⑬地域活動（地域住民や施設との連携）	98	19.3
⑮家庭への訪問	18	3.5
⑯その他	28	5.5

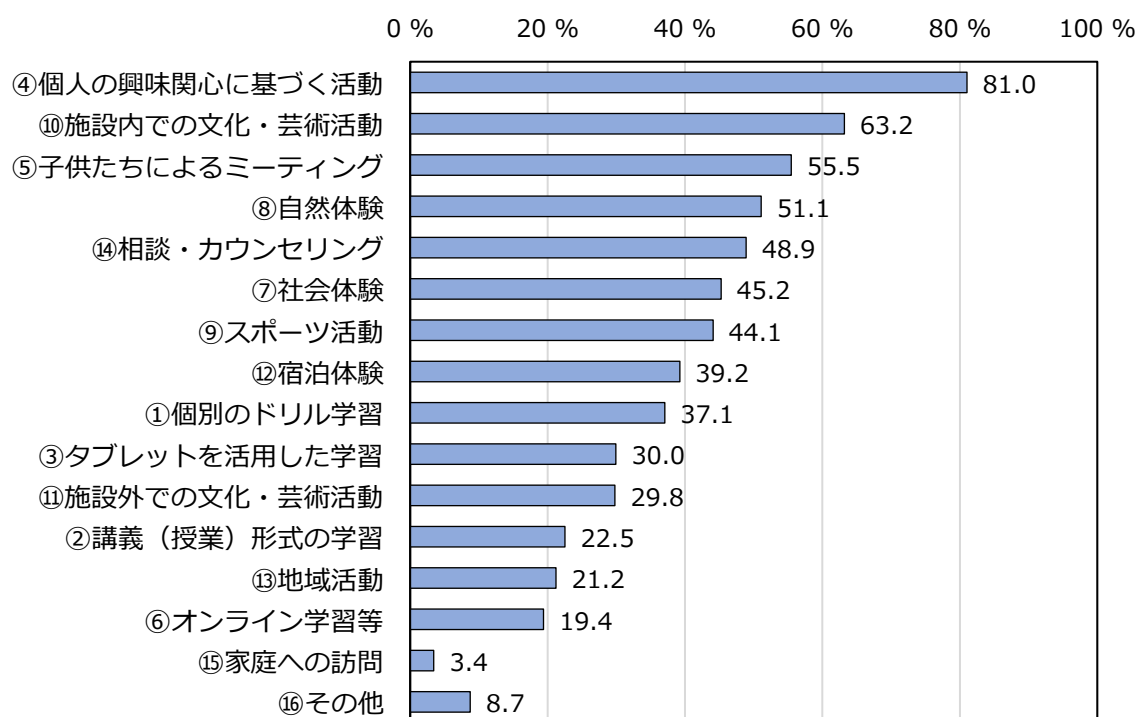


図 3-4-3-R5 フリースクール等が用意している活動内容（複数回答）（多い順）（N=1282）

図 3-4-3-R5 のデータ表（多い順）

選択肢	N	%
④個人の興味関心に基づく活動	1039	81.0
⑩施設内での文化・芸術活動（調理、音楽活動、工芸など）	810	63.2
⑤子供たちによるミーティング	711	55.5
⑧自然体験（自然観察、農業体験など）	655	51.1
⑭相談・カウンセリング	627	48.9
⑦社会体験（見学、職場体験など）	580	45.2
⑨スポーツ活動	565	44.1
⑫宿泊体験	503	39.2
①個別のドリル学習	475	37.1
③タブレットを活用した学習（ドリル・インターネット等）	384	30.0
⑪施設外での文化・芸術活動（お菓子づくり、音楽活動、工芸など）	382	29.8
②講義（授業）形式の学習	289	22.5
⑬地域活動（地域住民や施設との連携）	272	21.2
⑥オンライン学習等（自宅、施設内含む）	249	19.4
⑮家庭への訪問	44	3.4
⑯その他（選択した場合は、具体的に教えてください。）	112	8.7

（２）児童・生徒が楽しさや興味を感じた活動

児童・生徒初回調査 Q6 では、児童・生徒に、現在のフリースクール等の活動で楽しさや興味を感じた活動を質問している。回答は第 1 位～第 3 位を選ぶ形式であり、その結果は、「第 1 位回答者数× 3 + 第 2 位回答者数× 2 + 第 3 位回答者数」で重み付け得点化をし、その大小順を示した。

令和 4 年度の結果は、図 3-4-3-(a)-R4 のとおり、「④やりたいことを考え、計画して行う活動」が第 1 位で、「⑩施設内での文化・芸術活動」や「⑧自然体験」が上位であった。

令和 5 年度の結果は、図 3-4-3-(a)-R5 のとおり、「④やりたいことを考え、計画して行う活動」が第 1 位で、「⑩施設内での文化・芸術活動」や「⑧自然体験」、「⑨スポーツ活動」が、令和 4 年度と同じく上位 4 項目となっていた。2 年連続して上位が同順位であったことは、この 4 項目が小学生と中学生にとって一貫して興味のある活動であると思われる。

また、校種別の特徴を明らかにするため、それぞれ第1位の選択項目を集計・比較し、令和4年度の結果を図3-4-3-(b)-R4、令和5年度の結果を図3-4-3-(b)-R5に示した。

令和4年度において、小学生の方が中学生より有意に多かったのは、「⑧自然体験」、「①一人で行うドリル学習」、「⑨スポーツ活動」であり、中学生の方が有意に多かったのは、「⑫宿泊体験」、「⑤子供たちでのミーティング」、「②授業の形の学習」であった。

令和5年度において、小学生が有意に多かったのは、「④やりたいことを考え、計画して行う活動」、「⑧自然体験」、「⑨スポーツ活動」であり、中学生が有意に多かったのは「①一人で行うドリル学習」、「②授業の形の学習」であった。

令和4年度及び令和5年度において共通していたのは、小学生が中学生よりも体験や活動に関連する項目に楽しさや興味を示し、中学生が小学生よりも学習と関連する活動に興味を示すことであった。

なお、「⑭その他」の回答で最も多かったのは、「なし」で、次いで「みんなでゲーム」、「先生との会話」などだった。

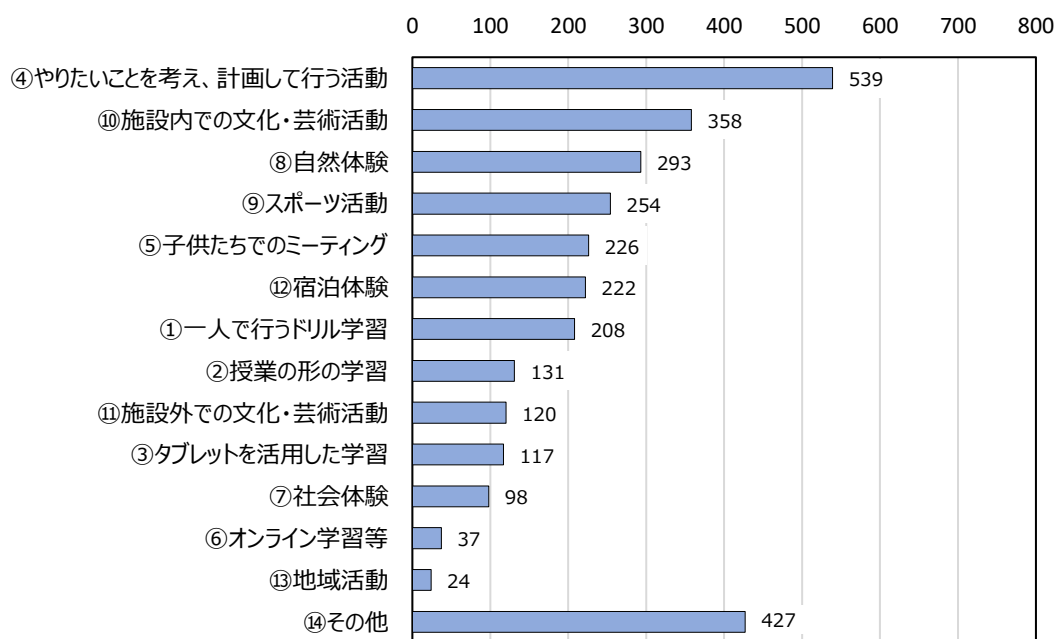


図 3-4-3-(a)-R4 児童・生徒がフリースクール等で楽しさや興味を感じる活動（全体）（重み付け得点順）（N=509）

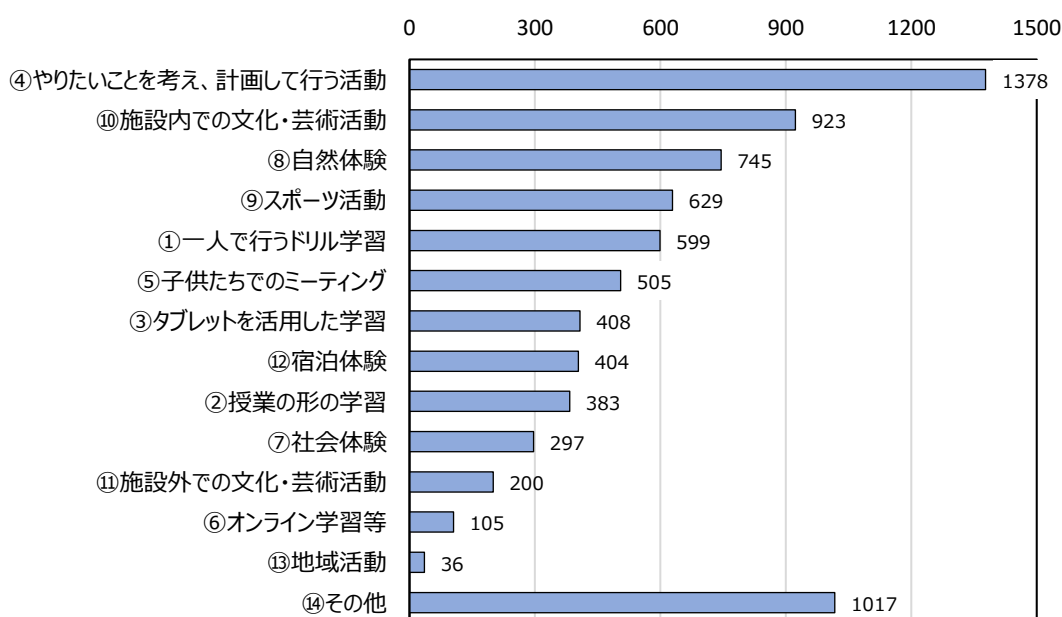


図 3-4-3-(a)-R5 児童・生徒がフリースクール等で楽しさや興味を感じる活動（全体）（重み付け得点順）（N=1282）

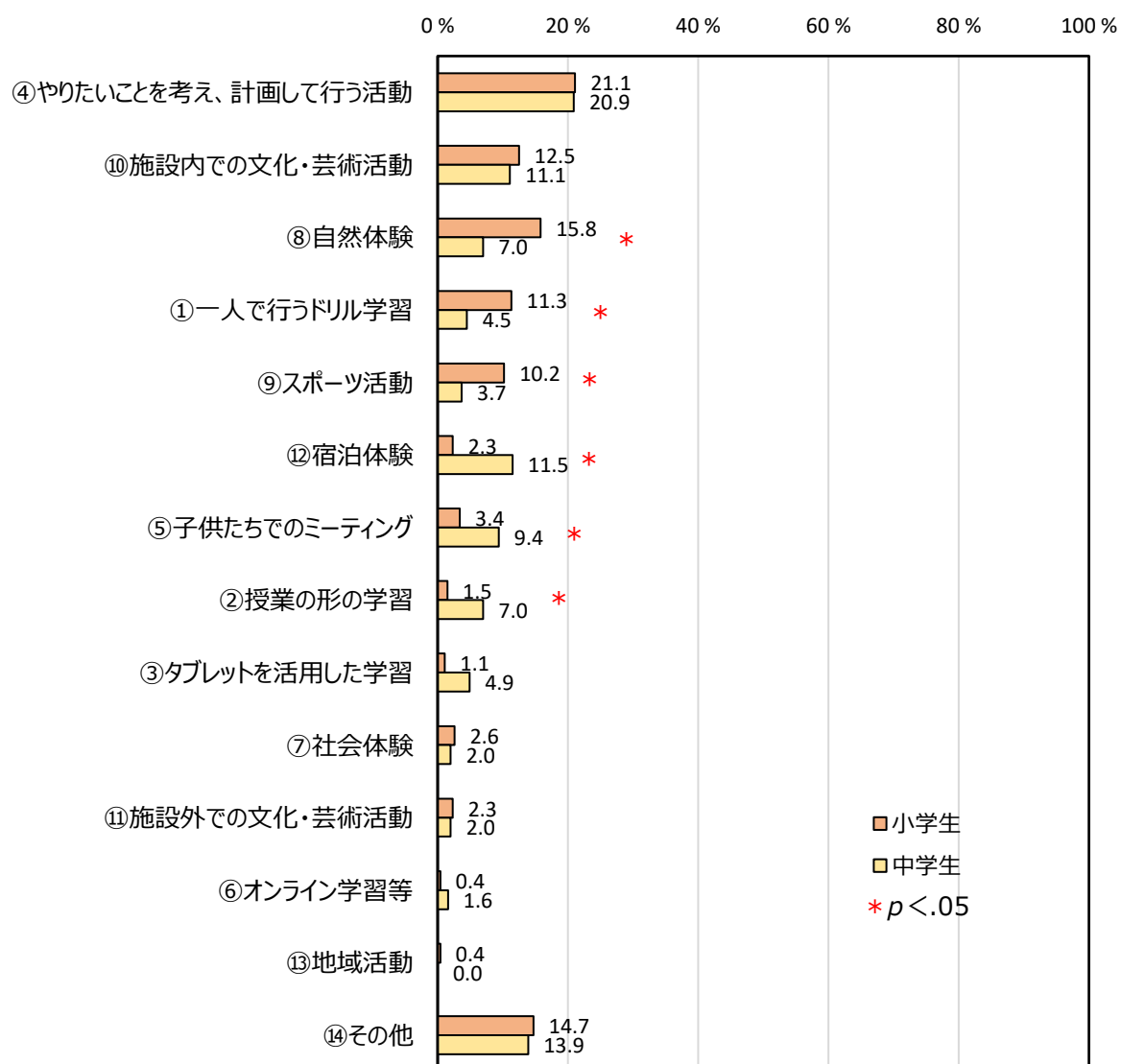


図3-4-3-(b)-R4 児童・生徒がフリースクール等で楽しさや興味を感じる活動（小中別）（第1位の回答）（N=509）

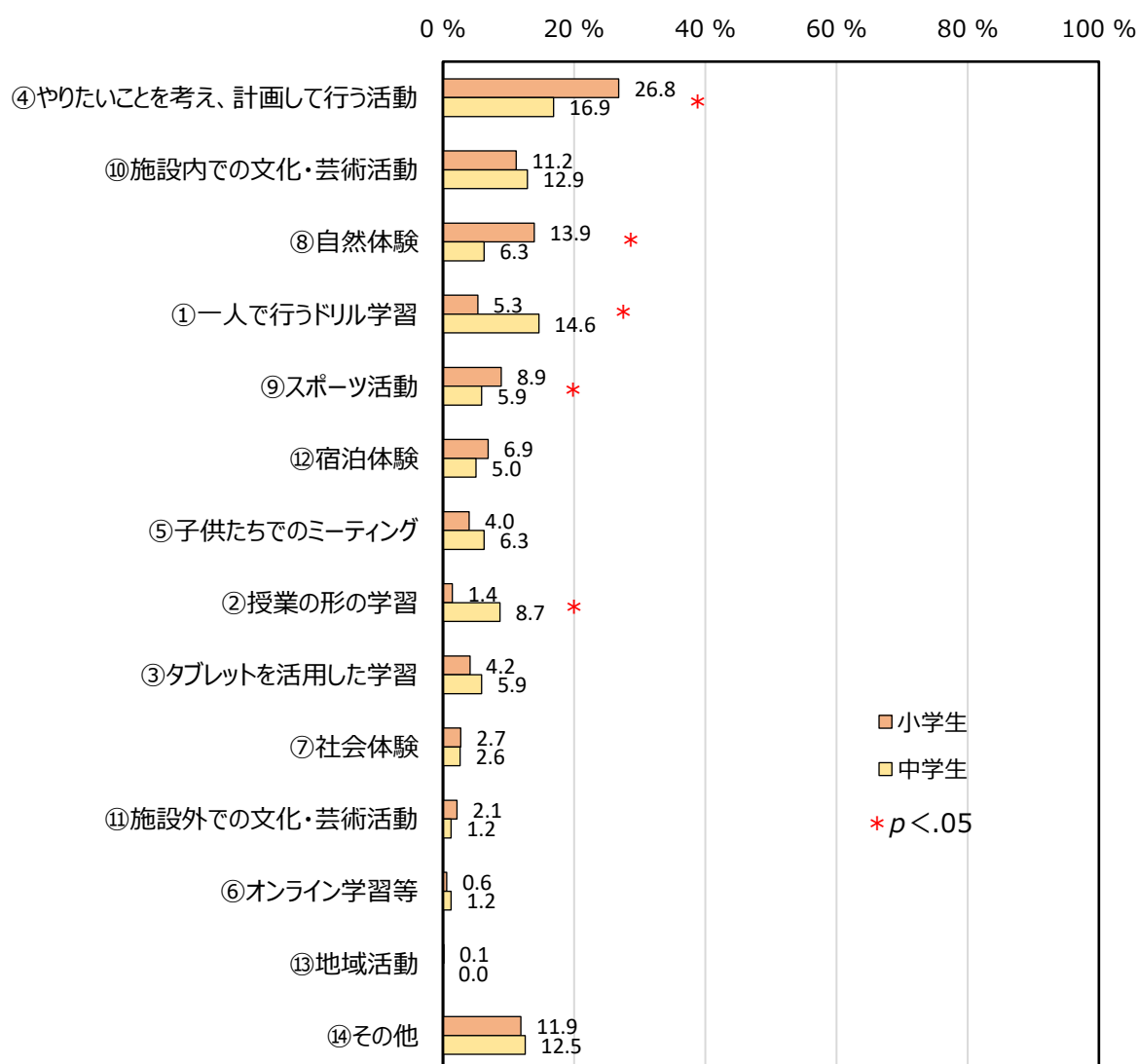


図 3-4-3-(b)-R5 児童・生徒がフリースクール等で楽しさや興味を感じる活動（小中別）（第 1 位の回答）（N=1282）

（３）保護者から見て児童・生徒が楽しんでいると思われる活動

保護者初回調査 Q35 では、フリースクール等が用意している活動の中で、保護者から見て、児童・生徒が特に楽しみにしている様子のものを質問している。回答は、第 1 位～第 3 位を選んでもらった。結果は、「第 1 位回答者数×3 + 第 2 位回答者数×2 + 第 3 位回答者数」で重み付け得点化をし、その大小順を示している。

令和 4 年度の結果は、図 3-4-3-(c)-R4 で、個人の興味や関心に基づく活動が多かった。

令和 5 年度の結果は、図 3-4-3-(c)-R5 で、令和 4 年度と同じ傾向となり、「④個人の興味関心に基づく活動」、「⑩施設内での文化・芸術活動」、「⑧自然体験」が多かった。

また、「⑭その他」の記述内容は、「特になし」、「他の児童・生徒との交流」、「楽しんでいるまでには至らない」、「フリースクールの支援者やスタッフとのやりとり」などであった。

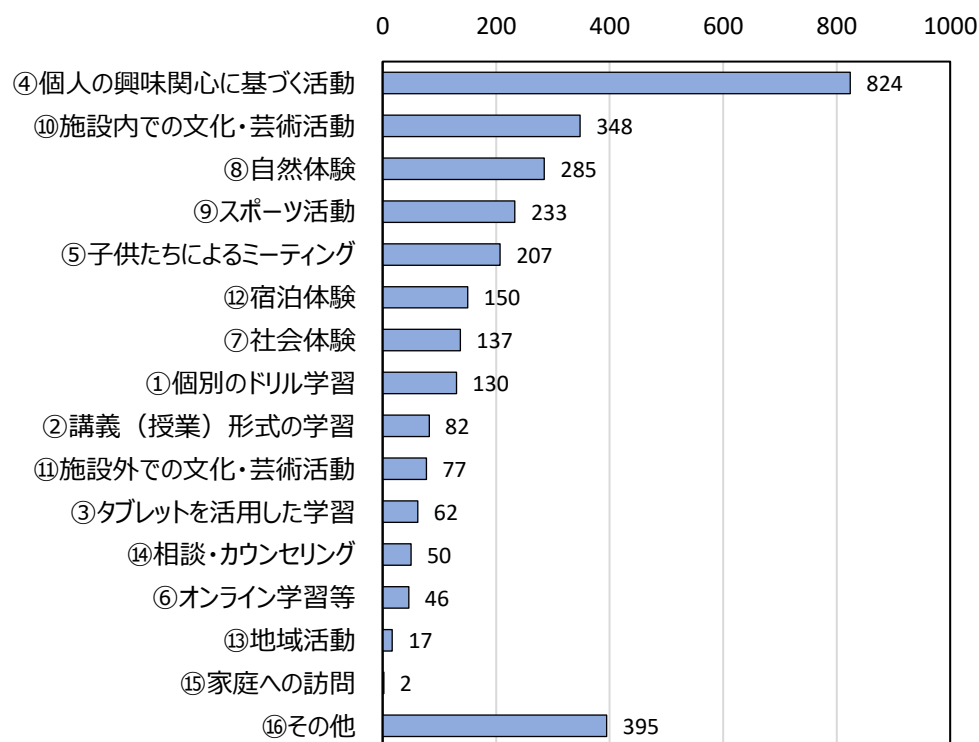


図 3-4-3-(c)-R4 保護者から見て、児童・生徒が特に楽しんでいる活動内容（重み付け得点）（多い順）（N=509）

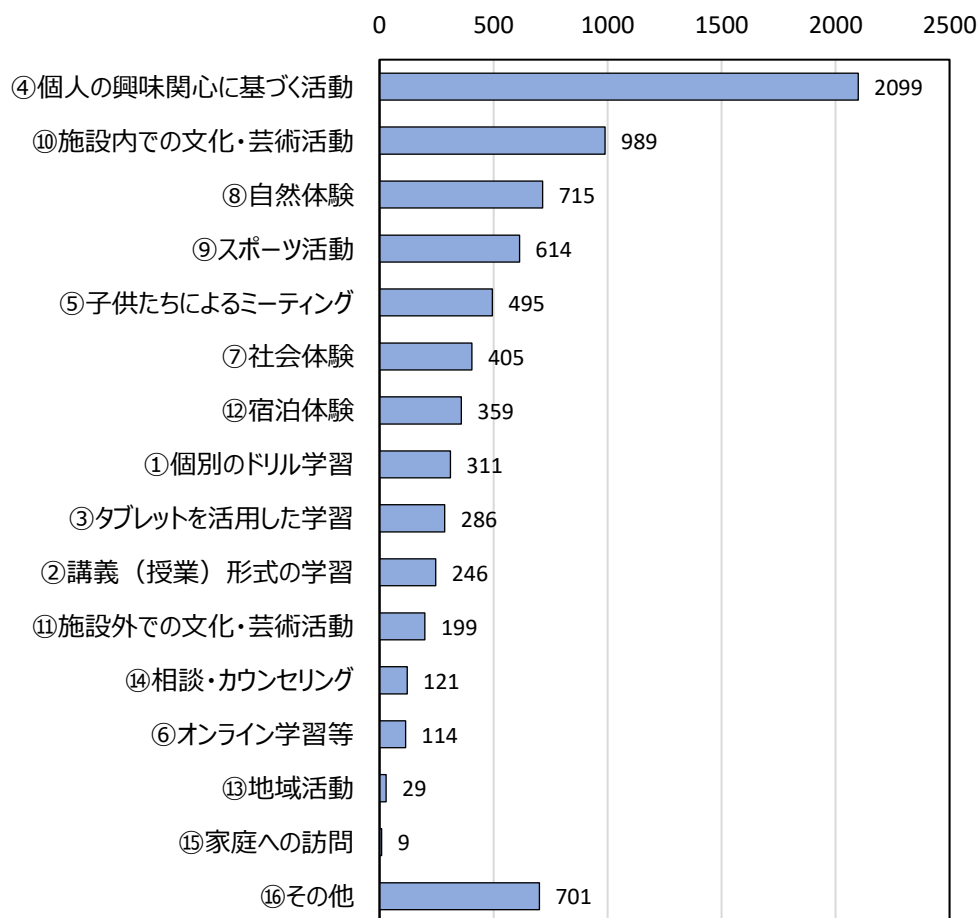


図 3-4-3-(c)-R5 保護者から見て、児童・生徒が特に楽しんでいる活動内容（重み付け得点順）（多い順）（N=1282）

（４）保護者が関心・期待を寄せる活動

保護者初回調査の Q41 では、フリースクール等の活動のうち、保護者が特に関心や期待を寄せているものを質問した。回答は第 1 位～第 3 位を選んでもらった。

令和 4 年度の結果は、図 3-4-3-(d)-R4 のとおり、「④個人の興味や関心に基づく活動」、「⑧自然体験」、「⑤子供たちによるミーティング」、「⑩施設内での文化・芸術活動」が上位であった。自然体験や文化・芸術活動などは、児童・生徒の回答でも上位であり、共通していた。

令和 5 年度の結果は、図 3-4-3-(d)-R5 のとおり、上位の項目は令和 4 年度とほぼ同様であり、（３）の児童・生徒の楽しさの回答とも一致していた。なお、「⑩その他」の記述内容は、「特になし」、「生徒同士の交流」、「受験指導」などであった。

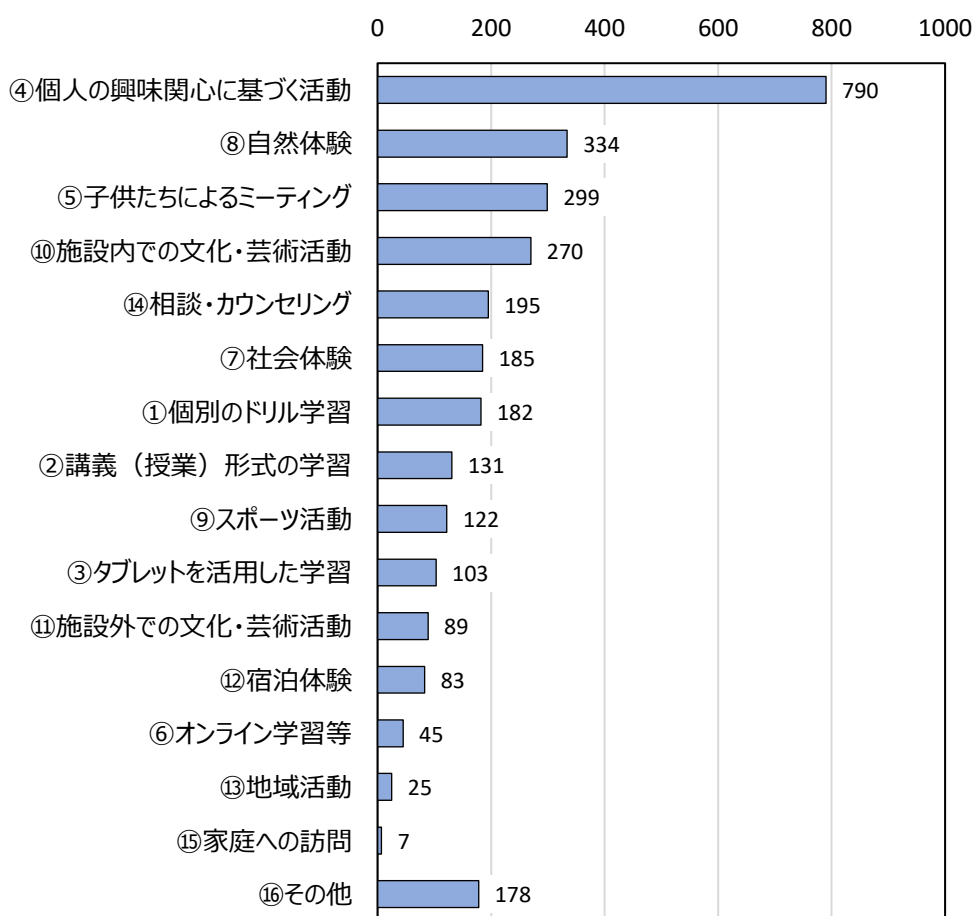


図 3-4-3-(d)-R4 フリースクール等で保護者が関心・期待を示す活動（重み付け得点順）（N=509）

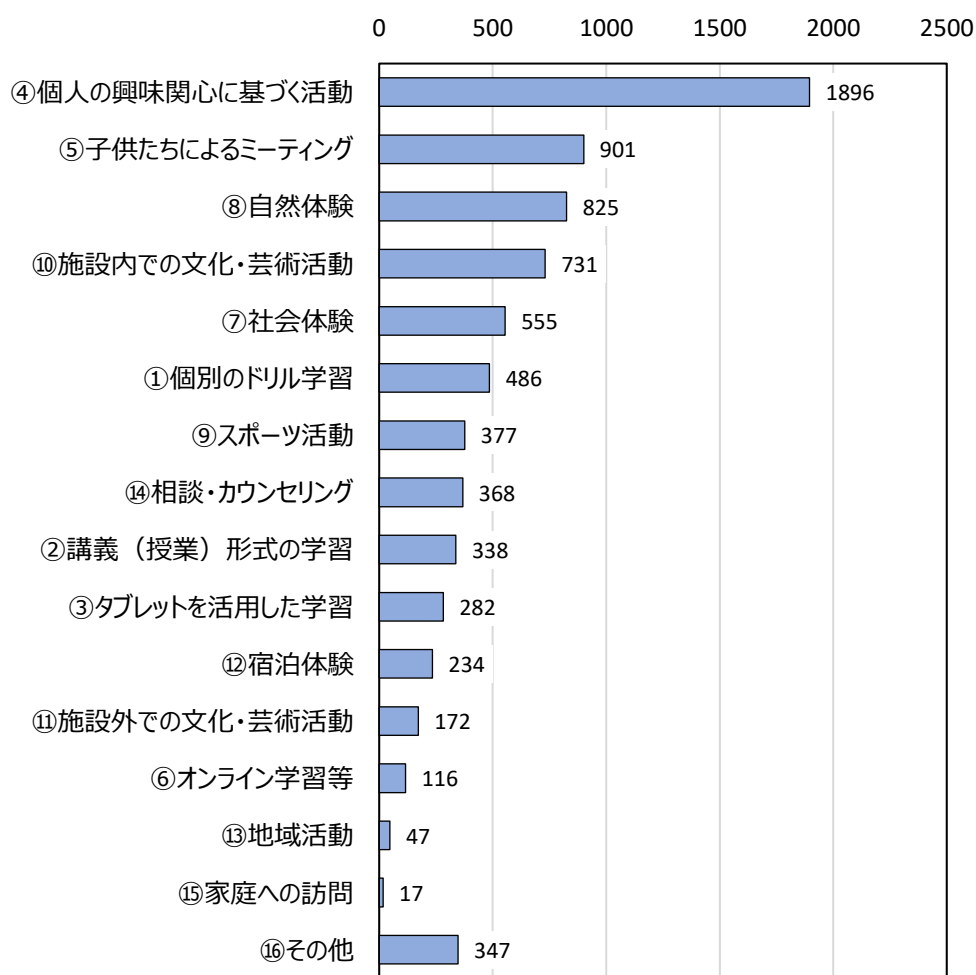


図 3-4-3-(d)-R5 フリースクール等で保護者が関心・期待を示す活動（重み付け得点順）（多い順）（N=1282）

（５）フリースクール等の支援者からの関わり

児童・生徒初回調査の Q12 では、初回調査の時点で、児童・生徒がフリースクール等の支援者からの関わりをどのように捉えているかを質問している。質問は、2－2の（２）のイ（p.27）で示した「支援者からの関わり質問」（早川・松添・小林・大月，2020）により、児童・生徒が、フリースクール等の支援者からの自分への関わりについて「当てはまる」かどうかを判断している。質問は 4 概念 2 項目ずつで構成され、「①②肯定的関わり」、「③④存在受容」、「⑤⑥主体性の育成」、「⑦⑧主張性の育成」となっている。

令和 4 年度の結果は、図 3-4-3-(e)-R4 で、①と②の「肯定的な関わり」の選択数が多かった。また、学校の先生では「どれにもあてはまらない」が第 1 位であったが、フリースクール等の支援者では最下位（4.7%）となっており、印象が大きく異なっていることが明らかになった。小学生と中学生の回答を比較すると、おおむね類似した選択結果であったが、「主体性の育成の項目⑥」と「主張性の育成の項目⑧」の 2 項目はいずれも小学生の方が有意に多く選択していた（ χ^2 検定）。

令和 5 年度の結果は、次の図 3-4-3-(e)-R5 で、全体的な傾向は令和 4 年度と同様であるものの、いくつかの項目で小学生・中学生の間で選択率に有意差が見られた。中学生の方が選択率が多いのは、「①自由に話をしやすいようなふんいきにしてくれる。」のみで、他は小学生の方が多く、「④自分の気持ちを伝えようとするとき、先生は自分の気持ちを確かめながら気持ちを聞いてくれる。」、「⑤自分ではできないことを『できない』と言っても、それを受け止めてくれるので、楽に言える。」、「⑥自分でできることは口出しはせずまかせてくれるが、いざ困ったら助けたり、はげましたりしてくれる。」、「⑧自分が失敗したときも、いっしょに残念がったあとで、むしろ次のちようせんのエネルギーになるよいこととして、はげましてくれる。」が該当した。なお、項目⑥と項目⑧は、令和 4 年度の結果でも小学生の方が有意に選択率が多かった。

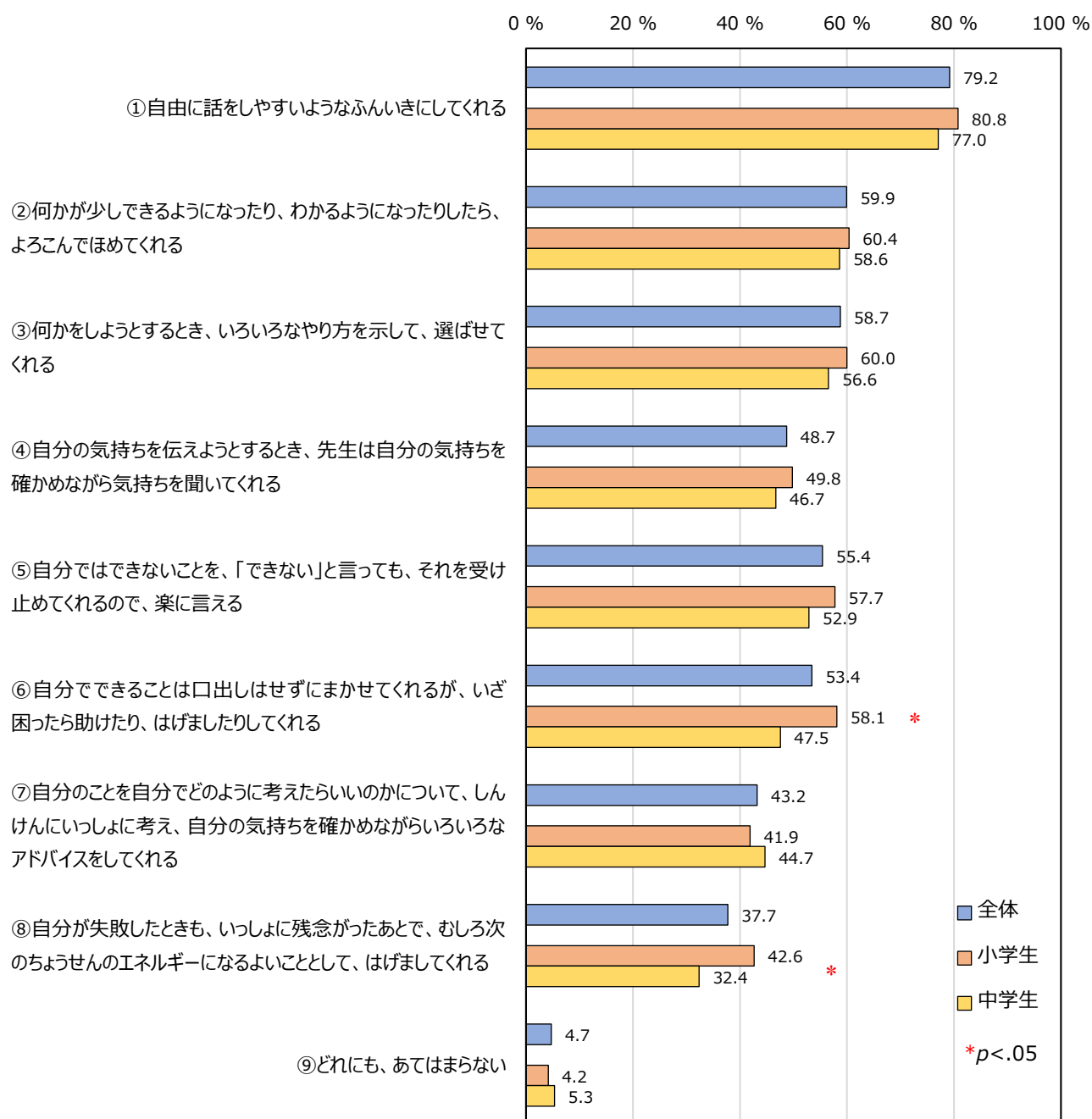


図 3-4-3-(e)-R4 フリースクール等の支援者からの関わり（複数回答）（N=509）

図 3-4-3-(e)-R4 のデータ表

選択項目	N	%
①自由に話をしやすいようなふんいきにしてくれる	403	79.2
②何かが少しできるようになったり、わかるようになったりしたら、よろこんでほめてくれる	305	59.9
③何かをしようとするとき、いろいろなやり方を示して、選ばせてくれる	299	58.7
④自分の気持ちを伝えようとするとき、先生は自分の気持ちを確かめながら気持ちを聞いてくれる	248	48.7
⑤自分ではできないことを、「できない」と言っても、それを受け止めてくれるので、楽に言える	282	55.4
⑥自分でできることは口出しはせずにかまかせてくれるが、いざ困ったら助けたり、はげましたりしてくれる	272	53.4
⑦自分のことを自分でどのように考えたらいいのかについて、しんけんにいっしょに考え、自分の気持ちを確かめながらいろいろなアドバイスをしてくれる	220	43.2
⑧自分が失敗したときも、いっしょに残念がったあとで、むしろ次のちようせんのエネルギーになるよいこととして、はげましてくれる	192	37.7
⑨どれも、あてはまらない	24	4.7

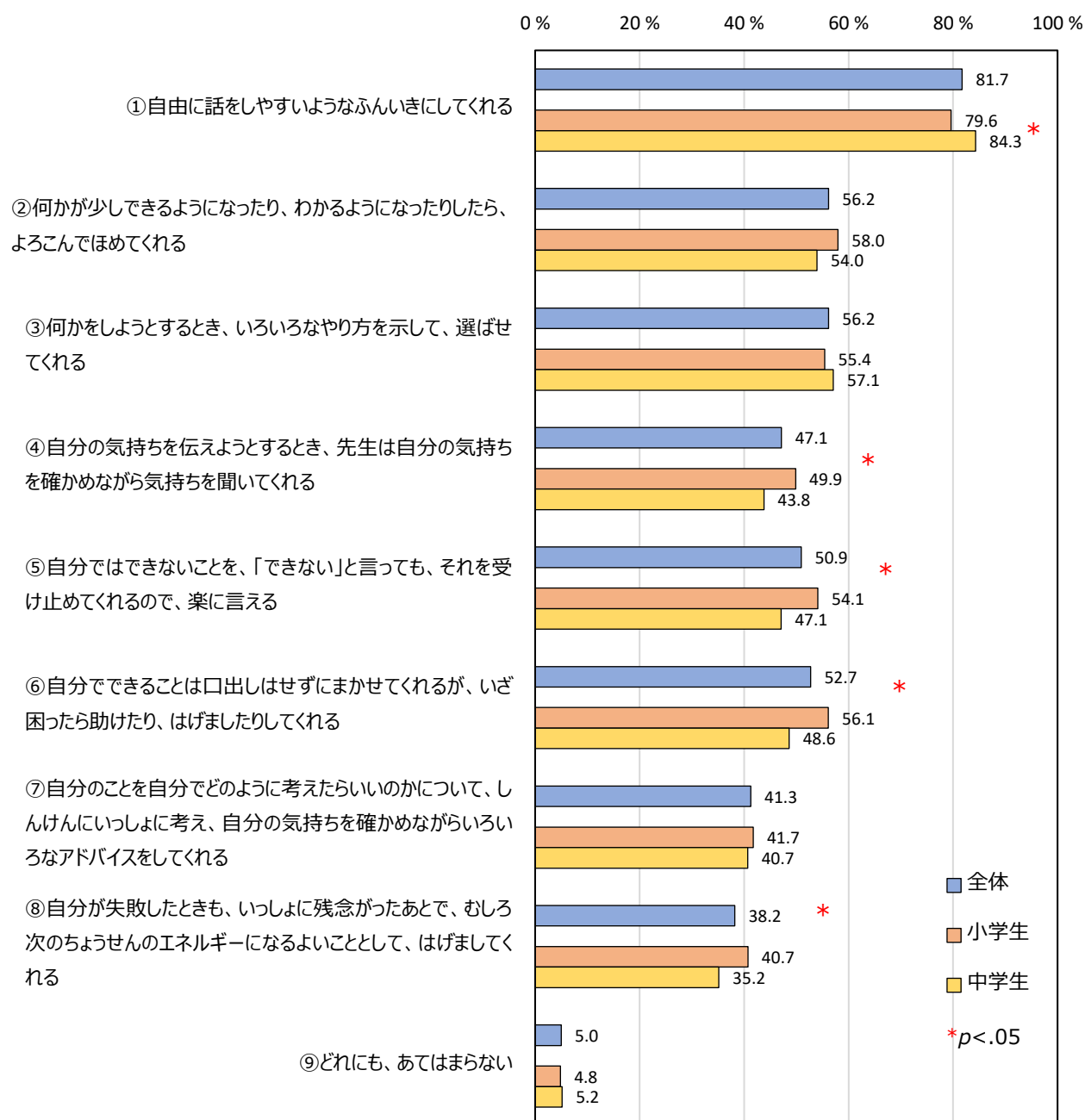


図 3-4-3-(e)-R5 フリースクール等の支援者からの関わり（複数回答）（N=1282）

図 3-4-3-(e)-R5 のデータ表

選択項目	N	%
①自由に話をしやすいようなふんいきにしてくれる	1048	81.7
②何かが少しできるようになったり、わかるようになったりしたら、よろこんでほめてくれる	720	56.2
③何かをしようとするとき、いろいろなやり方を示して、選ばせてくれる	720	56.2
④自分の気持ちを伝えようとするとき、先生は自分の気持ちを確かめながら気持ちを聞いてくれる	676	52.7
⑤自分ではできないことを、「できない」と言っても、それを受け止めてくれるので、楽に言える	604	47.1
⑥自分でできることは口出しはせずにかかせてくれるが、いざ困ったら助けたり、はげましたりしてくれる	653	50.9
⑦自分のことを自分でどのように考えたらいいのかについて、しんけんにいっしょに考え、自分の気持ちを確かめながらいろいろなアドバイスをしてくれる	529	41.3
⑧自分が失敗したときも、いっしょに残念がったあとで、むしろ次のちようせんのエネルギーになるよいこととして、はげましてくれる	490	38.2
⑨どれも、あてはまらない	64	5.0

次に、支援者からの関わりの4概念「①②肯定的関わり」、「③④存在受容」、「⑤⑥主体性の育成」、「⑦⑧主張性の育成」について、それぞれ概念を構成する2項目の令和4年度と令和5年度の平均選択率を示したのが表3-4-3-(b)である。選択率を見ると、大きい方から「肯定的関わり」、「主体性の育成」、「存在受容」、「主張性の育成」の順であり、令和4年度、令和5年度とも同じ傾向が見られた。

表 3-4-3-(b) フリースクール等の支援者からの関わりに関する4概念の選択率（「当てはまる」）の比較（表内数値は%）

4概念	令和4年度	令和5年度	項目
肯定的関わり	69.6	69.0	①自由に話をしやすいようなふんいきにしてくれる。
			②何かが少しでもできるようになったり、わかるようになったら、よろこんでほめてくれる。
存在受容	53.7	51.6	③何かをしようとするとき、いろいろなやり方を示して、選ばせてくれる。
			④自分の気持ちを伝えようとするとき、先生は自分の気持ちを確かめながら気持ちを聞いてくれる。
主体性の育成	54.4	51.8	⑤自分ではできないことを、「できない」と言っても、それを受け止めてくれるので、楽に言
			⑥自分ではできることは口出しはせずまかせてくれるが、いざ困ったら助けたり、はげましたりしてくれる。
主張性の育成	40.8	39.7	⑦自分のことを自分でどのように考えたいのかについて、しんけんにいっしょに考え、自分の気持ちを確かめながらいろいろなアドバイスをしてくれる。
			⑧自分が失敗したときも、いっしょに残念がったあとで、むしろ次のちょうせんのエネルギーになるよいこととして、はげましてくれる。

N=509

N=1182

（6）学習の計画が示されているか

保護者初回調査のQ47では、現在のフリースクール等より、学習の計画が保護者に示されているかを質問したものであり、令和4年度の結果が図3-4-3-(f)-R4、令和5年度の結果が図3-4-3-(f)-R5である。

令和4年度の結果は、「①示されていて、その実施状況の報告もある」と回答した割合が40.2%であり、「③学習の計画があるかどうか分からない」と「④その他」の意見を合わせると47.1%で半数近くとなっていた。また、「④その他」の回答には、「計画はあまり示されていないが、毎月実施内容や本人の振り返り、先生からのコメントの含まれた報告書が送られてくる。」、「子供の興味・関心に沿って学びが生まれる形なので、あらかじめ決められた計画があるわけではない。」、「特に学習については個人のやる気に任されていて、中学校の学習内容を網羅できるのか不安。」などがあつた。

令和5年度の結果でも、「①示されていて、その実施状況の報告もある」と回答した割合が41.7%で、「③学習の計画があるかどうか分からない」と「④その他」を合わせると47.6%で、令和4年度とほぼ同様の結果であった。

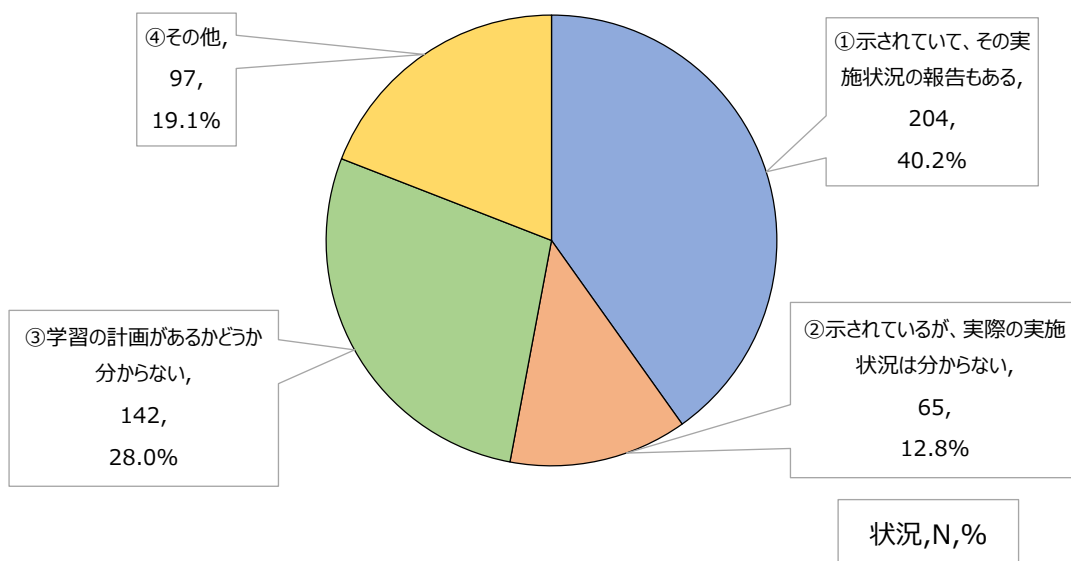


図 3-4-3-(f)-R4 現在のフリースクール等より学習の計画が示されているか（N=509）

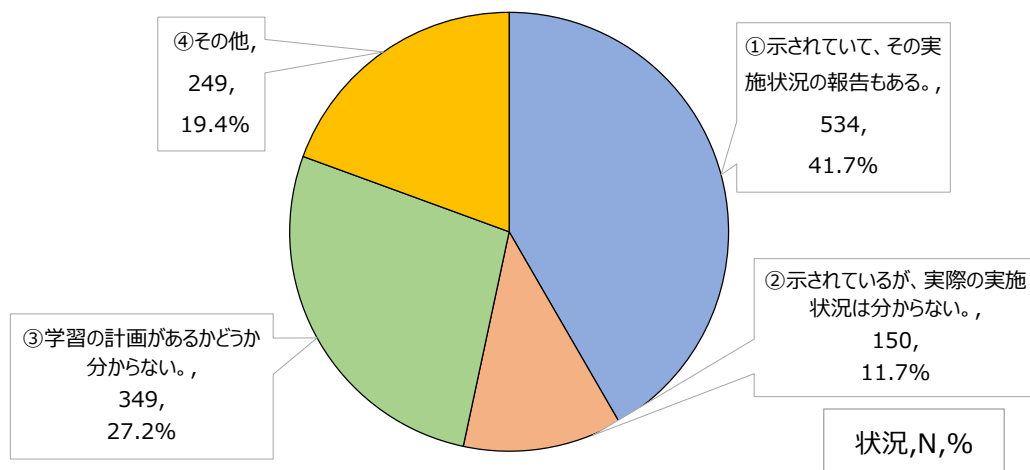


図 3-4-3-(f)-R5 現在のフリースクール等より学習の計画が示されているか (N=1282)

3-5-5 【5】 フリースクール等通所に伴う家庭状況：家計と通所状況

ここでは、フリースクール等通所に伴う家計と通学状況を質問している。図 2-4-1 の太破線囲いの【5】である。

3-5-1-1 フリースクール等通所に伴う家計の状況

(1) 世帯収入

保護者初回調査の Q49 では、前年度の大まかな世帯収入を質問している。令和 4 年度及び令和 5 年度の統計指標（平均収入、中央値、標準偏差）を併せて表 3-5-1 に示した。

令和 5 年度の標準偏差（SD）が令和 4 年度の 2 倍近くになっており、令和 5 年度は、令和 4 年度に比べ、世帯収入の値が分散していたことが明らかになった。なお、回答しなかった人が令和 4 年度では 5 人、令和 5 年度では 14 人いた。

年収区分の人数内訳は、令和 4 年度は図 3-5-1-R4 に、令和 5 年度は図 3-5-1-R5 にそれぞれ示す。

表 3-5-1 世帯収入の統計指標

令和 4 年度 N=504		令和 5 年度 N=1268	
平均収入	830.8 万円	平均収入	881.6 万円
中央値	800 万円	中央値	800 万円
標準偏差	453.3 万円	標準偏差	896.5 万円

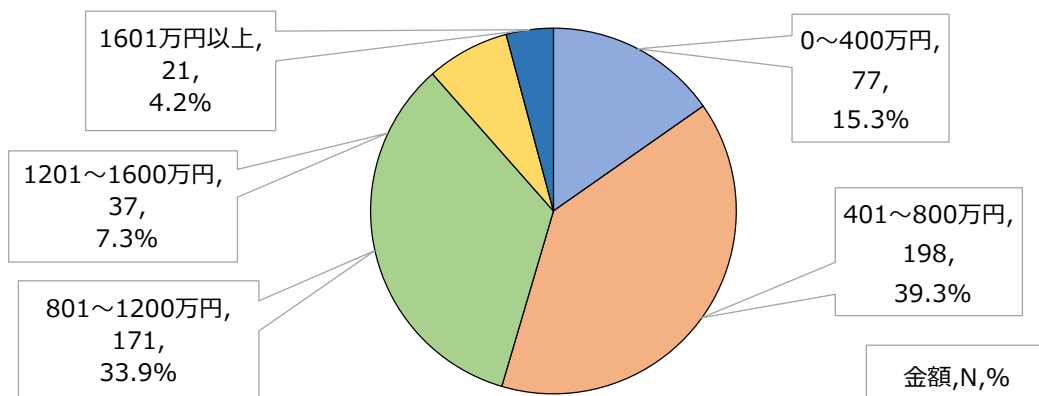


図 3-5-1-R4 世帯の年収 (N=504) (※ 5 人は集計不能ほか)

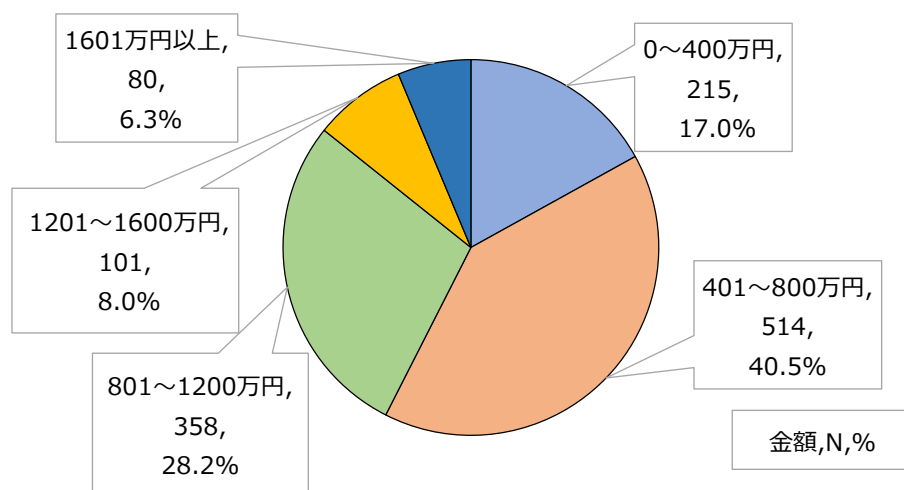


図 3-5-1-R5 世帯の年収 (N=1268) (※14 人は集計不能ほか)

(2) フリースクール等の入会費用

保護者初回調査の Q50 では、フリースクール等の入会費用を質問した。

令和 4 年度の結果は、図 3-5-1-(a)-R4 で、5,000 円未満から 100,001 円以上まで大きな金額幅が見られた。選択肢方式の回答であり、おおむねの平均値は 40,000 円程度であった。

令和 5 年度の結果は、図 3-5-1-(a)-R5 で、人数が多かった上位 3 項目「①5,000 円未満」、「③10,001 円～30,000 円」、「⑥100,001 円以上」の選択率は、令和 4 年度と同様であった。ただし、「①5,000 未満」が 3.7 ポイント増加しており、入会費用が減少する傾向がやや見られた。

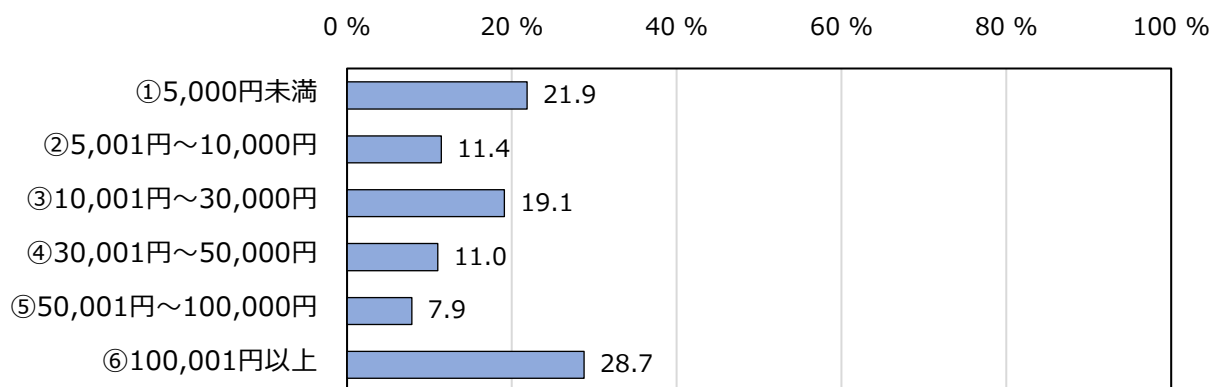


図 3-5-1-(a)-R4 フリースクール等の入会費用 (N=508)

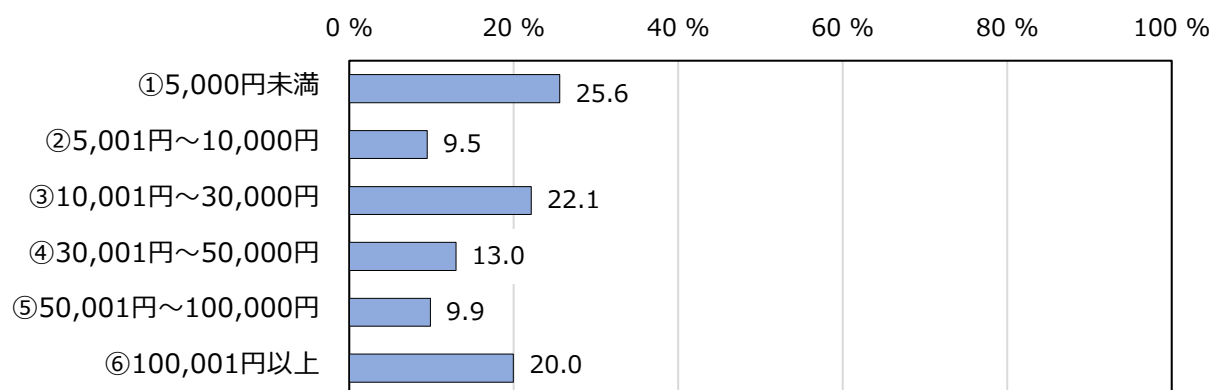


図 3-5-1-(a)-R5 フリースクール等の入会費用 (N=1278)

(3) フリースクール等のひと月当たりの費用（授業料・施設使用料など）

保護者初回調査の Q51 では、フリースクール等のひと月当たりのおよその費用（授業料・施設使用料など）を質問した。

令和4年度と令和5年度の結果は、表3-5-1-(a)と図3-5-1-(b)-R4と図3-5-1-(b)-R5に示した。ひと月当たりの費用は、平均値、中央値、標準偏差はそれほど大きく変わらなかったが、最大値は大きな開きがあった。

表 3-5-1-(a) フリースクール等のひと月当たりの費用（授業料・施設使用料など）の統計量

令和4年度 (N=509)		令和5年度 (N=1266)	
平均値	45,817 円	平均値	43,136 円
中央値	40,000 円	中央値	38,000 円
標準偏差	36,290 円	標準偏差	37,240 円
最大値	440,000 円	最大値	670,000 円

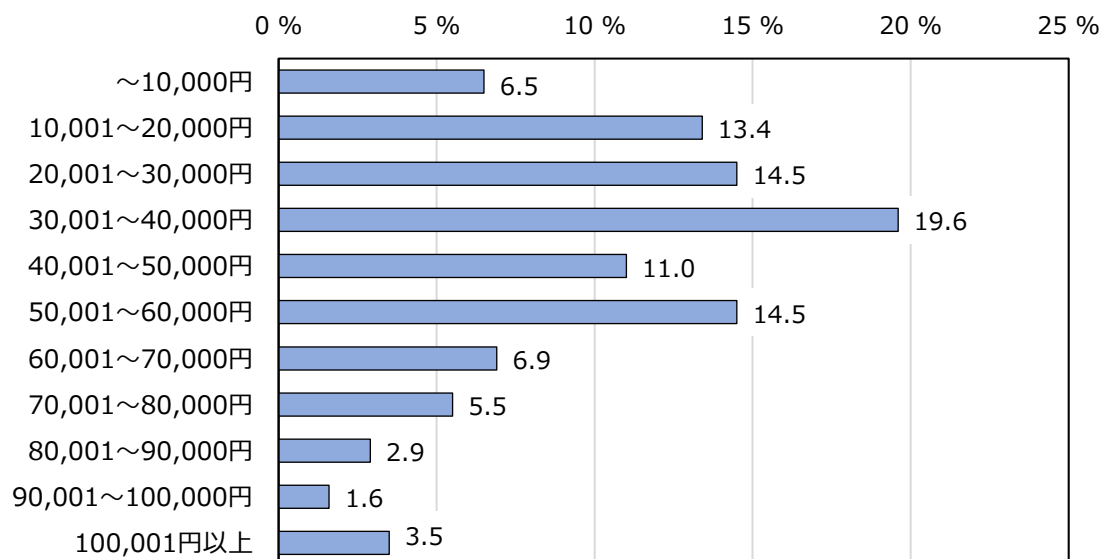


図 3-5-1-(b)-R4 フリースクール等のひと月当たりの費用（授業料・施設使用料など）（N=509）

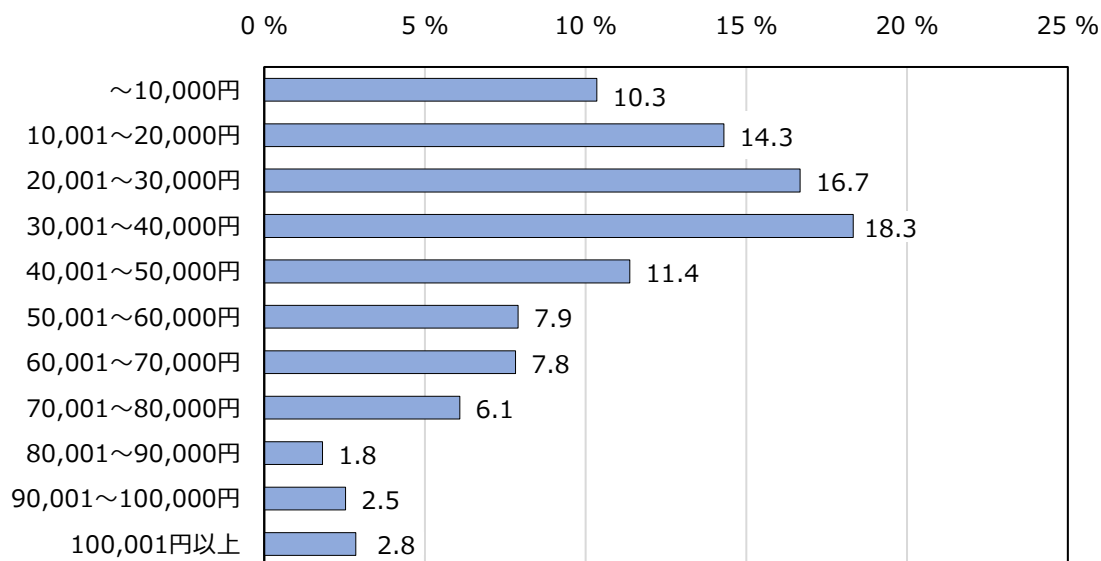


図 3-5-1-(b)-R5 フリースクール等のひと月当たりの費用（授業料・施設使用料など）（N=1266）

(4) 交通費

保護者初回調査 Q52 では、月単位での交通費を質問している。結果は、表 3-5-1-(c)、金額の分布は、令和 4 年度と令和 5 年度をそれぞれ図 3-5-1-(c)-R4 と図 3-5-1-(c)-R5 に示した。

結果は、平均値と中央値はほとんど変化がなかった。また、「0 円」の回答が最も多かった一方で、1 万円を超える費用がかかっているとの回答もあり、金額幅が大きいことが分かった。

表 3-5-1-(c) ひと月当たりの交通費の統計量

令和 4 年度 (N=501)		令和 5 年度 (N=1256)	
平均値	4,364 円	平均値	4,362 円
中央値	3,000 円	中央値	3,000 円
標準偏差	7,032 円	標準偏差	5,723 円
最大値	90,000 円	最大値	68,000 円
最小値	0 円	最小値	0 円

(※両年度とも集計不能あり)

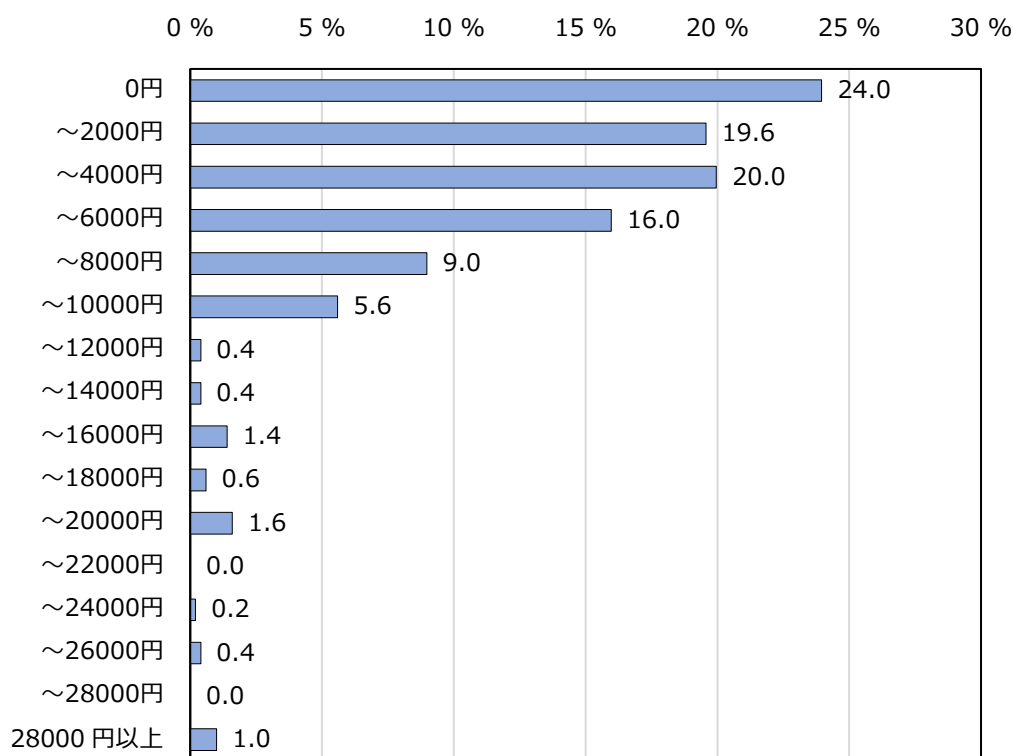


図 3-5-1-(c)-R4 フリースクール等通所の交通費 (N=501)

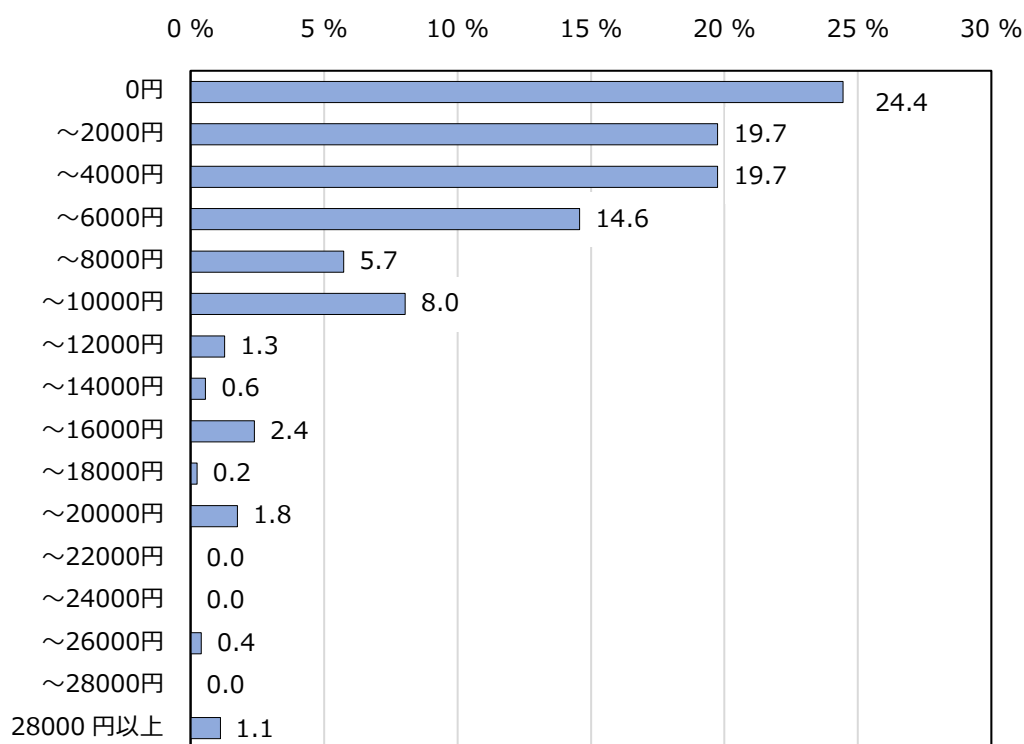


図 3-5-1-(c)-R5 フリースクール等通所の交通費 (N=1256)

3-5-2 通所手段と通所時間

保護者初回調査の Q53 では、フリースクール等への通所の交通手段と所要時間を質問している。図 3-5-2-(a) が通所の交通手段、表 3-5-2 及び図 3-5-2-(b)-R4、図 3-5-2-(b)-R5 が所要時間である。交通手段は、半数以上が電車であった。また、所要時間は、30 分以内が約半数であったが、150 分や 180 分という回答もあった。

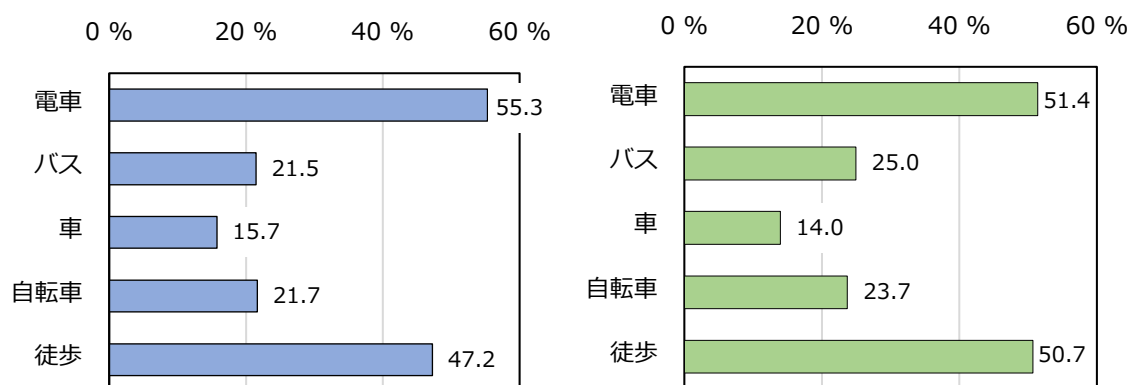


図 3-5-2-(a) 通所の交通手段 (左は令和 4 年度、右は令和 5 年度)
令和 4 年度 N=508 (集計不能 1 件)、 令和 5 年度 N=1282

表 3-5-2 通所の所要時間の統計量

令和 4 年度 (N=474)		令和 5 年度 (N=1197)	
平均値	38.2 分	平均値	35.8 分
中央値	33.0 分	中央値	30.0 分
標準偏差	26.1 分	標準偏差	22.1 分
最大値	180.0 分	最大値	180.0 分
最小値	0.0 分	最小値	0.0 分

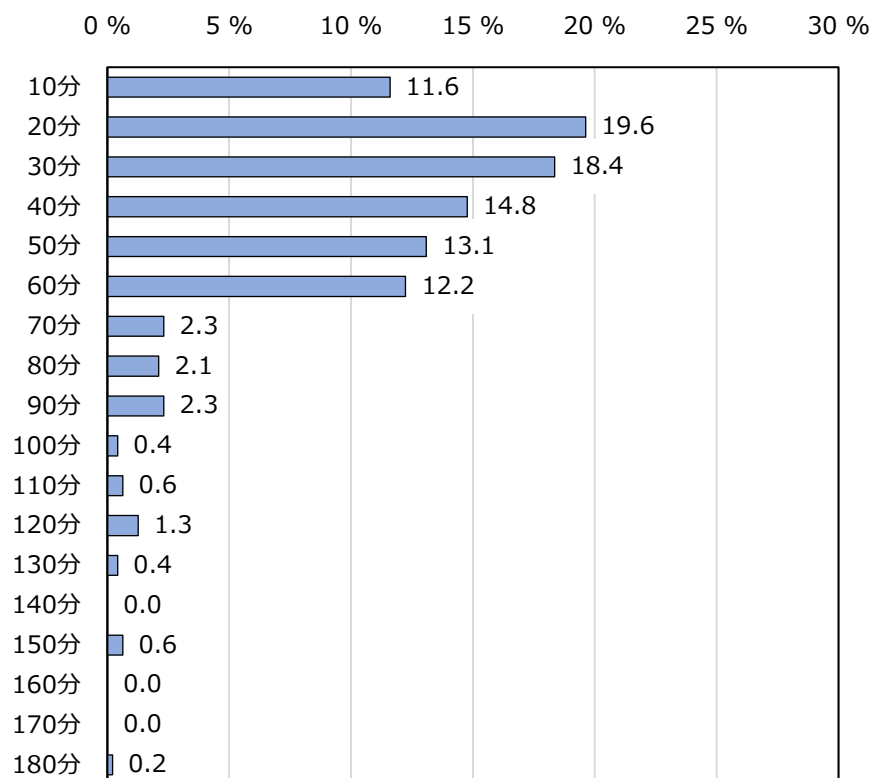


図 3-5-2-(b)-R4 通所の所要時間 (N=474) (集計不能が 35 件)

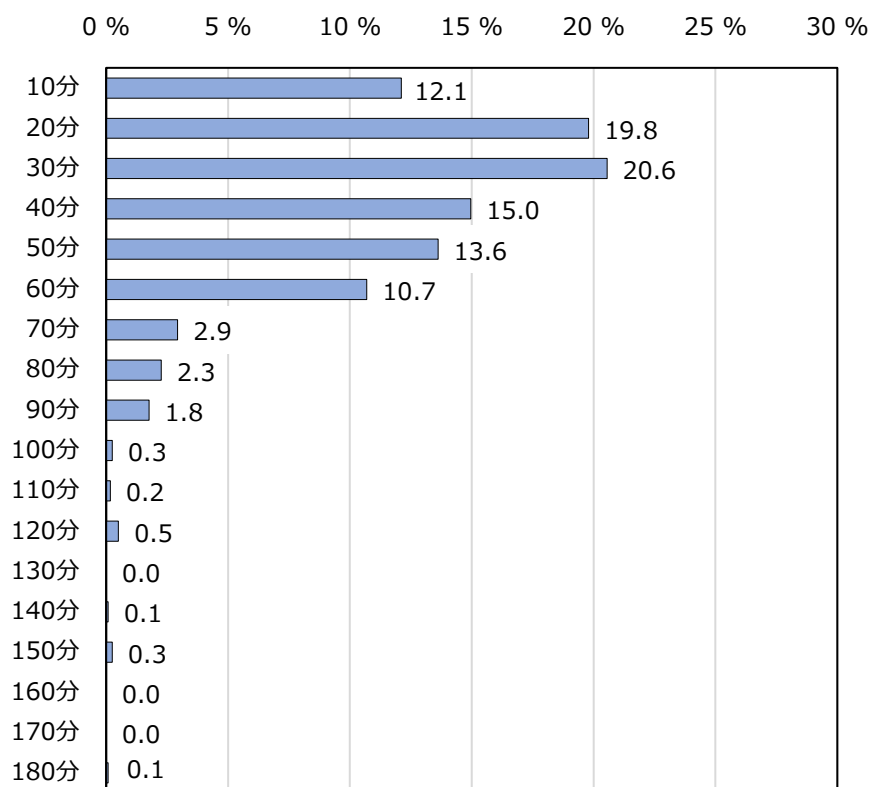


図 3-5-2-(b)-R5 通所の所要時間 (N=1197) (集計不能が 85 件)

3-5-3 通所に伴う家計負担の様子

(1) 家計の負担の様子

保護者初回調査 Q54 では、フリースクール等への通所に伴う家計負担の様子について5段階評価による回答で質問した。

令和4年度の段階ごとの出現人数と割合をまとめたものが、図3-5-3-R4である。「①負担である」と「②やや負担である」と回答した割合を合わせると88.4%である。また、この傾向は令和5年度の結果（図3-5-3-R5）でも見られ、「①負担である」と「②やや負担である」を合わせると88.5%であった。

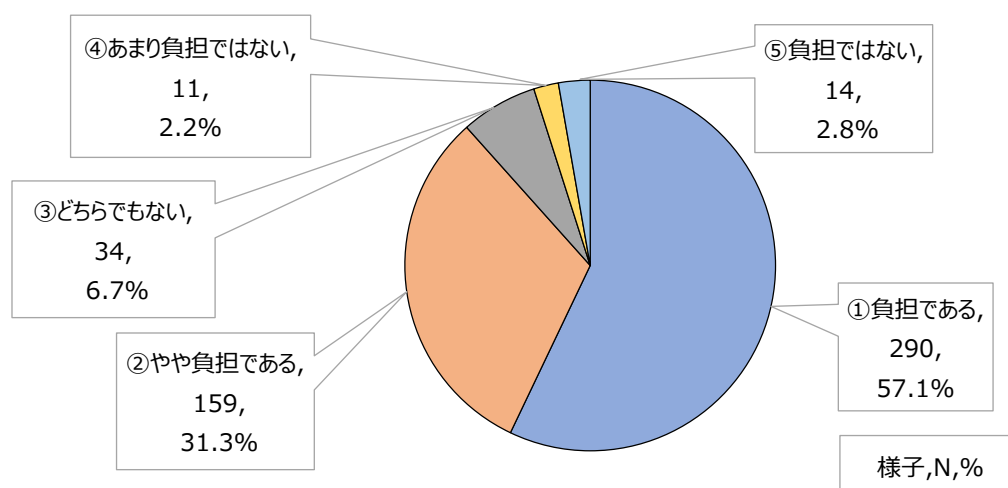


図 3-5-3-R4 フリースクール等通所に伴う家計の負担感（N=508）（※集計不能1件）

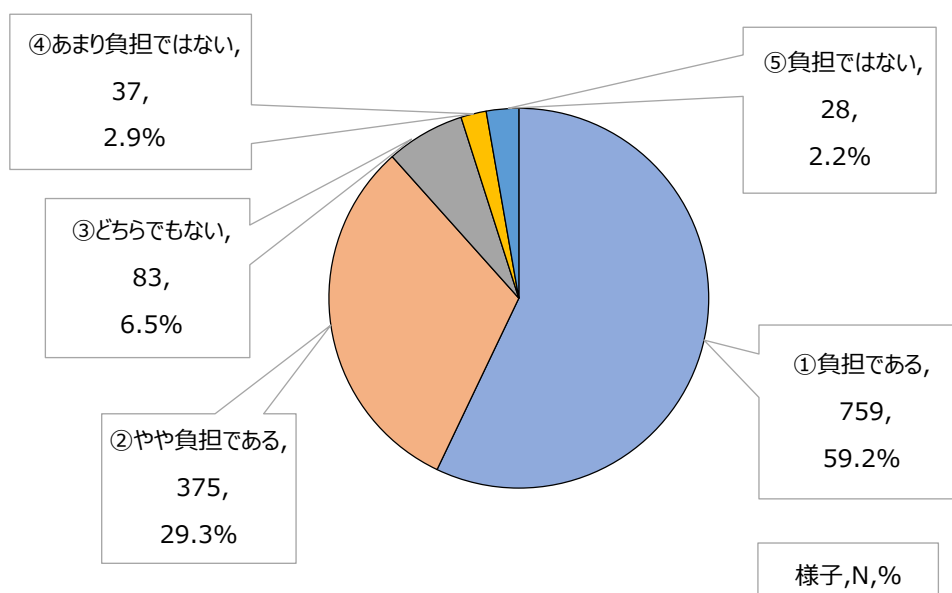


図 3-5-3-R5 フリースクール等通所に伴う家計の負担感（N=1282）

(2) 調査協力金の使い道

保護者初回調査の Q55 では、調査協力金の使い道について質問している。

令和4年度の結果は、図3-5-3-(a)-R4 に示すように、78.5%が授業料支払いの補填として活用していることが示された。また、令和5年度においても、図3-5-3-(a)-R5 に示すように、86.3%が授業料支払いの補填として活用していることが分かった。

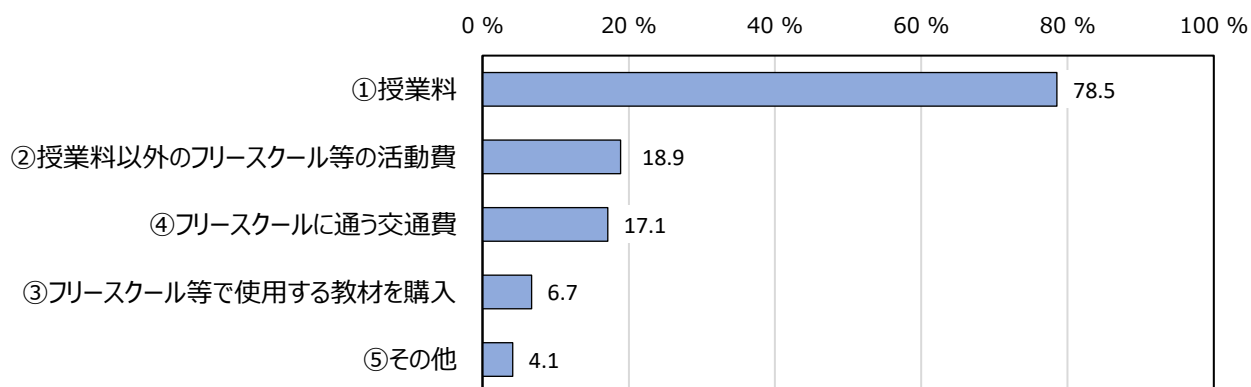


図 3-5-3-(a)-R4 調査協力金の使い道（複数回答）（N=508）（※集計不能1件）

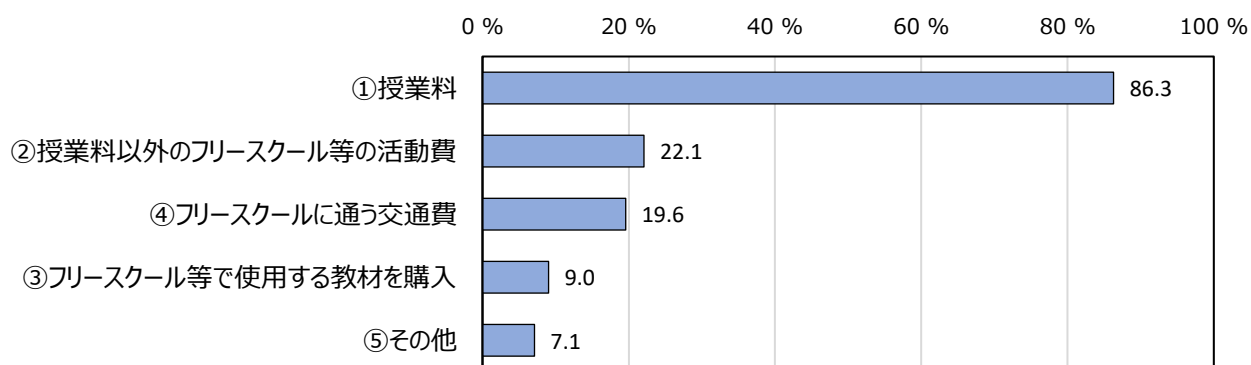


図 3-5-3-(a)-R5 調査協力金の使い道（複数回答）（N=1282）

(3) 調査協力金の収支面での効果

保護者初回調査 Q57 は、調査協力金の効果について質問したものである。

令和4年度の結果は、図3-5-3-(b)-R4に示した。「①家計にとって大変助かる」と回答した割合が90.0%であった。次いで、「②フリースクール等に通う日数を増やすことができる」、「④今よりも参加できる活動が増える」と回答している割合が多く、保護者の中には活動の拡大の意向がうかがえる。

また、令和5年度の結果は、図3-5-3-(b)-R5に示すように、「①家計にとって大変助かる」が93.4%であるとともに、「②フリースクール等に通う日数を増やすことができる」の選択率も増えていた。

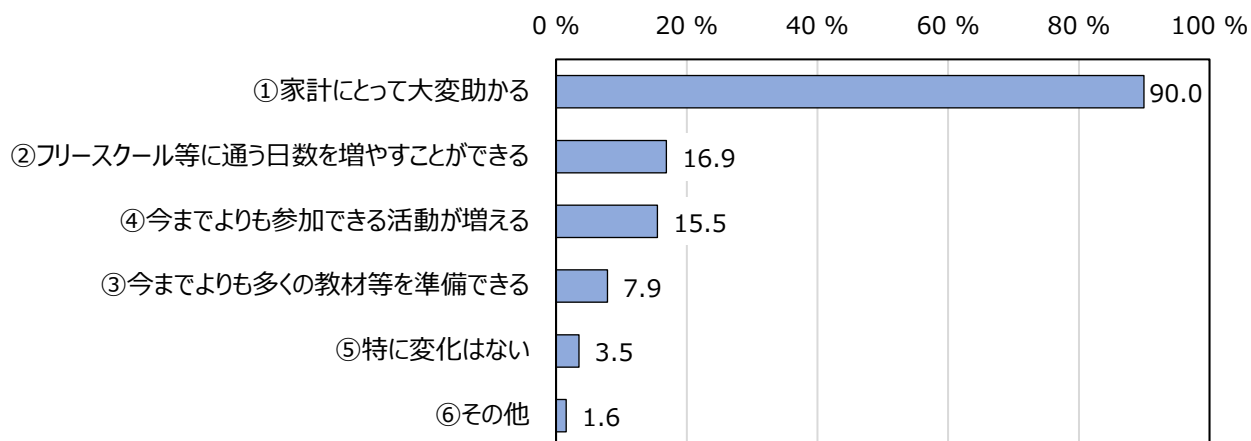


図 3-5-3-(b)-R4 調査協力金の収支面での効果（複数回答）（N=509）

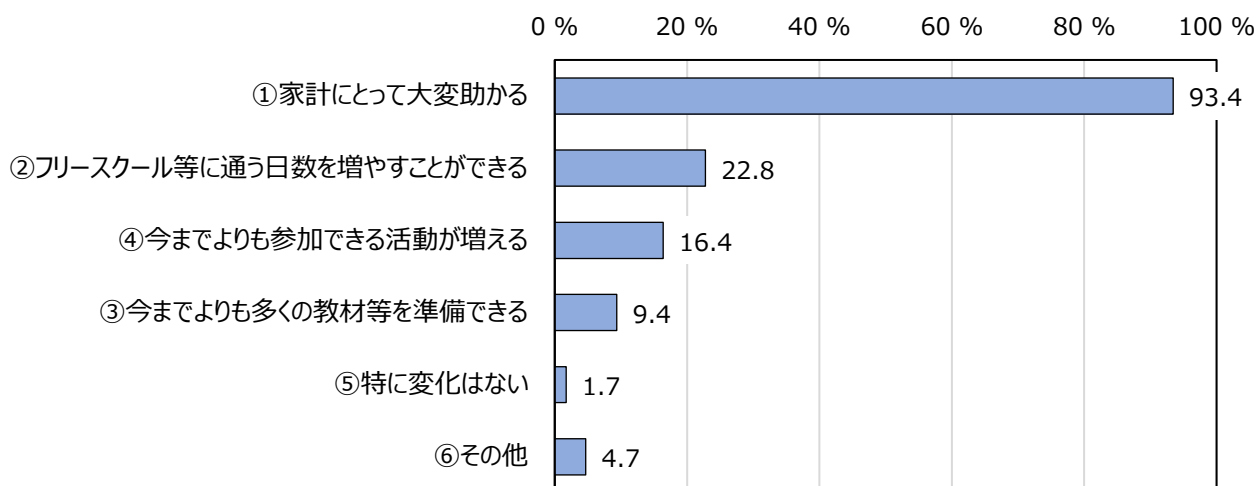


図 3-5-3-(b)-R5 調査協力金の収支面での効果（複数回答）（N=1282）

3-5-4 通学定期乗車券制度の利用

フリースクール等に通うに当たり、通学定期乗車券制度の利用状況について保護者の定期調査 Q67 で質問した。

令和4年度の結果は、図 3-5-4-(a)-R4 に示すように、公共交通機関を使用しているが制度を利用していない児童・生徒が 47.1%であった。さらに、令和5年度の結果をまとめた図 3-5-4-(a)-R5 では、制度を利用できる状況ながら利用していない児童・生徒は 47.5%であった。

また、表 3-5-4 に示すように、通学定期乗車券制度を利用している児童・生徒について、使用している公共交通機関として、電車が一番多かったが、令和4年度と令和5年度の間では比率がやや異なり、バスによる制度利用者が増えていた。

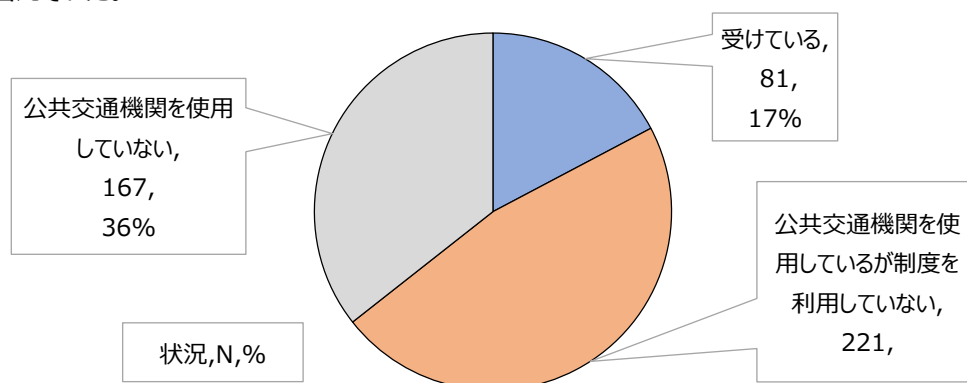


図 3-5-4-(a)-R4 通学定期乗車券制度の利用 (N=469)

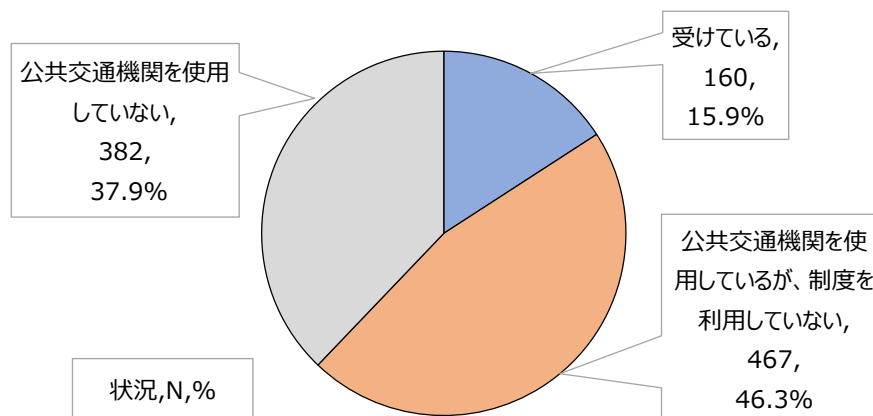


図 3-5-4-(a)-R5 通学定期乗車券制度の利用 (N=1009)

表 3-5-4 交通機関ごとの通学定期乗車券制度の利用者

令和4年度 (N=81)			令和5年度 (N=160)		
交通機関	N	%	交通機関	N	%
電車	73	90.1	電車	137	85.6
バス	4	4.9	バス	14	8.8
電車とバス	4	4.9	電車とバス	9	5.6

3-6 〔6〕 フリースクール等での生活に対する児童・生徒の心の様子

ここではフリースクール等が中心の生活の中で、児童・生徒の心の様子を明らかにする。図 2-4-1 の太破線囲いの〔6〕である。

3-6-1 フリースクール等の居心地感

(1) 居心地感の質問への回答状況

児童・生徒初回調査の Q11 では、フリースクール等の居心地感を 10 項目 5 段階評定で質問している。

令和 4 年度の結果について、項目ごとの 5 段階評定結果で図 3-6-1-R4 に示した。「思う」と「少し思う」を合わせた回答率が高いのは、「②フリースクール等には自由に話せるふんいきがある」(85.3%)、「③フリースクール等でゆったりしていただける」(82.5%) であった。一方、最も少ないのは「⑤フリースクール等で友だちと助けあっている」で、合わせて 64.8% であった。

令和 5 年度の結果においても、令和 4 年度と同様に、「②フリースクール等には自由に話せるふんいきがある」が最も多く、「⑤フリースクール等で友だちと助けあっている」が最も少なかった。

なお、結果における項目の記載順は、出現率の高い順ではなく、「居心地感尺度」(河内・小林, 2009) に従った。

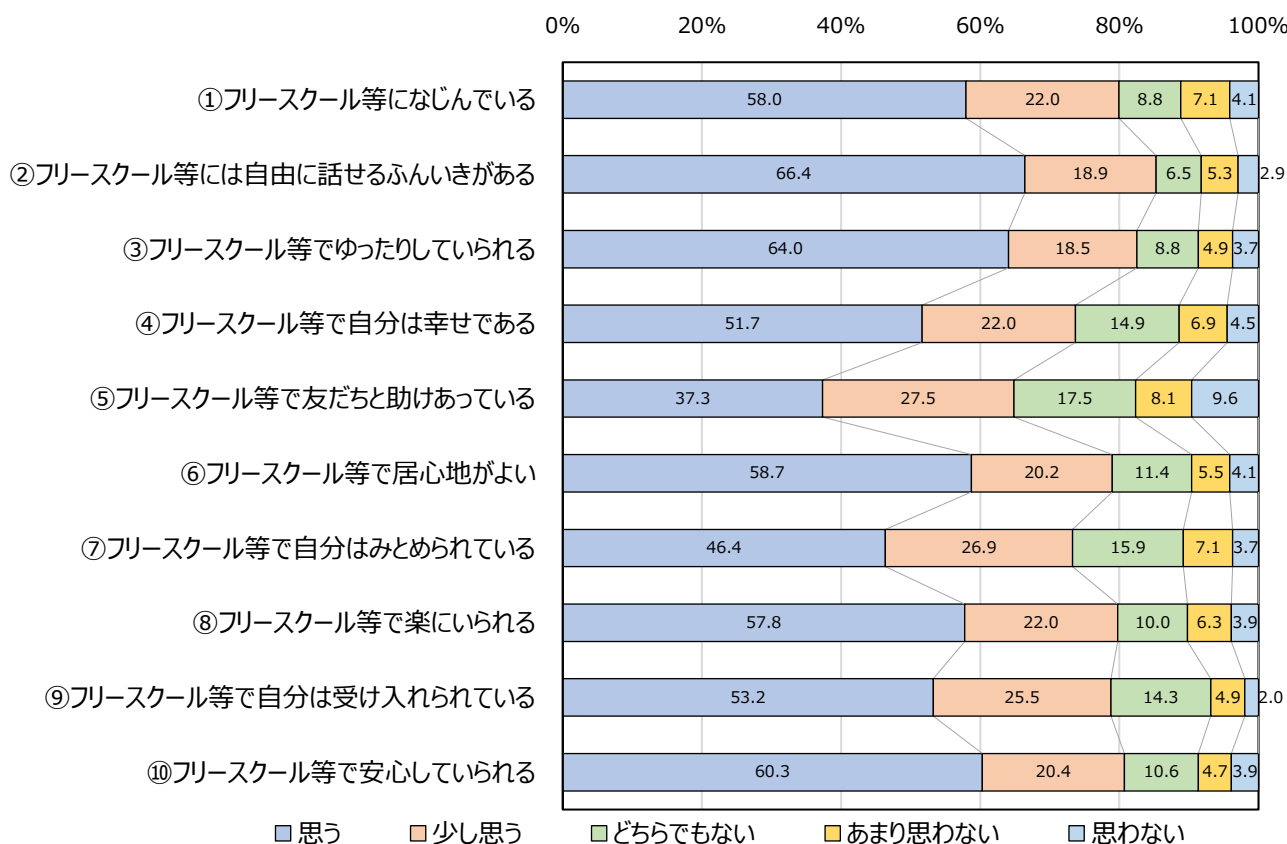


図 3-6-1-R4 居心地感の質問に対する 5 段階評定の出現率 (N=509)

図 3-6-1-R4 のデータ表 (N=509)

	思う		少し思う		どちらでもない		あまり思わない		思わない	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
①フリースクール等になじんでいる	295	58.0	112	22.0	45	8.8	36	7.1	21	4.1
②フリースクール等には自由に話せるふんいきがある	338	66.4	96	18.9	33	6.5	27	5.3	15	2.9
③フリースクール等でゆったりしていただける	326	64.0	94	18.5	45	8.8	25	4.9	19	3.7
④フリースクール等で自分は幸せである	263	51.7	112	22.0	76	14.9	35	6.9	23	4.5
⑤フリースクール等で友だちと助けあっている	190	37.3	140	27.5	89	17.5	41	8.1	49	9.6
⑥フリースクール等で居心地がよい	299	58.7	103	20.2	58	11.4	28	5.5	21	4.1
⑦フリースクール等で自分はみつめられている	236	46.4	137	26.9	81	15.9	36	7.1	19	3.7
⑧フリースクール等で楽にいただける	294	57.8	112	22.0	51	10.0	32	6.3	20	3.9
⑨フリースクール等で自分は受け入れられている	271	53.2	130	25.5	73	14.3	25	4.9	10	2.0
⑩フリースクール等で安心していただける	307	60.3	104	20.4	54	10.6	24	4.7	20	3.9

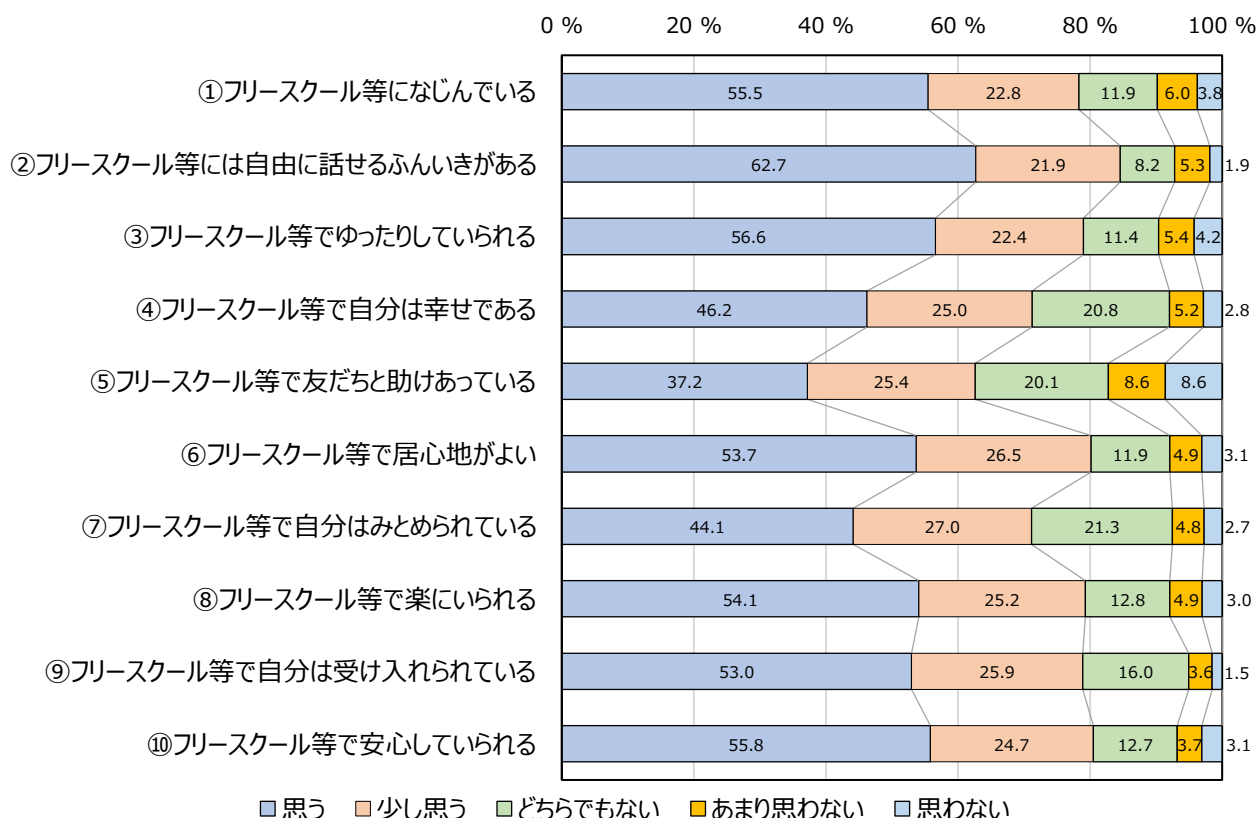


図 3-6-1-R5 居心地感の質問に対する 5 段階評価の出現率 (N=1276)

図 3-6-1-R5 のデータ表 (N=1276)

	思う		少し思う		どちらでもない		あまり思わない		思わない	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
①フリースクール等になじんでいる	708	55.5	291	22.8	152	11.9	77	6.0	48	3.8
②フリースクール等には自由に話せるふんいきがある	800	62.7	279	21.9	105	8.2	68	5.3	24	1.9
③フリースクール等でゆったりしていただける	722	56.6	286	22.4	145	11.4	69	5.4	54	4.2
④フリースクール等で自分は幸せである	590	46.2	319	25.0	265	20.8	66	5.2	36	2.8
⑤フリースクール等で友だちと助けあっている	475	37.2	324	25.4	257	20.1	110	8.6	110	8.6
⑥フリースクール等で居心地がよい	685	53.7	338	26.5	152	11.9	62	4.9	39	3.1
⑦フリースクール等で自分はみつめられている	563	44.1	345	27.0	272	21.3	61	4.8	35	2.7
⑧フリースクール等で楽にいただける	684	54.1	319	25.2	162	12.8	62	4.9	38	3.0
⑨フリースクール等で自分は受け入れられている	670	53.0	328	25.9	203	16.0	45	3.6	19	1.5
⑩フリースクール等で安心していただける	706	55.8	312	24.7	161	12.7	47	3.7	39	3.1

表 3-6-1-R4 は、校種別の回答状況を比較したものである。特徴的な結果として、「⑦フリースクール等で自分はみつめられている」以外の全ての項目で、小学生の方が中学生よりも平均値が有意に大きかった。そして、平均値の大きさが明らかに異なるかどうかを効果量 (ES) で検討すると、「①フリースクール等になじんでいる」、「⑥フリースクール等で居心地がよい」、「⑧フリースクール等で楽にいただける」の 3 項目は特に差が大きく、小学生と中学生の捉え方の違いを反映している (補遺(4)、p.161)。

表 3-6-1-R5 は、令和 5 年度の居心地感に関する校種別の比較である。小学生の評定値平均が「②のフリースクール等には自由に話せるふんいきがある」以外はいずれも中学生より有意に大きかった。ただ、効果量 (ES) については、令和 4 年度と比べて、0.4 を越える項目、すなわちはっきりした平均差が認められる項目は見られなかった。

表 3-6-1-R4 居心地感の質問に対する小学生と中学生の比較

	小学生		中学生		t 検 定	効 果 量
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差		
①フリースクール等になじんでいる	4.45	0.98	3.98	1.23	*	★
②フリースクール等には自由に話せるふんいきがある	4.55	0.87	4.24	1.15	*	
③フリースクール等でゆったりしてられる	4.50	0.94	4.16	1.18	*	
④フリースクール等で自分は幸せである	4.29	1.04	3.88	1.24	*	
⑤フリースクール等で友だちと助けあっている	3.91	1.22	3.56	1.35	*	
⑥フリースクール等で居心地がよい	4.47	0.96	3.99	1.22	*	★
⑦フリースクール等で自分はみとめられている	4.11	1.09	3.98	1.14		
⑧フリースクール等で楽にられる	4.45	0.95	4.00	1.22	*	★
⑨フリースクール等で自分は受け入れられている	4.36	0.90	4.09	1.08	*	
⑩フリースクール等で安心してられる	4.47	0.94	4.08	1.19	*	

太字は平均値が有意に大きい方 小学生：N=265、中学生：N=244 * $p<.05$ ★ES>0.4

表 3-6-1-R5 居心地感の質問に対する小学生と中学生の比較

	小学生		中学生		t 検 定	効 果 量
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差		
①フリースクール等になじんでいる	4.33	1.04	4.04	1.15	*	
②フリースクール等には自由に話せるふんいきがある	4.41	0.97	4.35	0.98		
③フリースクール等でゆったりしてられる	4.31	1.07	4.10	1.15	*	
④フリースクール等で自分は幸せである	4.18	1.00	3.92	1.12	*	
⑤フリースクール等で友だちと助けあっている	3.88	1.23	3.57	1.31	*	
⑥フリースクール等で居心地がよい	4.34	0.97	4.09	1.09	*	
⑦フリースクール等で自分はみとめられている	4.10	1.05	3.98	1.04	*	
⑧フリースクール等で楽にられる	4.36	0.95	4.06	1.12	*	
⑨フリースクール等で自分は受け入れられている	4.33	0.92	4.16	0.98	*	
⑩フリースクール等で安心してられる	4.36	0.96	4.14	1.08	*	

太字は平均値が有意に大きい方 小学生：N=702、中学生：N=580 * $p<.05$

(2) 居心地感の質問項目間の関係の強さの分析

居心地感の 10 項目の質問について、相互にどのような関係があり、それらは関係の強さによってどのようなまとまりになるかを明らかにした。表 3-6-2 は、令和 4 年度の結果について、10 項目全ての間で相関係数（ピアソンの積率相関係数：r）によって関係の強さを表したものである。

表 3-6-2 フリースクール等の居心地感の質問項目について相互の関係の強さ（ピアソンの積率相関係数）

	①フリースクール等になじんでいる	②フリースクール等には自由に話せるふんいきがある	③フリースクール等でゆったりしている	④フリースクール等で自分は幸せである	⑤フリースクール等で友だちと助けあっている	⑥フリースクール等で居心地がよい	⑦フリースクール等で自分はみとめられている	⑧フリースクール等で楽にいられる	⑨フリースクール等で自分は受け入れられている	⑩フリースクール等で安心していられる
①フリースクール等になじんでいる	1.00									
②フリースクール等には自由に話せるふんいきがある	0.60	1.00								
③フリースクール等でゆったりしている	0.59	0.64	1.00							
④フリースクール等で自分は幸せである	0.66	0.62	0.69	1.00						
⑤フリースクール等で友だちと助けあっている	0.56	0.47	0.46	0.57	1.00					
⑥フリースクール等で居心地がよい	0.73	0.68	0.70	0.77	0.57	1.00				
⑦フリースクール等で自分はみとめられている	0.47	0.54	0.43	0.55	0.46	0.53	1.00			
⑧フリースクール等で楽にいられる	0.69	0.62	0.69	0.71	0.46	0.78	0.51	1.00		
⑨フリースクール等で自分は受け入れられている	0.51	0.57	0.46	0.53	0.47	0.54	0.74	0.51	1.00	
⑩フリースクール等で安心していられる	0.72	0.64	0.68	0.72	0.51	0.78	0.58	0.77	0.56	1.00
平均値	4.23	4.40	4.34	4.09	3.75	4.24	4.05	4.23	4.23	4.28
標準偏差	1.13	1.02	1.07	1.16	1.29	1.11	1.11	1.11	1.00	1.08

(N=509)

表 3-6-2 について、相互に関係が強いまとまりを、主成分分析によってグループ化した結果を分かりやすく図示したものが、図 3-6-1-(a)である（補遺(2)、p.159）。なお、計算したデータは令和 4 年度のものである。

図では、まず、10 項目が、大きく「Ⅰ.自分自身の居心地」と「Ⅱ.環境：他者との関係」の 2 個のまとまり（成分：グループ）に分かれること、さらに、「Ⅱ.環境：他者との関係」のまとまりは、「良い仲間の関係」と「他者からの受け入れ」のように命名できる 2 個の下位グループに分けられる可能性が示された。このことから、児童・生徒の居心地や居場所を考えていく上で、「自分自身の居心地をどう捉えるか」と「他者との対人的環境がもたらす居心地はどのようなか」の 2 グループは、異なる特徴を示す可能性があり、児童・生徒と対応する際に留意しながらアプローチしていく必要がある。

なお、令和 5 年度のデータでも同じ分析を行った結果、項目「②フリースクール等には自由に話せる雰囲気がある」が図のグループⅠとグループⅡの双方に属するようにまとまったものの、他のグループ構成及びその構成項目についてはほぼ同様であり、比較的安定した傾向にあったと言える。したがって、ここでは令和 4 年度の結果を代表して示した。

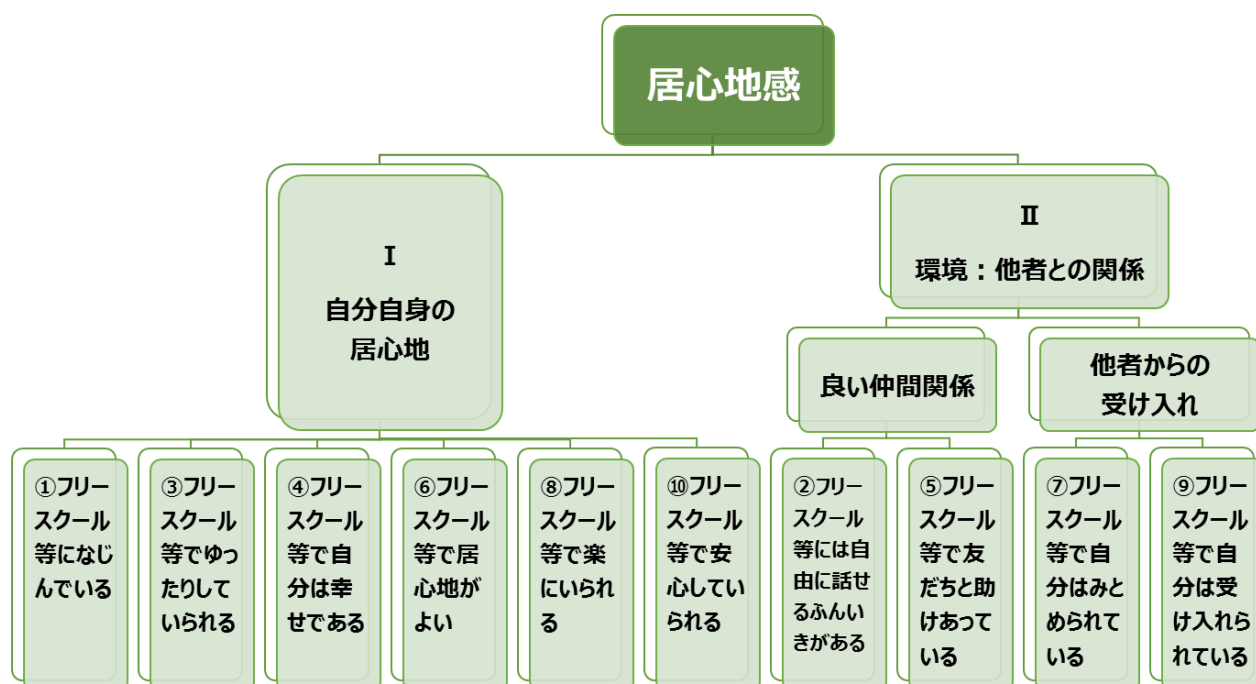


図 3-6-1-(a) 居心地感 10 項目の関係の強さを基にしたまとまりの図

3-6-2 児童・生徒のストレス反応の状況

児童・生徒初回調査の Q19 では、ストレス反応について、8 項目の中から自分自身に当てはまる項目を選んでもらっている。

図 3-6-2-R4 は、令和 4 年度の項目ごとの選択率である。結果は、最も多いのが「③すぐにイライラする」であった。ただし、最も多い項目でも選択率は 34.2%であったということは、65.8%は選んでいないということもでき、全体にそれほど選択率は多くなかったようであった。

一方、ストレス反応を校種で比べると、中学生の方が全体的に選択率が多かった。その中で、「①だれかといっしょにいても、自分はひとりぼっちだと感じる」、「④最近、集中できない」、「⑦学校のことを思い出させるような人や場所には、近付かないようにしている」の 3 項目は、いずれも小学生より中学生の方が選択率が有意に多かった（補遺(4)、p.161）。

一方、令和 5 年度の結果は、図 3-6-2-R5 である。令和 5 年度の傾向も、令和 4 年度と同様であった。また小学生よりも中学生の方が項目選択率が有意に高くなる傾向は、令和 5 年度の方が強かった。

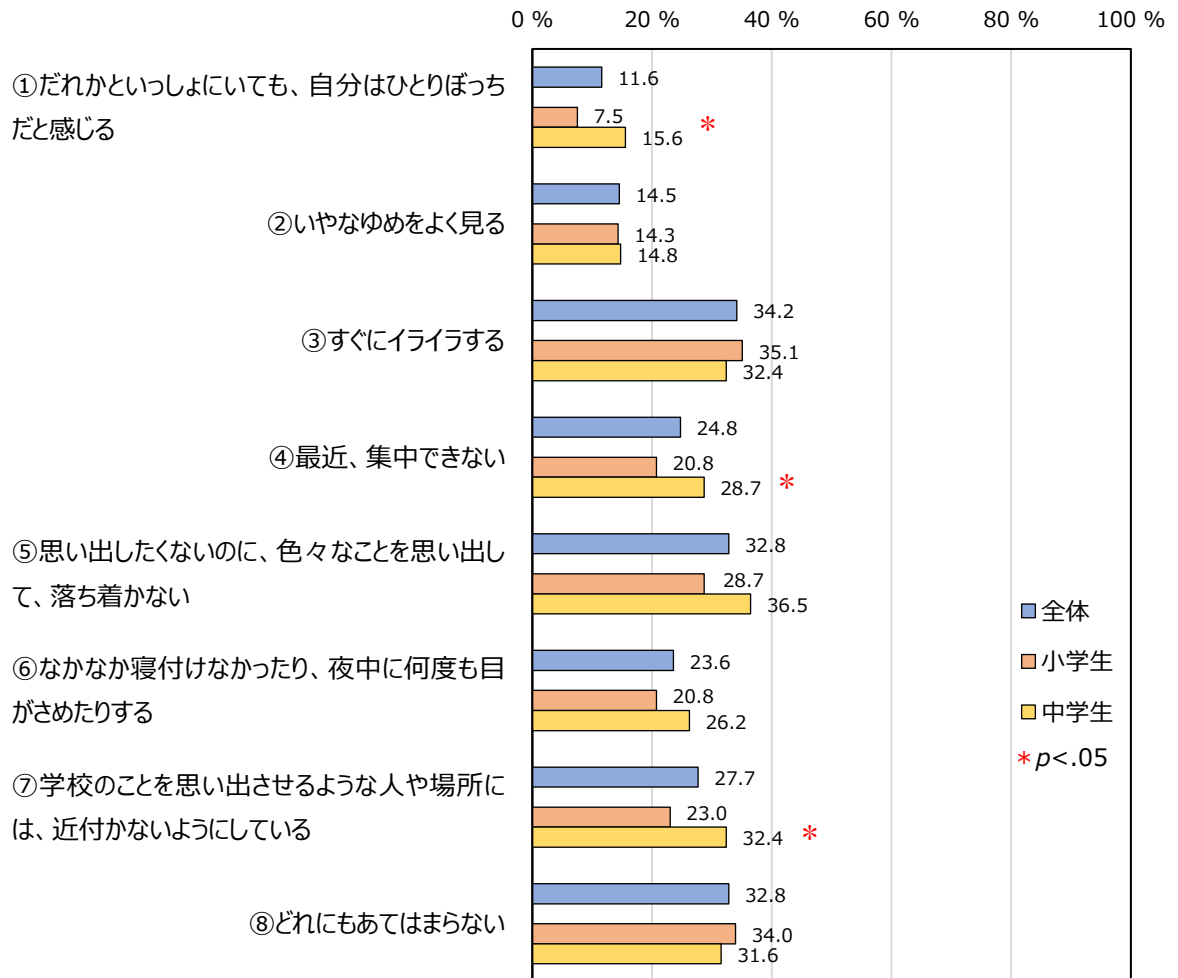


図 3-6-2-R4 児童・生徒のストレス反応の項目別選択率 (N=509)
小学生 N=265 中学生 N=244

図 3-6-2-R4 のデータ表

選択項目	N	%
①だれかといっしょにいても、自分はひとりぼっちだと感じる	59	11.6
②いやなゆめをよく見る	74	14.5
③すぐにイライラする	174	34.2
④最近、集中できない	126	24.8
⑤思い出したくないのに、色々なことを思い出して、落ち着かない	167	32.8
⑥なかなか寝付けなかったり、夜中に何度も目がさめたりする	120	23.6
⑦学校のことを思い出させるような人や場所には、近付かないようにしている	141	27.7
⑧どれにもあてはまらない	167	32.8

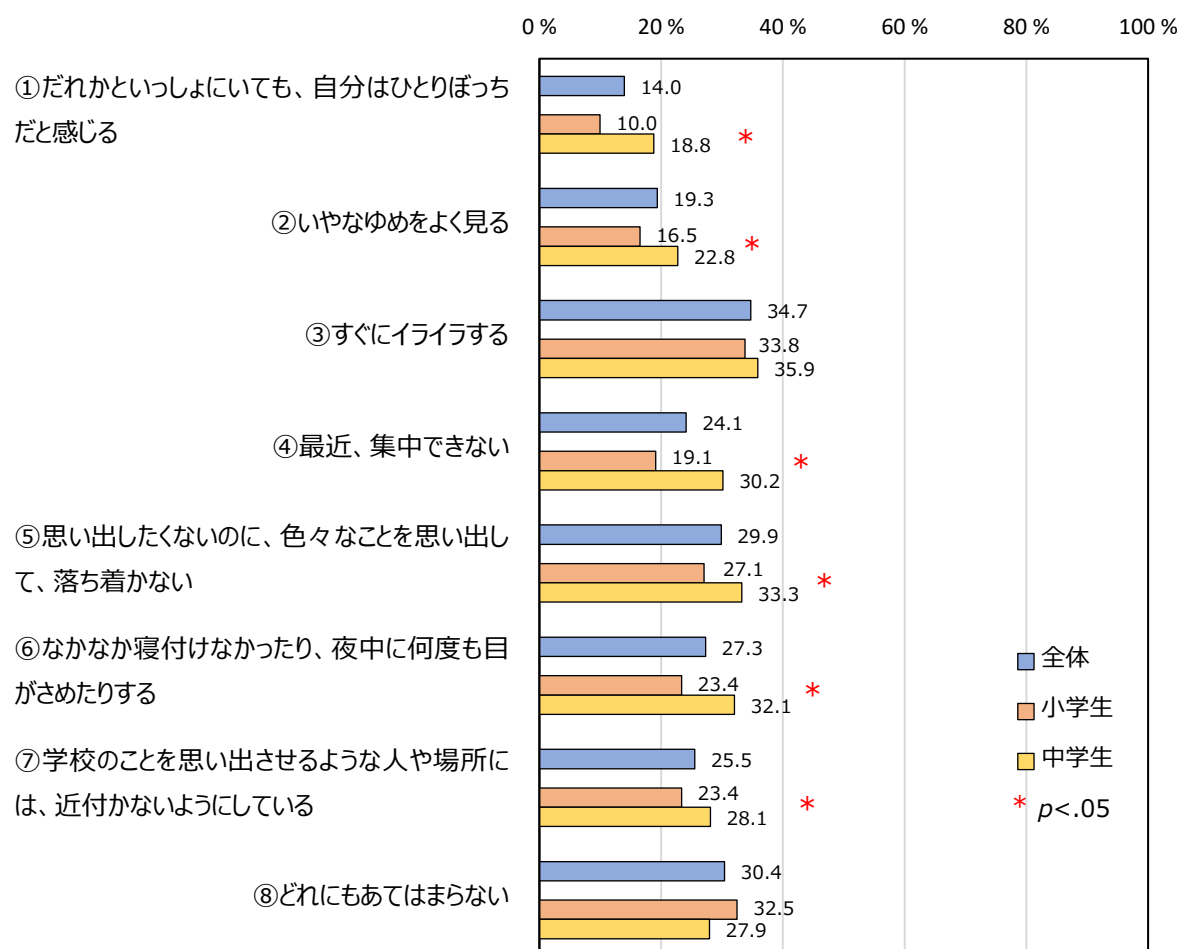


図 3-6-2-R5 児童・生徒のストレス反応の項目別選択率 (N=1282)

小学生 N=702 中学生 N=580

図 3-6-2-R5 のデータ表

選択項目	N	%
①だれかといっしょにいても、自分はひとりぼっちだと感じる	179	14.0
②いやなゆめをよく見る	248	19.3
③すぐにイライラする	445	34.7
④最近、集中できない	309	24.1
⑤思い出したくないのに、色々なことを思い出して、落ち着かない	383	29.9
⑥なかなか寝付けなかったり、夜中に何度も目がさめたりする	350	27.3
⑦学校のことを思い出させるような人や場所には、近付かないようにしている	327	25.5
⑧どれもあてはまらない	390	30.4

3-7-7 フリースクール等と学校等との関係

ここでは、フリースクール等が中心となっている生活の中で、学校等との関係の状況を明らかにする。図 2-4-1 の全体構造図の太破線囲いの〔7〕である。

3-7-1 フリースクール等と学校通学の状況

(1) 学校通学の状況

保護者初回調査 Q86 では、現在の学校への通学状況を質問している。

令和 4 年度の結果をまとめたものが、図 3-7-1-R4 である。全く通学していない場合が 60.8%であった。ただし、校種で比べると、通学していない場合が、小学生では 56.4%なのに対し、中学生は 65.6%で、中学生の方が 10.2 ポイント多いという結果であった。

令和 5 年度の結果（図 3-7-1-R5）においても、令和 4 年度の傾向と大きな違いは見られなかった。また、中学生でも同じような傾向を示していた。

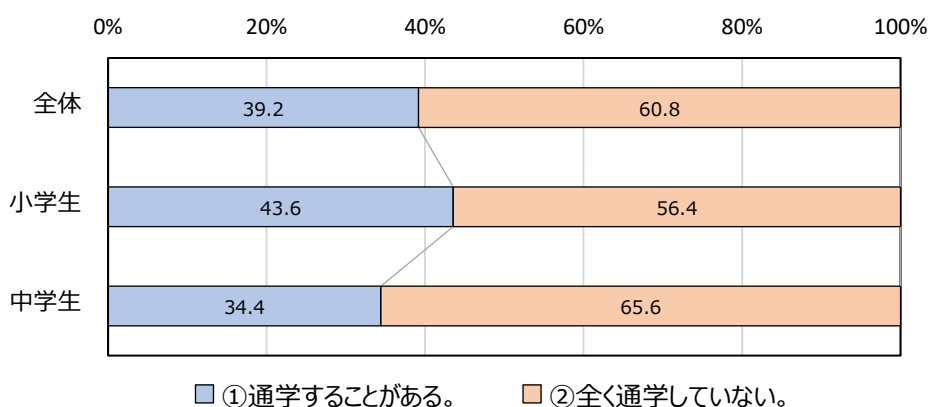


図 3-7-1-R4 現在の学校への通学状況 (N=508) (集計不能 1 人)

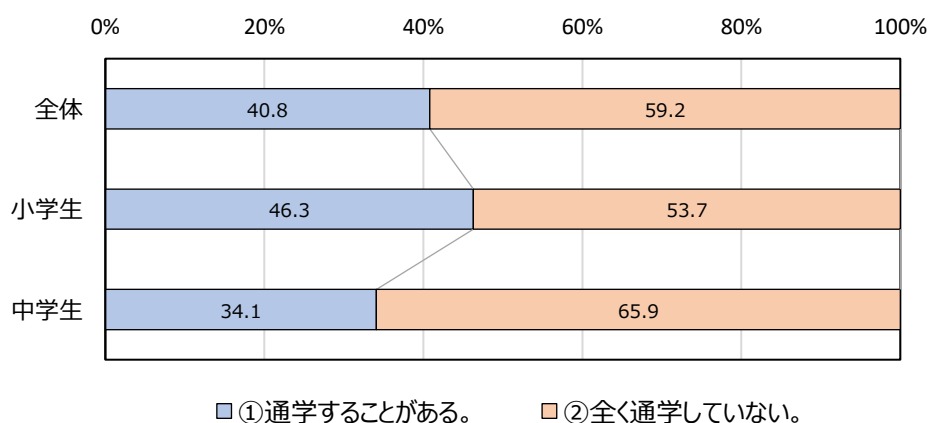


図 3-7-1-R5 現在の学校への通学状況 (N=1282)

(2) 学校通学時の活動内容

保護者初回調査 Q89 では、Q86 で「①通学することがある」と回答した 199 人に対し、学校に通学したときの活動内容を質問した（複数回答）。

令和 4 年度の結果をまとめたものが、図 3-7-1-(b)-R4、令和 5 年度の結果をまとめたものが、図 3-7-1-(b)-

R5 である。どちらとも、「②学級での活動」と「④給食」と「③行事への参加」の順に活動していた。また、「⑦その他」の主な内容は、「定期試験の受験」、「本人のタイミングを見計らって担当以外の教師や生徒との小集団での活動」、「仲良しのお友達と一緒に工作し、放課後に遊ぶ約束もしてくる。」などであった。

校種ごとに集計した結果、令和 4 年度と令和 5 年度との間でいくつかの相違点が見られた。令和 4 年度では、「⑤面談」の項目で、中学生が小学生より有意に多いという結果が見られ、この傾向については令和 5 年度も同様だった。一方、令和 5 年度では、「②学級での活動」、「④給食」、「③行事への参加」の 3 項目で、小学生が中学生より有意に多いという結果が見られた。

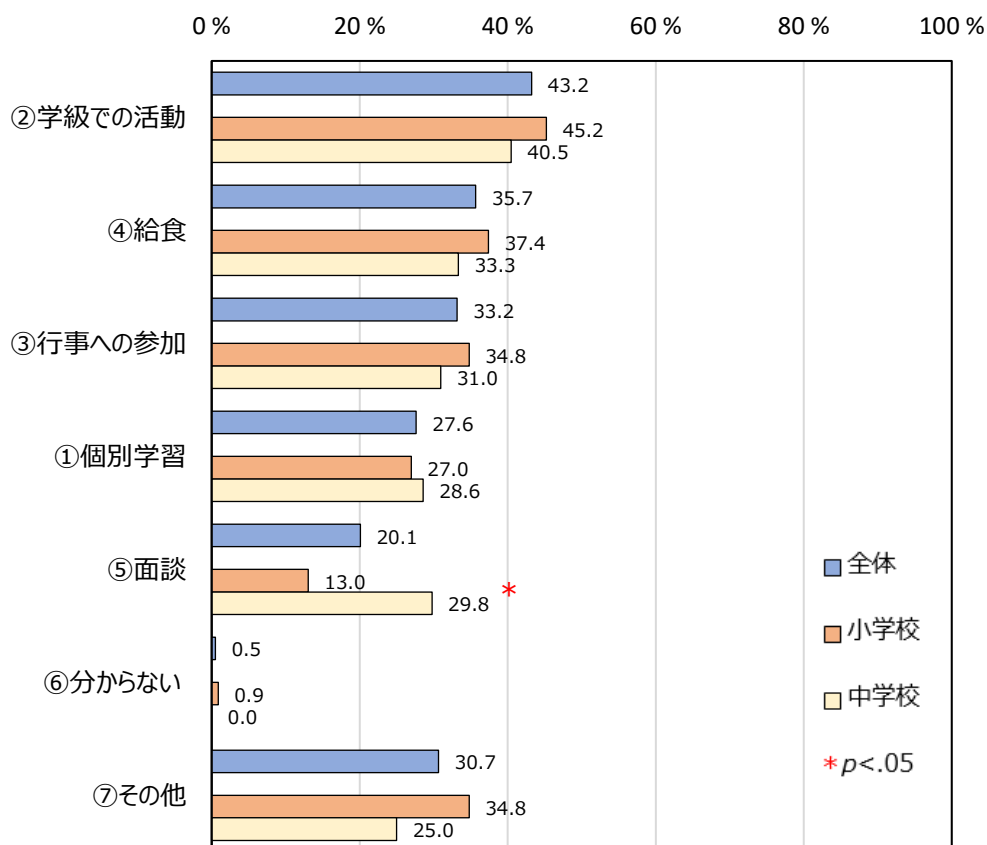


図 3-7-1-(b)-R4 通学時の活動内容（複数回答）（N=199）
小学校 N=115 中学校 N=84

図 3-7-1-(b)-R4 のデータ表

	全体		小学校		中学校	
	N	%	N	%	N	%
②学級での活動	86	43.2	52	45.2	34	40.5
④給食	71	35.7	43	37.4	28	33.3
③行事への参加	66	33.2	40	34.8	26	31.0
①個別学習	55	27.6	31	27.0	24	28.6
⑤面談	40	20.1	15	13.0	25	29.8
⑥分からない	1	0.5	1	0.9	0	0.0
⑦その他	61	30.7	40	34.8	21	25.0

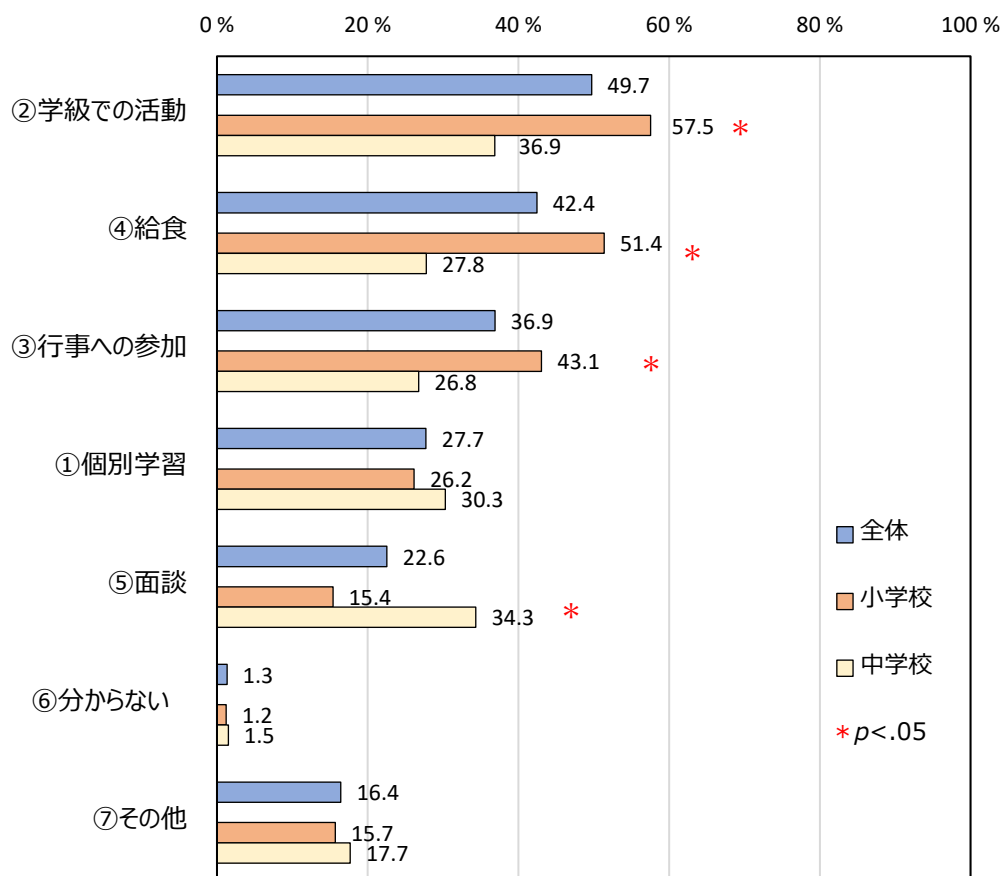


図 3-7-1-(b)-R5 通学時の活動内容（複数回答）（N=523）
小学校 N=325 中学校 N=198

図 3-7-1-(b)-R5 のデータ表

	全体		小学校		中学校	
	N	%	N	%	N	%
②学級での活動	260	49.7	187	57.5	73	36.9
④給食	222	42.4	167	51.4	55	27.8
③行事への参加	193	36.9	140	43.1	53	26.8
①個別学習	145	27.7	85	26.2	60	30.3
⑤面談	118	22.6	50	15.4	68	34.3
⑥分からない	7	1.3	4	1.2	3	1.5
⑦その他	86	16.4	51	15.7	35	17.7

（３）フリースクール等の活動の出席の取り扱い

保護者初回調査 Q91 では、フリースクール等での活動が学校の出席扱いとなるかどうかを質問している。

令和４年度の結果をまとめたものが、図 3-7-1-(c)-R4 であり、「①全て出席扱い」と取り扱われている割合が 70.5%であった。一方、そのような対応でない場合が 29.5%見られた。校種別の比較では、小学生と中学生の間に有意な差は見られなかった。

一方、令和５年度については、図 3-7-1-(c)-R5 に示すように、令和４年度と大きな違いは見られなかった。

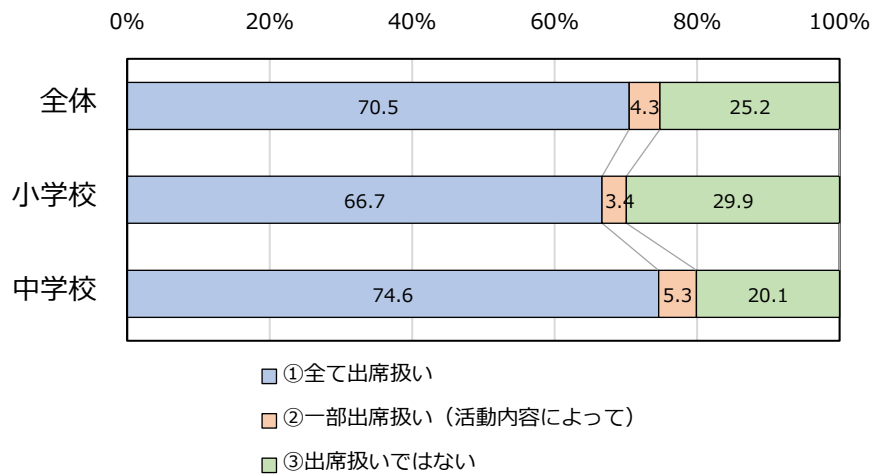


図 3-7-1-(c)-R4 フリースクール等の活動の出席の取り扱い (N=508) (※集計不能 1 人)

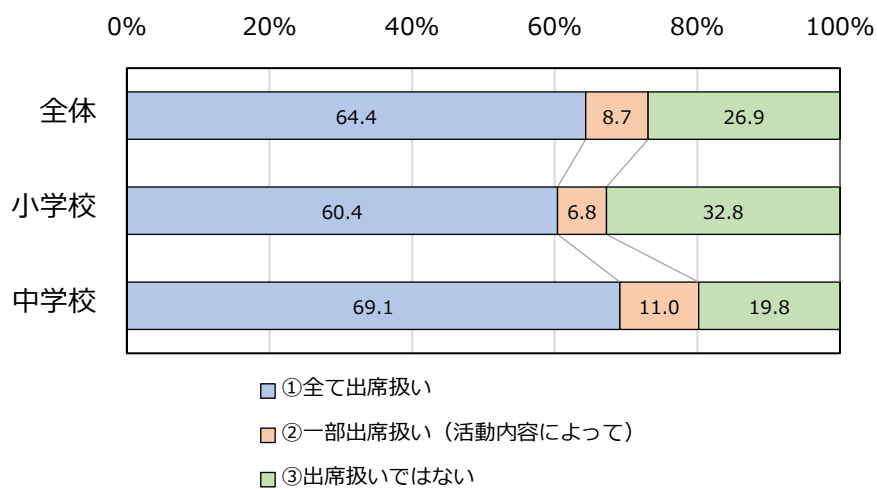


図 3-7-1-(c)-R5 フリースクール等の活動の出席の取り扱い (N=1282)

3-7-2 他の機関で支援を受けている・受けた経験

(1) 他の機関で支援を受けている・受けた経験

保護者初回調査 Q40 では、教育支援センター（適応指導教室）以外で支援を受けている、または受けた経験を質問している。

令和 4 年度の結果をまとめたものが、図 3-7-2-R4 である。「③ 支援を受けたことはない」と回答した割合が 56.1% で、43.9% は何らかの形で受けている、ないしは受けた経験のあることが分かった。また、27.6% は現在も受けていることが分かった。校種で比較すると、小学生と中学生の回答比率に大きな違いは見られなかった。

一方、令和 5 年度の結果をまとめたものが、図 3-7-2-R5 である。令和 5 年度の結果で特徴的なのは、小学生において、「② 今でも支援を受けている」の回答が令和 4 年度より増加している点である。

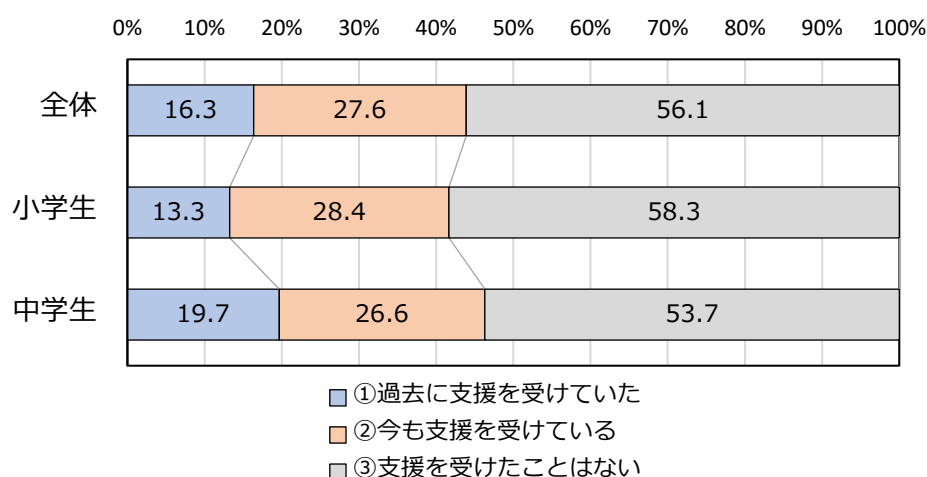


図 3-7-2-R4 他の機関で支援を受けた経験 (N=508) (※集計不能 1 人)

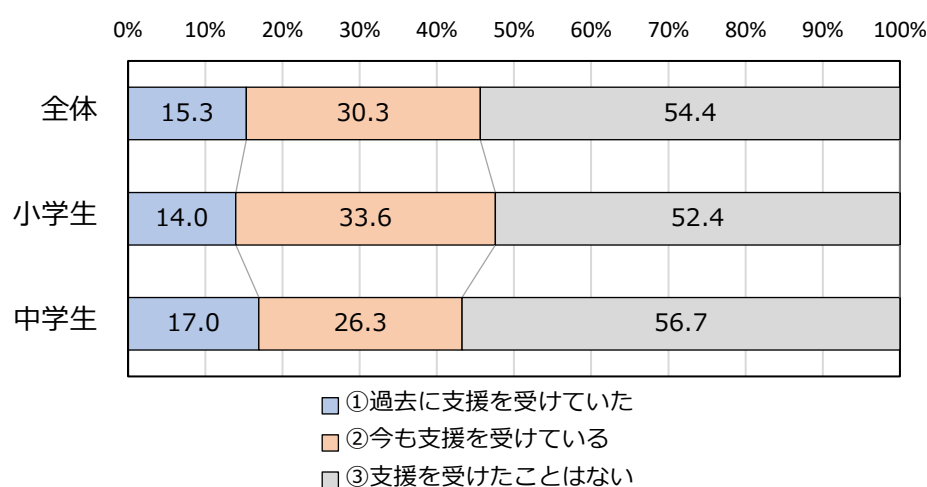


図 3-7-2-R5 他の機関で支援を受けた経験 (N=1280) (※集計不能 2 人)

(2) 支援を利用した機関

他機関で支援を受けた経験として、どこでどのような支援を受けていたかを自由記述により御回答いただいた。その記述内容から、「どこで・誰からの支援か」と「どのような支援なのか」について集計したのが表 3-7-2-R4 及び表 3-7-2-R5 であり、表の上側が「どこで・誰から」、下側が「どのような支援か」を示している。また、表内数値は回答件数をまとめたものである。

令和 4 年度の結果をまとめたのが、表 3-7-2-R4 である。「どこで・誰から」は、医療機関、教育支援センター、教育センター、児童精神科、療育センターが多く、「どのような支援か」は、カウンセリング、相談・面談、プレイセラピー、療育が多いことが分かった。

令和 5 年度の結果をまとめたのが、表 3-7-2-R5 であり、令和 4 年度の結果とほぼ同様の傾向であった。

なお、集計回答件数は令和 4 年度が 223 件、令和 5 年度が 570 件だが、これは、「どこで・誰から」と「どのような支援か」を明確に記載している回答のみを集計したことによる。

表 3-7-2-R4 どこで・どのような支援を受けていたか（抜粋）（令和4年度）（N=223）

どこで・ 誰から	医療機関	教育相談	児童精神科	療育センター	小児科	民間支援機関	通級指導教室	児童相談所	大学	発達支援センター	放課後デイサービス	スクールカウンセラー	心療内科	精神科	特別支援学級	ソーシャルワーカー	医療センター	教育委員会	臨床心理士	心理相談	親の会
N	43	18	16	16	11	10	6	5	5	5	4	3	3	3	3	2	2	2	2	1	1

どのような	カウンセリング	相談・面談	プレイセラピー	療育	診察	投薬	指導	心理検査	診療	支援	SST	グループ活動	就学支援	学習支援	心理療法	運動療法	検査	言語療法	院内学級通学	教育相談	構音指導	作業療法	治療	通院	薬物療法
N	48	42	12	11	8	8	6	6	6	5	3	3	3	3	3	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1

註）複数回答や集計不能な回答があった。

表 3-7-2-R5 どこで・どのような支援を受けていたか（抜粋）（令和5年度）（N=570）

どこで・ 誰から	医療機関	教育相談	児童精神科	療育センター	小児科	民間支援機関	通級指導教室	児童相談所	大学	発達支援センター	放課後デイサービス	スクールカウンセラー	心療内科	精神科	特別支援学級	ソーシャルワーカー	医療センター	教育委員会	臨床心理士	心理相談	親の会	訪問看護師	訪問支援	ギフトッド支援
N	103	76	51	36	54	24	13	5	1	52	32	12	24	2	18	14	2	0	5	9	0	8	4	2

どのような	カウンセリング	相談・面談	プレイセラピー	療育	診察	投薬	指導	心理検査	診療	支援	SST	グループ活動	就学支援	学習支援	心理療法	運動療法	検査	言語療法	院内学級通学	教育相談	構音指導	作業療法	治療	通院	薬物療法	訪問による支援
N	100	88	36	17	20	33	8	18	27	17	11	14	1	23	5	1	3	3	1	0	0	12	5	13	2	10

註）カテゴリーの記載順は令和4年度に合わせた。

3-8 〔8〕有効な支援

ここまでの調査結果を踏まえて、保護者が回答した「有効だった支援」をまとめた。図 2-4-1 の全体構造図の太破線囲い〔8〕である。

表 3-8-1 は、保護者からの自由記述意見を、テキストマイニング分析を用いてまとめたものである。分析によって抽出された概念（主題）は、「1. 学校の先生」、「2. 居場所」、「3. スクールカウンセラー」、「4. 教育支援センター（適応指導教室）」、「5. 教育相談」、「6. 本人」、「7. 登校」、「8. フリースクール等」、「9. 子供」の9種類である。そして、表内見出しには、概念とそれに関連するキーワードを示し、概念とキーワード抽出の基となる代表的な意見を選んで一覧表にした。

表 3-8-1 有効な支援

【1. 学校の先生】：声かけ・先生・担任・校長先生・家庭訪問	
・学校では、先生方が息子の特性を良く理解してくださり、理解できずにいる私もいろいろと教えていただき随分と助けられました。フリースクールという別の道を考えられたのも、先生方のおかげです。私もそうでしたが、学校の先生方全てが特性を理解してくださればもっと子供たちも通いやすいのではと思います。	
・学校の担任、特別支援の先生、保健室の先生と3人で保護者の考えや子供の気持ちを話す時間を作ってください、今もそのつながりを絶やさないよう支援してくれている。フリースペースでは毎日の過ごす時間が全て有効であると思います。	
・学校の支援員の先生または校長と、個別授業の時間を定期的に設けてくれたこと。フリースクールでは、子供のそのまますを認めてくれて、親子ともに元気になりました。	
・フリースクールへ通い始めたときに、担任の先生が、クラスの他の生徒たちに「Aさんは、違う学校に通っていてみんなと同じように学び、時折この学校にも来ます。」ときちんと説明してくださり、たまに子供が学校に行ったときも、みんなが以前と同じように接してくれる態勢を整えてくださいました。先生は、子供たちみんなの未来を見据えた考え方をされていて、「今後、Aさんのようにダブルスクールの子も増えてくると思うから、それを特別と思わない子供たちに育てたい。」とおっしゃっていました。私は、最初、小学校に通えないことが「いけないこと」と思っていたのですが、「これでいいんだ」と思えるようにしてくださり、本当に感謝しています。	
・3年生になり、小学校の校長先生が代わったので雰囲気が変わったのか、放課後個別に音楽等を教えてくださったり、「遠足来てみたら」や「給食だけでも食べにおいでよ」と誘ってくださったりするようになりました。	
・子供が休み出した当時の校長が心理士で、子供の行動のいろいろな特徴を挙げ、これから一生涯の長い付き合いになるから、保護者がしっかり勉強していくことが重要となることを伝えられた。また、「今はゆっくりと過ごし、3、4年生に変化があるだろうから、その時に学校との関わりを段階的に築いていきましょう」という学校の取組も理解した。校長に言われたことで、母親自身が、学校や勉強がどうこうよりも、今は本人が「安心して生きていく」ことができるようにすることに集中できた。校長に相談できたのはとても心強く、祖父母も「校長先生が言うなら」と納得した。	
・担任が子供全員に対して分け隔てなく深い愛情をもって接してくださる先生で、校長先生・副校長先生も率先して理解してくださり、教室に入れないときには校長室や職員室に招いてくださっていた時期があり、その年だけは学校に通えました。	
・1年生の時の担任の先生は、上手にクラスになじませてくださり、短時間でも学校を経験することができました。校長先生、副校長先生、担任の先生など、とても理解があり、必要なこと、必要でないことを聴いてくださいます。	
・学校では、情緒障害の通級の先生方とは、「家で話したい」という本人の要望に応じて家庭訪問に通い続けてくれたこと。担任ではなく、通級の先生方が家庭との様々なやり取りの窓口になってくれたこと。	
・先生との面談で、本人が進路を意識するようになり、少し元気になりました。また、学校の担任の先生が家庭訪問時に、登校刺激になることを言わず、ほぼ雑談だけしてくれるので、本人も抵抗なく担任の先生に会えることは、とてもありがたいです。	
・オンラインで教室とつながることができ、登校できないときのフォローが手厚くて助かっています。	
【2. 居場所】：引きこもり・安心	
・共働きのため、フリースクールがなければ一日中家に引きこもるようだったと思います。居場所の提供が良かったです。	
・スクールカウンセラーとの面談、特別支援教室での個別支援、フリースクールでの安心できる居場所の提供。	
・不登校初期に担任と保健室の先生を交えた面談の場を作ってくださった。保健室の先生の不登校への理解が素晴らしく、寄り添っていただけたことで安心した。	
・安心できる居場所ができて心が少し落ちついた。	
・認めてもらったこと、居場所ができたこと。	
・居場所があるだけで助かったと思います。	
【3. スクールカウンセラー】：面談・気持の整理・安心	
・スクールカウンセラーとの面談は大変ありがたいもので、私の心の支えになっている。その影響で、子供の様子について前向きに捉えられている。	
・スクールカウンセラーとの面談、通級や保健室の先生とコミュニケーションは有効でした。	
・学校のスクールカウンセラーの先生と、毎週、週に1時間、話をし、思っていることを話せて、私も後から面談でそれを聞くことができたので良かったです。	
・スクールカウンセラーとの面談。解決はしませんが親の話を聞いてもらえるだけでまずは気持ちの整理ができた。	
・スクールカウンセラーさんより、「発達検査（WISC）を受けてみては」と勧められ、受けたことは、子供の得意、不得意が分かり、良かったです。	

・スクールカウンセラーさんを紹介していただいた。特別支援教室に入室できるまでの間も補助の先生方がいつも見守ってくださり心強かったです。
・どうしたらいいのか何も分からず一番苦しかったとき、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの方に話を聞いてもらえたことは親として大きかった。
・スクールカウンセラーに相談したことがきっかけで、別室登校を提案していただき、指導員と楽しくコミュニケーションが取れるようになり、教室にも入れるようになりました。
【4. 教育支援センター（適応指導教室）】：学年・受け入れ・支援でない・面談
・適応指導教室に通い始めたころは、少人数対応であることが、本人の気持ちに向き合う上でとても大切で有効だった。
・適応指導教室のスタッフの方には、現在も相談に乗ってもらっていて、ありがたいです。
・パソコンやプログラミングに興味がある子なので、適応指導教室の先生方がそれらに関する本人の話をよく聞いてくれたり、本人が作ったゲームを見て褒めたりしてくれたことで精神的に回復できて、大変有り難く感じている。
・適応指導教室は4年生からなので、1年生～3年生は利用できないが、母子分離でそれぞれカウンセラーが付き、子供と別室で相談ができたことは良かったです。子供のメンタルがひどい状況だったため、母子分離の時間があるだけでもホッと一息でき、ありがたく、子供の様子を後から聞くこともできよかった。
・子供の居場所を作ってくれたこと。学校は、当初は適応指導教室の対象ではなかったにもかかわらず、入室させてくれたこと。親については不安を聞いてもらったこと、現在の最新の不登校に対する国の対応について聞いたこと。
・適応指導教室では、とにかく先生たちがみんな笑顔。指導員による丁寧な対応（子供の話をしっかり聞いてくれる、否定しない、安心感のためにぬいぐるみ等の持ち込みも許可してくれる）で、安心感を積み重ねることができた。親に対しては毎回フィードバックもしてくれて、良いところを伝えてくれるので、気持ちも楽になる。
・放課後の個別指導の先生とお話する時間。
・学校の担任からの連絡があまり頻繁でないこと。教育支援センターの方にゆっくり話を聞いていただいたこと。
・教育支援センターで発達検査（WISC-IV）を受けられたこと。
・学校の相談室で親がカウンセリングを受けました。小学校から中学校に上がるタイミングから、同じカウンセラーさんに教育支援センターでの面談を受けています。
・教育支援センターよりスクールソーシャルワーカーの派遣が月1回程度あり、本人の心のケアや情報交換をしてくれている。フリースクールは居場所の提供、定期的な集団活動、通学の習慣を身に付けるなどの効果を感じている。
【5. 教育相談】：カウンセリング・プレイセラピー
・一番良かったのは市役所の児童相談室のカウンセリングです。学校のスクールカウンセラーさんとの面談より、学校へ戻る前提の面談ではなくて、現状に寄り添ってもらえました。
・教育相談室の方にはいろいろ教えていただきましたし、寄り添ってもらい、情報もいただきました。
・親が教育相談、SSWの面談などでアドバイスをいただくことで子供への接し方を見直すことができ、そのことで家庭内がよい雰囲気になったことが子供にもよい影響につながったと思います。
・教育センター（総合教育相談）では2週間に1度、本人の好きなことやっている。担当者が変わらない、というのが親も安心である。
・教育センターに通うようになり、優しい先生なら通えるかもと言うようになった。フリースクールで走り回ること、体力が付き、他のことにも関心が向くようになった。また、興味の対象が大人だけだったのが、子供とも交流ができるようになったことです。
・教育支援センターのプレイセラピー、ギフテッド応援隊の子たちとの交流、フリースクールでの先生との関わり。
・地区の教育相談員の親子別のカウンセリング。子供はプレイセラピーというものを受けているらしい。
・プレイセラピー（子供）と、学校のカウンセリング（母）。
【6. 本人】：モチベーション・興味・関心・居心地
・本人の意志とモチベーションを優先し、無理な目標などを設定しなかったこと。話をよく聞いてくれたこと。
・個別に本人の話を聞いていただいたのは良かったと思います。本人が参加しやすい遊びなどを取り入れていただいたりしたことで、通いやすくなったようでした。
・6年間の親自身の子育ての振り返り。本人とカウンセラーだけの面談でボロッとでた本人の本音。
・本人のやりたいことを認めてくれて、自由に過ごすことができる、そこにいる事を大切にしてくれて本人の居心地の良い環境を作ってくれたことが自信につながっています。
・ルールの下で、本人のやりたいことを尊重してくれる、無理強いをしない。

・フリースクールのスタッフが本人に合った対応を見極め接してくれる。親ともお互い情報共有をしてくれるので、家庭でも対応しやすく、本人の情緒が安定してきた。また、他の支援機関の情報や他の保護者とのつながりも提供してくれるので、親も子供のために動きやすい。
・子供に自信を取り戻す寄り添い方、背中を押すタイミングが有効だった。とことん本人の考えや気持ちを聞いてくれることも有効であった。
・フリースクールでの、本人の興味・関心に基づく分野の支援。特にプログラミングに関しては、本人がその分野において自信をもつことにつながり、その自信がその他の場面での主体的な取組につながるなど、子供に良い影響を与えてくれていると思う。
【7. 登校】：居場所・声かけ・対応・カウンセリング
・医師に「あなたは何も悪くない、変わる必要はない、学校に行けるように環境を整えるのは大人の仕事」と診察の度に言ってもらったこと。
・学校がこちらの調査研究事業のことを教えてくれたのは有効だったと思います。
・学校は行き渋りが見られ出してから、居場所の工夫、教室に入るまでの声かけ、スクールカウンセラーとの頻繁な面談などいろいろと試行錯誤してくださった。それは直接不登校解消にはつながらなかったが、息子が学校や大人に対して不信感をもつことなくいられたこと（学校にいつでもきてもいいよと繰り返し伝えてくれていること）は大きなポイントだと思う。
・週に1度、図書室に別室登校できるようにしていただき、長年お付き合いのある学校コーディネーターさんが担当してくれることで学校に足を運ぶ日が定期的にできました。別室登校、フリースクール共に、子どもが不安障害なので、保護者も同伴して大丈夫なのが助かっています。
・学校の先生が、無理に登校させようとしたり、学校に無理やりいさせようとしりせず、その日にできたことを褒めてくれたり、本人の希望の勉強のプリントを用意してくれて自宅で学習できるように準備してくれたりしたこと。
・クラス担任による面談や空きコマで対応できる範囲での授業フォロー。フリースクール担当者による学校訪問（校長・担任への挨拶等）や活動状況連携。
・小6の時の担任の対応が良く、クラス全体が待っていてくれる雰囲気を作ってくれたため、子供のタイミングで行くことができた。学校・病院でのカウンセリング（カウンセラーが合うかどうかにもよるが）。
・学校は保健室の先生が優しくて良かったです。母子登校で保健室利用したところ、本人は楽しそうでした。
・通級の先生がサポート体制の見える化をしてくれて、子供を中心として、家庭、学級、友人、通級、医療、教育センター、SSW等との連絡、調整をするチームができた。母親がその多くを担うが、それぞれに、刻々と変化する不登校児に対応しつつ、全体として、本人の自分らしいやり方を確立していく大きな支えとなっていていっていると実感する。
・スクールカウンセラーの先生は、不登校の子供には、何気ない会話や関わりをしていただき、母には相談や医療機関・教育支援センター、フリースクールを教えていただいて、何も分からない状態だった私たちにはありがたい存在でした。
・どちらかと言うと、親（特に母親）が、子供が不登校になって以降、ノイローゼ気味であったところに、教育支援センターそれへの心配り等をいただけたことは良かったことだと思っています。
・フリースクールの先生からのアドバイス。学校の特別支援教室の先生からのアドバイス。病院の医師からの生活面におけるアドバイスや薬の処方。地元の不登校親の会での対話やアドバイスには今もとても助けられています。
【8. フリースクール等】：自己肯定感・受け入れ
・フリースクールでの毎日の活動。同じ年代の子供たちと触れ合うことでたまに学校へ行ったらときにも臆することなく子供同士のコミュニケーションが取れている。
・フリースクールでの料理の時間が好きで1人で料理ができるようになり、そこから自己肯定感が少し上がりました。
・フリースクールでは、担当の方が疑問や今後のことについて相談に乗ってくれた。フリースクールでの子供の様子も詳しく教えてくれた。精神的に安心できた。
・フリースクールでの、「僕が僕のままで良いんだ」という安心感と自己肯定感は、一生の心の糧だと思っています。
・子供の心に寄り添った対応をしてもらい、安心して通所できるようになっている。
・ごく少ない人数で、安心できる居場所があることがとても有効である。
【9. 子供】：交流・興味・関心・フリースペース
・ありのままを認めてくれる、得意なことを褒めてくれる、自然の中での活動、興味あることに対して寄り添ってくれる。
・フリースペースなど昼間の居場所の提供、放課後などの柔軟な登校支援、課外学習などへの参加。
・子供の興味に合わせて一緒に遊び、興味の幅を広げたりコミュニケーションを取って自己肯定感を高めたり、心を満たす活動をサポートして下さることが有効だと思います。
・フリースクールには時間割がなく、自分の興味・関心のあることを思う存分できるので、行きたい日は自分で準備して自発的に通っています。しばらく通うと、しばらく家で過ごし、家での時間に飽きるとまたしばらく通い始めるスタイルです。いつ行ってもいつもと変わらず受け

入れてもらえる、自分の興味・関心のあることについてサポートしてもらえて思う存分やらせてもらえる、または本人が興味ありそうな物事を提供してもらえるなどの支援がかなり有効です。
・子供のなんとなくの1週間のリズム、1日のリズムが整う気がする。学習の遅れはかなりあるが、まったく学習しない環境からは抜け出せた。家から出るきっかけや、居場所がある安心感、他者との関わりがもてること、気持ちの整理ができたり、認めてもらえたりする環境、生活の仕方過ごし方の策が見えてくるなど。
・フリースクールに通学するようになってから、対人コミュニケーションがうまくいくなりました。少ない人数での社会経験ができていように感じます。
・通級は楽しく通っています。カードゲームが楽しいらしいです。子供の行きたくない気持ちに寄り添ってくれます。親の葛藤にも寄り添ってくれます。
・中学校がすぐにスクールカウンセラーにつなぎ、継続して面談をしたこと。2年生から親友と同じクラスにして学校とのパイプ役を作ってくれたこと。行事に参加できるように配慮してくれたこと。
・学校は我が家の状況をよく聞き取ってくれてありがたかった。フリースペースは細やかな対応がありがたい。学校や教育支援センターの方には、保護者の話を聞いて、どうしたいか寄り添っていただいたことがありがたかったです。学校主導ではなく、一緒に相談に乗ってもらえたことです。フリースペースに関しては我が子の特性に応じて伸ばしてもらえているので言うことなしです。
・週1回、個別で1時間フリースペースのスタッフと少し勉強したり、おしゃべりしたりすることから始まり、フリースペースに自分の居場所ができて信頼できるスタッフや友達に出会えたことで、学校に行かないことが悪いことではないと分かった。

3-9〔9〕12 か月間の縦断的回答に見られる変化の様子：学校通学・教育支援センター（適応指導教室）通室・フリースクール等通所について

この3-9〔9〕から3-13〔13〕までは、12 か月間の縦断的回答に見られる変化の様子について集計・分析したものである（※〔9〕～〔13〕とは、全体構造図（p.30の図2-4-1）の太破線囲み部分の数字に対応）。

12 か月間とは、図2-2-R4の「令和4年度フリースクール等調査のデータ構造と人数」（p.22）に示すように、第Ⅰ・Ⅱ期グループのデータは、第Ⅰ・Ⅱ期に実施の4～9月のデータ、第Ⅲ期に実施の10～12月のデータ、第Ⅳ期実施の1～3月のデータから成る。図2-2-R4に示すように、第Ⅰ・Ⅱ期のデータは、12 か月間にわたって同じ保護者と児童・生徒に回答していただいた結果である。そこで、この第Ⅰ・Ⅱ期グループの対象者の中から、12 か月のデータがそろっている方々を抽出した。その結果、該当したのはN=272人であった。第Ⅰ・Ⅱ期スタート時は、303人であったが、12 か月経過する間に、31人減少していた。以下紹介する分析は、データがそろっている272人を対象とする。

同様に、図2-2-R5の「令和5年度フリースクール等調査のデータ構造と人数」（p.22）に示すように、第Ⅰ期開始のグループは第Ⅰ期の4月から第Ⅳ期の3月までの12 か月間、同じ保護者と児童・生徒に回答していただいた結果である。全ての月に回答いただいた人数は、保護者・児童・生徒とも699人であった。

また、第Ⅳ期の実施時には、第Ⅰ期開始グループから第Ⅳ期開始グループまで、全てのグループの3月時点での結果が集積されている。学年末での保護者や児童・生徒の様子をうかがい知る上でも重要なデータ群と位置付け、分析を行っている。

3-9-1 学校通学・教育支援センター（適応指導教室）通室・フリースクール等通所の割合の月ごとの変化

図3-9-1-R4は、令和4年度での学校の通学・教育支援センター（適応指導教室）の通室・フリースクール等通所の人数の割合を月別に集計した結果をまとめたものである。12 か月間を通して、8月以外は大きな変動がなく、人数割合も、大小順に「フリースクール等」、「学校」、「教育支援センター（適応指導教室）」の状態に変動は見られなかった。

図3-9-1-R5は、令和5年度の結果をまとめたものである。傾向は、令和4年度と同様であったが、令和5年8月のフリースクール等通所者の割合が高めになっていた。ただし、図3-9-2-R5（p.111）では、通所の日数を集計しており、令和5年8月について、フリースクール等通所の日数自体はそれほど多くなかった。

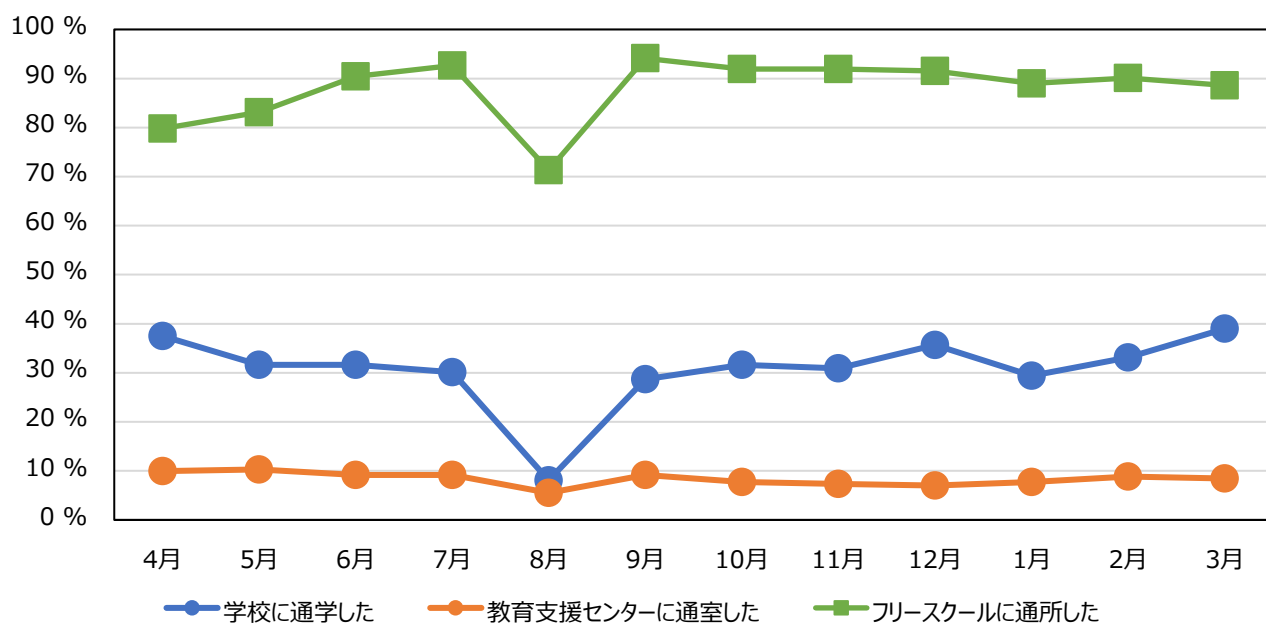


図 3-9-1-R4 学校通学・教育支援センター（適応指導教室）通室・フリースクール等通所の割合（N=272）

図 3-9-1-R4 のデータ表

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学校に通学した	37.5	31.6	31.6	30.1	8.1	28.7	31.6	30.9	35.7	29.4	33.1	39.0
教育支援センターに通室した	9.9	10.3	9.2	9.2	5.5	9.2	7.7	7.4	7.0	7.7	8.8	8.5
フリースクール等に通所した	79.8	83.1	90.4	92.6	71.3	94.1	91.9	91.9	91.5	89.0	90.1	88.6

(%)

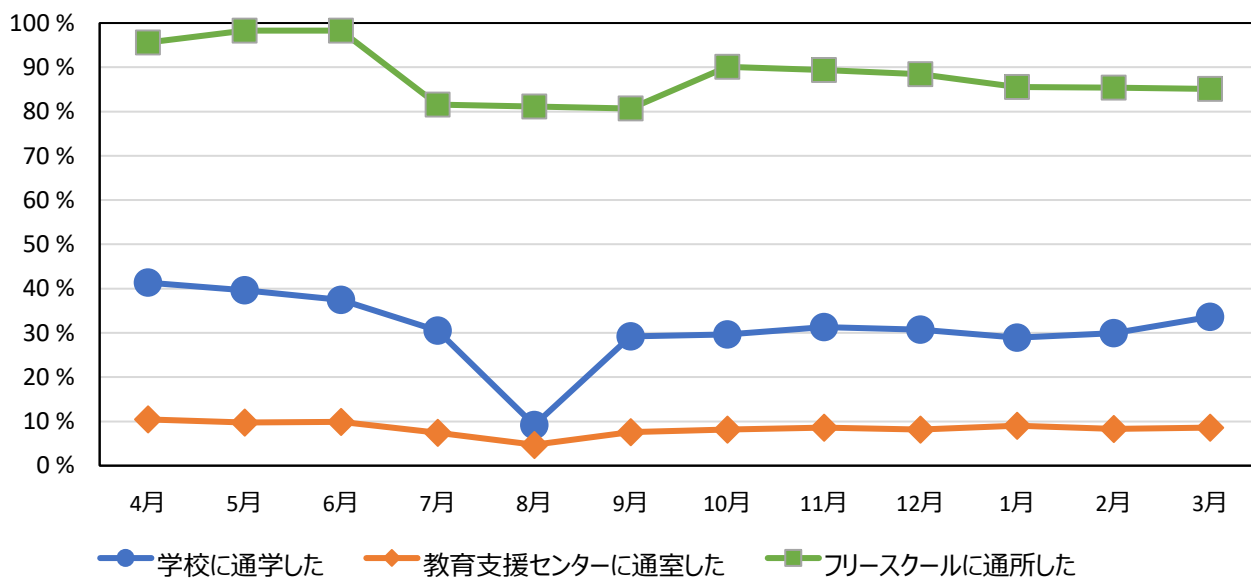


図 3-9-1-R5 学校通学・教育支援センター（適応指導教室）通室・フリースクール等通所の割合（N=699）

図 3-9-1-R5 のデータ表

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学校に通学した	41.3	39.6	37.5	30.5	9.2	29.2	29.6	31.3	30.8	28.9	29.9	33.6
教育支援センターに通室した	10.4	9.7	9.9	7.4	4.7	7.6	8.2	8.6	8.2	9.0	8.3	8.6
フリースクール等に通所した	95.6	98.3	98.3	81.5	81.1	80.7	90.1	89.4	88.4	85.6	85.4	85.1

(%)

3-9-2 学校通学・教育支援センター（適応指導教室）通室・フリースクール等通所の日数の月ごとの変化

次に、学校への通学、教育支援センター（適応指導教室）への通室、フリースクール等への通所が毎月何日程度であるかを令和4年度についてまとめたものが、図3-9-2-R4である。大きな傾向としては、通学・通室・通所とも、日数の違いはあるものの、変動のパターンはおおむね類似した傾向にあった。ただし、学校への通学日数については、4月から7月にかけて減少していた。これは令和5年度でも同様の特徴が見られた。

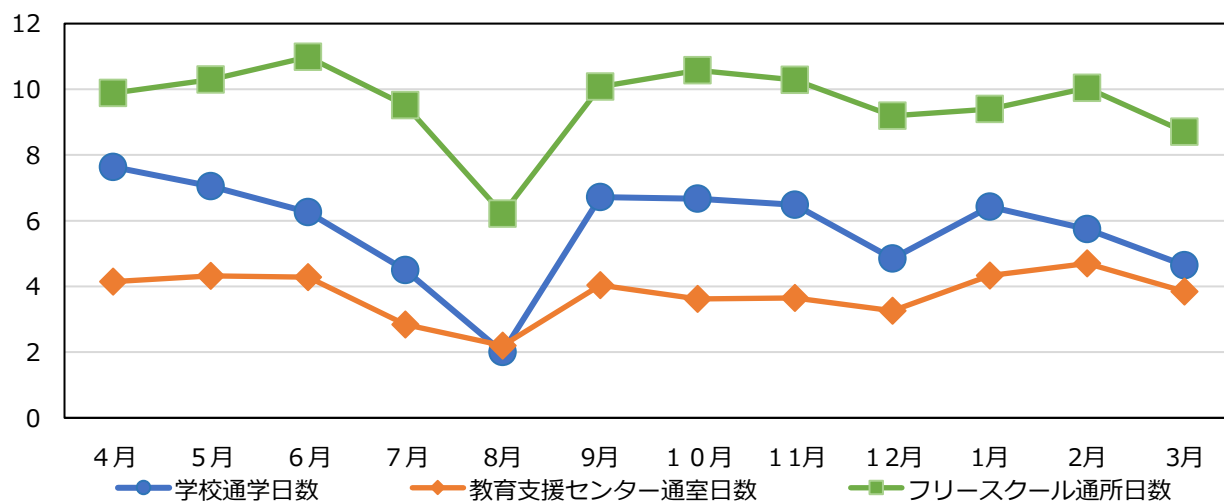


図 3-9-2-R4 学校通学・教育支援センター（適応指導教室）通室・フリースクール等通所月別日数（平均）（N=272）

図 3-9-2-R4 のデータ表

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学校通学日数	7.6	7.0	6.3	4.5	2.0	6.7	6.7	6.5	4.8	6.4	5.7	4.6
教育支援センター通室日数	4.1	4.3	4.3	2.8	2.2	4.0	3.6	3.7	3.3	4.3	4.7	3.8
フリースクール等通所日数	9.9	10.3	11.0	9.5	6.2	10.1	10.6	10.3	9.2	9.4	10.0	8.7

（日）

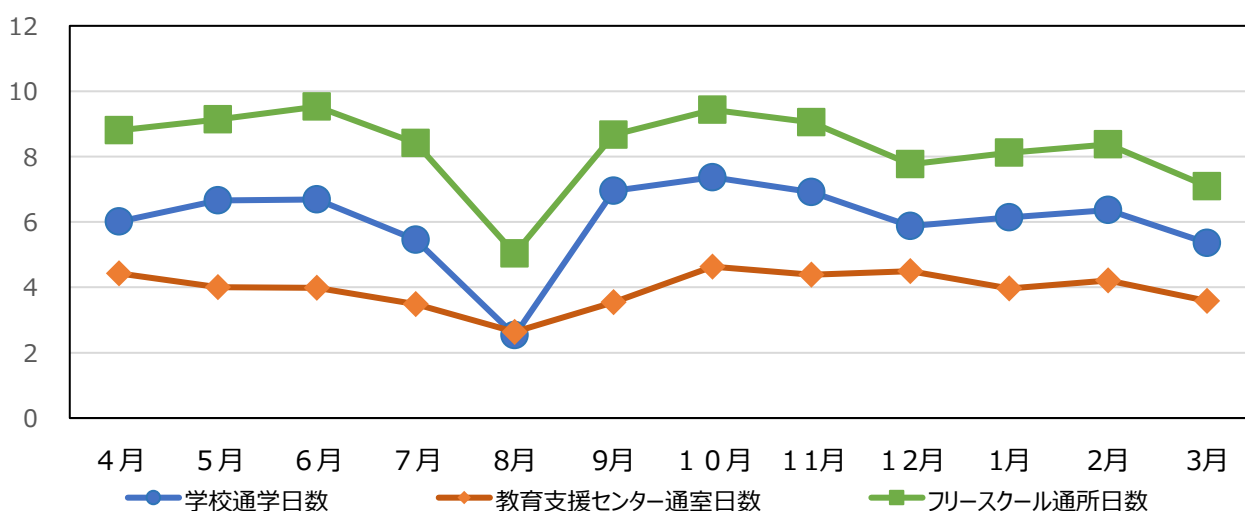


図 3-9-2-R5 学校通学・教育支援センター（適応指導教室）通室・フリースクール等通所月別日数（平均）（N=699）

図 3-9-2-R5 のデータ表

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学校通学日数	6.0	6.7	6.7	5.5	2.5	7.0	7.4	6.9	5.9	6.1	6.4	5.4
教育支援センター通室日数	4.4	4.0	4.0	3.5	2.6	3.5	4.6	4.4	4.5	4.0	4.2	3.6
フリースクール等通所日数	8.8	9.1	9.5	8.4	5.0	8.7	9.4	9.0	7.8	8.1	8.4	7.1

（日）

3-10〔10〕12か月間の縦断的回答に見られる変化の様子：学校

3-10-1 学校での活動内容

保護者定期の質問項目 Q16、Q32、Q48 などにより、学校の活動内容について質問した結果が、図 3-10-1-R4 及び図 3-10-1-R5 である。回答は複数回答可である。また、各月で学校に通学した児童・生徒の人数は、それぞれ図 3-10-1-R4 データ表と図 3-10-1-R5 データ表に示した。

令和4年度は、8月に「⑤面談」の選択率が多くなる以外はほぼ同じような選択率であったが、4月から7月にかけて「①個別学習」と「⑤面談」が増加する傾向が見られ、1月から3月にかけては「③行事への参加」と「⑤面談」が増える傾向が見られた。

令和5年度は、令和4年度と比べて、8月の「②学級での授業や活動」の選択率の低下がそれほど大きくなく、逆に「⑤面談」の選択率は少なかった。令和4年度と異なり、6月は全ての選択肢の選択率が減少していた。

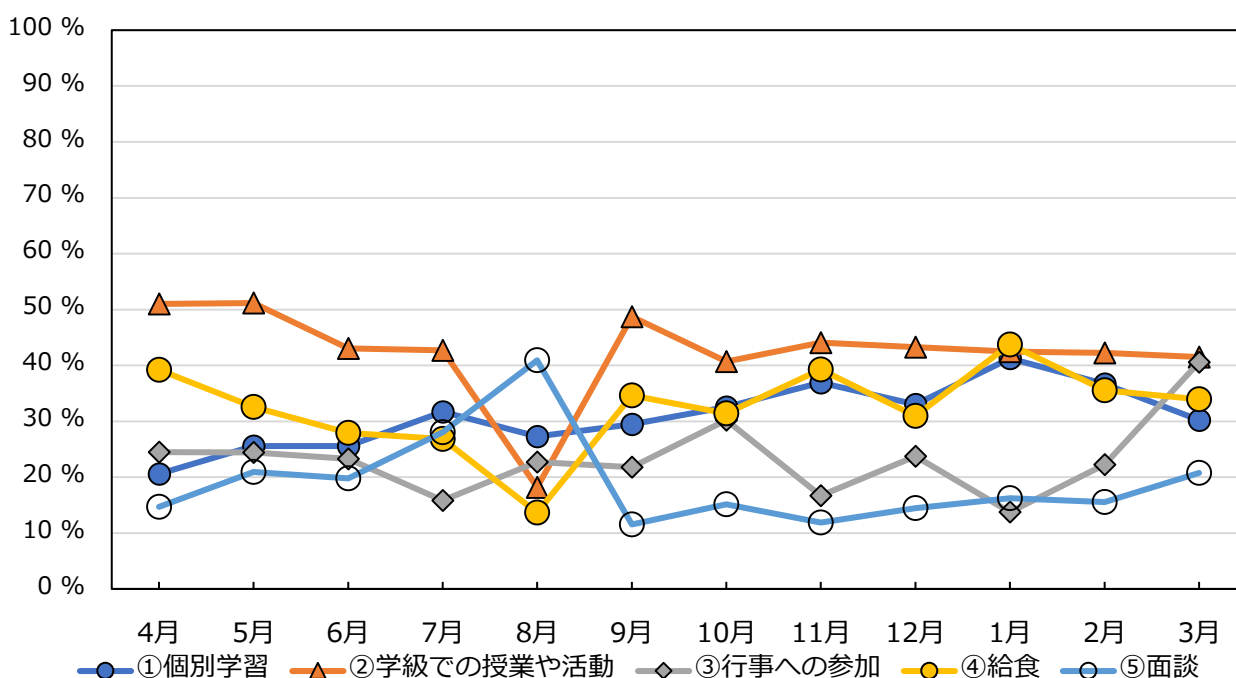


図 3-10-1-R4 月ごとの学校での活動内容（①～⑤の単位は選択率（%））

図 3-10-1-R4 のデータ表

月	通学有り	通学有り%	①個別学習	②学級での授業や活動	③行事への参加	④給食	⑤面談
4月	102	37.5	20.6	51.0	24.5	39.2	14.7
5月	86	31.6	25.6	51.2	24.4	32.6	20.9
6月	86	31.6	25.6	43.0	23.3	27.9	19.8
7月	82	30.1	31.7	42.7	15.9	26.8	28.0
8月	22	8.1	27.3	18.2	22.7	13.6	40.9
9月	78	28.7	29.5	48.7	21.8	34.6	11.5
10月	86	31.6	32.6	40.7	30.2	31.4	15.1
11月	84	30.9	36.9	44.0	16.7	39.3	11.9
12月	97	35.7	33.0	43.3	23.7	30.9	14.4
1月	80	29.4	41.3	42.5	13.8	43.8	16.3
2月	90	33.1	36.7	42.2	22.2	35.6	15.6
3月	106	39.0	30.2	41.5	40.6	34.0	20.8

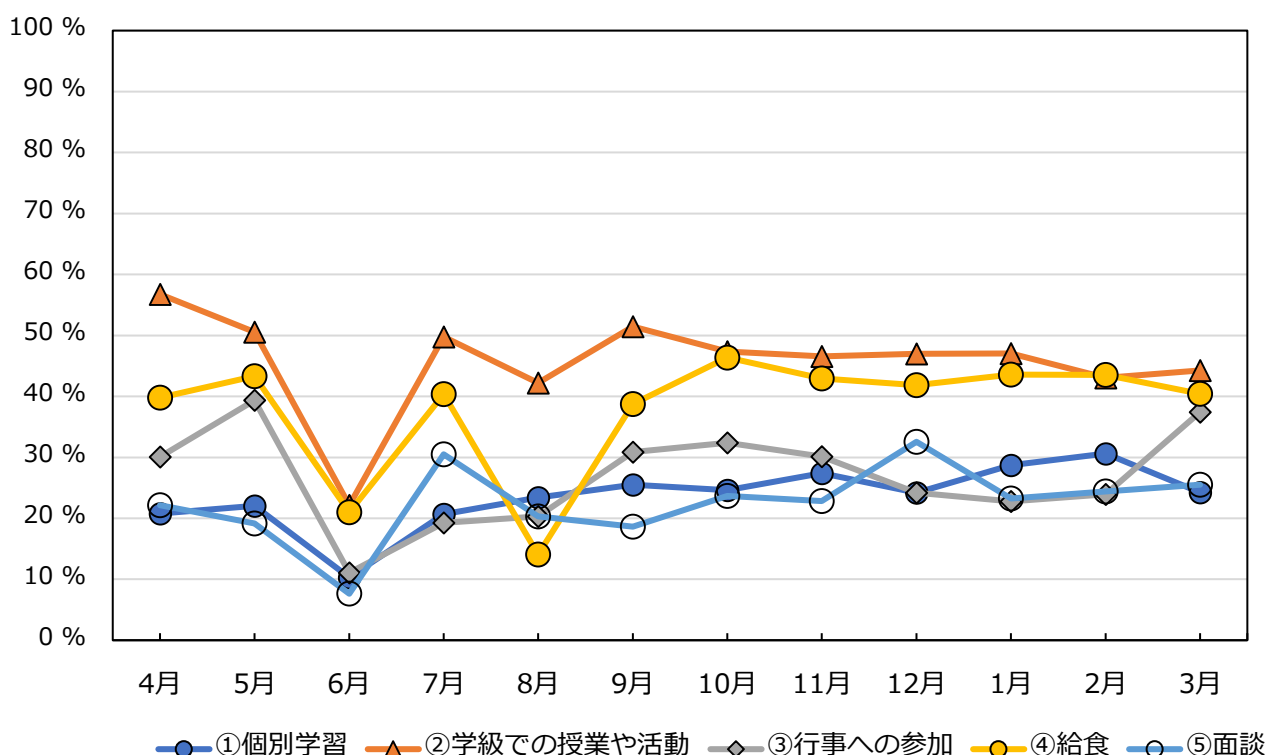


図 3-10-1-R5 月ごとの学校での活動内容 (①～⑤の単位は選択率 (%))

図 3-10-1-R5 のデータ表

月	通学有り	通学有り%	①個別学習	②学級での授業や活動	③行事への参加	④給食	⑤面談
4月	289	43.3	20.8	56.7	30.1	39.8	22.1
5月	277	40.3	22.0	50.5	39.4	43.3	19.1
6月	262	38.1	10.3	22.1	11.1	21.0	7.6
7月	213	37.4	20.7	49.8	19.2	40.4	30.5
8月	64	11.3	23.4	42.2	20.3	14.1	20.3
9月	204	36.2	25.5	51.5	30.9	38.7	18.6
10月	207	32.9	24.6	47.3	32.4	46.4	23.7
11月	219	35.0	27.4	46.6	30.1	42.9	22.8
12月	215	34.8	24.2	47.0	24.2	41.9	32.6
1月	202	33.8	28.7	47.0	22.8	43.6	23.3
2月	209	35.0	30.6	43.1	23.9	43.5	24.4
3月	235	39.5	24.3	44.3	37.4	40.4	25.5

3-10-2 居心地感の変化

学校の居心地感尺度 (10 項目) について、同一児童・生徒に、4 月、10 月、3 月の 6 か月おきに 3 回にわたって質問した。回答は「思う (5 点)」から「思わない (1 点)」までの 5 件法であった。

校種ごとに 4 月、10 月、3 月の結果をまとめたものが、令和 4 年度は図 3-10-2-R4、令和 5 年度は図 3-10-2-R5 である。なお、令和 4 年度は、各月に学校へ通学した児童・生徒に回答を求めたため、回答者数が月によって異なっている。一方、令和 5 年度は、学校への通学の有無に関わらず、回答を求めたため、回答者数は一定だった。

令和 4 年度は、小学生も中学生も 4 月から 10 月にかけて全ての項目の平均点が上昇する傾向が見られた。また、10 月では値の上下幅が大きくなっているが、3 月では幅が小さく、項目間での平均点の違いが少なくなっていた。一方、

中学生は、10月から3月にかけて全項目で平均値が下降していた。

令和5年度は、令和4年度と大きく異なり、小学生も中学生も4月から10月にかけて平均点が下降気味であった。そして、3月になると全体的に平均値の上昇傾向が見られた。

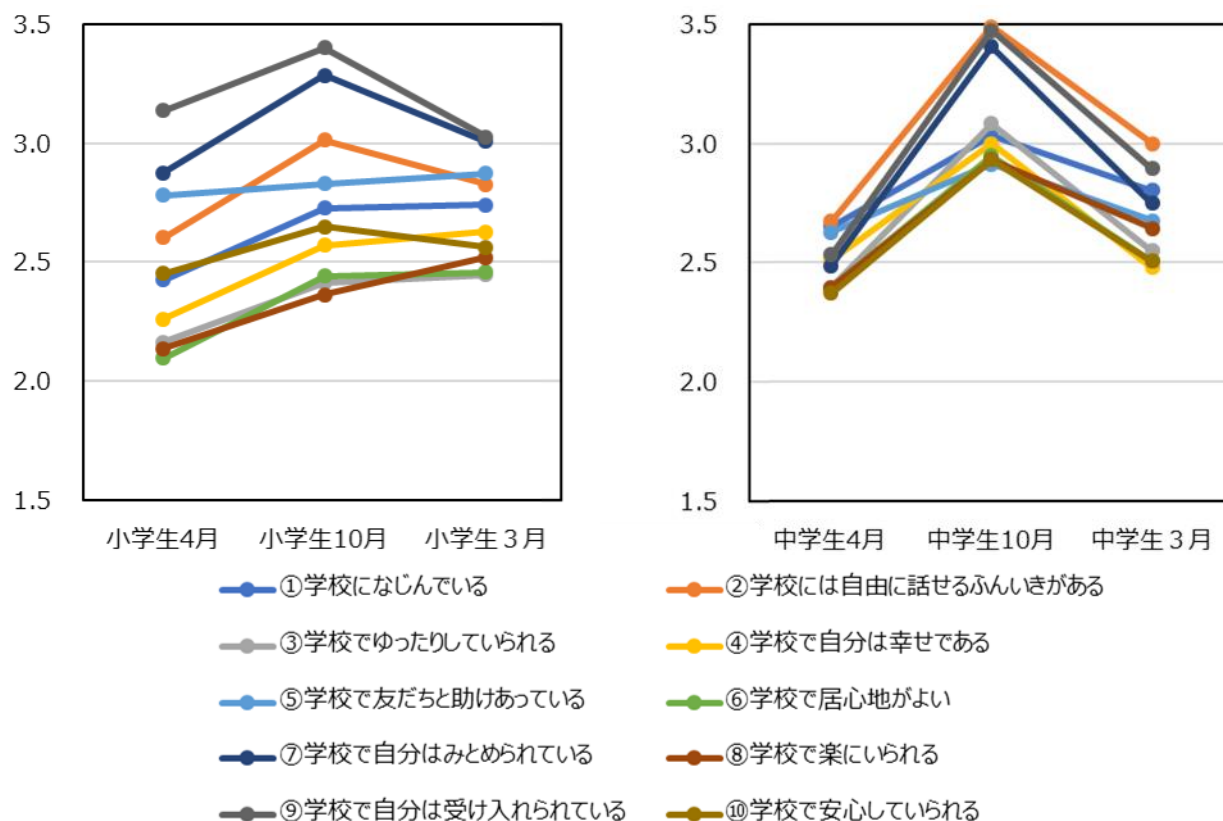


図3-10-2-R4 学校の居心地感尺度の月別変化（5段階得点：平均）小中別

図3-10-2-R4 のデータ表

項目	小学生			中学生		
	4月	10月	3月	4月	10月	3月
①学校になじんでいる	2.42	2.73	2.74	2.65	3.03	2.80
②学校には自由に話せるふんいきがある	2.60	3.01	2.83	2.67	3.49	3.00
③学校でゆったりしていただける	2.16	2.42	2.45	2.40	3.08	2.55
④学校で自分は幸せである	2.26	2.57	2.63	2.51	3.00	2.48
⑤学校で友だちと助けあっている	2.78	2.83	2.87	2.63	2.92	2.68
⑥学校で居心地がよい	2.10	2.44	2.46	2.40	2.95	2.51
⑦学校で自分はみつめられている	2.88	3.29	3.01	2.49	3.41	2.75
⑧学校で楽にいただける	2.14	2.36	2.52	2.40	2.93	2.64
⑨学校で自分は受け入れられている	3.14	3.40	3.03	2.53	3.47	2.89
⑩学校で安心していただける	2.45	2.65	2.56	2.37	2.93	2.51
N	73	77	104	43	59	76

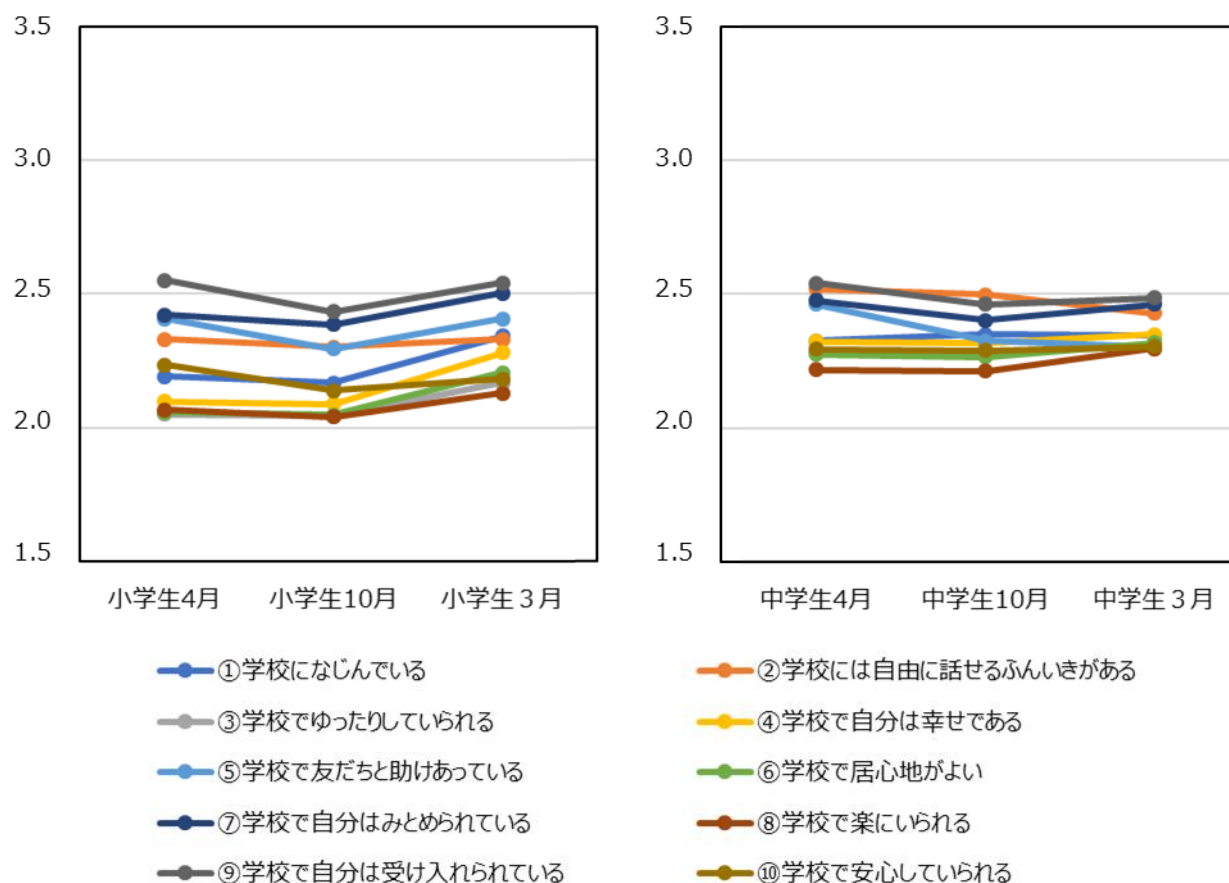


図 3-10-2-R5 学校の居心地感尺度の月別変化（5段階得点：平均）小中別

図 3-10-2-R5 のデータ表

項目	小学生			中学生		
	4月	10月	3月	4月	10月	3月
①学校になじんでいる	2.19	2.17	2.34	2.33	2.35	2.35
②学校には自由に話せるふんいきがある	2.33	2.30	2.33	2.52	2.50	2.43
③学校でゆったりしていただける	2.05	2.04	2.17	2.28	2.28	2.31
④学校で自分は幸せである	2.10	2.09	2.28	2.32	2.32	2.35
⑤学校で友だちと助けあっている	2.41	2.29	2.41	2.46	2.33	2.30
⑥学校で居心地がよい	2.06	2.05	2.21	2.28	2.27	2.32
⑦学校で自分はみとめられている	2.42	2.39	2.50	2.48	2.40	2.46
⑧学校で楽にいただける	2.07	2.04	2.13	2.22	2.21	2.30
⑨学校で自分は受け入れられている	2.55	2.43	2.54	2.54	2.46	2.49
⑩学校で安心していただける	2.24	2.14	2.18	2.29	2.29	2.31
N	292	292	292	275	275	275

3-10-3 学校の先生からの関わりの変化

児童・生徒は、学校の先生からの関わりをどのように捉えているかについて、「支援者からの関わり質問（早川・松添・小林・大月，2020）」によって調査している。調査は、4 概念 2 項目ずつで計 8 項目からなる。概念は、「①② 肯定的関わり」、「③④存在受容」、「⑤⑥主体性の育成」、「⑦⑧主張性の育成」で、この順序で 2 項目ずつ質問している。加えて、「⑨どれにもあてはまらない」の項目を設けて、9 項目構成である。

本報告では、既に、p.47 の 3-2（5）で児童・生徒の初回調査時点における学校の先生からの関わり、p.79 の 3-4-3（5）で児童・生徒の初回調査時点におけるフリースクール等の支援者との関わりについて結果を示した。そこで、この 3-10-3 では、学校の先生からの関わりの捉え方が 12 か月間でどのように変化したのかを検討した。

図 3-10-3-R4 は、項目ごとの選択率（「あてはまる」と回答）を月別に集計した。なお、N は、学校の先生と連絡を取った児童・生徒の人数であり、表 3-10-3-R4 に示した。

図 3-10-3-R4 から、特徴的なのは、7 月と 12 月が前後の月よりも選択率が増加し、特に「①自由に話しやすいようなふんいきにしてくれる」が大きく増加する傾向が見られた。また、その他の項目についても、おおむね類似したパターンで変動していた。一方、「⑨どれにもあてはまらない」については、時間が経過するにつれ減少していき、3 月には 4 月の半分以下になっていた。

図 3-10-3-R4 より、選択数を 4 概念間で比較すると、大まかに、「①②肯定的関わり」>「③④存在受容」>「⑤⑥主体性の育成」>「⑦⑧主張性の育成」の順であった。月による変化の特徴では、7 月と 12 月で 4 概念の全てが増加していた。

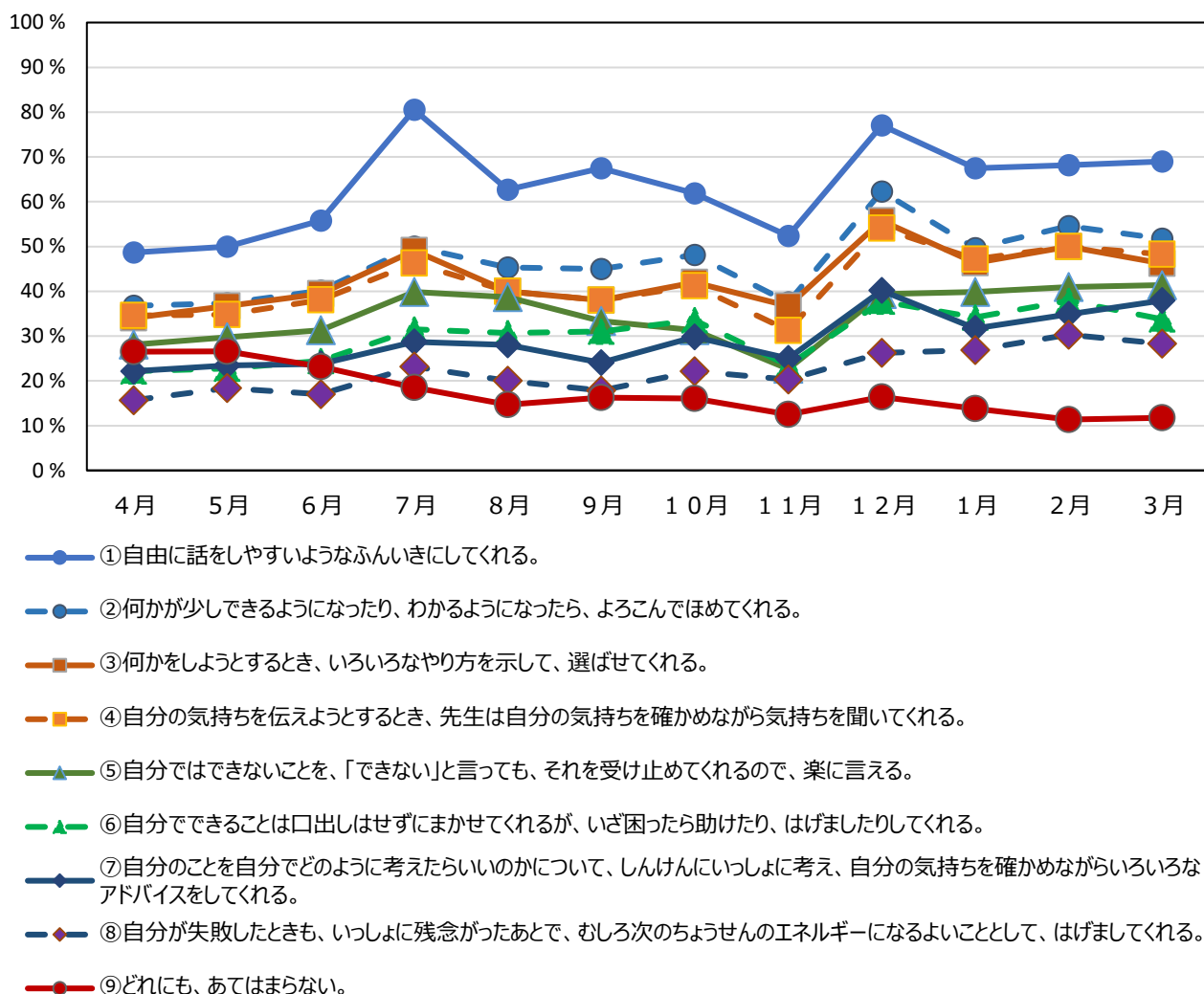


図 3-10-3-R4 学校の先生からの関わり項目の選択数の変化 (%) (N は表 3-10-3-R4)

図 3-10-3-R4 のデータ表

支援者からの関わりの質問項目		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
肯定的関わり	①自由に話をしやすいようなふんいきにしてくれる。	48.6	50.0	55.8	80.6	62.7	67.4	61.8	52.3	77.0	67.5	68.2	69.0
	②何かが少しできるようになったり、わかるようになったら、よろこんでほめてくれる。	36.8	37.3	40.1	50.0	45.3	45.0	48.1	37.5	62.3	49.6	54.5	51.7
存在受容	③何かをしようとするとき、いろいろなやり方を示して、選ばせてくれる。	34.1	36.7	39.5	49.1	40.0	38.0	42.0	36.7	55.7	46.3	50.0	46.2
	④自分の気持ちを伝えようとするとき、先生は自分の気持ちを確かめながら気持ちを聞いてくれる。	34.6	34.8	38.1	46.3	40.0	38.0	41.2	31.3	54.1	47.2	50.0	48.3
主体性の育成	⑤自分ではできないことを、「できない」と言っても、それを受け止めてくれるので、楽に言える。	28.1	29.7	31.3	39.8	38.7	33.3	31.3	22.7	39.3	39.8	40.9	41.4
	⑥自分でできることは口出しはせずにかまかせてくれるが、いざ困ったら助けたり、はげましたりしてくれる。	22.2	22.8	24.5	31.5	30.7	31.0	33.6	23.4	37.7	34.1	37.9	33.8
主張性の育成	⑦自分のことを自分でどのように考えたらいいのかについて、しんけんにいっしょに考え、自分の気持ちを確かめながらいろいろなアドバイスをしてくれる。	22.2	23.4	23.8	28.7	28.0	24.0	29.8	25.0	40.2	31.7	34.8	37.9
	⑧自分が失敗したときも、いっしょに残念がったあとで、むしろ次のちようせんのエネルギーになるよいこととして、はげましてくれる。	15.7	18.4	17.0	23.1	20.0	17.8	22.1	20.3	26.2	26.8	30.3	28.3
	⑨どれにも、あてはまらない。	26.5	26.6	23.1	18.5	14.7	16.3	16.0	12.5	16.4	13.8	11.4	11.7
N (児童・生徒からの回答で、「登校した」及び「連絡した」の人数)		185	158	147	108	75	129	131	128	122	123	132	145

一方、令和 5 年度の結果は、次の図 3-10-3-R5 に示すように、令和 4 年度とは異なり、7 月や 12 月での選択率の上昇が見られなかった。むしろ、時間が経過するにしたがって、徐々に増加していく傾向が見られた。また、「⑨どれにもあてはまらない」については、時間が経過するにつれ徐々に減少しており、令和 4 年度と同じ傾向であった。

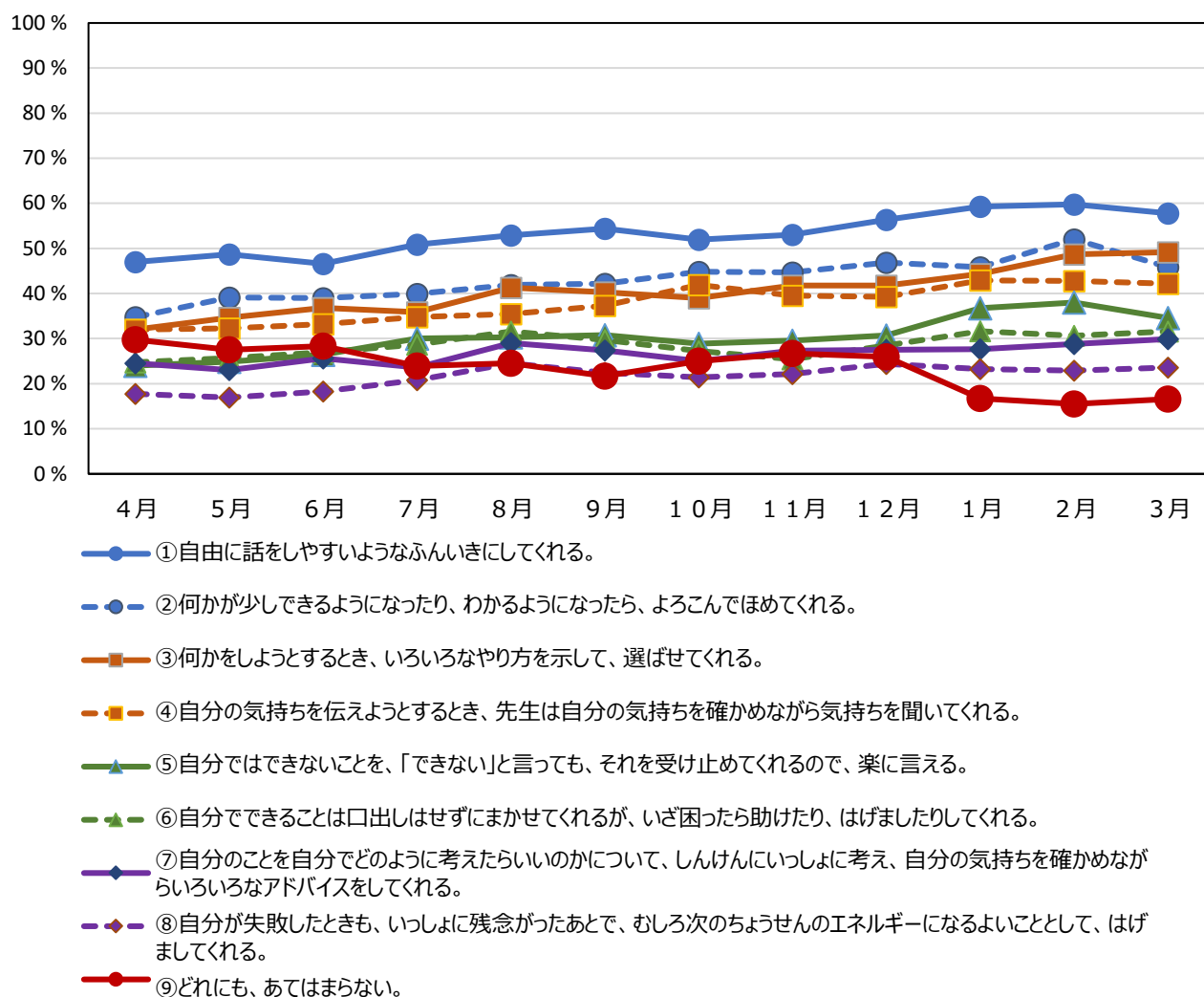


図 3-10-3-R5 学校の先生からの関わり項目の選択数の変化 (%) (N は表 3-10-3-R5)

図 3-10-3-R5 のデータ表

支援者からの関わりの質問項目		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
肯定的関わり	①自由に話をしやすいようなふんいきにしてくれる。	47.0	48.7	46.6	50.9	52.9	54.4	51.9	53.1	56.3	59.3	59.8	57.8
	②何かが少しできるようになったり、わかるようになったら、よろこんでほめてくれる。	34.8	39.2	39.0	39.9	41.9	42.2	44.8	44.7	46.8	45.8	52.0	45.8
存在受容	③何かをしようとするとき、いろいろなやり方を示して、選ばせてくれる。	32.0	34.7	36.8	35.8	41.3	40.3	39.0	41.8	41.8	44.4	48.7	49.2
	④自分の気持ちを伝えようとするとき、先生は自分の気持ちを確かめながら気持ちを聞いてくれる。	32.0	32.3	33.2	34.8	35.5	37.3	41.9	39.5	39.2	42.9	42.8	42.2
主体性の育成	⑤自分ではできないことを、「できない」と言っても、それを受け止めてくれるので、楽に言える。	24.0	24.9	26.4	30.0	30.3	30.8	28.9	29.6	30.7	36.7	38.0	34.6
	⑥自分でできることは口出しはせずまかせてくれるが、いざ困ったら助けたり、はげましたりしてくれる。	24.8	25.7	27.0	28.7	31.6	29.7	27.3	25.4	28.5	31.6	30.6	31.6
主張性の育成	⑦自分のことを自分でどのように考えたらいいのかについて、しんけんにいっしょに考え、自分の気持ちを確かめながらいろいろなアドバイスをしてくれる。	24.5	23.0	25.6	23.5	29.0	27.4	25.0	27.3	27.5	27.6	28.8	29.9
	⑧自分が失敗したときも、いっしょに残念がったあとで、むしろ次のちようせんのエネルギーになるよいこととして、はげましてくれる。	17.8	16.9	18.3	20.8	24.5	22.4	21.4	22.2	24.4	23.3	22.9	23.6
	⑨どれにも、あてはまらない。	29.8	27.5	28.3	23.9	24.5	21.7	25.0	26.7	25.9	16.7	15.5	16.6
N (児童・生徒からの回答で、「登校した」及び「連絡した」の人数)		400	378	367	293	155	263	308	311	316	275	271	301

3-11〔11〕12か月間の縦断的回答に見られる変化の様子：教育支援センター（適応指導教室）

3-11-1 教育支援センター（適応指導教室）の活動内容

教育支援センター（適応指導教室）での活動内容について、保護者からの回答を基に令和4年度の結果をまとめたものが、図3-11-1-R4である。図3-11-1-R4に示すように、教育支援センター（適応指導教室）への通室人数はほぼ10%以下であった。

結果を見ると、月によって大きく変動し、4月、5月時点では「①個別学習」と「⑤面談」がほとんどだったのが、9月頃を境に多様な活動が行われるようになり、学級での活動や行事への参加が徐々が増えてくる傾向が見られた。

続いて令和5年度の結果は、図3-11-1-R5のとおりである。令和4年度の結果と比べると、各月の活動内容のバランスが比較的安定していると言える。

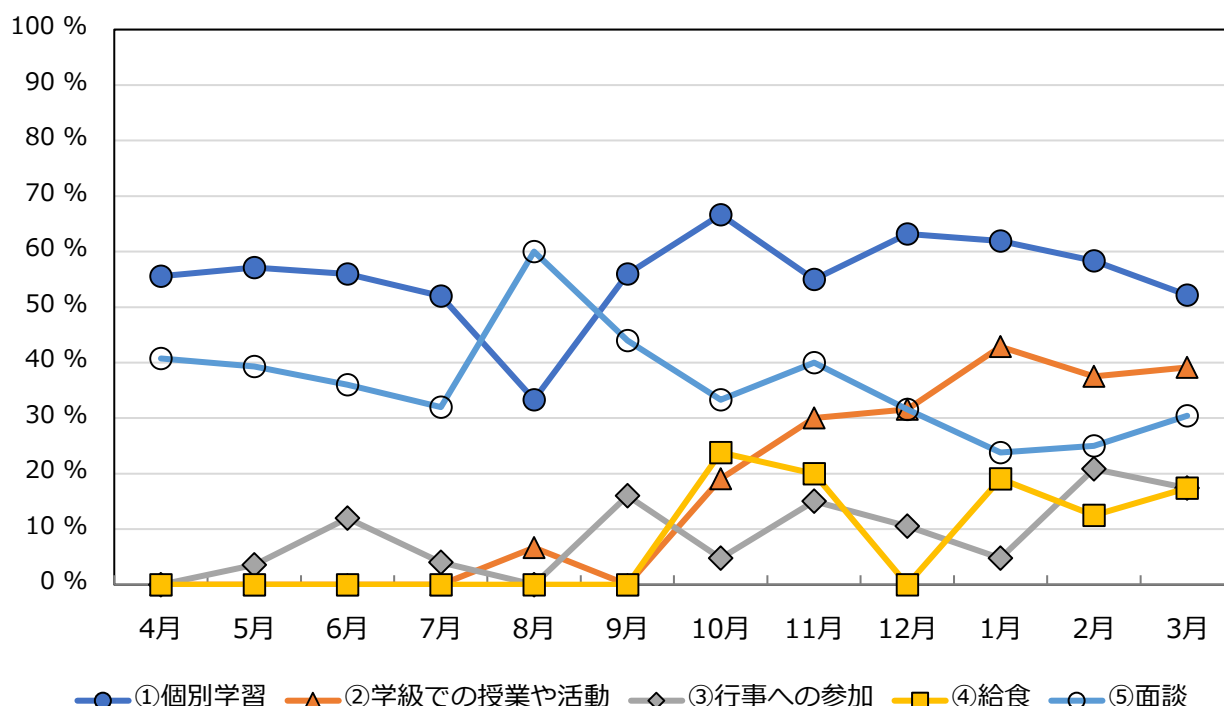


図 3-11-1-R4 教育支援センター（適応指導教室）での活動内容の変化（複数回答）

図 3-11-1-R4 のデータ表

	通室有り	%	①個別学習	②学級での授業や活動	③行事への参加	④給食	⑤面談
4月	27	9.9	55.6	0.0	0.0	0.0	40.7
5月	28	10.3	57.1	0.0	3.6	0.0	39.3
6月	25	9.2	56.0	0.0	12.0	0.0	36.0
7月	25	9.2	52.0	0.0	4.0	0.0	32.0
8月	15	5.5	33.3	6.7	0.0	0.0	60.0
9月	25	9.2	56.0	0.0	16.0	0.0	44.0
10月	21	7.7	66.7	19.0	4.8	23.8	33.3
11月	20	7.4	55.0	30.0	15.0	20.0	40.0
12月	19	7.0	63.2	31.6	10.5	0.0	31.6
1月	21	7.7	61.9	42.9	4.8	19.0	23.8
2月	24	8.8	58.3	37.5	20.8	12.5	25.0
3月	23	8.5	52.2	39.1	17.4	17.4	30.4

%欄はN=272に対する通室者の割合

表内数値は通室有りの人数に対する割合

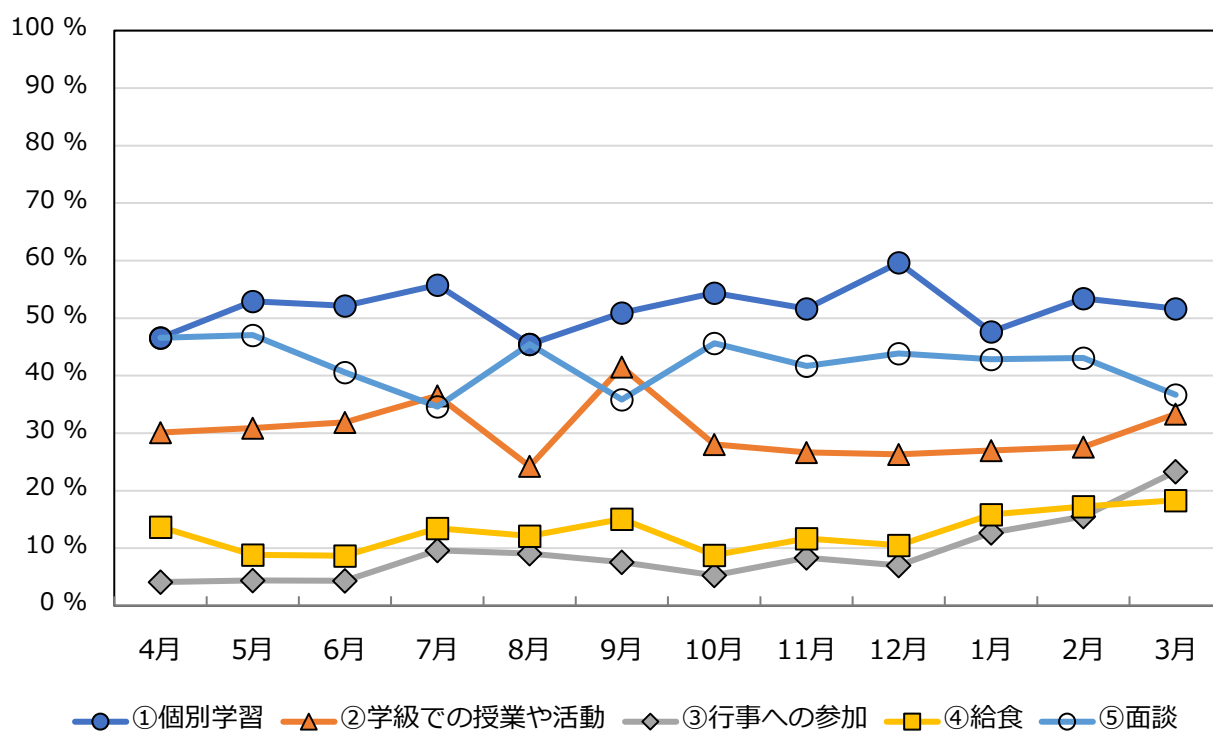


図 3-11-1-R5 教育支援センター（適応指導教室）での活動内容の変化

図 3-11-1-R5 のデータ表

	通室有り	%	①個別学習	②学級での授業や活動	③行事への参加	④給食	⑤面談
4月	73	10.4	46.6	30.1	4.1	13.7	46.6
5月	68	9.7	52.9	30.9	4.4	8.8	47.1
6月	69	9.9	52.2	31.9	4.3	8.7	40.6
7月	52	7.4	55.8	36.5	9.6	13.5	34.6
8月	33	4.7	45.5	24.2	9.1	12.1	45.5
9月	53	7.6	50.9	41.5	7.5	15.1	35.8
10月	57	8.2	54.4	28.1	5.3	8.8	45.6
11月	60	8.6	51.7	26.7	8.3	11.7	41.7
12月	57	8.2	59.6	26.3	7.0	10.5	43.9
1月	63	9.0	47.6	27.0	12.7	15.9	42.9
2月	58	8.3	53.4	27.6	15.5	17.2	43.1
3月	60	8.6	51.7	33.3	23.3	18.3	36.7

%欄はN=699に対する通室者の割合

表内数値は通室有りの人数に対する割合

3-12〔12〕 12 か月間の縦断的回答に見られる変化の様子：フリースクール等

3-12-1 フリースクール等の活動内容

保護者定期の回答より、保護者は、フリースクール等で行われている活動についてどのように認識しているかを集計したものである。調査で保護者の方に回答いただいた質問項目の選択肢は 16 種類（その他を含む）であったので、その中から出現頻度が多かった 8 選択肢の選択結果をまとめたのが、令和 4 年度は図 3-12-1-R4、令和 5 年度は図 3-12-1-R5 である。

令和 4 年度の結果は、図に示すように、フリースクール等では主にどのような活動が多く行われているかの捉え方は、年間を通じてほとんど変化が見られなかった。「④個人の興味関心に基づく活動」はほぼ 60%以上、「⑤子供たちによるミーティング」はほぼ 40%以上であった。また、令和 5 年度の結果も、令和 4 年度とほぼ同様の傾向であった。

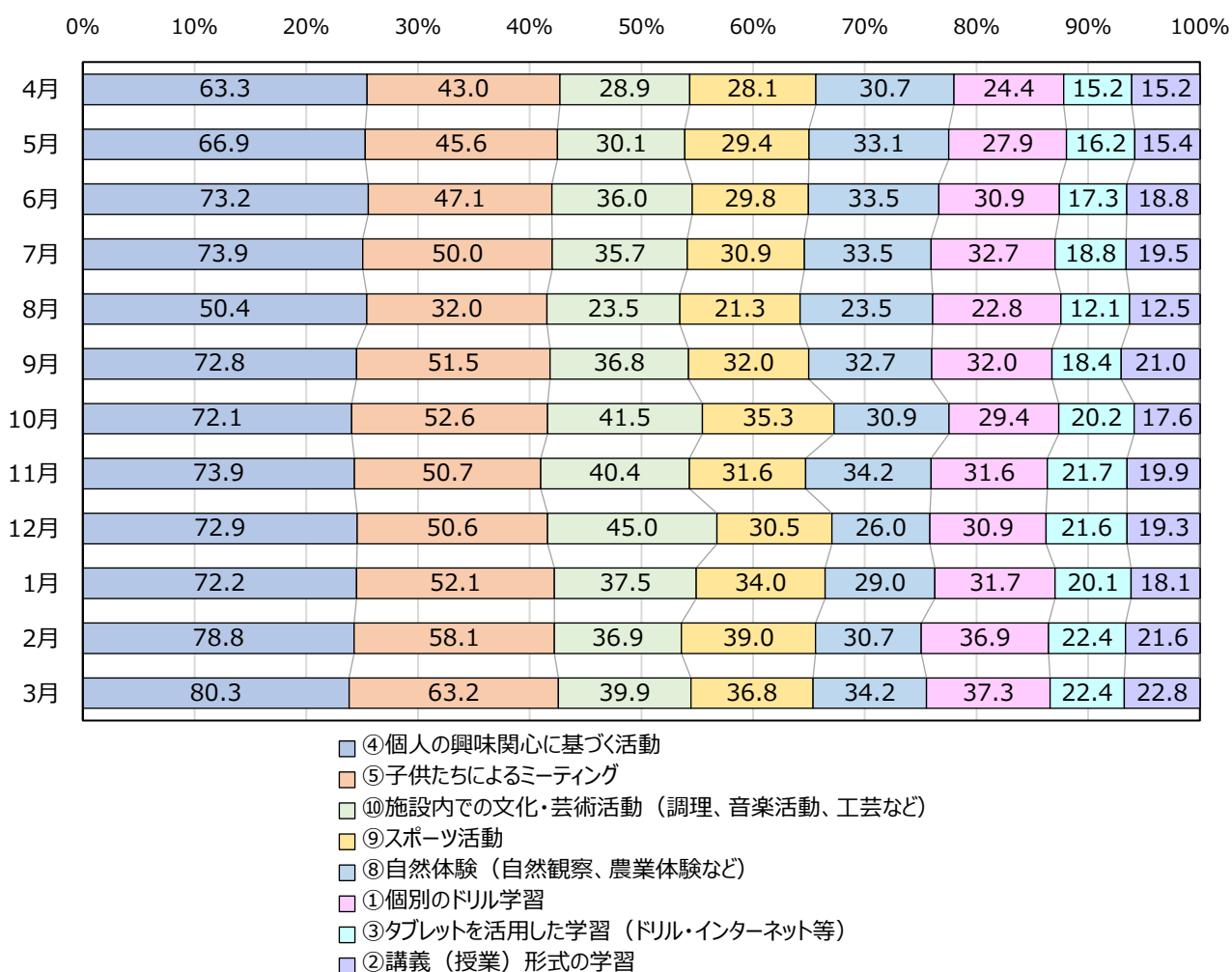


図 3-12-1-R4 フリースクール等での活動内容（保護者定期より）（※図には、選択数が多い順に 8 種を示した。）

図 3-12-1-R4 のデータ表

	通 所 有 リ フ リ ー ス	(%)	④個人の興味関心に基づく活動	⑤子供たちによるミーティング	⑩施設内での文化・芸術活動（調理、音楽活動、工芸など）	⑨スポーツ活動	⑧自然体験（自然観察、農業体験など）	①個別のドリル学習	③タブレットを活用した学習（ドリル・インターネット等）	②講義（授業）形式の学習
4月	270	99.3	63.3	43.0	28.9	28.1	30.7	24.4	15.2	15.2
5月	272	100.0	66.9	45.6	30.1	29.4	33.1	27.9	16.2	15.4
6月	272	100.0	73.2	47.1	36.0	29.8	33.5	30.9	17.3	18.8
7月	272	100.0	73.9	50.0	35.7	30.9	33.5	32.7	18.8	19.5
8月	272	100.0	50.4	32.0	23.5	21.3	23.5	22.8	12.1	12.5
9月	272	100.0	72.8	51.5	36.8	32.0	32.7	32.0	18.4	21.0
10月	272	100.0	72.1	52.6	41.5	35.3	30.9	29.4	20.2	17.6
11月	272	100.0	73.9	50.7	40.4	31.6	34.2	31.6	21.7	19.9
12月	269	98.9	72.9	50.6	45.0	30.5	26.0	30.9	21.6	19.3
1月	259	95.2	72.2	52.1	37.5	34.0	29.0	31.7	20.1	18.1
2月	241	88.6	78.8	58.1	36.9	39.0	30.7	36.9	22.4	21.6
3月	228	83.8	80.3	63.2	39.9	36.8	34.2	37.3	22.4	22.8

※表内%の分母は「フリースクール通所有り」の人数である

※16種類のフリースクール活動選択肢のうち、選択数が多かった上位8種

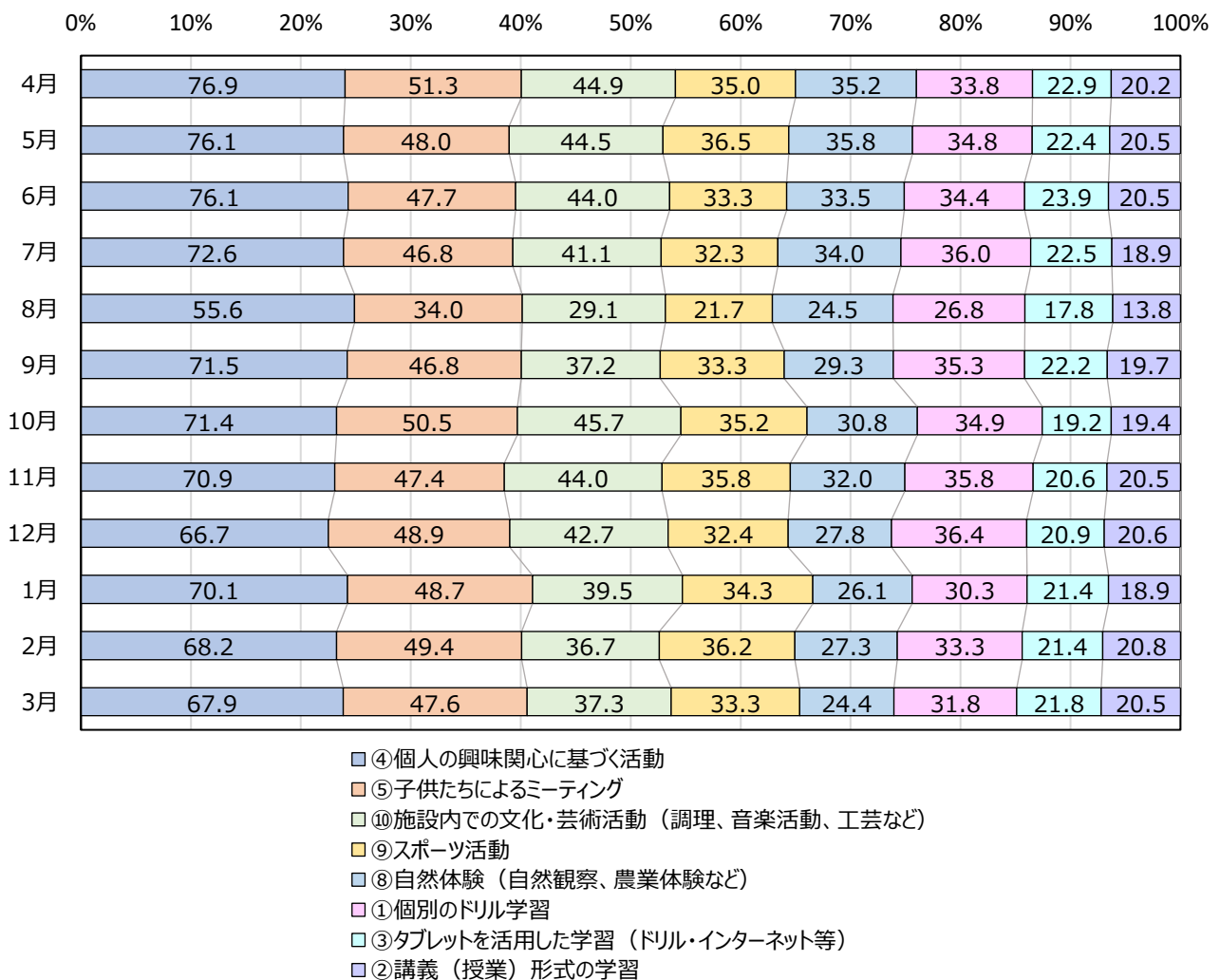


図 3-12-1-R5 フリースクール等での活動内容（保護者定期より）（※図には、選択数が多い順に8種示した。）

図 3-12-1-R5 のデータ表

	通 所 有 リ	フ リ ー ス ク ー ル	(%)	④個人の興 味関心に基 づく活動	⑤子供たち によるミー ティング	⑩施設内 での文化・芸 術活動 (調理、音 楽活動、工 芸など)	⑨スポーツ 活動	⑧自然体 験(自然 観察、農業 体験など)	①個別のド リル学習	③タブレット を活用した 学習(ドリ ル・インター ネット等)	②講義 (授業) 形式の学習
4月	668		94.9	76.9	51.3	44.9	35.0	35.2	33.8	22.9	20.2
5月	687		97.6	76.1	48.0	44.5	36.5	35.8	34.8	22.4	20.5
6月	687		97.6	76.1	47.7	44.0	33.3	33.5	34.4	23.9	20.5
7月	570		81.0	72.6	46.8	41.1	32.3	34.0	36.0	22.5	18.9
8月	567		80.5	55.6	34.0	29.1	21.7	24.5	26.8	17.8	13.8
9月	564		80.1	71.5	46.8	37.2	33.3	29.3	35.3	22.2	19.7
10月	630		89.5	71.4	50.5	45.7	35.2	30.8	34.9	19.2	19.4
11月	625		88.8	70.9	47.4	44.0	35.8	32.0	35.8	20.6	20.5
12月	618		87.8	66.7	48.9	42.7	32.4	27.8	36.4	20.9	20.6
1月	598		84.9	70.1	48.7	39.5	34.3	26.1	30.3	21.4	18.9
2月	597		84.8	68.2	49.4	36.7	36.2	27.3	33.3	21.4	20.8
3月	595		84.5	67.9	47.6	37.3	33.3	24.4	31.8	21.8	20.5

※表内%の分母は「フリースクール通所有り」の人数である

※16種類のフリースクール活動選択肢のうち、選択数が多かった上位8種

3-12-2 フリースクール等で児童・生徒が興味や楽しさを感じた活動内容

児童・生徒の定期調査にて、フリースクール等で興味や楽しさを感じた活動の第1位～第3位を選択してもらった。そのうち、各月で児童・生徒が第1位に選んだ項目を集計し、その変化をまとめたのが図 3-12-2-R4 及び図 3-12-2-R5 である。

令和4年度は、「④やりたいことを考え、計画して行う活動」への興味・関心が一貫して強く、時間が経過するにつれてその程度が大きくなる傾向が見られた。

令和5年度は、年間を通してそれほど大きな変化は見られなかった。一方、「②授業の形の学習」、「③タブレットを活用した学習」は年間を通して少なかった。

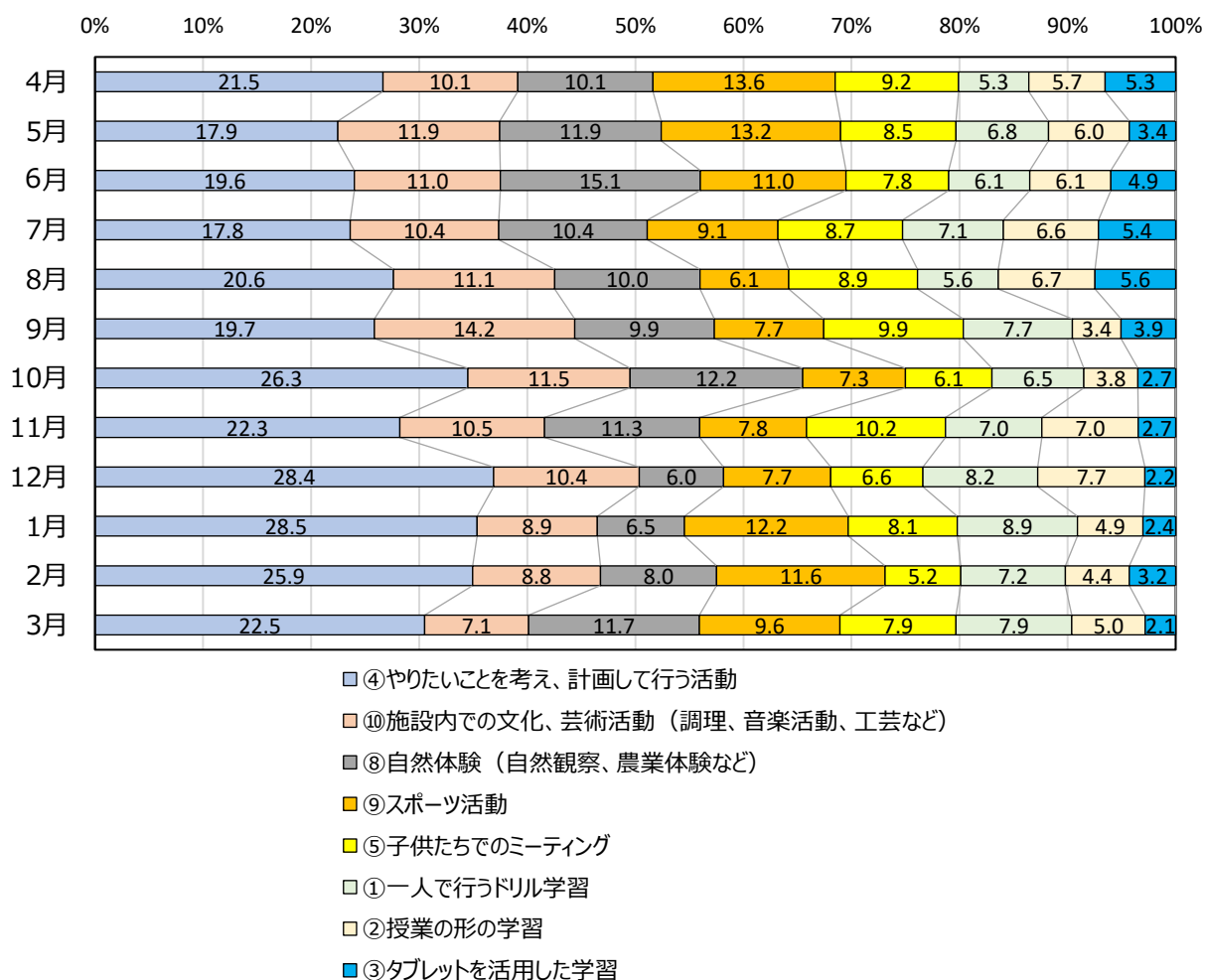


図 3-12-2-R4 児童・生徒が興味・関心を示したフリースクール等での活動 (選択数上位 8 種)

図 3-12-2-R4 のデータ表

	④ やりたいことを 考え、計画して 行う活動	⑩ 施設内での文 化、芸術活動 (調理、音楽活 動、工芸など)	⑧ 自然体験 (自然観察、農 業体験など)	⑨ スポーツ活動	⑤ 子供たちでの ミーティング	① 一人で行う ドリル学習	② 授業の形の 学習	③ タブレットを 活用した学習	上位 8 種の 選択肢の合計 選択数
4月	21.5	10.1	10.1	13.6	9.2	5.3	5.7	5.3	228
5月	17.9	11.9	11.9	13.2	8.5	6.8	6.0	3.4	235
6月	19.6	11.0	15.1	11.0	7.8	6.1	6.1	4.9	245
7月	17.8	10.4	10.4	9.1	8.7	7.1	6.6	5.4	241
8月	20.6	11.1	10.0	6.1	8.9	5.6	6.7	5.6	180
9月	19.7	14.2	9.9	7.7	9.9	7.7	3.4	3.9	233
10月	26.3	11.5	12.2	7.3	6.1	6.5	3.8	2.7	262
11月	22.3	10.5	11.3	7.8	10.2	7.0	7.0	2.7	256
12月	28.4	10.4	6.0	7.7	6.6	8.2	7.7	2.2	183
1月	28.5	8.9	6.5	12.2	8.1	8.9	4.9	2.4	246
2月	25.9	8.8	8.0	11.6	5.2	7.2	4.4	3.2	251
3月	22.5	7.1	11.7	9.6	7.9	7.9	5.0	2.1	240

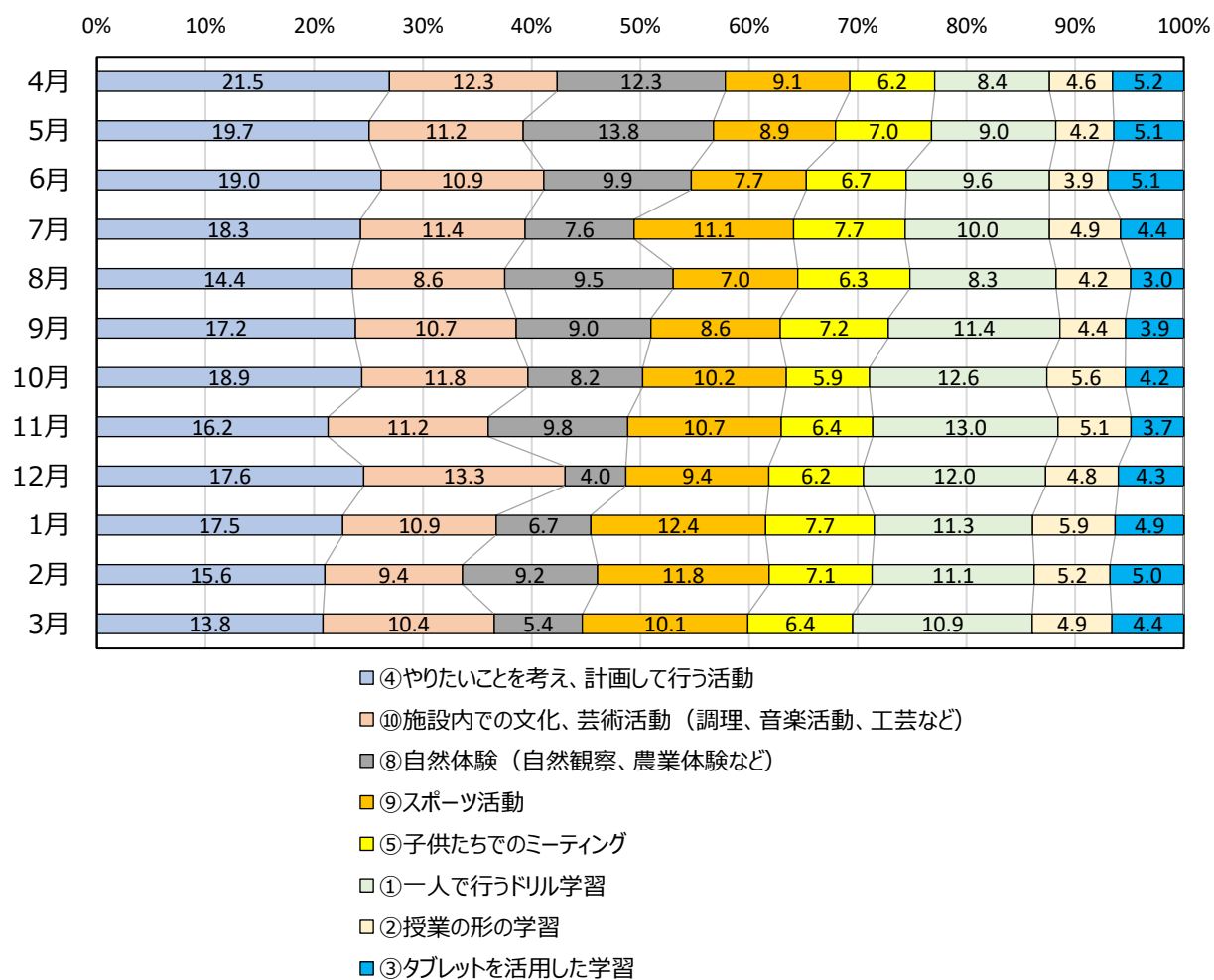


図 3-12-2-R5 児童・生徒が興味・関心を示したフリースクール等での活動（選択数上位8種）

図 3-12-2-R5 のデータ表

	④ やりたいことを 考え、計画して 行う活動	⑩ 施設内での文 化、芸術活動 （調理、音楽活 動、工芸など）	⑧ 自然体験 （自然観察、農 業体験など）	⑨ スポーツ活動	⑤ 子供たちでの ミーティング	① 一人で行う ドリル学習	② 授業の形の 学習	③タブレットを 活用した学習	上位8種の 選択肢の合計 選択数
4月	21.5	12.3	12.3	9.1	6.2	8.4	4.6	5.2	550
5月	19.7	11.2	13.8	8.9	7.0	9.0	4.2	5.1	543
6月	19.0	10.9	9.9	7.7	6.7	9.6	3.9	5.1	501
7月	18.3	11.4	7.6	11.1	7.7	10.0	4.9	4.4	429
8月	14.4	8.6	9.5	7.0	6.3	8.3	4.2	3.0	349
9月	17.2	10.7	9.0	8.6	7.2	11.4	4.4	3.9	412
10月	18.9	11.8	8.2	10.2	5.9	12.6	5.6	4.2	484
11月	16.2	11.2	9.8	10.7	6.4	13.0	5.1	3.7	475
12月	17.6	13.3	4.0	9.4	6.2	12.0	4.8	4.3	448
1月	17.5	10.9	6.7	12.4	7.7	11.3	5.9	4.9	460
2月	15.6	9.4	9.2	11.8	7.1	11.1	5.2	5.0	443
3月	13.8	10.4	5.4	10.1	6.4	10.9	4.9	4.4	394

3-12-3 フリースクール等の支援者からの関わりの変化

児童・生徒は、支援者（学校の先生やフリースクール等の支援者）からの関わりをどのように捉えているかについて、「支援者からの関わり質問（早川・松添・小林・大月，2020）」によって調査した。

調査は、4 概念 2 項目ずつで計 8 項目からなる。概念は、「①②肯定的関わり」、「③④存在受容」、「⑤⑥主体性の育成」、「⑦⑧主張性の育成」で、この順序で 2 項目ずつ質問している。加えて、「⑨どれにもあてはまらない」の選択肢を設けた。

なお、概念と対応する項目内容は、表 3-12-1 のとおりである。

表 3-12-1 支援者からの関わりの 4 概念の質問項目

肯定的関わり	①自由に話をしやすいようなふんいきにしてくれる。
	②何かが少しできるようになったり、わかるようになったら、よろこんでほめてくれる。
存在受容	③何かをしようとするとき、いろいろなやり方を示して、選ばせてくれる。
	④自分の気持ちを伝えようとするとき、先生は自分の気持ちを確かめながら気持ちを聞いてくれる。
主体性の育成	⑤自分ではできないことを、「できない」と言っても、それを受け止めてくれるので、楽に言える。
	⑥自分でできることは口出しせずにかかせてくれるが、いざ困ったら助けたり、はげましてくれる。
主張性の育成	⑦自分のことを自分でどのように考えたらいいのかについて、しんげんにいっしょに考え、自分の気持ちをたしかめながらいろいろなアドバイスをしてくる。
	⑧自分が失敗したときも、いっしょに残念がったあとで、むしろ次のちょうせんのエネルギーになるよいこととして、はげましてくれる。

支援者からの関わりのうち、学校の先生からの関わりの変化については、既に 3-10-3（p.116）で示している。ここでは、同様の方法で、フリースクール等の支援者からの関わりの変化を分析した。

図 3-12-3-R4 は、令和 4 年度について、児童・生徒対象の調査より、9 月と半年後の 3 月の時点で同一対象に行った結果を示している。9 月時点と 3 月時点を比較した結果、「あてはまる」の選択率が減少したのは「④自分の気持ちを伝えようとするとき、先生は自分の気持ちを確かめながら気持ちを聞いてくれる」で、それ以外は全て選択率が増加していた。また、「②何かが少しできるようになったり、わかるようになったら、よろこんでほめてくれる」、「③何かをしようとするとき、いろいろなやり方を示して、選ばせてくれる」、「⑥自分でできることは口出しせずにかかせてくれるが、いざ困ったら助けたり、はげましてくれる」は約 15%の選択率の増加が見られた。

図 3-12-3-R5 は、令和 5 年度の結果である。令和 5 年度は、令和 4 年度と比べて、9 月時点と 3 月時点を比較した結果に大きな変動は見られなかった。

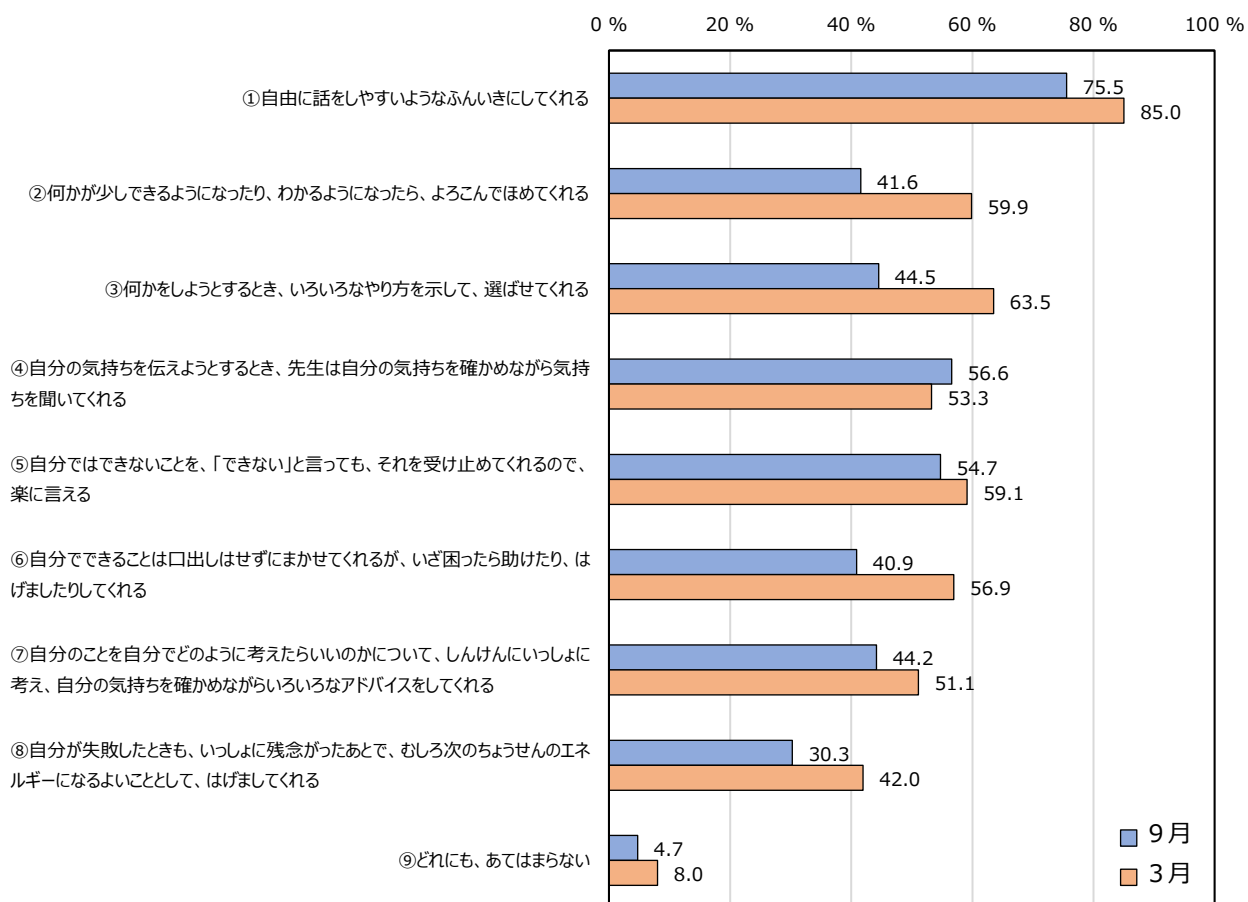


図 3-12-3-R4 フリースクール等の支援者からの関わりの変化（9月と3月の比較）（N=274）

図 3-12-3-R4 のデータ表（表内数値は%）（N=274）

関わりの質問項目	9月	3月
①自由に話をしやすいようなふんいきにしてくれる	75.5	85.0
②何かが少しできるようになったり、わかるようになったら、よろこんでほめてくれる	41.6	59.9
③何かをしようとするとき、いろいろなやり方を示して、選ばせてくれる	44.5	63.5
④自分の気持ちを伝えようとするとき、先生は自分の気持ちを確かめながら気持ちを聞いてくれる	56.6	53.3
⑤自分ではできないことを、「できない」と言っても、それを受け止めてくれるので、楽に言える	54.7	59.1
⑥自分でできることは口出しはせずまかせてくれるが、いざ困ったら助けたり、はげましたりしてくれる	40.9	56.9
⑦自分のことを自分でどのように考えたらいいのかについて、しんけんにいっしょに考え、自分の気持ちを確かめながらいろいろなアドバイスをしてくれる	44.2	51.1
⑧自分が失敗したときも、いっしょに残念がったあとで、むしろ次のちようせんのエネルギーになるよいこととして、はげましてくれる	30.3	42.0
⑨どれも、あてはまらない	4.7	8.0

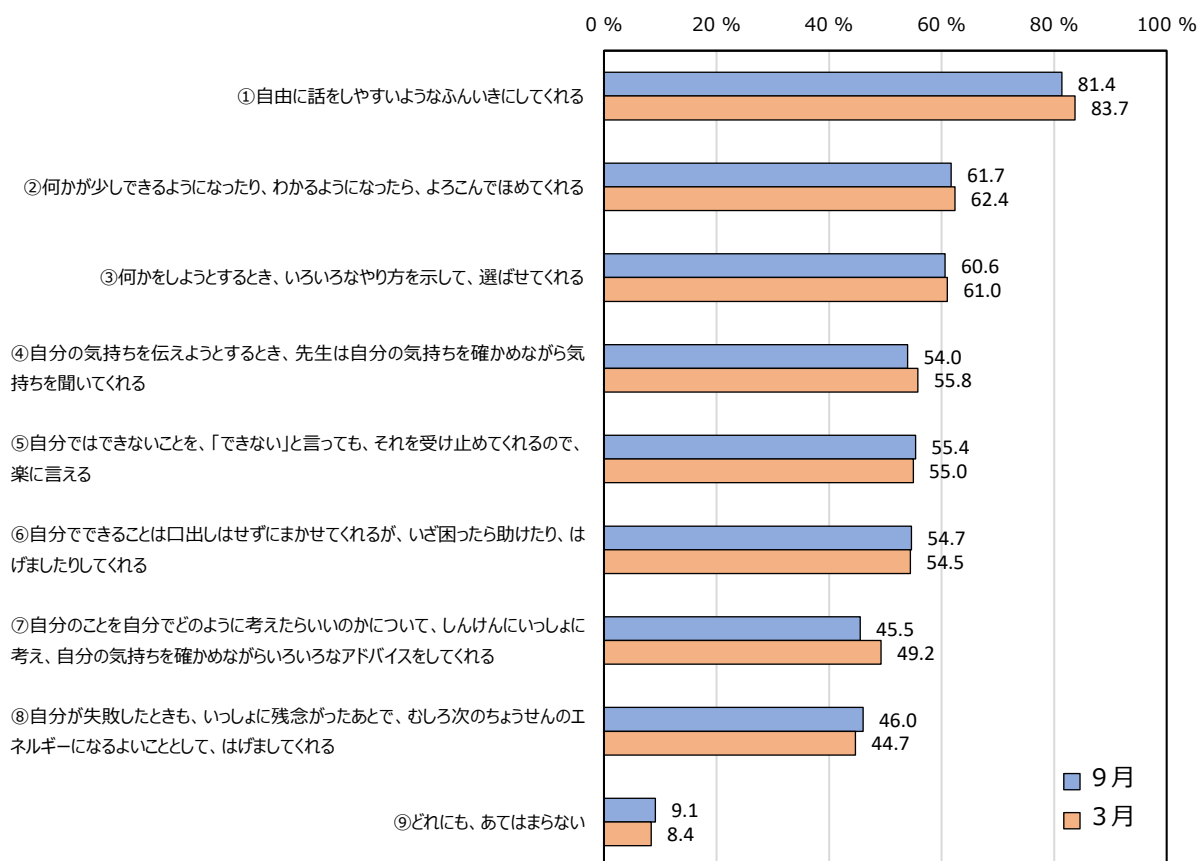


図 3-12-3-R5 フリースクール等の支援者からの関わりの変化（9月と3月の比較）（N=569）

図 3-12-3-R5 のデータ表（表内数値は%）（N=569）

関わりの質問項目	9月	3月
①自由に話をしやすいようなふんいきにしてくれる	81.4	83.7
②何かが少しできるようになったり、わかるようになったら、よろこんでほめてくれる	61.7	62.4
③何かをしようとするとき、いろいろなやり方を示して、選ばせてくれる	60.6	61.0
④自分の気持ちを伝えようとするとき、先生は自分の気持ちを確かめながら気持ちを聞いてくれる	54.0	55.8
⑤自分ではできないことを、「できない」と言っても、それを受け止めてくれるので、楽に言える	55.4	55.0
⑥自分でできることは口出しはせずにまかせてくれるが、いざ困ったら助けたり、はげましたりしてくれる	54.7	54.5
⑦自分のことを自分でどのように考えたらいいのかについて、しんけんにいっしょに考え、自分の気持ちを確かめながらいろいろなアドバイスをしてくれる	45.5	49.2
⑧自分が失敗したときも、いっしょに残念がったあとで、むしろ次のちようせんのエネルギーになるよいこととして、はげましてくれる	46.0	44.7
⑨どれも、あてはまらない	9.1	8.4

3-12-4 学校の先生とフリースクール等の支援者からの関わりの変化を比較する

3-10-3（p.116～）で示した、学校の先生からの関わりの変化と、3-12-3（p.126～）のフリースクール等の支援者からの関わりの変化を比較した。令和4年度の比較は、図 3-12-4-R4 に示す。図 3-12-4 では、関わりの4概念について、月ごとの平均選択率を求め、左側に学校の先生の4月、9月、3月の結果、右側にフリースクール等の支援者の4月、9月、3月の結果を示した。なお、回答の対象児童・生徒は同一である。

学校の先生とフリースクール等の支援者との間で概念ごとに関わりの選択率と比較すると、「①②肯定的関わり」と「③④存在受容」は、学校の先生の4月、9月、3月の結果とフリースクール等の支援者とではおおむね同程度であっ

た。一方、「⑤⑥主体性の育成」と「⑦⑧主張性の育成」は両者で差が見られ、特に、「⑤⑥主体性の育成」については、両者で大きな差が見られた。また、「⑨どれにもあてはまらない」は、学校の先生でほぼ一貫して選択率が減少していたが、フリースクール等の支援者との間では少し差が見られた。

学校の先生とフリースクール等の支援者との間で、児童・生徒への関わりの違いを検討すると、全体的に大きな相違とは言えないものの、「⑤⑥主体性の育成」につながる関わりの仕方が、特徴的な違いを示している。

令和5年度の結果は、図3-12-4-R5に示す。令和5年度も、令和4年度と同様、全体的にフリースクール等の支援者に対する選択率が高かった。その一方で、4月、9月、3月と時間が経過するにしたがって、学校の先生に対する項目の選択率が上昇していくのが特徴的であった。また、学校の先生に対する「⑨どれにもあてはまらない」の選択率は、フリースクール等の支援者との差はあるものの、下降傾向が見られた。

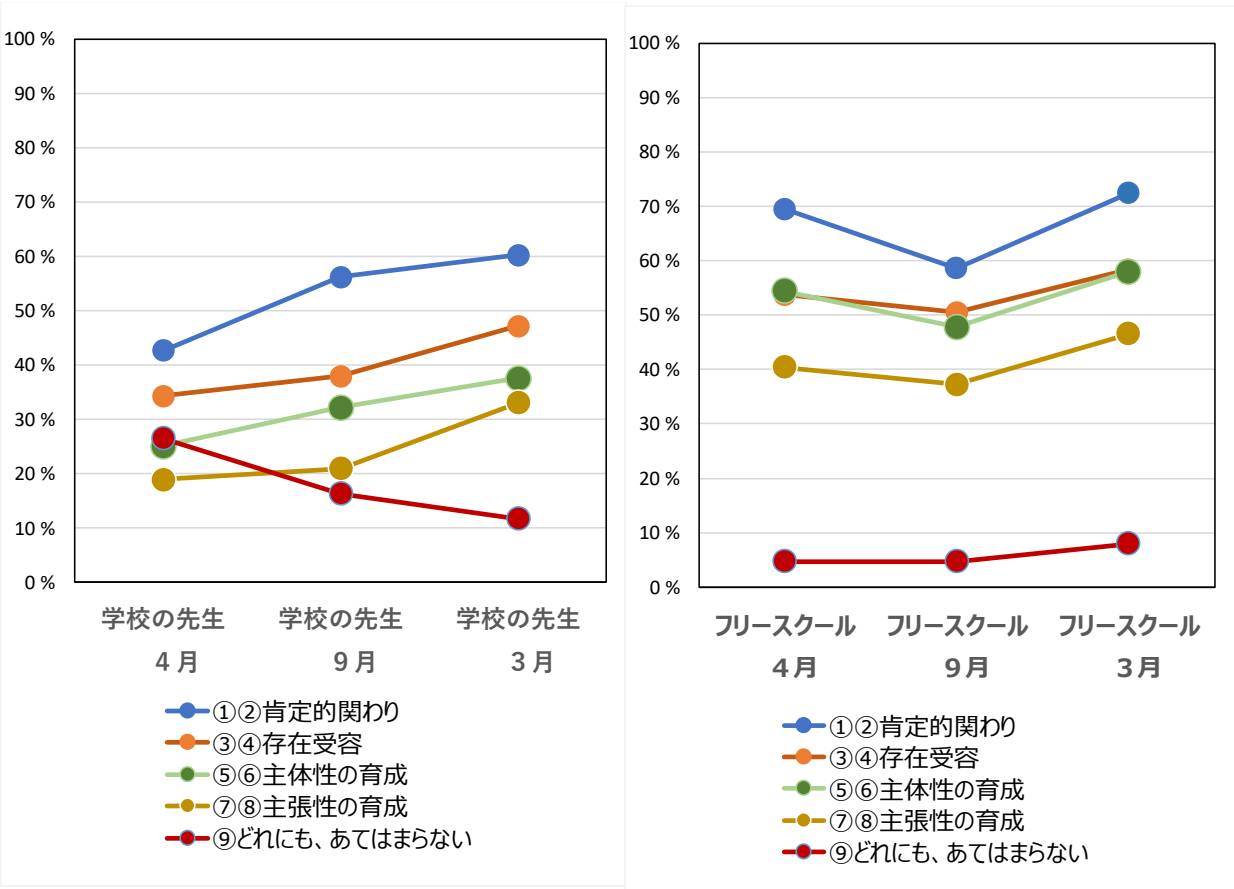


図3-12-4-R4 支援者からの関わりの4概念と「⑨どれにもあてはまらない」の選択率月別変化（令和4年度）（%）
：左図は学校の先生、右図はフリースクール等の支援者（回答者は児童・生徒）（N=274）

図3-12-4-R4のデータ表（表中数値は%）

	学校の先生			フリースクール等の支援者		
	4月	9月	3月	4月	9月	3月
①②肯定的関わり	42.7	56.2	60.3	69.5	58.6	72.4
③④存在受容	34.3	38.0	47.2	53.7	50.5	58.4
⑤⑥主体性の育成	25.1	32.2	37.6	54.4	47.8	58.0
⑦⑧主張性の育成	18.9	20.9	33.1	40.4	37.2	46.5
⑨どれにもあてはまらない	26.5	16.3	11.7	4.7	4.7	8.0

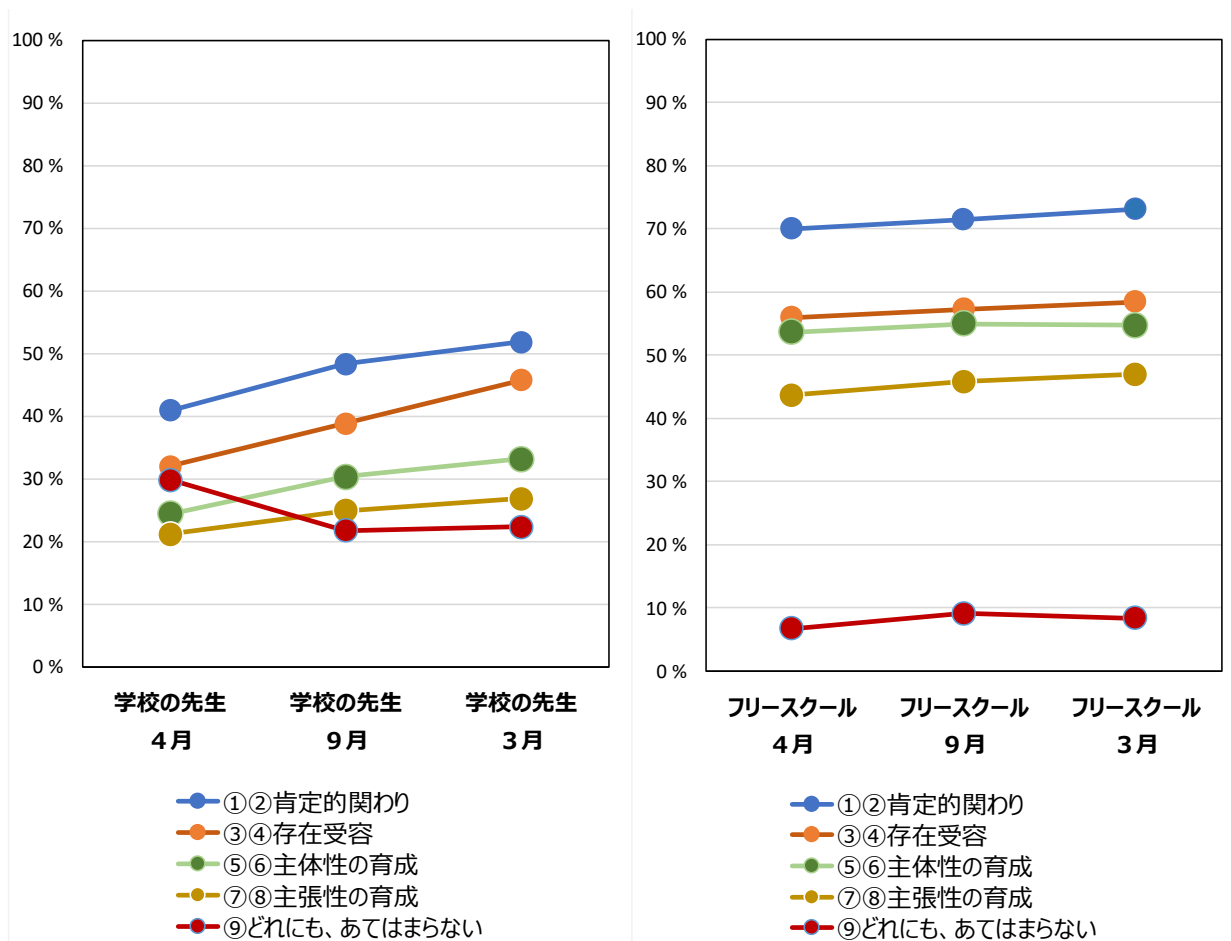


図 3-12-4-R5 支援者からの関わりの 4 概念と「⑨どれにもあてはまらない」の選択率月別変化（令和 5 年度）（％）
：左図は学校の先生、右図はフリースクール等の支援者（回答者は児童・生徒）（N=569）

図 3-12-4-R5 のデータ表（表中数値は％）

	学校の先生			フリースクール等の支援者		
	4 月	9 月	3 月	4 月	9 月	3 月
①②肯定的関わり	40.9	48.3	51.8	70.0	71.5	73.0
③④存在受容	32.0	38.8	45.7	55.9	57.3	58.4
⑤⑥主体性の育成	24.4	30.3	33.1	53.6	55.0	54.7
⑦⑧主張性の育成	21.1	24.9	26.8	43.6	45.8	47.0
⑨どれにも、あてはまらない	29.8	21.7	22.3	6.7	9.1	8.4

3-13〔13〕 12 か月間の縦断的回答に見られる変化の様子：家庭と家計

3-13-1 調査協力金の使い道の変化

調査協力金の使い道について、令和4年度、令和5年度の9月、12月、3月の回答結果を表したのが、図3-13-1-R4と図3-13-1-R5である。令和5年度は、令和4年度に比べ、「④フリースクール等に通う交通費」の選択率が増加していた。

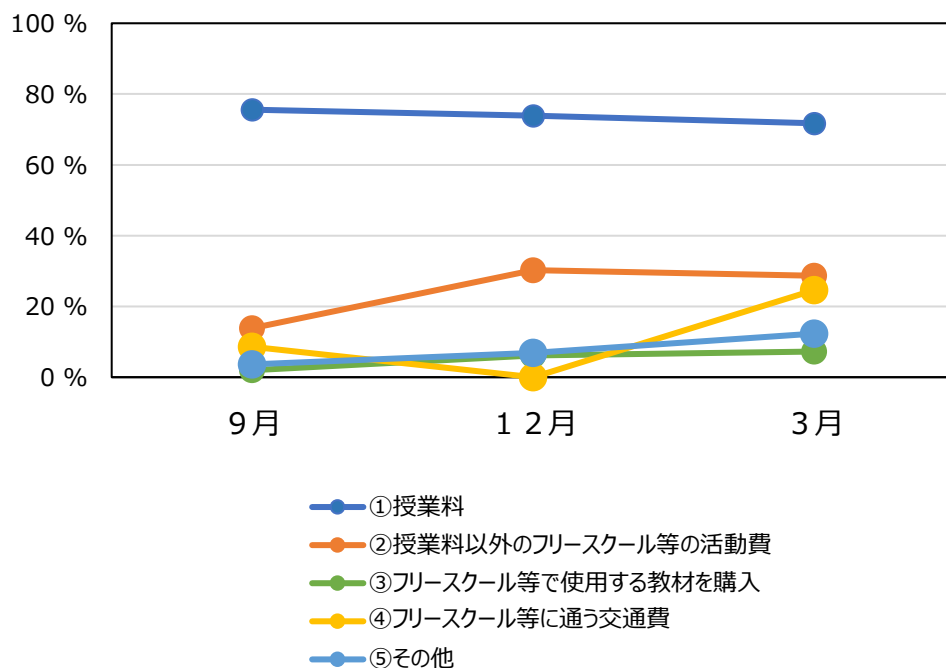


図 3-13-1-R4 調査協力金の使い道の月別変化（N はデータ表に示す）

図 3-13-1-R4 のデータ表（多い順）（表内数値は%）

	9月	12月	3月
①授業料	75.6	73.9	71.7
②授業料以外のフリースクール等の活動費	13.9	30.2	28.6
④フリースクール等に通う交通費	8.6	0.0	24.6
③フリースクール等で使用する教材を購入	2.0	6.2	7.2
⑤その他	3.6	6.9	12.3
N	303	291	276

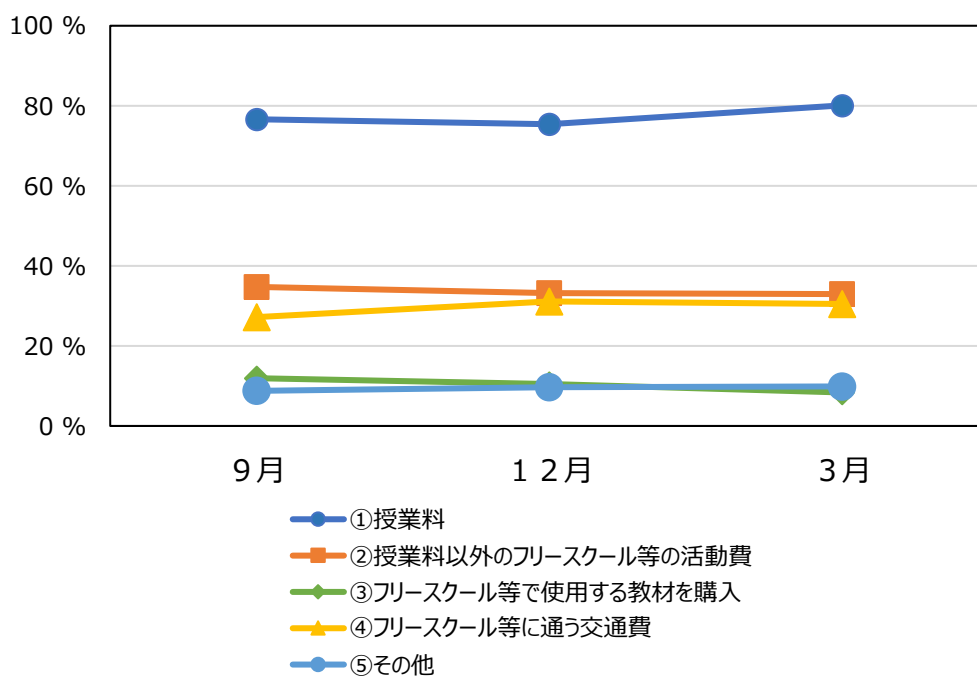


図 3-13-1-R5 調査協力金の使い道の月別変化（N はデータ表に示す）

図 3-13-1-R5 のデータ表（多い順）（表内数値は%）

	9月	12月	3月
①授業料	76.7	75.4	80.1
②授業料以外のフリースクール等の活動費	34.7	33.2	32.9
③フリースクール等で使用する教材を購入	11.9	10.5	8.4
④フリースクール等に通う交通費	27.2	31.1	30.4
⑤その他	8.8	9.7	9.9
N	570	630	598

3-13-2 調査協力金があることによる収支面での効果

調査協力金があることの効果について、令和4年度、令和5年度の9月、12月、3月の回答結果を表したのが、図3-13-2-R4と図3-13-2-R5である。令和4年度、令和5年度のいずれも、「①家計にとって大変助かる」の選択率が90%以上を占め、時間の経過による選択率の大きな変動は見られなかった。

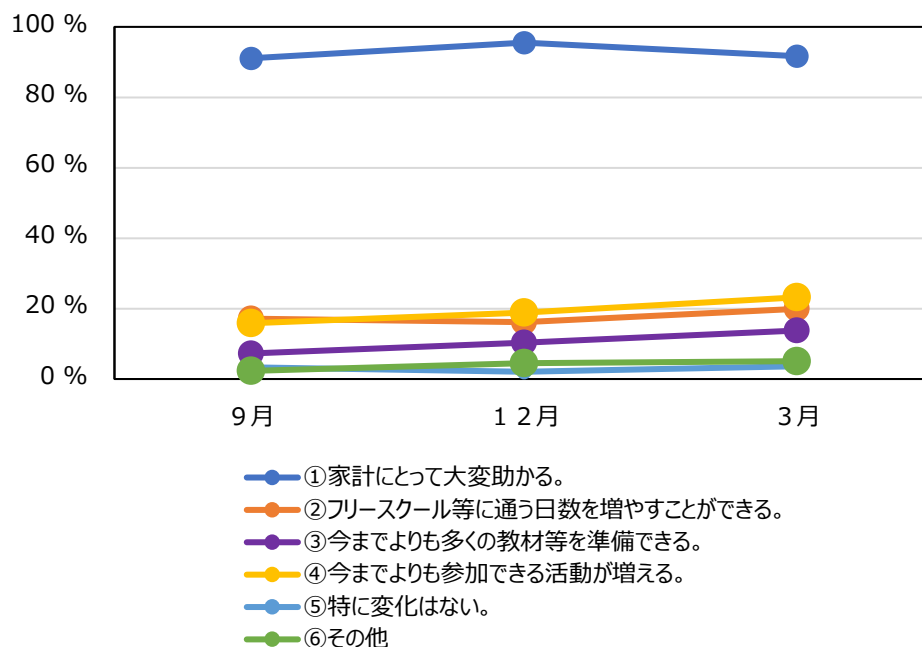


図3-13-2-R4 調査協力金の収支面での効果に関する月別変化（複数回答）（Nは次表に示す）

図3-13-2-R4のデータ表（多い順）（表内数値は%）

	9月	12月	3月
①家計にとって大変助かる。	91.1	95.5	91.7
②フリースクール等に通う日数を増やすことができる。	17.2	16.2	19.9
④今までよりも参加できる活動が増える。	15.8	18.9	23.2
③今までよりも多くの教材等を準備できる。	7.3	10.3	13.8
⑤特に変化はない。	3.3	2.1	3.6
⑥その他	2.3	4.5	5.1
N	303	291	276

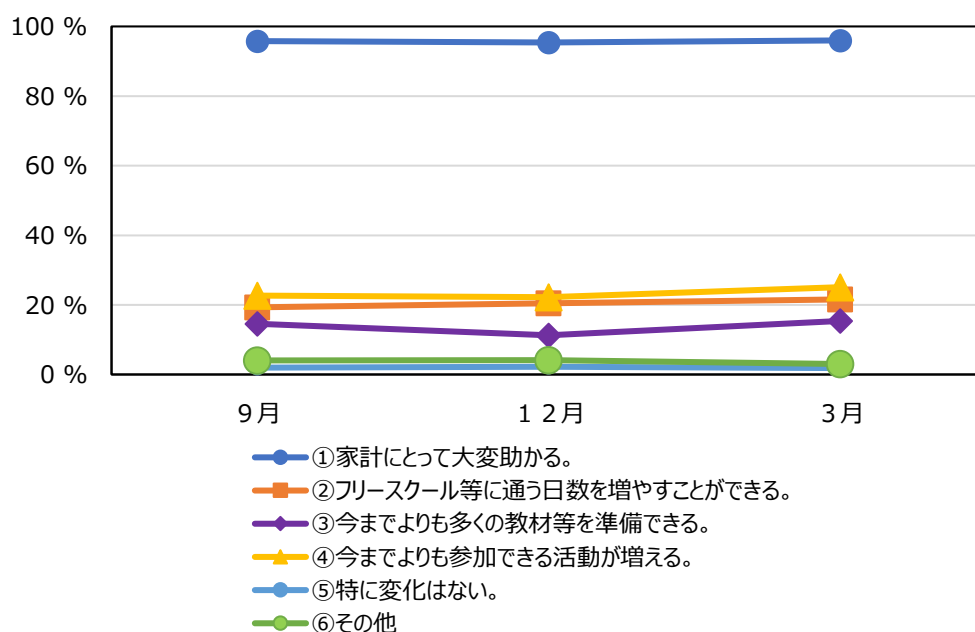


図 3-13-2-R5 調査協力金の収支面での効果に関する月別変化 (N は次表に示す)

図 3-13-2-R5 のデータ表 (多い順) (表内数値は%)

	9月	12月	3月
①家計にとって大変助かる。	95.8	95.4	96.0
④今までよりも参加できる活動が増える。	22.6	22.2	25.1
②フリースクール等に通う日数を増やすことができる。	19.3	20.5	21.6
③今までよりも多くの教材等を準備できる。	14.6	11.3	15.4
⑤特に変化はない。	1.9	2.2	1.8
⑥その他	4.0	4.1	3.0
N	570	630	598

3-14 [14] 今後に向けて

ここまでの調査結果を踏まえて、今後の展開や課題についての保護者、児童・生徒の意見をまとめていく。全体構造図 (図 2-4-1) では太破線囲いの[14]になる。

3-14-1 フリースクール等の課題と期待

(1) フリースクール等通所上の課題の有無

保護者定期調査の Q60 では、フリースクール等へ通所するための課題の有無について質問した。

表 3-14-1 は、令和 4 年度と令和 5 年度の結果をまとめたものであり、両年度とも 76%以上の保護者が何らかの課題を意識していた。

表 3-14-1 フリースクール等通所上の課題の有無

	令和4年度		令和5年度	
	N	%	N	%
①ある	359	76.5	537	78.1
②ない	110	23.5	151	21.9
N	469		688	

(2) 課題の内容

前項（１）の課題の具体的な内容について Q61 で質問した。

令和４年度の結果は、図 3-14-1-(a)-R4 に示した。経済的負担の問題が重要な課題であり、次にフリースクール等を選ぶ際の情報の少なさが挙げられている。校種ごとに比較すると、「②自身の仕事との両立が難しい」が小学生 28.5%に対して中学生 11.1%と有意な差があり、保護者の負担感を反映した結果となっていた。

令和５年度の結果をまとめたものが、図 3-14-1-(a)-R5 であり、令和４年度と同様、「①経済的な負担が大きい」が最も選択率が高かった。さらに、「②自身の仕事との両立が難しい」、「③フリースクール等を選ぶ際の情報が少ない」の３項目では、小学生の方が有意に選択率が大きかった。

「⑧その他」の主な回答は、「フリースクールのスタッフの方は、人手不足の中、懸命に対応いただいている感があります。」、「電車などの公共機関を利用しなくては通えないため、調子が悪いと行けなくなる。」などであった。

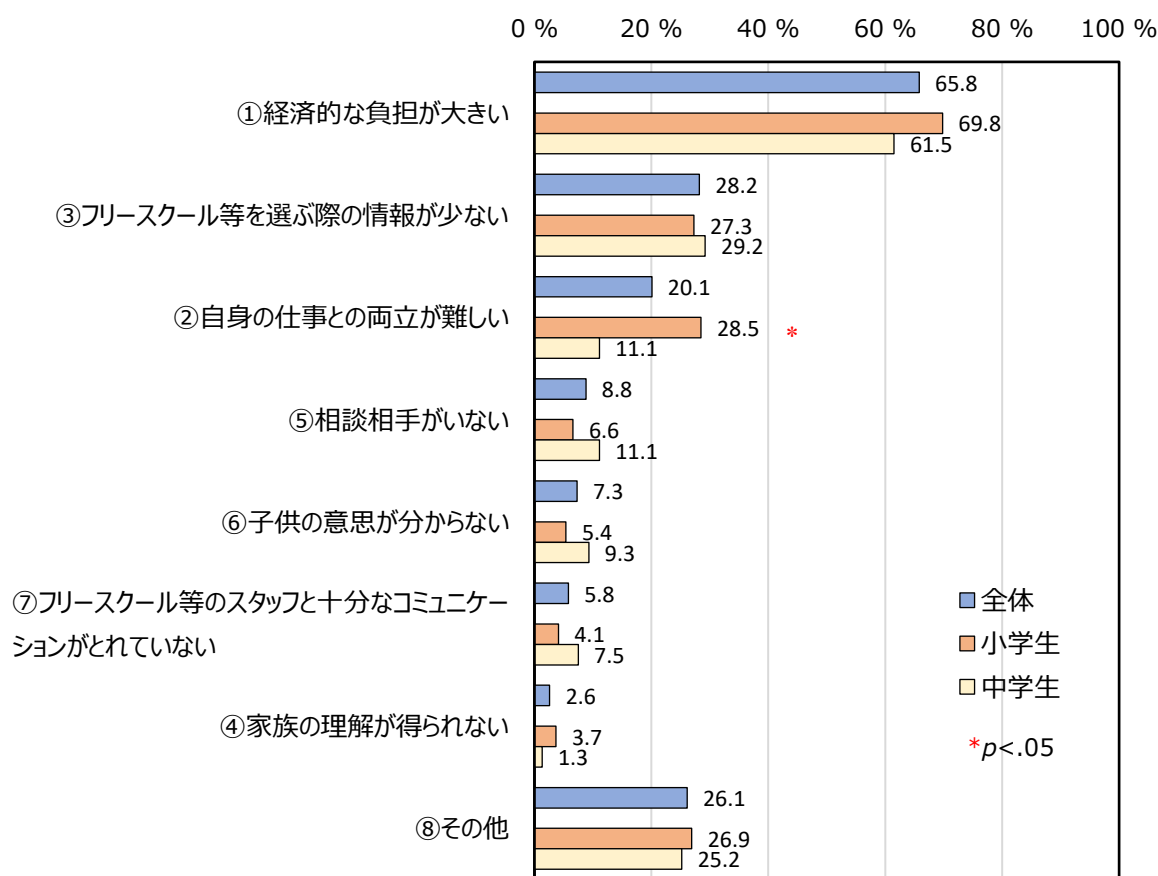


図 3-14-1-(a)-R4 フリースクール等通所上の課題の内容（多い順）（N は次表）

図 3-14-1-(a)-R4 のデータ表

	全体		小学生		中学生	
	(N=468)		(N=242)		(N=226)	
	N	%	N	%	N	%
①経済的な負担が大きい	308	65.8	169	69.8	139	61.5
③フリースクール等を選ぶ際の情報が少ない	132	28.2	66	27.3	66	29.2
②自身の仕事との両立が難しい	94	20.1	69	28.5	25	11.1
⑤相談相手がいない	41	8.8	16	6.6	25	11.1
⑥子供の意思が分からない	34	7.3	13	5.4	21	9.3
⑦フリースクール等のスタッフと十分なコミュニケーションがとれていない	27	5.8	10	4.1	17	7.5
④家族の理解が得られない	12	2.6	9	3.7	3	1.3
⑧その他	122	26.1	65	26.9	57	25.2

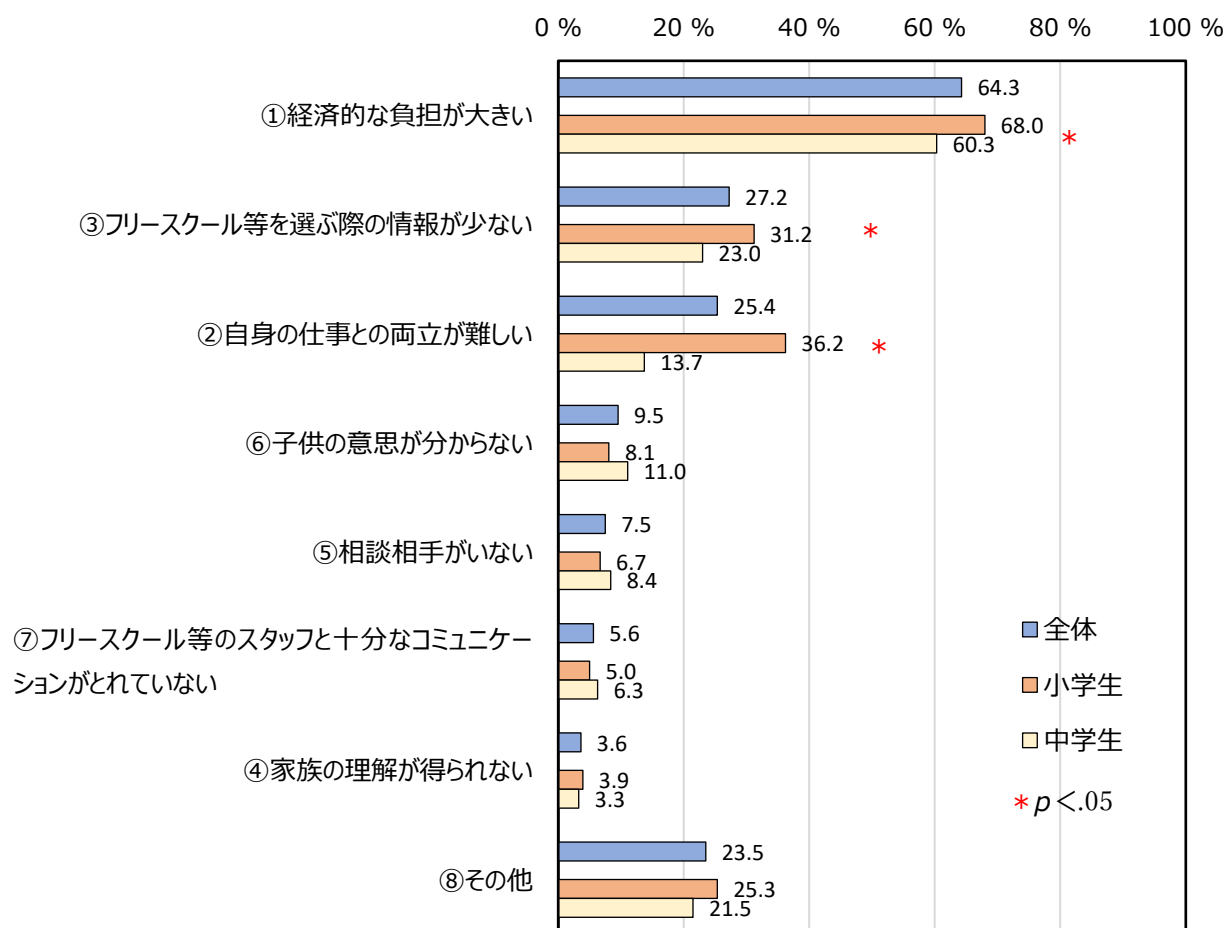


図 3-14-1-(a)-R5 フリースクール等通所上の課題の内容（多い順）（N は次表）

図 3-14-1-(a)-R5 のデータ表

	全体		小学生		中学生	
	(N=694)		(N=359)		(N=335)	
	N	%	N	%	N	%
①経済的な負担が大きい	446	64.3	244	68.0	202	60.3
③フリースクール等を選ぶ際の情報が少ない	189	27.2	112	31.2	77	23.0
②自身の仕事との両立が難しい	176	25.4	130	36.2	46	13.7
⑥子供の意思が分からない	66	9.5	29	8.1	37	11.0
⑤相談相手がいない	52	7.5	24	6.7	28	8.4
⑦フリースクール等のスタッフと十分なコミュニケーションがとれていない	39	5.6	18	5.0	21	6.3
④家族の理解が得られない	25	3.6	14	3.9	11	3.3
⑧その他	163	23.5	91	25.3	72	21.5

（３）フリースクール等への期待

保護者定期調査 Q64 では、フリースクール等にどのようなことを期待しているかを質問した。図 3-14-2-(a)は、小学生の保護者による、令和４年度と令和５年度の回答結果を示している。同様に図 3-14-2-(b)は、中学生の保護者の回答結果である。

小学生の保護者、中学生の保護者とも多くの選択肢で 50%を超えるような選択数を示していた。その中で、小学生の保護者と中学生の保護者を比べると、「⑤進学・就労のための支援」、「⑥生活リズムの構築」の２項目は、小学生に比べて中学生の方が選択率が高く、中学生の保護者が期待する内容であることが分かった。

「⑨その他」の主な回答には、「本人にとって安心できる居場所となっていること」、「前向きに生きる力、生きること、自己肯定感」などがあつた。

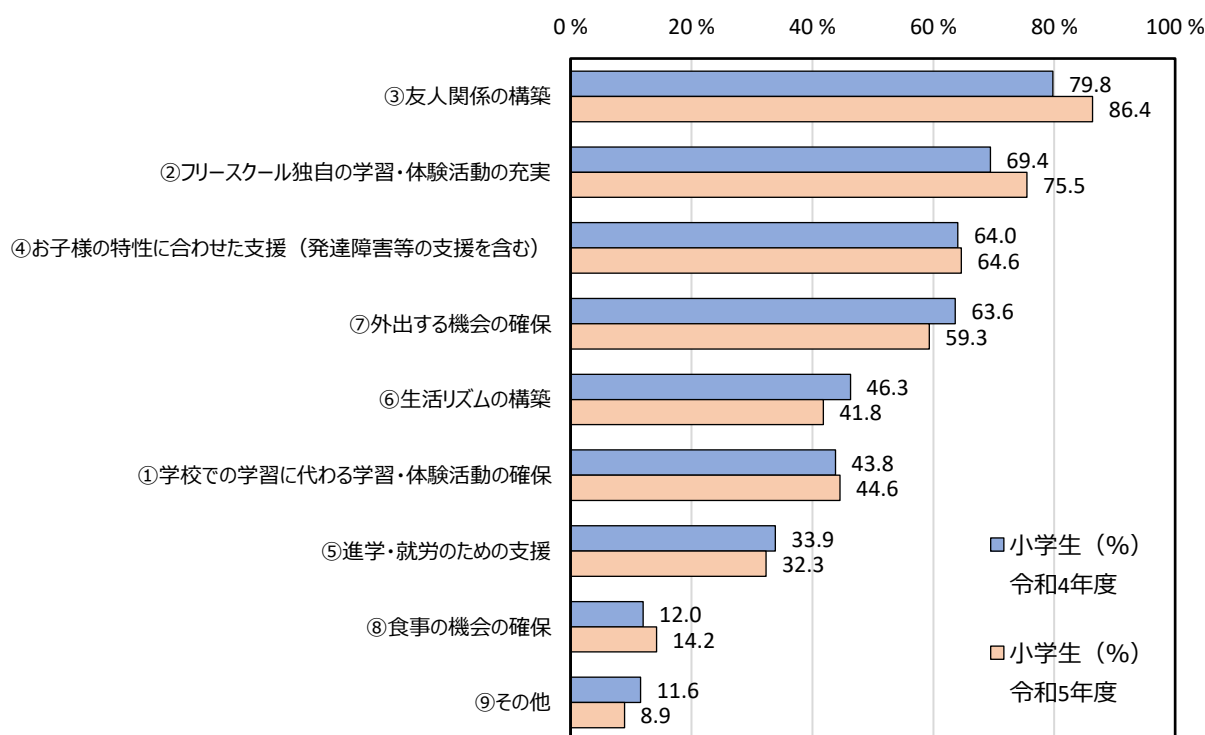


図 3-14-2-(a) フリースクール等にどのようなことを期待しているか（小学生の保護者）
令和 4 年度（N=242）と令和 5 年度（N=359）

図 3-14-2-(a)のデータ表

期待の内容	小学生 (%)	
	令和4年度	令和5年度
③友人関係の構築	79.8	86.4
②フリースクール独自の学習・体験活動の充実	69.4	75.5
④お子様の特性に合わせた支援（発達障害等の支援を含む）	64.0	64.6
⑦外出する機会の確保	63.6	59.3
⑥生活リズムの構築	46.3	41.8
①学校での学習に代わる学習・体験活動の確保	43.8	44.6
⑤進学・就労のための支援	33.9	32.3
⑧食事の機会の確保	12.0	14.2
⑨その他	11.6	8.9
N	242	359

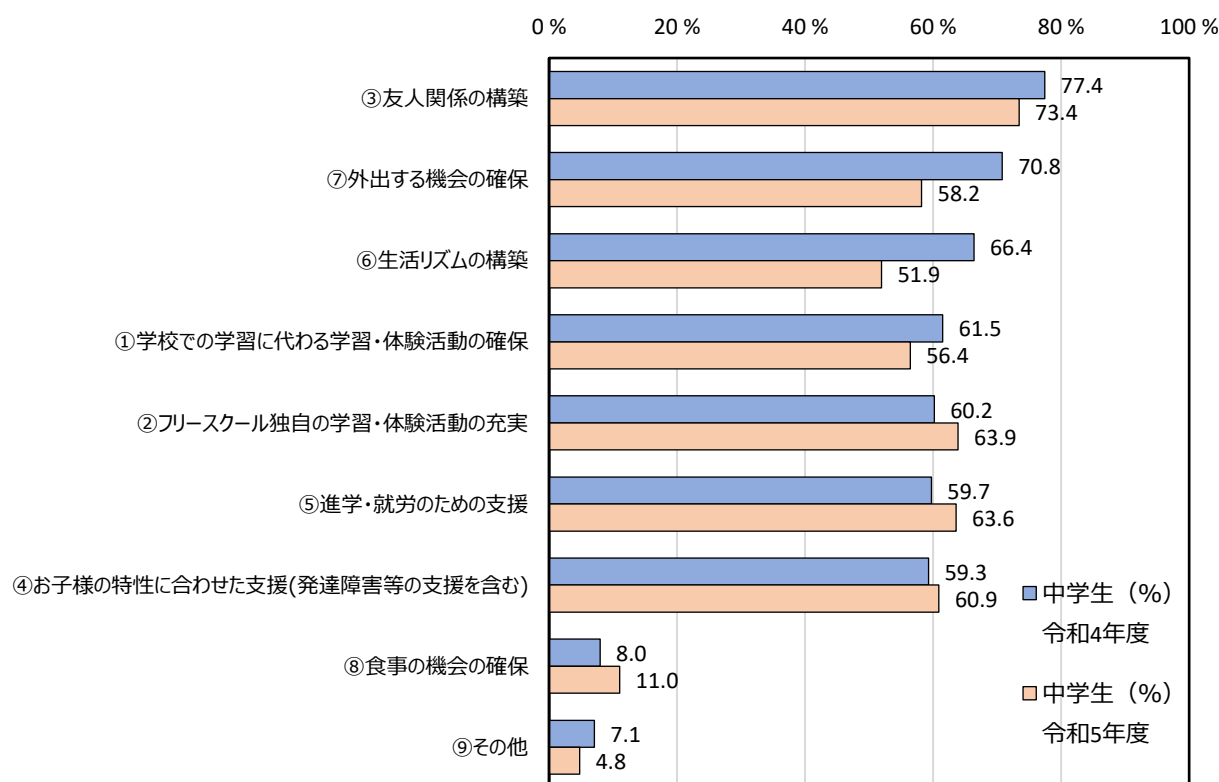


図 3-14-2-(b) フリースクール等にどのようなことを期待しているか（中学生の保護者）
令和 4 年度（N=226）と令和 5 年度（N=335）

図 3-14-2-(b) のデータ表

期待の内容	中学生 (%)	
	令和4年度	令和5年度
③友人関係の構築	77.4	73.4
⑦外出する機会の確保	70.8	58.2
⑥生活リズムの構築	66.4	51.9
①学校での学習に代わる学習・体験活動の確保	61.5	56.4
②フリースクール独自の学習・体験活動の充実	60.2	63.9
⑤進学・就労のための支援	59.7	63.6
④お子様の特性に合わせた支援（発達障害等の支援を含む）	59.3	60.9
⑧食事の機会の確保	8.0	11.0
⑨その他	7.1	4.8
	N 226	335

3-14-2 児童・生徒の今後の進路

(1) 小学生について

保護者定期調査 Q70 では、児童（小学生）の今後の進路（方向性）について質問した。令和4年度の結果は図 3-14-3-R4 に、令和5年度の結果は図 3-14-3-R5 に示す。いずれも、「①居住地区の公立中学校」が最も多く、「③フリースクール等民間団体・民間施設」がそれに次いでいた。「④その他」の主な回答には、「未定・検討中」、「公立中とフリースクールの併用」などがあつた。

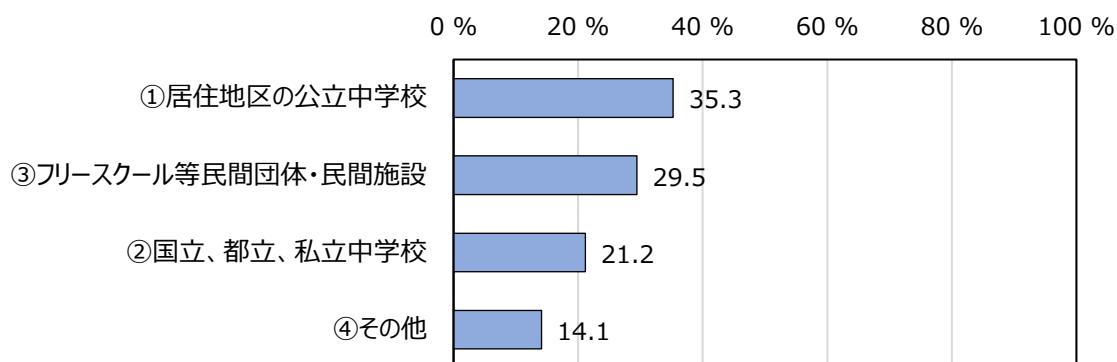


図 3-14-3-R4 児童（小学生）の進路についての現在の考え（方向性）（N=241）

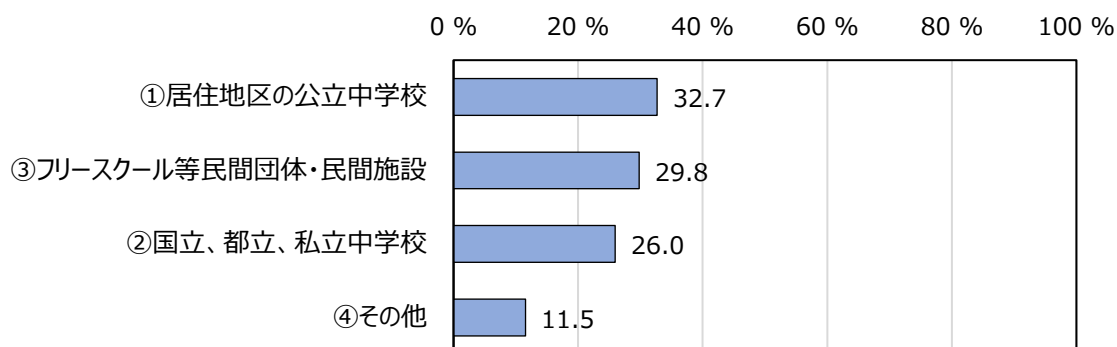


図 3-14-3-R5 児童（小学生）の進路についての現在の考え（方向性）（N=312）

（２）中学生について

保護者定期調査 Q70～Q72 では、生徒（中学生）の今後の進路（方向性）について質問した。結果は、令和４年度を図 3-14-3-(a)-R4 に、令和５年度を図 3-14-3-(a)-R5 に示す。双方の年度とも、「②高等学校（定時制課程・通信制課程）」が半数以上と最も多く、その次は「①高等学校（全日制課程）」であった。

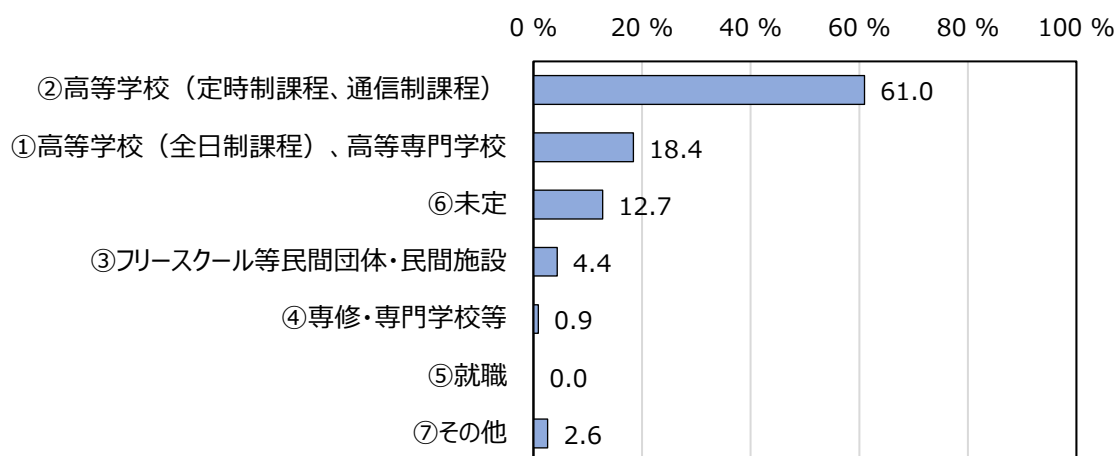


図 3-14-3-(a)-R4 生徒（中学生）の進路についての現在の考え（方向性）（N=228）

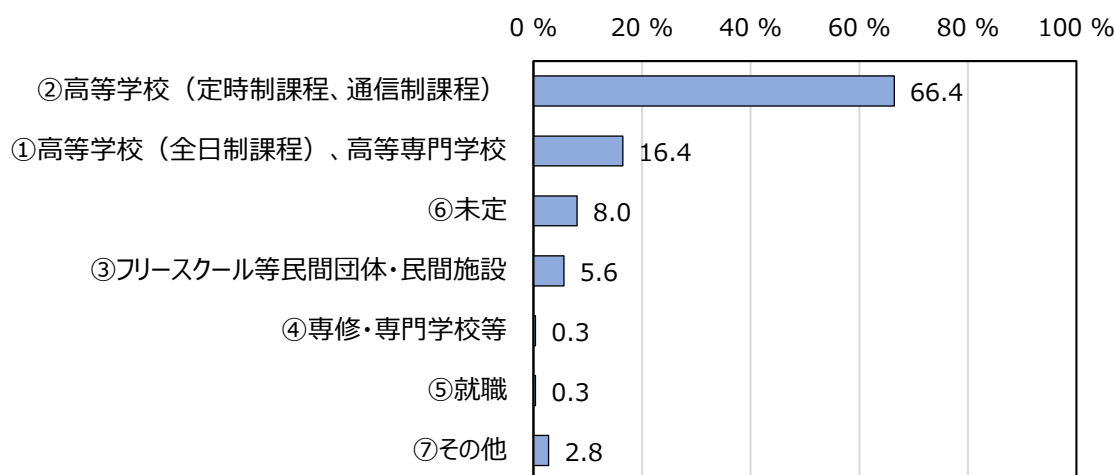


図 3-14-3-(a)-R5 生徒（中学生）の進路についての現在の考え（方向性）（N=286）

3-14-3 児童・生徒のストレス反応について

（１）児童・生徒のストレス反応の様相

児童・生徒定期調査の Q50 では、ストレス反応項目（国立成育医療研究センター，2021 より抜粋）について該当するものを選んでもらった。

令和４年度の結果は、図 3-14-4-R4 に示した。一番多いのは、「⑧どれもあてはまらない」の選択であった。初回調査で同じ項目を質問した際には（図 3-6-2～、p.98～）、「⑧どれもあてはまらない」は「③すぐにイライラする」の次であったが、この定期調査時点では「⑧どれもあてはまらない」が最も多く、ストレス反応自体が低減する傾向が見られた。

校種で比較すると、「⑧どれもあてはまらない」以外の全ての項目で中学生の選択率の方が高い、すなわちストレス反応が強かった。特に、「①だれかといっしょにいても自分はひとりぼっちだと感じる」、「②いやなゆめをよく見る」、「③すぐにイライラする」、「④最近、集中できない」の４項目は小学生と比べて有意に多かった（補遺(3)、p.159）。

令和5年度の結果は、図 3-14-4-R5 に示した。令和5年度も、「⑧どれにもあてはまらない」、「③すぐにイライラする」の順で選択率が多かった。小学生と中学生で比較すると、小学生と中学生の間の選択率の差が更に広がり、「⑤思い出したくないのに、色々なことを思い出して、落ち着かない」、「⑥なかなか寝付けなかったり、夜中に何度も目がさめたりする」の2項目で「小学生<中学生」となっていた。一方、「⑧どれにもあてはまらない」は、令和4年度と同様、小学生の方が有意に多く、小学生の方がストレス項目の選択率が低い傾向は継続していた。

なお、結果における項目の記載順は、選択率の高い順ではなく、「ストレス反応項目」（国立成育医療研究センター, 2021）に従った。

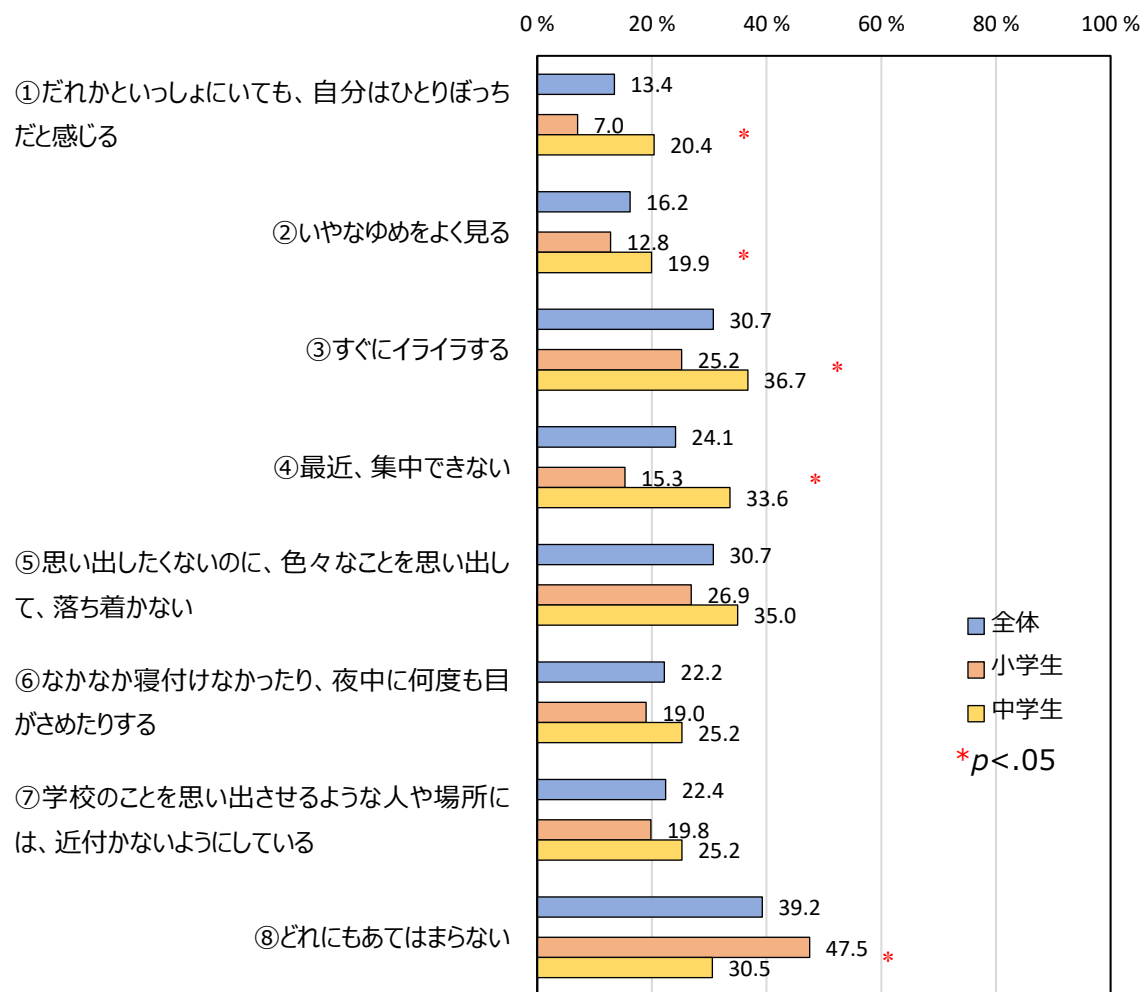


図 3-14-4-R4 児童・生徒のストレス反応（定期調査時点）（N=469）

図 3-14-4-R4 のデータ表

項目	N	%
①だれかといっしょにいても、自分はひとりぼっちだと感じる	63	13.4
②いやなゆめをよく見る	76	16.2
③すぐにイライラする	144	30.7
④最近、集中できない	113	24.1
⑤思い出したくないのに、色々なことを思い出して、落ち着かない	144	30.7
⑥なかなか寝付けなかったり、夜中に何度も目がさめたりする	104	22.2
⑦学校のことを思い出させるような人や場所には、近付かないようにしている	105	22.4
⑧どれにもあてはまらない	184	39.2

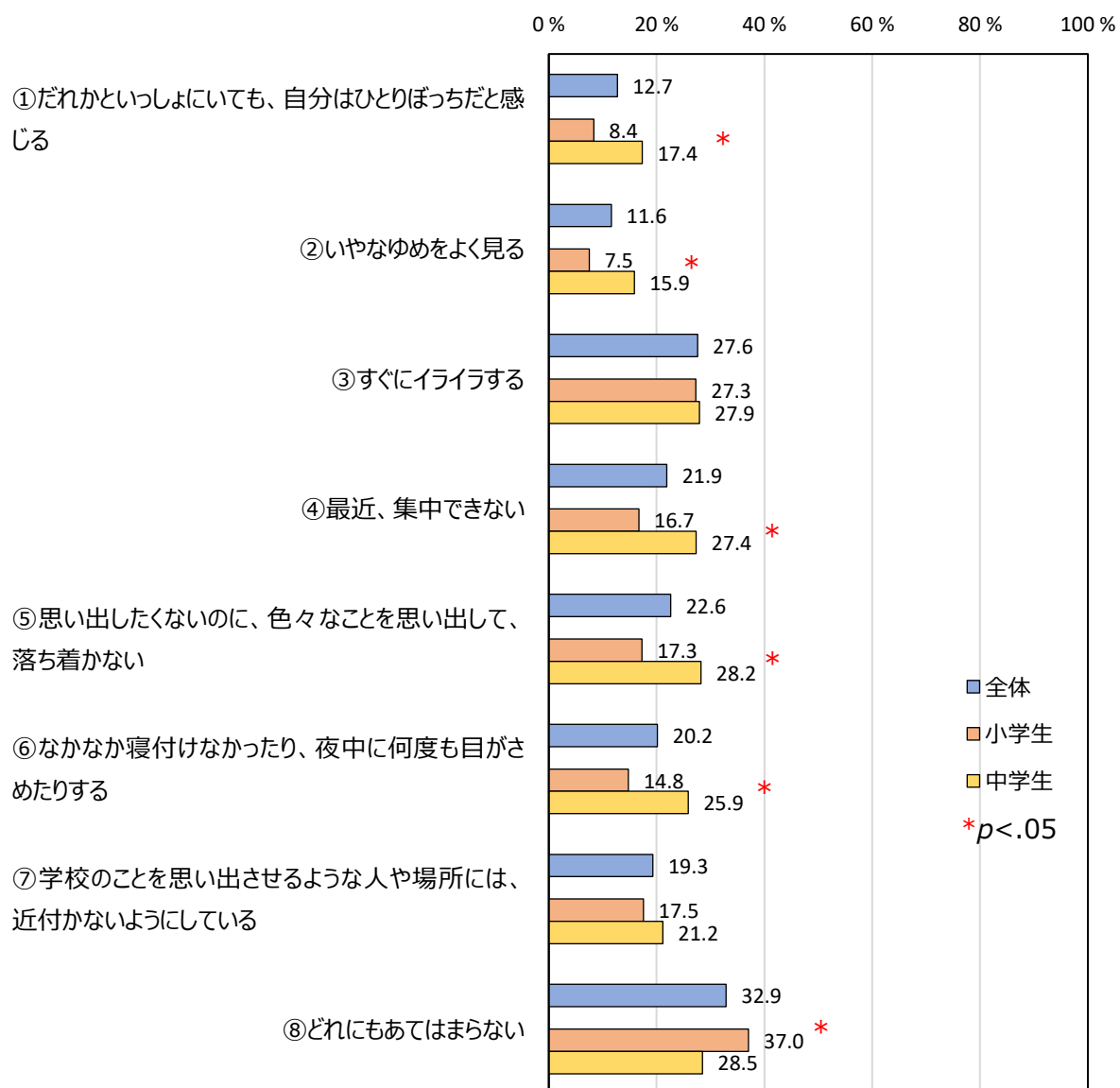


図 3-14-4-R5 児童・生徒のストレス反応（定期調査時点）（N=699）

図 3-14-4-R5 のデータ表

項目	N	%
①だれかといっしょにいても、自分はひとりぼっちだと感じる	89	12.7
②いやなゆめをよく見る	81	11.6
③すぐにイライラする	193	27.6
④最近、集中できない	153	21.9
⑤思い出したくないのに、色々なことを思い出して、落ち着かない	158	22.6
⑥なかなか寝付けなかったり、夜中に何度も目がさめたりする	141	20.2
⑦学校のことを思い出させるような人や場所には、近付かないようにしている	135	19.3
⑧どれにもあてはまらない	230	32.9

(2) 保護者による児童・生徒のストレス反応の捉え方

保護者定期調査の Q66 で、お子様の様子の質問として、ストレス反応に回答してもらった。結果は図 3-14-4-(a)に示す。

保護者からの回答で、様子が「見られる」という回答が一番多かった項目は、「③すぐにイライラする」で、児童・生徒の初回時（図 3-6-2-R4、p.98 及び図 3-6-2-R5、p.99）と一致していた。一方、保護者では、「⑦学校のことを思い出させるような人や場所には近付かないようにしている」は次に多かったが、児童・生徒の初回時（図 3-6-2-R4、p.98 及び図 3-6-2-R5、p.99）では、「⑦学校のことを思い出させるような人や場所には近付かないようにしている」は多いとは言えず、それほど一致はしていなかった。

また、図 3-14-4-(a)に示している、保護者が児童・生徒のストレス反応をどのように捉えているかについて、校種別に比較した結果を、表 3-14-4-(b)に示した。表内で、セルが橙色は有意に多い、水色は有意に少ないことを表す。中学生の方が有意に多かったのは、「①誰かと一緒にいても、自分はひとりぼっちだと感じている様子がみられることがある」、「⑥なかなか寝付けなかったり、夜中に何度も目がさめたりする様子がみられることがある」の 2 項目で、いずれも「見られる」と回答していた。一方、「⑦学校のことを思い出させるような人や場所には近付かないようにしている様子がみられることがある」は、中学生の保護者で「まったく見られなかった」が有意に少なかった。

なお、令和 4 年度と令和 5 年度では、ほぼ同様の有意差が出ていた。

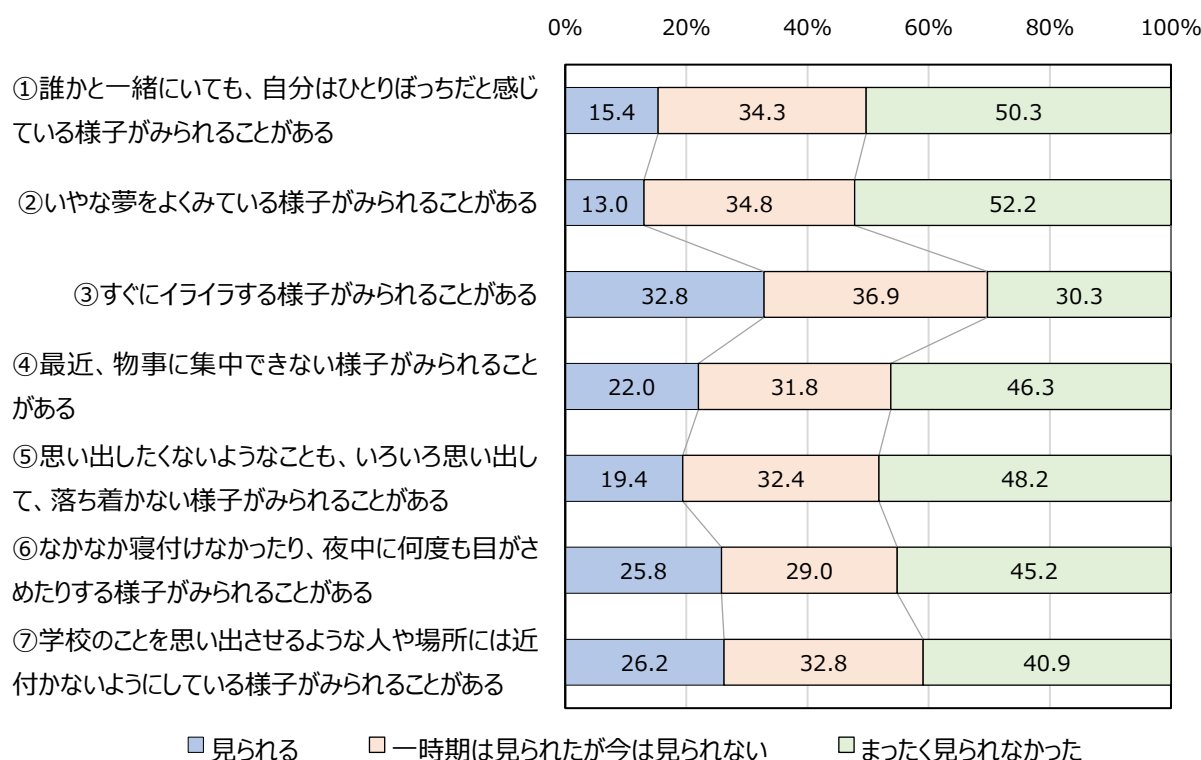


図 3-14-4-(a)-R4 保護者から見た児童・生徒のストレス反応 (N=469)

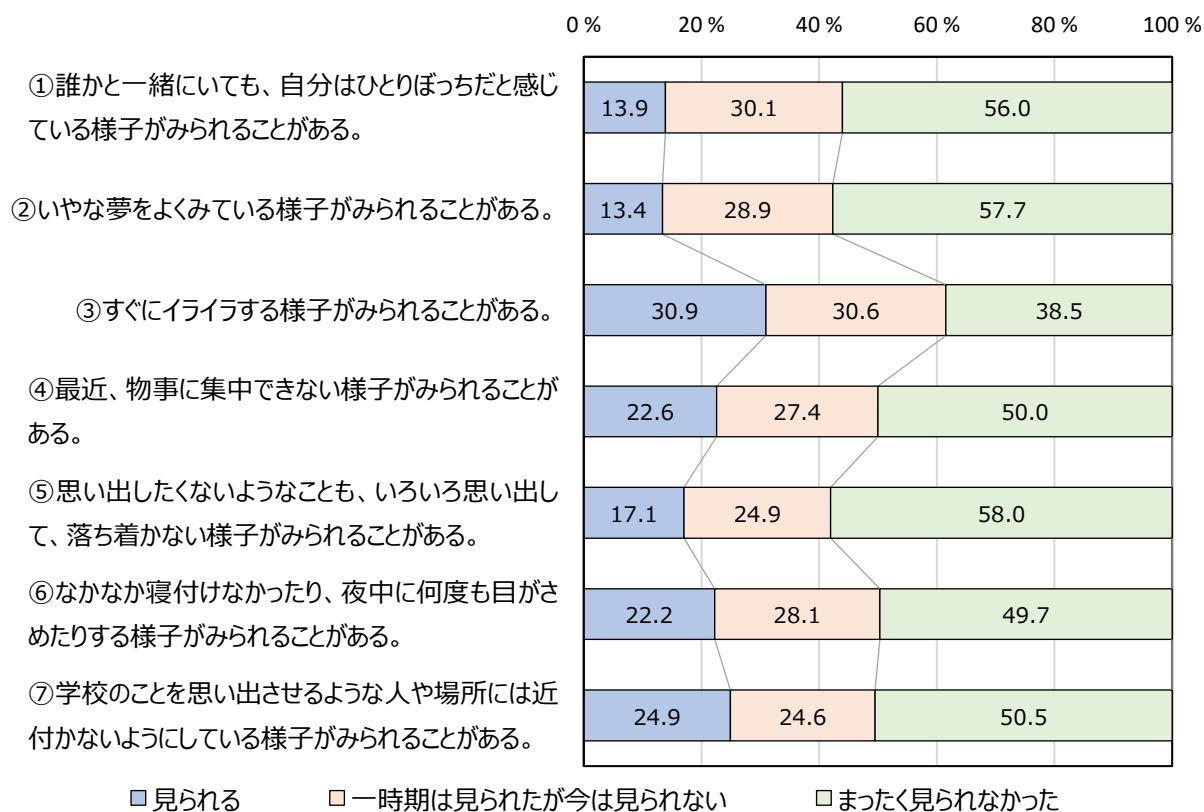


図 3-14-4-(a)-R5 保護者から見た児童・生徒のストレス反応 (N=598)

表 3-14-2-(b)-R4 保護者からみた児童・生徒のストレス反応の比較 (小学生と中学生)

選択項目	小学生			中学生			検定結果
	見られる	一時期は見られたが今は見られない	まったく見られなかった	見られる	一時期は見られたが今は見られない	まったく見られなかった	
①誰かと一緒にいても、自分はひとりぼっちだと感じている様子がみられることがある	11.2	31.4	57.4	19.9	37.6	42.5	*
②いやな夢をよくみている様子がみられることがある	12.8	35.5	51.7	13.3	33.6	53.1	
③すぐにイライラする様子がみられることがある	32.6	37.2	30.2	33.2	36.3	30.5	
④最近、物事に集中できない様子がみられることがある	20.7	28.5	50.8	23.5	35.0	41.6	
⑤思い出したくないようなことも、いろいろ思い出して、落ち着かない様子がみられることがある	18.2	31.8	50.0	20.8	32.7	46.5	
⑥なかなか寝付けなかったり、夜中に何度も目がさめたりする様子がみられることがある	20.2	27.7	52.1	31.4	30.5	38.1	*
⑦学校のことを思い出させるような人や場所には近付かないようにしている様子がみられることがある	21.9	31.8	46.3	30.5	34.1	35.4	*

N=242

N=226

■ のは有意に多い／ ■ は有意に少ないことを表す

* $p < .05$

表 3-14-2-(b)-R5 保護者からみた児童・生徒のストレス反応の比較（小学生と中学生）

選択項目	小学生			中学生			検定結果
	見られる	一時期は見られたが今は見られない	まったく見られなかった	見られる	一時期は見られたが今は見られない	まったく見られなかった	
①誰かと一緒にいても、自分はひとりぼっちだと感じている様子がみられることがある	10.3	30.2	59.5	17.7	30.0	52.3	*
②いやな夢をよくみている様子がみられることがある	13.8	28.3	57.9	12.7	29.7	57.6	
③すぐにイライラする様子がみられることがある	33.8	28.9	37.3	27.6	32.2	40.3	
④最近、物事に集中できない様子がみられることがある	20.9	26.4	52.7	24.7	28.6	46.6	
⑤思い出したくないようなことも、いろいろ思い出して、落ち着かない様子がみられることがある	14.8	25.7	59.5	19.8	24.0	56.2	
⑥なかなか寝付けなかったり、夜中に何度も目がさめたりする様子がみられることがある	17.4	25.7	56.9	27.9	30.4	41.7	*
⑦学校のことを思い出させるような人や場所には近付かないようにしている様子がみられることがある	24.4	25.1	50.5	25.8	24.4	49.8	

N=311

N=283

 は有意に多い／  は有意に少ないことを表す
* $p<.05$

（３）児童・生徒のストレス反応の様子と保護者の認識との一致について

保護者定期調査 Q66 と児童・生徒定期調査 Q50 では、双方ともにストレス反応に対する回答をいただいている。そこで、保護者の見取り（判断）と児童・生徒の回答とがどの程度対応しているかを検討した。保護者の回答は、「見られる」を 3 点、「一時期は見られたが今は見られない」を 2 点、「全く見られなかった」を 1 点として得点化した（7 点～21 点）。つまり、得点が高いほど、保護者が児童・生徒のストレス反応に気付いて意識していることを表す。

令和 4 年度の結果を示す図 3-14-4-(b)-R4 の縦軸は、保護者が児童・生徒のストレス反応の程度をどのように評価しているか（気付いているか）を表し、得点が高いほど、児童・生徒のストレス反応が多いと判断している。横軸は、児童・生徒が、7 項目のストレス反応項目に対して何項目「当てはまる」と選択したかの数を示している。多くのストレス項目に「当てはまる」と回答した保護者は、そのストレスに気付いているかを表すのがねらいである。

結果から明らかなように、折れ線は左下から右上にほぼ増加する傾向にあり、ストレス反応質問項目に「当てはまる」と回答した項目数が多い児童・生徒の保護者は、児童・生徒のストレスの程度に気付いている傾向が強いことを示している。この結果から、保護者が捉えている児童・生徒のストレス反応の程度は、相対的に確であると見なせる。

さらに、この特徴は、令和 5 年度の結果からも同様に見いだすことができた。図 3-14-4-(b)-R5 は令和 4 年度と同じ方法で得点化した結果を示す。結果は令和 4 年度と同様の傾向であり、かなり安定した特徴である。

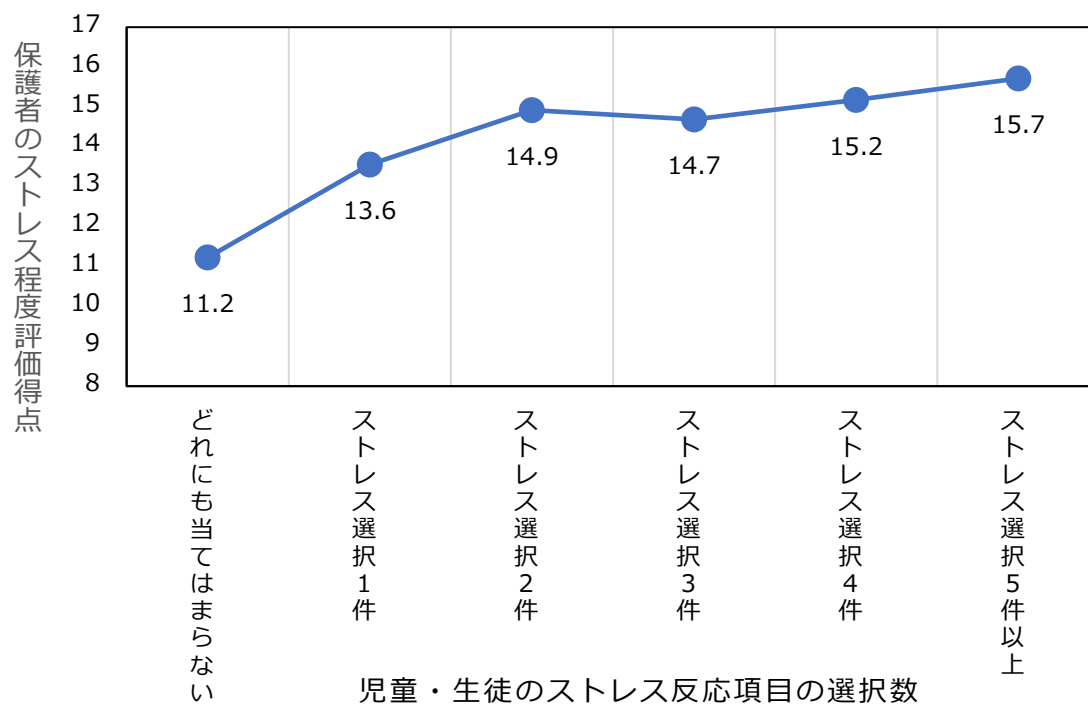


図 3-14-4-(b)-R4 児童・生徒のストレス反応項目選択数と保護者の評価との関係 (N=303)

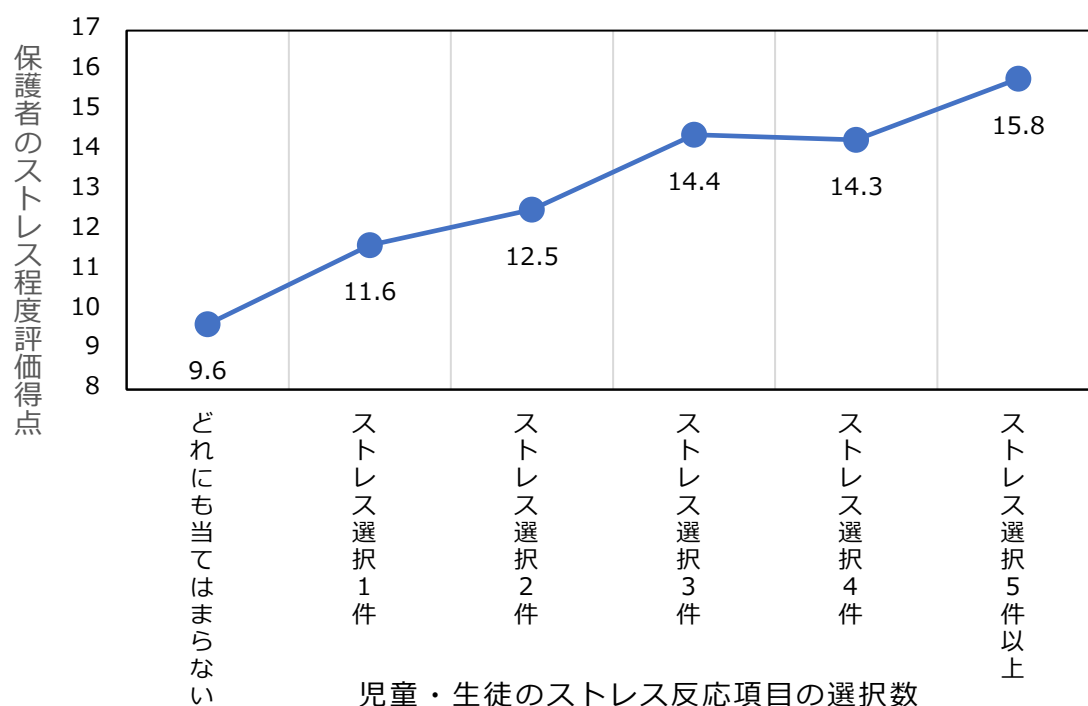


図 3-14-4-(b)-R5 児童・生徒のストレス反応項目選択数と保護者の評価との関係 (N=601)

3-14-4 今後期待したい支援

最後に、保護者初回調査のQ95にて、「今後期待したい支援」を質問した。結果は表3-14-3に示す。表3-14-3は、回答の自由記述について、テキストマイニング分析を行ったものである。分析の結果、概念（主題）は、「1. 学校」、「2. 活動」、「3. 教育支援」、「4. 学習支援」、「5. 教育支援センター」、「6. 相談」、「7. 本人」、「8. 子供」、「9. 登校」、「10. フリースクール等」の10概念が抽出された。また、その概念を構成するキーワードは見出しの次に記載するとともに、概念とキーワードに対応する代表的な意見をピックアップして表内に記載した。

表 3-14-3 今後期待したい支援

【1. 学校】（居場所・教育方法・個別対応・カウンセラー）
・とにかく安心できる居場所、自分らしく過ごせる環境、勉強もゆっくりでもちゃんとできる環境を今と変わらず続けてほしいと願っています。
・中学校は副校長先生が窓口で、困りごとやお願いなどで連絡すると真摯に向き合ってくれるので信頼している。今後もこの関係を願っている。
・本人に合う環境が見付かり、本人が誇りをもって通えるフリースクールに出会えたことはとてもラッキーでした。合う環境に身を置くだけで、目の輝きがこれほど変わるといことが如実に分かりました。
・学校が決めた教材だけでなく、本人が自主的に学習したものも見えてほしい。
【2. 活動】（進路指導・職業指導・社会体験・自己肯定感）
・もう少し年齢が上がったら、保育士さん、ヘアメイクなど、将来につながりそうな職場体験をしてほしいです。
・学校に行っていないため、様々な体験をする機会に乏しいので、もし可能であれば、スポーツの時間や実験の時間、社会体験などの時間をもう少し増やしてほしい。図画工作や家庭科の授業も受けることができればなお良い。みんなでカードゲームやボードゲームをする機会を設けてほしい。それがきっかけで、なかなか話せないお友達と仲良くなることができるかもしれない。また、普段はどうしてもパソコンやスマホゲームに頼ってしまうので、それ以外の方法で友達と関わるやり方も知ってみたいので。同年代の子に比べて運動不足なので、教室で簡単にできることでよいので、簡単な体操など取り入れてもらいたい。
・同年代との交流を通して、コミュニケーションの練習が安心してできる環境を整えてほしい。自己肯定感が育ってくると学習意欲も上がってくるように見受けられるので。
・前向きな言葉かけで、安心できる環境で過ごさせて、自分に自信がもてるようにしてほしい。
・その子に合った個別指導、カウンセリングに近い接し方をずっと大切に継続していただきたい。
【3. 教育支援】（経済的援助・情報連携・ワンストップ対応・情報共有）
・フリースクールへの公的援助を通じた利用料の無償化。前提としてフリースクールの義務教育機関として体系的組み込み。
・東京都や国からの支援（経済的な補助）を期待している。本来、義務教育機関に通っていたならば得られたはずの教育費をフリースクールに回してほしい。
・この国にも、フリースクール、ホームエデュケーションを、公教育の一つとして位置付けていきたいです。
・金銭面での負担が多いので、せめて今現在の半分程になると助かります。学校とその近隣のフリースクール、また教育支援センターとのつながりが薄いように感じています。不登校の子供たちが落ち着いて学校以外の場所で過ごせる道の選択肢を増やしてほしいです。
【4. 学習支援】（学習意欲・教科学習）
・学校や医療機関と情報連携して子供の状況を関係者に共有してほしい。長期的な進路相談などに乗ってほしい。
・個人の特徴に合わせた支援。場面緘黙の子供の事例や支援の在り方などを、親も勉強できる情報共有の場であるとありがたいです。
・不登校イコール勉強嫌いではないので学習支援をしてほしい。複式学級の形式で授業をしてほしい。
・小学校1、2年生は、幼稚園のような遊びながら学習できる、机に座らず、床に座ってグループワークをしたり読み聞かせをしたり、教科を組み合わせた学習など、ギャップを少なくして学校の学習に馴染めるようにしてほしい。
・学習について教科書に沿った教材での自学自習をベースに進めているのですが、この支援があると助かります。フリースクールに対しては学習の時間をある程度作っていただくこと、学校に対しては学校に通っていない生徒向けの自習のためのオンデマンドのビデオ教材を提供していただくと、効果的に学習を進められそうです。
【5. 教育支援センター（適応指導教室）】（低学年・学習支援）
・フリースクールや適応指導教室は高学年からのものが多く、低学年はどうすれば良いのか悩んだ時がありました。低学年から何か支援を受けられると良いと思います。
・学校には行きたくても行けない不登校の子に対して勉強支援（オンライン授業など）をしていただきたいです。

・学校と同じような対応ではなく、子供一人一人の状況に寄り添ってほしい。
・自習だけでなく、子供の交流の場所となるような工夫をしてほしい。
【6. 相談】（進路相談・親の相談）
・良い仲間との出会いの場。進路相談（自分の可能性、進路を諦める必要がないこと）。
・親の相談窓口があったらいい。
・学校や医療機関と情報連携して子供の状況を関係者に共有してほしい。長期的な進路相談などに乗ってもらいたい。
【7. 本人】（社会性・就業・興味・関心）
・本人の社会性が不安であるため、自分の居場所の作り方など、社会性を学べる支援をいただきたい。
・現状ではどこかに所属していることがあっても本人には意味があると考えています。
・本人が少しでも外部の世界へのつながり、興味をもつようにしてほしい（家庭、家族のみの世界になることを避けたい）。
・保健室登校や適応指導教室などを最初はいいのではないか考えていましたが、決めるのは本人なので、そこへはつながりませんでした。「どうしたらつながったかなあ」と今は思います。フリースクールもすぐに行けるようになったわけではありません。本人がある程度回復するのを待つしかありませんでした。その間が本人も家族も一番辛い時期だと思います。ですが、担任の先生やスクールカウンセラー、医療機関に相談できる場所があったことは感謝しかありません。
・本人がつまずいたときにそれをどのように捉え、どのように解決するかなどの生きていくために必要な知識の教育や、本人のペースに向き合う姿勢。
【8. 子供】（子供の心・子供の特徴・学校を休む）
・子供の心の動きを保護者とともに察知し、子供に無理強いをせず、一人一人に合った登校や環境を与えられる事。子供の気持ちや考えを1番大切にすること。
・多様性の受け取り方。先生も子供もいろいろいて良いというところ。子供たちの感性をどこまで受け入れてくれるか。
・引き続き子供が安心した環境で自信を付けていき、いずれは学校へ行っても大丈夫だと子供自身が思えるようになるサポートをしていただけたら嬉しいです。
・子供の様子や状況に合わせた、柔軟な対応を期待します。調子の悪い時にはそっと見守っていただきたい。
・子供たちの状況は千差万別なので、話を聞いてくれる教職員が増えてほしい。
【9. 登校】（子供の理解・不安・安心）
・不登校の子でも行きたくなる居場所を作ってほしいです。親子参加できるイベントなど。
・不登校対策は早めが肝心だと思います。我が家の場合、かなり遠回りしてからようやく公的支援にたどり着くことができましたが、もう少し早く知ることができたなら長期化を防げたかなとも感じます。兆候がある児童・生徒にはすぐに専門家が対応できるようなシステムを構築すると不登校増加が防げるのではと思っています。
・教室か保健室以外に、教師がいるクラスを作してほしい。異学年クラスのようなもの。不登校支援のできる現役の方を担任にしていたらいいクラスと学習支援を望みます。学習の遅れを取り戻すことも助けてほしいです。
・学校に特別なルームなど作っていただき、クラスに戻らず、そこで1日過ごして良い場所を作してほしいと思います。
・フリースクール等には、教育活動、運営が属人的になりがちで不安定さがあるので、子供が安心して通えるように、スタッフの育成や運営基盤の強化を図ってほしい。その上で、保護者へのアウトリーチ的支援や相談機能の強化をお願いしたい。
【10. フリースクール等】（居場所・教科学習・補助金・義務教育・学費）
・学校に居場所(避難スペース)があってほしい。公立のフリースクール（自由度の高い活動内容）が増えてほしい。又は都からフリースクールへの助成などでも良いと思います。魅力的なフリースクールは授業料が高すぎて諦める保護者も多いです。
・今は学校以外で過ごすことを認めていただけてありがたいです。フリースクールは1回の利用料金が高いので家計には負担になります。働きに出ようとする本人の不安感が増えて精神不安定になるので働くことも難しいのが現状です。フリースクールに行くことが本人の生きていく希望になって、学校にも短い時間ですが少しずつ行けるようになり、いろいろな人と関わることができています。
・フリースクールではこの先、学習の方に気持ちが向くように支援して下さるよう期待しています。
・子供が通いたいと感じられるよう、引き続き安心・安全な場所を提供してほしい。
・得意や不得意の分野がある子供たちが興味・関心をもてるよう、柔軟なサポートを求める。

第4章 考察

第4章では、はじめに本事業の目的として設定した6観点（p.21）の内容とその成果について考察し（4－1）、次に、考察の中で特に留意・検討すべき3論点を取り上げて詳述する（4－2）。

4－1 本事業の目的に応える6観点

4－1－1 分析の6観点の設定

本事業は、様々な調査の実施によって情報を収集し、その分析に基づいて「フリースクール等に通う不登校児童・生徒支援調査研究事業報告書」（以下、報告書）を作成し、施策立案のための基盤情報を明らかにするのが目的である。その中で、本報告書は、フリースクール等に通う不登校児童・生徒及びその保護者についてアンケート調査への回答を依頼し、回答結果の分析と評価を実施したものである。調査に当たっては、事業の目的を遂行するために、事業計画段階で6観点を設定し（p.21）、観点に基づく調査項目を中心に構成した。

6観点は、「①フリースクール等に通う以前の状態」、「②通所・通学・通室状況」、「③フリースクール等での支援内容」、「④希望している進路」、「⑤児童・生徒及びその保護者が必要としている支援内容」、「⑥授業料及び入会金などの会費と諸経費」である。

アンケート結果の分析と評価に際しては、これら①～⑥の観点について、より具体的な分析・評価の実施と支援につながるような内容を追加し、次の（１）～（６）とした。

- （１） フリースクール等に通う以前の状態：不登校への初期対応の重要性
- （２） 通所・通学・通室状況：フリースクール等、学校、教育支援センター（適応指導教室）での様子
- （３） フリースクール等での支援内容：活動の内容・フリースクール等の支援者との関係
- （４） 希望している進路：進路予定、進路関係の相談など
- （５） 児童・生徒及びその保護者が必要としている支援内容：有効な支援の在り方など
- （６） 授業料及び入会金などの会費と諸経費：状況、金額、負担感など

以下、これら6観点ごとに、分析の結果とその特徴、支援につながるポイントなどを示していく。

4－1－2 6観点から明らかになった点

観点（１）フリースクール等に通う以前の状態：不登校への初期対応の重要性

観点（１）は、不登校になったきっかけと初期対応の重要性、特に、情報共有の重要性についてのまとめである。

【基になる結果】

- ① 「学校に行きたくない」は、主に小１、中１の４月・５月・９月に多かった（p.31～、表 3-1-1～）。
- ② 保護者が、「休みたい」という子供の様子に気付いてから休み始めまでは、１か月以内が約 44%で最も多く、６か月以内を合わせると、およそ４分の３であった。特に、小１、中１は、半数以上が１か月以内と、割合が多くなっていた（p.32～、図 3-1-1～）。
- ③ 「学校に行きたくない」という子供のサインに気付いたのちに、保護者の４分の３は、まず「学校の先生」に相談していた（p.36～、図 3-1-2-(b)）。次は「家族」、「カウンセラー」、「行政（教育相談所等）の相談窓口」の順であった。なお、小・中学生の保護者の間では大きな違いはなかった。
- ④ 保護者が学校に期待した対応は、「学校の先生からの声かけ」、「個別対応（放課後を含む）」、「学校にいるカウンセラーとの面談」であった（p.39～、図 3-1-3）。なお、教育支援センター（適応指導教室）やフリースクール等の紹介への期待は小学生の保護者に、「学校の友達からの声かけ」、「部活

動などへの参加の声かけ」への期待は中学生の保護者に、それぞれ多かった。

- ⑤ 休みたくなったときの児童・生徒の相談相手は、「家族」が 75.0%と最も多く、「カウンセラー」は 11.4%、「学校の先生」は 9.2%であった。さらに、中学生は「誰にも相談しなかった」が 19.1%で、小学生よりも有意に多く、中学生への働きかけや声かけが特に重要であると言える（p.52～、図 3-2-6）。
- ⑥ 不登校の要因についてのまとめは、保護者より自由記述形式でいただいた回答のテキストマイニング分析から次の 8 カテゴリーとそれに関係するキーワードを抽出した（p.41、表 3-1-2）。

1. 学校適応	2. 担任の指導	3. 授業・ルール・進め方	4. 集団生活
5. 学習・苦手・学習障害	6. 発達障害	7. ストレス・プレッシャー	8. 人間関係

【支援のポイント・留意点】

この①～⑥から強調すべきは、保護者と学校との初期の連携と対応が何より急務なことである（p.32～、図 3-1-1）。不登校の初期対応の重要性、すなわち「気付いたら、ただちに保護者と学校が情報を密に共有し、学校の先生の声かけと傾聴、あるいはスクールカウンセラー等の専門家を含めて、課題に向き合う体制を構築すること」が重要である。さらに、情報は継続的に交換し続けることも必要である。特に、小 1、中 1 は、待ったなしの対応開始が求められている。なお、この内容は次の 4 - 2 - 1（論点 1）で詳しく説明する。

観点（２）通所・通学・通室状況：フリースクール等、学校、教育支援センター（適応指導教室）での様子

観点（２）に関連するのは、在籍校、フリースクール等、教育支援センター（適応指導教室）にどの程度通い、どのような選択、特徴、検討点などが見られたかについてである。以下、通所・通学・通室ごとに結果を示していく。

【基になる結果】

表4-1-1-R4 通所・通学・通室の人数と日数（令和4年度）

	令和4年度(各月272名)			
	通った児童・生徒の 人数と割合		通った日数 (日/月当たり)	
	人数	%	日数	1週間当たり
フリースクール等通所	239	87.9	9.6	2.4
学校通学	83	30.6	5.7	1.4
教育支援センター通室	23	8.4	3.8	0.9

表4-1-1-R5 通所・通学・通室の人数と日数（令和5年度）

	令和5年度(各月699名)			
	通った児童・生徒の 人数と割合		通った日数 (日/月当たり)	
	人数	%	日数	1週間当たり
フリースクール等通所	617	88.3	8.3	2.1
学校通学	216	30.9	6.0	1.5
教育支援センター通室	59	8.4	3.9	1.0

表 4-1-1-R4 及び表 4-1-1-R5 は、令和 4 年度及び令和 5 年度について、「フリースクール等通所」、「学校通学」、「教育支援センター通室」の人数と日数を示したものである。

- ① 通所・通学・通室について、通っている児童・生徒の割合は、表 4-1 及び図 3-9-1（p.110～）より、フリースクール等が令和 4・5 年度で 88%前後、学校は 31%弱、教育支援センター（適応指導教室）は 8.4%であった。また、通っているひと月当たりの日数は、フリースクール等が 9 日前後、学校が 6 日弱、教育支援センター（適応指導教室）が 3.8～3.9 日であった。なお、日数を 1 週間当たりに換算した日数も表 4-1 及び表 4-2 に示した。

<フリースクール等通所>

- ② 現在のフリースクール等を選んだ理由は、「子供の反応」、「活動内容」、「自宅からの距離」、「スタッフの対応」、「雰囲気」、「学習や補習の実施内容」の順であった（p.64、図 3-4-1-(b)）。小学生は「子供の反応」、中学生は「スタッフとの対応」が有意に多かった。
- ③ 別のフリースクール等から現在のフリースクール等に移った家庭を対象に、児童・生徒の変化の様子を質問した結果では、「居場所を得た」、「友人との会話が増えた」、「家庭でフリースクールの話をするが増えた」などの変化が見られた（p.70～、図 3-4-2-(d)）。小学生では「居場所を得た」、中学生では「友人の会話」や「コミュニケーション」が多かった。

<学校通学>

- ④ 学校での別室登校の経験は、55.5%が「経験無し」で、小学生と中学生ではほぼ同率であった（p.43、図 3-2-1）。
- ⑤ 別室登校の場所（複数回答）は、「保健室」が 43.4%、「専用の教室」が 38.5%であった。専用の教室を用意していないと回答があったのは 61.5%で、その場所は様々であった（p.44、図 3-2-2）。

<教育支援センター（適応指導教室）通室>

- ⑥ 教育支援センター（適応指導教室）への通室経験が無いのは全体の約 75%で、小学生と中学生ではほぼ同率であった（p.54、図 3-3-1）。
- ⑦ 教育支援センター（適応指導教室）への通室を辞めた理由については、「お子様の反応」が最も強く、次いで「フリースクールの方が子供に合っていた」であった（p.57、図 3-3-3）。
- ⑧ 教育支援センター（適応指導教室）への通室を辞めた人に「再度の通室を検討するか」を質問した結果、「検討していない」のは 88%以上、中学生のみでは 90%以上であった（p.58、図 3-3-4）。
- ⑨ 教育支援センター（適応指導教室）に再度通室しない理由について、自由回答を分類した結果では、「1. フリースクール等：楽しさ・前向き」、「2. 本人：希望しない」、「3. 適応：適応指導教室・授業・指導」、「4. 子供：子供の気持ち・拒否・居心地」、「5. 雰囲気・様子：通学距離・活動内容」の 5 概念が抽出された（p.59、表 3-3-1）。

【支援のポイント・留意点】

これらの結果から、現在の通所・通学・通室のそれぞれの状況として、フリースクール等に通所している児童・生徒は週 2～3 回程度、学校への通学は週 2 回程度（ただし、通学しているのは全体の 30%程度）、教育支援センター（適応指導教室）への通室は週 1 回程度（ただし、通室しているのは全体の 8%程度）であること示された。

フリースクール等への通所については、マッチングがうまくいっている場合に、子供の会話量の増加、居場所感の向上などが示されており、日常の児童・生徒の観察や対話の機会が何よりも重要である。

学校への通学については、回答から指摘できる留意点として、別室登校に対する居場所や活動内容などの学校全体での体制作りが重要であると言える。

教育支援センター（適応指導教室）への通室については、⑥～⑨を通して一貫して利用の少なさや、「一度利用しても再度利用しない」という保護者からの回答が確認でき、その対応策を検討する必要がある。

観点（3）フリースクール等での支援内容：活動の内容・フリースクール等の支援者との関係

観点（3）に関連するのは、1 点はフリースクール等での活動内容、特に楽しさや興味を感じた活動内容、もう 1 点はフリースクール等の支援者からの関わりである。児童・生徒への関わりについては学校の先生の結果も併せて紹介する。

【基になる結果】

<活動の内容>

- ① フリースクール等での活動の中で、児童・生徒が楽しさや興味を感じたものは、「やりたいことを考え、計画して行う活動」、「施設内での文化・芸術活動」、「自然体験」であった。また、教育支援センター（適応指導教室）での活動について楽しさや興味を感じたものの結果と比較すると、小学生では「自然体験」や「スポーツ活動」に、中学生では「学習」に関係する活動が興味や関心を示していた（p.74、図 3-4-3-(a)）。
- ② 保護者から見て、フリースクール等の活動内容で期待しているのは、「個人の興味や関心による活動」、「自然体験」、「子供たちでのミーティング」が多かった（p.78、図 3-4-3-(d)）。
- ③ 一方、フリースクール等でどのような活動が用意されているか、それは月ごとにどう変化するかを保護者の方々に質問した結果は図 3-12-1（p.121～）である。月ごとの実施活動の比率を比較すると、それほど顕著な変動は見られなかった。

<フリースクール等の支援者との関係>

- ④ フリースクール等の支援者からの関わりに対する受け止めは、「自由に話しやすいような雰囲気にしてくれる」が最多で、ポジティブな内容の項目が選ばれ、「どれにも当てはまらない」はほとんど居なかった（p.80、図 3-4-3-(e)）。
- ⑤ 一方、学校の先生の結果を見てみると、「どれにも当てはまらない」が最も多かった（p.48～、図 3-2-5）。
- ⑥ ただし、図 3-10-3（p.117～）に見られるように、時間が経過する中で、児童・生徒がフリースクール等に通いながら学校の先生からの関わりをどのように受け止めているかを見たところ、「どれも当てはまらない」が減少し、ポジティブな関わりを示す項目への回答が徐々に増加してきていた。また、図 3-12-4（p.129～）からも、フリースクール等の支援者の結果に学校の先生の結果が近付いてきていることが分かった。

【支援のポイント・留意点】

活動の内容に関する結果（①～③）からは、フリースクール等側ではいろいろな活動プログラムを用意しておき、児童・生徒や保護者が、その中のいずれかに関心を示して参画しやすいようにする、という支援状況が見えてくる。

フリースクール等の支援者、学校の先生からの関わりでは（④～⑥）、学校の先生と比較して、フリースクール等の支援者に対するポジティブな印象が強かった。しかしその一方、学校の先生からの関わりに対する印象も、⑥の図 3-10-3（p.117）と図 3-12-4（p.129～）に示したように、学期の進行とともにポジティブに変化してきているのである。児童・生徒がフリースクール等中心の生活を送る中で、週 1 ～ 2 回在籍校に登校し、学校の先生との関わりをもつことがプラスの効果をもたらしていると言える。

観点（４）希望している進路：進路予定、進路関係の相談など

観点（４）に関連する調査の結果は、希望する進路と関連して、学校やフリースクール等への期待や課題などである。

【基になる結果】

- ① 児童・生徒の今後の希望進路として、小学生では「居住地区の公立中学校」が 35.3%で最も多く、次いで「フリースクール等民間団体」が 29.5%であった。公立と私立他の中学校の希望は計 56.5%であった。また、その他の回答では「未定・検討中」が 10 件見られた（p.139～、図 3-14-3～）。中学生では、「高等学校（定時制課程・通信制課程）」の希望が 61.0%と多くなっており、次は「高等学校（全日制課程、高等専門学校）」が 18.4%であった。フリースクール等への進学希望は 4.4%に留まっていた（p.139～、図 3-14-3～）。
- ② 進路に関連する、保護者からフリースクール等への期待として、「進学・就労のための支援」が 46.5%挙げられており（複数回答）（p.137、図 3-14-2～）、中学生の方が小学生よりも有意に多かった。
- ③ 「今後期待したい支援」の質問に対する自由記述回答を分析した結果（p.147、表 3-14-3）には、「進路指導」というキーワードが抽出されている。

【支援のポイント・留意点】

これらの結果から、進路に関しては、小学生の保護者の希望は、中学校とフリースクール等を合わせると 86.0%で、双方の進路に対する的確な対応がポイントになる。一方、中学生の保護者は、進学や就労の支援や情報を小学生の保護者よりも多く期待しており、学校とフリースクール等の双方で、保護者のニーズに応える情報を伝えるような機会や工夫が必要である。そして、児童・生徒にとって自分の得意を伸ばしたり、興味ある分野を学べたりする場、自立するための準備ができる機会を提供するのが重要である。

観点（５）児童・生徒及びその保護者が必要としている支援内容：有効な支援の在り方など

観点（５）に関連する結果は、保護者対象の質問「今後期待したい支援」に対する自由記述形式の回答である。

【基になる結果】

回答は、テキストマイニング分析によって文章の意味分類と概念（カテゴリー）抽出、キーワード抽出を行った（補遺(1)、p.159）。結果は、表 3-14-3（p.147）である。なお、カテゴリーの分類名と抽出されたキーワードは、いずれもテキストマイニング分析の出力結果を基にまとめたものである。以下に 10 の「カテゴリーとキーワード」を示す。

- 「 1. 学校 ⇒ 居場所・教育方法・個別対応・カウンセラー」
- 「 2. 活動 ⇒ 進路指導・職業指導・社会体験・自己肯定感」
- 「 3. 教育支援 ⇒ 経済的援助・情報連携・ワンストップ対応・情報共有」
- 「 4. 学習支援 ⇒ 学習意欲・教科学習」
- 「 5. 教育支援センター（適応指導教室） ⇒ 低学年・学習支援」
- 「 6. 相談 ⇒ 進路相談・親の相談」
- 「 7. 本人 ⇒ 社会性・就業・興味・関心」
- 「 8. 子供 ⇒ 子供の心・子供の特徴・学校を休む」
- 「 9. 登校 ⇒ 子供の理解・不安・安心」
- 「10. フリースクール等 ⇒ 居場所・教科学習・補助金・義務教育・学費」

【支援のポイント・留意点】

挙げられたカテゴリーはどれも重要であり、多岐にわたっていた。さらに、カテゴリーの内容をより具体化するキーワードとして、職業指導、保護者支援、低学年など、多様な側面についての支援要請も挙げられており、きめ細かく対応していく必要がある。加えて、ワンストップ対応の動き、すなわち、家庭、学校、自治体窓口、フリースクール等との連携が更に充実すると、学校の先生やフリースクール等の支援者、保護者との協力体制が構築できると思われる。

観点（6）授業料及び入会金などの会費と諸経費：状況、金額、負担感など

観点（6）に関連する結果は、入会金、授業料、交通費などの実態のデータである（p.83、3-5 [5]）。

【基になる結果】

- ① 図 3-5-1-(a)、図 3-5-1-(b)より（p.84～）、入会金は約 40,000 円、ひと月当たりの費用（授業料・施設使用料など）は月平均 45,817 円（令和 4 年度）、43,136 円（令和 5 年度）であった。
- ② 図 3-5-1-(c)（p.86）より、交通費は、支払っている家庭、すなわち遠くまで通わざるを得ない家庭が 76%で、月平均の交通費が令和 4 年度に 4,364 円、令和 5 年度に 4,362 円であった。
- ③ 図 3-5-4-(a)（p.92）では通学定期乗車券制度の利用状況について、公共交通機関を使用しているが制度を利用していない生徒が令和 4 年度では 47.1%、令和 5 年度では 47.5%であった。
- ④ 令和 4 年度の場合、入会金以外の平均金額を合計すると、毎月 51,181 円であり、年間では平均 614,172 円で、それ以外のいろいろな関連費用を合わせると家計に負担があることが明らかになった。
- ⑤ 必要な支援内容の調査でも、「負担である」、「やや負担である」を合わせると約 90%が家計への負担を訴えていた（p.89、図 3-5-3）。

【支援のポイント・留意点】

公教育の対象である児童・生徒の家庭がこれだけの支出をすることに対して改善を要望する多くの声が寄せられており、早急の検討が必要である。

4-2 特に留意・検討すべき論点

調査結果の分析の過程で、6 観点に関連して、特に留意・検討すべき論点が次のように 3 点導き出されてきた。そこで、それらの論点を取り上げて、内容を詳説する。

4-2-1 (論点1) 学校の先生の初期対応の重要性とその具体例

前項4-1の観点(1)にて、今回の調査結果から強調すべきは、初期対応の重要性、すなわち、「気付いたら、ただちに情報を共有し、学校の先生は個別に声かけをして傾聴」の実践であった。学校の先生からの声かけと傾聴は「心の応急処置(MHFA)」(Mental Health First Aid)の考え方と通じるところがある。

ただ、学校の先生が実際の状況に直面したときの、具体的な対応に戸惑うことも多いと思われる。そこで、本項では、保護者からの自由記述意見である「有効な支援」(p.106、表3-8-1より)に描かれた学校の先生像(次の表4-2-1)を再度取り上げる。声かけの実践の参考になると思われる。

表4-2-1 学校の先生の対応：保護者が有効な支援と考えた事案(例)

- ・フリースクールへ通い始めたときに、担任の先生が、クラスの他の生徒たちに「Aさんは、違う学校に通っていてみんなと同じように学び、時折この学校にも来ます。」ときちんと説明してくださり、たまに子供が学校に行ったときも、みんなが以前と同じように接してくれる態勢を整えてくださいました。先生は、子供たちみんなの未来を見据えた考え方をされていて、「今後、Aさんのようにダブルスクールの子も増えてくると思うから、それを特別と思わない子供たちに育てたい。」とおっしゃっていました。私は、最初、小学校に通えないことが「いけないこと」と思っていたのですが、「これでいいんだ」と思えるようにしてくださり、本当に感謝しています。
- ・学校の先生が、無理に登校させようとしたり、学校に無理やりいさせようとしたりせず、その日にできたことを褒めてくれたり、本人の希望の勉強のプリントを用意してくれて、自宅で学習できるように準備したりしてくれたこと。
- ・小6の時の担任の対応が良く、クラス全体が待ってしてくれる雰囲気を作ってくれたため、子供のタイミングで行くことができた。
- ・子供が休み出した当時の校長が心理士で、子供の行動のいろいろな特徴を挙げ、これから一生の長い付き合いになるから、保護者がしっかり勉強していくことが重要となることを伝えられた。また、「今はゆっくりと過ごし、3、4年生に変化があるだろうから、その時に学校との関わりを段階的に築いていきましょう」という学校の取組も理解した。校長に言われたことで、母親自身が、学校や勉強がどうこうよりも、今は本人が「安心して生きていく」ことができるようにすることに集中できた。校長に相談できたのはとても心強く、祖父母も「校長先生が言うなら」と納得した。

4-2-2 (論点2) 教育支援センター(適応指導教室)での支援

(1) 有効な支援としての教育支援センター(適応指導教室)への期待

児童・生徒が「学校に行きたくない」様子を示し始めてからの対応として、教育支援センター(適応指導教室)の役割が大変重要なのは言うまでもない。保護者からの自由記述意見である「有効な支援」(p.106、表3-8-1)の中にも、次の表4-2-2のような意見が見られる。

表4-2-2 教育支援センター(適応指導教室)の支援：保護者が有効だと考えた事案(例)

- ・適応指導教室は4年生からなので、1年生～3年生は利用できないが、母子分離でそれぞれカウンセラーが付き、子供と別室で相談ができたことは良かったです。子供のメンタルがひどい状況だったため、母子分離の時間があるだけでもホッと一息でき、ありがたく、子供の様子を後から聞くこともできよかった。
- ・適応指導教室では、とにかく先生たちがみんな笑顔。指導員による丁寧な対応(子供の話をしっかり聞いてくれる、否定しない、安心感のためにぬいぐるみ等の持ち込みも許可してくれる)で、安心感を積み重ねることができた。
- ・教育支援センターよりスクールソーシャルワーカーの派遣が月1回程度あり、本人の心のケアや情報交換をしてくれている。

（２）教育支援センター（適応指導教室）の活用

その一方、教育支援センター（適応指導教室）への通室経験（p.54～、図 3-3-1）調査で、経験があるのはほぼ 25%であった（小学生と中学生とではほとんど違いなし）。不登校への対応として中心的な役割を果たすべき教育支援センター（適応指導教室）への通室経験率について、不登校児童・生徒のおよそ 4 分の 3 が未経験であったということ踏まえ、活用を促すための対応について検討する必要がある。

（３）「再度の通室を検討するか」の質問への回答から

さらに、教育支援センター（適応指導教室）への通室を辞めた保護者に対して、「再度通室を検討しているか」を質問したところ、約 88%が「検討していない」と回答した。

通室を辞めた理由として図 3-3-3（p.57）では、「児童・生徒の反応」、「フリースクールの方が子供に合っている」、「雰囲気」などの回答が多かった。

４－２－３ （論点３）児童・生徒の学校居心地感と学校の先生からの関わり：小学生と中学生の比較

（１）明らかになったこと

学校居心地感は、児童・生徒の欠席日数と深く関わっている。居心地感が向上すれば欠席日数の減少につながり、「学校の敷居を下げる」、すなわち、登校意欲を高めることになる。では、居心地感の向上には何が関与するのであろうか。ここでは、今回の調査で明らかになった、学校の先生からの関わり（p.117、図 3-10-3）と学校の居心地感（p.114、図 3-10-2-R4 及び p.115、3-10-2-R5）との関係について考察する。

まず、学校の先生からの関わりは、3-10-3 で示したように、「支援者からの関わり質問」（早川・松添・小林・大月、2020）を基に、児童・生徒に対して 8 項目の質問（4 概念で 2 項目ずつ）を行い、「①②肯定的関わり」、「③④存在受容」、「⑤⑥主体性の育成」、「⑦⑧主張性の育成」の 4 概念の程度で示した。

一方、学校居心地感は、河内・小林（2009）の調査に基づき、図 3-6-1（p.93）、図 3-10-2-R4（p.114）及び 3-10-2-R5（p.115）で示したように、10 項目 5 段階評定で居心地の程度を調査している。居心地の程度は、図 4-2-3 に示すように、分析の結果、10 項目が、関係の強さによって、「Ⅰ 自分自身の居心地」と「Ⅱ 環境：他者との関係」の 2 グループに分かれた。さらに、「Ⅱ 環境：他者との関係」は、「良い仲間関係」と「他者からの受け入れ」の下位 2 グループにまとまった。

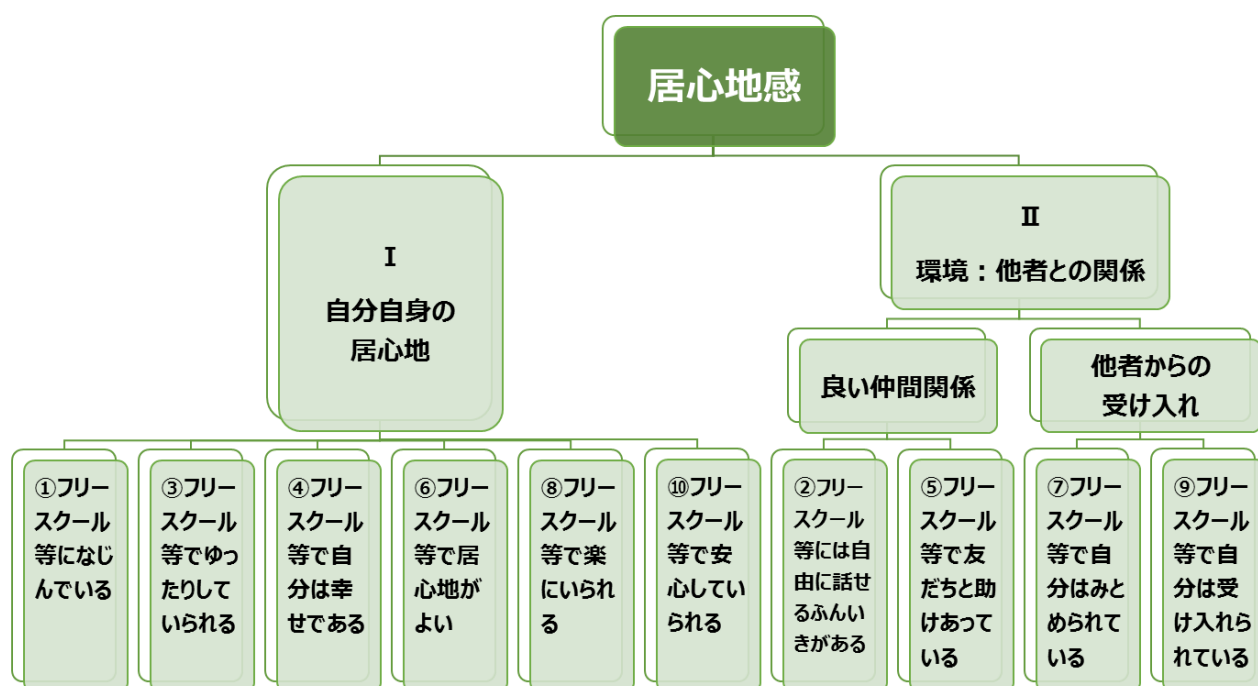


図 4-2-1 居心地感 10 項目の関係の強さを基にしたまとまりの図

この学校居心地感尺度は、児童・生徒の欠席日数を予測するために活用され、その信頼性・妥当性が示されている。すなわち、居心地感が向上すれば欠席日数の減少につながり、「学校の敷居を下げる」ことになるのである。そこで、この調査では、学校の先生からの関わりに注目し、学校の先生からの関わりの方によって居心地感がどのように影響されるのかに焦点を当てて分析した。

分析は、学校の先生からの関わりの4概念「肯定的関わり」、「存在受容」、「主体性の育成」、「主張性の育成」の程度が、居心地感の程度にどのように関係し、影響するのかを明らかにすることにした。居心地感は、図 4-2-1 に従い、「I 自分自身の居心地」、「II 環境：他者との関係」の2グループを対象とした（※p.159 の補遺(3)では「居心地全体」も分析対象としている）。分析は、校種ごとに行い、調査回答時の月に通学したことがある児童・生徒を対象とした。さらに、4月、10月、3月の半年ごとの回答を分析して、年間を通した変化の状況も明らかにした。対象人数は、当該月に通学したことがあり、かつ年間を通して調査に参加しているという条件の下、小学生は、4月 72 人、10月 64 人、3月 52 人、中学生は4月 43 人、10月 40 人、3月 37 人であった。なお、分析法は重回帰分析（補遺(3)、p.159）を用いた。

分析の結果をまとめたのが表 4-2-3 で、上段が小学生、下段が中学生の結果である。表の見方は、まず、表の右には4列「学校の先生からの関わり（β）」があり、関わりの4概念（「肯定的関わり」、「存在受容」、「主体性の育成」、「主張性の育成」）がある。続いて、行側は居心地感尺度（γ）があり、4月、10月、3月それぞれに、図 4-2-3 の「居心地感（全体）」、「居心地感（自分自身）」、「居心地感（環境：他者）」がある。

重回帰分析の目的は、4概念を使って左の居心地感尺度をどの程度うまく予測できるか（関係を示すか）を検討することである。例えば、上段の小学生の4月の「居心地感（全体）」を見ると、右側の4列のうち、「肯定的関わり」に★が付いている。これは、小学生の4月の「居心地感（全体）」の程度に強い影響を及ぼし、その程度を予測する可能性があるのは、4概念のうちの学校の先生からの「肯定的関わり」であったことを示している。★が2個の場合は2項目が共に影響していたことを示す。強い影響を及ぼすかどうかは、標準偏回帰係数（β）にて判断ができる。結果の詳細は補遺(3)（p.159）に示してある。

表 4-2-3 居心地感に影響を及ぼす学校の先生からの関わり（重回帰分析）

【 小学生 】			学校の先生からの関わり（β）			
			肯定的関わり	存在受容	主体性の育成	主張性の育成
居心地感尺度（y）	4月	居心地感（全体）	★	—	—	—
		居心地感（自分自身）	★	—	—	—
		居心地感（環境：他者）	★	★	—	—
	10月	居心地感（全体）	—	—	★	—
		居心地感（自分自身）	★	—	—	—
		居心地感（環境：他者）	—	—	★	—
	3月	居心地感（全体）	—	—	★	—
		居心地感（自分自身）	★	—	—	—
		居心地感（環境：他者）	—	—	★	—

【 中学生 】			学校の先生からの関わり（β）			
			肯定的関わり	存在受容	主体性の育成	主張性の育成
居心地感尺度（y）	4月	居心地感（全体）	—	—	★	—
		居心地感（自分自身）	—	—	★	—
		居心地感（環境：他者）	—	—	★	—
	10月	居心地感（全体）	—	★	—	—
		居心地感（自分自身）	—	★	—	—
		居心地感（環境：他者）	—	★	—	—
	3月	居心地感（全体）	—	—	★	—
		居心地感（自分自身）	—	—	★	—
		居心地感（環境：他者）	—	—	★	—

表 4-2-3 から明らかになったのは次のような 2 点である。

ア 小学生で意識したい関わり

小学生では、学校の先生からの「肯定的関わり」と「主体性の育成」が居心地感に影響していること、居心地感のうち、自分自身が感じる居心地感については「肯定的関わり」が重要であり、他者との対人的な環境については「主体性の育成」が重要であった。特に、主体性は、自主性とは異なり、自分がやりたいことを尊重してもらえるかどうかに関わる。学校に行きたいにもかかわらず行けない状態は、自分が自分をコントロールしている（自己決定している）という感覚、自分が動いても大丈夫だという手応え感などを喪失している状況にある。その中で、「主体性の育成」につながるような学校の先生からの「受け止め」や「励まし」を実感したり、「任せてもらえる」体験をしたりすることによって、居心地感が向上し、「学校の敷居が低くなる」、すなわち登校意欲が高まることが期待できる。

また、4 月、10 月、3 月（1 学期、2 学期、3 学期）の変化を見ると、居心地感のうち、「Ⅰ 自分自身の居心地」については、一貫して「肯定的関わり」の影響が大きかった。その一方、「Ⅱ 環境：他者との関係」については、「主体性の育成」の影響が大きかった。自分自身の居心地と、他者との関係が醸し出す居心地の良さは別であることに留意する必要がある。

イ 中学生で意識したい関わりと時期の影響

中学生の結果は、小学生とはかなり様相が異なり、居心地感の内容（自分自身が環境か）の違いの影響は見いだせず、4 月と 3 月が「主体性の育成」、10 月が「存在受容」と、時期との明確な対応が見られていた。特徴的なのは、中学生では、小学生とは異なり、「肯定的関わり」の影響がどこにも見られなかった点である。中学生にとっては、小学生とは異なり、学校の先生からの「肯定的関わり」の対応や言葉かけよりも、「主体性の育成」につながるような関わり

りの方が重要なのである。また、「存在受容」の重要性も見いだしたが、その意味については次項で述べる。

（２）居心地感の向上をもたらしているもの：自己有用感と自己効力感の育成

前項のポイントは、「自分自身が感じる居心地感については『肯定的関わり』が重要であり、他者との対人的な環境については『主体性の育成』が重要である」であった。そこで、このことから考察を展開していくと、次のようになる。

まず、「主体性の育成」で育つのは「自己有用感」であると思われる。例えば、児童・生徒は、学校行事などへの参画により、役割をもって何かをやり遂げる。それらの役割は、誰かにやらされる形ではなく、かつ苦手なことは学校の先生や周囲が受け止めてくれる。学校の先生は、児童・生徒一人一人の役割に対して、「困ったら手を出す」という姿勢を堅持しながらも、「基本的に任せる」というスタンスでいること、これが「主体性の育成」である。これらの関わりは、他者の役に立てている自分、対人関係の中で、自身の価値が上昇していく感覚、すなわち「自己有用感を向上させる関わり」であると言える。「自己有用感」は、人間関係の中で育まれるもので、自分のことに喜んでもらえたり、感謝されたりすることで育つものを指す。

一方、「肯定的な関わり」で育つのは、「自己効力感」あるいは「自信」であろうと思われ、自分自身の伸びを実感できることで、「自己効力感」の向上につながるようである。

さらに、「存在受容」の関わりは、関係の中で、感情面を受け入れる「受容」と、本人自身の自己コントロール感の醸成に関わるもので、「自己受容」や「自己肯定感」、「自尊感情」の向上に関連する関わりであるように思われる。

補遺（第Ⅱ部関係）

補遺（１）テキストマイニング

テキストマイニングは、数値データではなく、文章や単語などの言語データを、まとめ、関連付け、要約していく手法の総称である。まとめる目的や扱う言語単位（文章、文、句、単語など）によって様々なソフトウェアが市販されている。本調査研究では、JUST Systems 社の TRUSTIA というのを使用した。文章単位での意味を抽出し、それをまとめるというタイプである。また、テキストマイニングソフトは、あくまでもソフト自身がまとめ、ラベル付けするもので、その結果が実感に合う、あるいは有益であるかどうかは、結果を解釈するユーザーによって判断が分かれる。

補遺（２）主成分分析

質問 18 は、居心地感の質問である。図 3-6-1 (p.93) は 10 項目について「思う」から「思わない」までの判断をしてもらい、得点の高低を比べている。その結果、「②フリースクール等には自由に話せるふんいきがある」が最も高く、「⑤フリースクール等で友だちと助け合っている」が最も低かった。

そこで、次に高低ではなく、関係の強さ、すなわち似たような回答をする項目はどの項目同士なのかを見て、それらをグループ化するという別の視点で結果を分析する。使う方法は、「主成分分析」である（似たような分析法に「因子分析」というのがある）。分析の結果、関係の強さの点で、大きく 2 つのグループに分かれた。成分 1 内、成分 2 内にあるものは、お互いに関係が強い傾向にある項目群である。「関係が強い傾向」とは、例えば、「⑧フリースクールで楽に居られる」に「そう思う」と回答した児童・生徒は、「③フリースクールでゆったりしてられる」にも「そう思

表3-6-1 居心地感質問項目の主成分分析（+プロマックス回転）

項目	成分	
	1	2
⑧フリースクールで楽に居られる	0.944	-0.109
③フリースクールでゆったりしてられる	0.922	-0.172
⑥フリースクールで居心地が良い	0.876	0.047
④フリースクールで自分は幸せである	0.815	0.100
①フリースクールになじんでいる	0.783	0.049
⑩フリースクールで安心してられる	0.781	0.143
⑨フリースクールで自分は受け入れられている	-0.086	0.970
⑦フリースクールで自分は認められている	-0.067	0.939
②フリースクールには自由に話せる雰囲気がある	0.435	0.447
⑤フリースクールで友達と助け合っている	0.349	0.353
成分寄与	6.024	1.133
成分寄与率（%）	60.2	11.3

う」と回答する傾向が強く、その一方、枠の外の「⑨フリースクールで自分は受け入れられている」は関係が小さい（値が小さい）、つまり、どのように回答するかはバラバラであることが示された。そこで、まとめたものは、どのような特徴でまとめたのかを考察すると、成分 1 は「自分自身の居心地の良さ」、成分 2 は「環境の居心地の良さ：対人関係や対話のなかで感じると思われる居心地の良さ」と解釈できる。さらに、詳しく見ると、成分 2 の中でも、⑨と⑦、②と⑤とはそれぞれグループを成しているようである。そこで、前者を「他者からの受け入れ」、後者を「良い仲間関係」と特徴付けた。

このような分析を通して、今回の質問項目群によって「居心地感」をどのように捉えるのかの手がかりになると思われる。

補遺（３）重回帰分析

p.157（表 4-2-3）の分析は重回帰分析というものを使っている。

この分析は、原因と思われる要因が複数あり、それらから何らかの結果が導き出されるときに、原因と思われる

もののうちのどの要因が、結果に強く影響を与えているのかを明らかにするための分析法である。これが明確になると、その後の変化の予測に活用できるようになる。例えば、「①語い、②文法知識、③意味の推測、④論理展開」の4要因のうち、読解力の程度を予測するのはどれとどの要因なのかを知りたい場合を考えてみよう。自然界や人間の行動では、1要因だけで決定されることは少ないので、関係しそうないくつかの要因を挙げてみる（ここでは①～④）。そして、どの要因が読解力と強く関係するのか、どの要因がどのくらい変化すると読解力が大きく上昇するのか、などの疑問について、現状のデータから明らかにしていくのである。

名称を整理しておく。読解力を従属変数・目的変数（ y ）、①～④の要因を独立変数・説明変数（ x ）と呼ぶ。従属変数（ y ）とは結果であり、独立変数（ x ）とは、原因と思われる複数の要因のことを指す。複数の原因（独立変数）内の相互関連の影響を加味しながら、どの原因（独立変数）が結果（従属変数）に影響しそうなかを明らかにしていくための方程式（関係式）を作成していくのである。

ここでは、表に示すように、従属変数（ y ）として「居心地感（自分自身）」と「居心地感（環境：他者）」に加えて「居心地感（全体）」の計3点の変数を、独立変数（ x ）として「肯定的関わり」、「存在受容」、「主体性の育成」、「主張性の育成」の4点を使って最適に予測することが目的である。その際、今回は、変数減少法という方法を使って、予測可能な独立変数を絞り込む、という計算をしている。独立変数欄に示されている数値は標準偏回帰係数（ β ）といい、予測や関係の強さを表す指標である。いずれも β の値は統計的に有意であった。右側の R^2 は重決定係数といい、予測の当てはまりの良さを表している。その右側の F の欄は回帰の分散分析の結果で、やはり予測の当てはまりの良さを表す指標である。一番右の確率（ p ）欄は、予測の当てはまりの有意確率を表している。全ての予測で、5%水準で有意な当てはまりを示しており、居心地感の3点の従属変数を予測するものとして、「使っても大丈夫です」と判断できるのである。

付表1 居心地感に影響を及ぼす学校の先生からの関わり要素の重回帰分析結果

		【 小学生 】	独立変数 (β)				R ²	F	p
			肯定的 関わり	存在受容	主体性の育成	主張性の育成			
従属変数 (y)	4月	居心地感 (全体)	0.518	—	—	—	0.269	F(1,71)=26.08	**
		居心地感 (自分自身)	0.468	—	—	—	0.219	F(1,71)=19.87	**
		居心地感 (環境：他者)	0.428	0.205	—	—	0.294	F(2,70)=16.00	**
	10月	居心地感 (全体)	—	—	0.477	—	0.228	F(1,52)=15.36	**
		居心地感 (自分自身)	0.446	—	—	—	0.199	F(1,52)=12.94	**
		居心地感 (環境：他者)	—	—	0.483	—	0.233	F(1,52)=15.80	**
	3月	居心地感 (全体)	—	—	0.415	—	0.172	F(1,50)=10.39	**
		居心地感 (自分自身)	0.354	—	—	—	0.125	F(1,50)=7.17	**
		居心地感 (環境：他者)	—	—	0.497	—	0.247	F(1,50)=16.37	**

		【 中学生 】	独立変数 (β)				R^2	F	p
			肯定的関わり	存在受容	主体性の育成	主張性の育成			
従属変数 (y)	4月	居心地感 (全体)	—	—	0.409	—	0.167	F(1,41)=8.24	**
		居心地感 (自分自身)	—	—	0.376	—	0.141	F(1,41)=6.74	*
		居心地感 (環境：他者)	—	—	0.443	—	0.196	F(1,41)=10.00	**
	10月	居心地感 (全体)	—	0.497	—	—	0.247	F(1,38)=12.45	**
		居心地感 (自分自身)	—	0.464	—	—	0.215	F(1,38)=10.41	**
		居心地感 (環境：他者)	—	0.520	—	—	0.270	F(1,38)=14.09	**
	3月	居心地感 (全体)	—	—	0.403	—	0.163	F(1,35)=6.80	*
		居心地感 (自分自身)	—	—	0.375	—	0.141	F(1,35)=5.74	*
		居心地感 (環境：他者)	—	—	0.433	—	0.188	F(1,35)=8.08	**

補遺（４） χ^2 検定・ t 検定・効果量（ES）

「統計的にみて有意な差（あるいは関係）が見られた」という説明が出てくる。統計的検定を行った結果を示している。これは、分析の結果、「差がありそうだ」、「関係がありそうだ」となったとき、それは、今回たまたま偶然そうなったのか、その位の差や関係はよく起こりそうなのか、それとも、そんなに起こりそうもないので何か意味がありそうなのか（有意）を判断する手続きである。例えば、図 3-6-1（p.93）の居心地感質問の①の項目で、「フリースクール等になじんでいる」に対し、小学生の平均値は 5 段階評定の 4.45、中学生は 3.98 で、その差 0.47 だった。では、この結果から「小学生の方がなじんでいる」と判断して大丈夫だろうか。「0.47 大きいのは事実だから差に意味がある」、「いや、今回たまたまかもしれない。もう一回調査したら分からない」など、いろいろな意見が出そうである。そこで、「こんな結果（0.47 の差）が出るというのは、いったいどのくらいの確率で起こるのだろうか」を求めて見るのである。なぜ確率なのかというと、はっきり分からないからである。明日の天気は確率で予報が示されるが、理由は「はっきり分からないから」である。「何回もやってみたら結果はどうなるだろうか」が分かれば良いのだが、調査を何千回もやる訳にはいかないのである。

この確率を計算するとき、関係の有無の場合には χ^2 （カイ 2 乗）という名の計算式、平均値の差の場合は t という名の計算式を使っている。ここから、 χ^2 検定、 t 検定という名称で呼ばれている。そして、結果のところには、* のマークが付いており、欄外には $p < .05$ と注釈がある。 p は確率（probability）の意味で、これが $< .05$ ということは、確率が 5/100（5%）、すなわち、「このような平均値の差は、小学生と中学生の平均値に違いがないようなときには、計算の結果、100 回中 5 回以下しか起こらないはずだ」となる。すなわち、「本来はめったに起こらないはずなのです。でも実際には起こっていますよね。したがって、やはり何か特別な意味があって違いが生じている、と見なしてよさそうですね」となるのである。報告では、「5%水準で有意差が見られた」、「危険率 5% で帰無仮説を棄却した」のように表現する。（※明日の雨の確率が 5% (5/100) 以下のとき、傘をほとんど持たないですよね。でも土砂降りになってしまったらどう考えますか。）

さらに、効果量（ES : Effect Size）というのは、「差があるのは分かりましたが、その差というのはとても大きいのかどうか。それともあまり大きいとは言えないのか。」の判断指標である。居心地感の結果（p.95、表 3-6-1）では、「有意差が見られるものの中で、①、⑥、⑧の差（小学生と中学生の差）はかなり大きかった」と言えるのである。

調査項目Ⅰ：保護者 初回調査

【Ⅰ 保護者の方とお子様について伺います。】

- 1 はじめに、整理番号をご記入ください。
- 2 お子様のお名前を教えてください。
- 3 お子様の年齢（令和5年3月31日現在／令和6年3月31日現在）を教えてください。
- 4 お子様の学年（令和5年3月31日現在／令和6年3月31日現在）を教えてください。
- 5 申請された保護者の方のお名前を教えてください。
- 6 連絡先電話番号（申請書に記載したもの）を教えてください。
- 7 保護者からみたときのお子様の続柄を教えてください。
- 8 お子様からみた御家族の構成を教えてください。
- 9 現在通っているフリースクール等の名称教えてください。

【Ⅱ 通っているフリースクール等について伺います】

- 10 通っているフリースクール等の類型（タイプ）を教えてください。
- 11 現在通っているフリースクール等を知ったきっかけを教えてください。（複数回答可）
 - ①学校の先生からの紹介
 - ②教育支援センター（適応指導教室）からの紹介
 - ③親の会からの紹介
 - ④知人からの紹介
 - ⑤ホームページ
 - ⑥チラシ
 - ⑦その他
- 12 「⑦その他」について、具体的に教えてください。
- 13 そのフリースクール等を選んだ理由について、当てはまるものを3つ選んでいただきます。
まず、1番当てはまるものを選んでください。
 - ①自宅からの距離 ②授業料など諸費用 ③通所の日数 ④規模
 - ⑤活動内容 ⑥学習や補習の実施内容 ⑦雰囲気
 - ⑧スタッフの対応 ⑨お子様の反応 ⑩友人との人間関係
 - ⑪在籍した児童・生徒の進路 ⑫口コミなどの評判
 - ⑬その他
- 14 「⑬その他」について、具体的に教えてください。
- 15 2番に当てはまるものを選んでください。 ※選択肢は Q13
- 16 「⑬その他」について、具体的に教えてください。
- 17 3番に当てはまるものを選んでください。 ※選択肢は Q13
- 18 「⑬その他」について、具体的に教えてください。
- 19 現在通っているフリースクール等の前に、別のフリースクール等に通っていたかお答えください。
 - ①通っていた。
 - ②通っていない。

20 そのフリースクール等の類型（タイプ）を教えてください。

21 以前のフリースクール等を辞めた理由について、当てはまるものを3つ選んでいただきます。

まず、1番当てはまるものを選んでください。

- ①自宅からの距離 ②授業料など諸費用 ③通所の日数 ④規模
- ⑤活動内容 ⑥学習や補習の実施内容 ⑦雰囲気
- ⑧スタッフの対応 ⑨お子様の反応 ⑩友人との人間関係
- ⑪在籍した児童・生徒の進路 ⑫口コミなどの評判
- ⑬その他

22 「⑬その他」について、具体的に教えてください。

23 2番に当てはまるものを選んでください。 ※選択肢は Q21

24 「⑬その他」について、具体的に教えてください。

25 3番に当てはまるものを選んでください。 ※選択肢は Q21

26 「⑬その他」について、具体的に教えてください。

27 現在のフリースクール等に通いはじめてから気付いた違い(変化)につきまして、当てはまるものを3つ選んでいただきます。まず、1番当てはまるものを選んでください。

- ①家庭内でフリースクール等での話をするが増えた。
- ②活動内容に興味をもつようになった。
- ③友人との会話が増えた。
- ④スタッフとのコミュニケーションが増えた。
- ⑤生活全般について興味の幅が広がった。
- ⑥居場所を得た。
- ⑦生活のリズムが整った。
- ⑧身体の不調を訴えることが減った。
- ⑨その他

28 「⑨その他」について、具体的に教えてください。

29 2番に当てはまるものを選んでください。 ※選択肢は Q27

30 「⑨その他」について、具体的に教えてください。

31 3番に当てはまるものを選んでください。 ※選択肢は Q27

32 「⑨その他」について、具体的に教えてください。

【Ⅲ 現在のフリースクール等での活動について伺います。】

33 フリースクール等が用意している主な活動内容を教えてください。（複数回答可）

- ①個別のドリル学習
- ②講義（授業）形式の学習
- ③タブレットを活用した学習（ドリル・インターネット等）
- ④個人の興味関心に基づく活動
- ⑤子供たちによるミーティング
- ⑥オンライン学習等（自宅、施設内含む）
- ⑦社会体験（見学、職場体験など）

- ⑧自然体験（自然観察、農業体験など）
- ⑨スポーツ活動
- ⑩施設内での文化・芸術活動（調理、音楽活動、工芸など）
- ⑪施設外での文化・芸術活動（お菓子づくり、音楽活動、工芸など）
- ⑫宿泊体験
- ⑬地域活動（地域住民や施設との連携）
- ⑭相談・カウンセリング
- ⑮家庭への訪問
- ⑯その他

34 「⑯その他」について、具体的に教えてください。

35 前の質問の ①から⑯までの活動のうち、お子様が特に楽しんでいる活動を3つ選んでいただきます。
まず、1番楽しんでいる活動を選んでください。

- ①個別のドリル学習 ②講義（授業）形式の学習
- ③タブレットを活用した学習（ドリル・インターネット等）
- ④個人の興味関心に基づく活動 ⑤子供たちによるミーティング
- ⑥オンライン学習等（自宅、施設内含む） ⑦社会体験（見学、職場体験など）
- ⑧自然体験（自然観察、農業体験など） ⑨スポーツ活動
- ⑩施設内での文化・芸術活動（調理、音楽活動、工芸など）
- ⑪施設外での文化・芸術活動（お菓子づくり、音楽活動、工芸など）
- ⑫宿泊体験 ⑬地域活動（地域住民や施設との連携）
- ⑭相談・カウンセリング ⑮家庭への訪問 ⑯その他

36 「⑯その他」について、具体的に教えてください。

37 2番に楽しんでいる活動を選んでください。 ※選択肢は Q35

38 「⑯その他」について、具体的に教えてください。

39 3番に楽しんでいる活動を選んでください。 ※選択肢は Q35

40 「⑯その他」について、具体的に教えてください。

41 同じく前の質問にあった ①から⑯までの活動のうち、保護者の方が特に関心や期待を寄せている活動を3つ選んでいただきます。

まず、1番関心や期待を寄せている活動を選んでください。

- ①個別のドリル学習 ②講義（授業）形式の学習
- ③タブレットを活用した学習（ドリル・インターネット等）
- ④個人の興味関心に基づく活動 ⑤子供たちによるミーティング
- ⑥オンライン学習等（自宅、施設内含む） ⑦社会体験（見学、職場体験など）
- ⑧自然体験（自然観察、農業体験など） ⑨スポーツ活動
- ⑩施設内での文化・芸術活動（調理、音楽活動、工芸など）
- ⑪施設外での文化・芸術活動（お菓子づくり、音楽活動、工芸など）
- ⑫宿泊体験 ⑬地域活動（地域住民や施設との連携）
- ⑭相談・カウンセリング ⑮家庭への訪問 ⑯その他

42 「⑯その他」について、具体的に教えてください。

43 2番に関心や期待を寄せている活動を選んでください。 ※選択肢は Q41

- 44 「⑩その他」について、具体的に教えてください。
- 45 3 番に関心や期待を寄せている活動を選んでください。 ※選択肢は Q41
- 46 「⑩その他」について、具体的に教えてください。
- 47 現在のフリースクール等では、学習の計画（学習の流れが分かるもの）が保護者の皆様に示されていますでしょうか。状況に近いものを一つお選びください。
- ①示されていて、その実施状況の報告もある ②示されているが、実際の実施状況は分からない
③学習の計画があるかどうか分からない ④その他
- 48 「④その他」について、具体的に教えてください。

【Ⅳ 御家庭の家計の状況について伺います。】

- 49 差し支えない範囲で、昨年度のおおまかな世帯年収（総収入）を教えてください。
（およそで結構です。例：およそ〇〇〇万円）
- 50 フリースクール等への入会費用（在籍に必要な入会金等）を教えてください。
- ①5,000 円未満 ②5,001 円～10,000 円 ③10,001 円～30,000 円
④30,001 円～50,000 円 ⑤50,001 円～100,000 円 ⑥100,001 円以上
- 51 フリースクール等にかかる、ひと月当たりのおおよその費用を教えてください。（授業料や施設利用料など）
- 52 毎月の通学に要するおよその費用（定期券など）を教えてください。
- 53 通学のときに利用している交通手段とおよその所要時間を教えてください。（例 電車とバスで〇時間〇分、徒歩〇分、自転車で〇分）
- 54 フリースクール等に通うための費用につきまして、家計の中でどの程度負担に感じているか教えてください。
- ①負担である ②やや負担である ③どちらでもない ④あまり負担ではない ⑤負担ではない
- 55 この度の調査協力金の使い道について教えてください。（複数回答可）
- ①授業料
②授業料以外のフリースクール等の活動費
③フリースクール等で使用する教材を購入
④フリースクール等に通う交通費
⑤その他
- 56 「⑤その他」について、具体的に教えてください。
- 57 調査協力金があることによる、フリースクール等に通う上での収支面での効果について教えてください。
（複数回答可）
- ①家計にとって大変助かる。
②フリースクール等に通う日数を増やすことができる。
③今までよりも多くの教材等を準備できる。
④今までよりも参加できる活動が増える。
⑤特に変化はない。
⑥その他
- 58 「⑥その他」について、具体的に教えてください。

【Ⅴ フリースクール等へ通い始める前の状況について伺います。】

- 59 お子様が学校を休み始めた学年 時期について教えてください。（例 小学3年生の10月頃）

60 お子様は学校で、別室登校（教室以外で学習などをして過ごすこと）を行った時期はありますか。

- ①過去に行っていた。
- ②現在も行っている。
- ③ない。

61 別室登校の際にはどちらで過ごしていましたか。（複数回答可）

- ①保健室
- ②相談室
- ③職員室
- ④別室登校専用の教室（〇〇ルームなど）
- ⑤分からない
- ⑥その他

62 「⑥その他」について、具体的に教えてください。

63 別室登校の際にどのような活動を行っていましたか。（複数回答可）

- ①個別学習
- ②学級での授業や活動
- ③行事への参加
- ④給食
- ⑤面談
- ⑥分からない
- ⑦その他

64 「⑦その他」について、具体的に教えてください。

65 お子様は教育支援センター（適応指導教室）へ通っていた時期はありますか。

- ①過去に通っていた。
- ②今も通っている。
- ③ない。

66 教育支援センター（適応指導教室）での活動内容について教えてください。（複数回答可）

- ①個別のドリル学習
- ②講義（授業）形式の学習
- ③タブレットを活用した学習（ドリル・インターネット等）
- ④個人の興味関心に基づく活動
- ⑤子供たちによるミーティング
- ⑥オンライン学習等（自宅、施設内含む）
- ⑦社会体験（見学、職場体験など）
- ⑧自然体験（自然観察、農業体験など）
- ⑨スポーツ活動
- ⑩施設内での文化・芸術活動（調理、音楽活動、工芸など）
- ⑪施設外での文化・芸術活動（お菓子づくり、音楽活動、工芸など）
- ⑫宿泊体験
- ⑬地域活動（地域住民や施設との連携）
- ⑭相談・カウンセリング

⑮家庭への訪問

⑯その他

67 「⑯その他」について、具体的に教えてください。

68 教育支援センター（適応指導教室）への通室を辞めた理由について、当てはまるものを3つ選んでいただきます。

まず、1番当てはまるものを選んでください。

①自宅からの距離

②授業料など諸費用

③通室の日数

④規模

⑤活動内容

⑥学習や補習の実施内容

⑦雰囲気

⑧スタッフの対応

⑨お子様の反応

⑩友人との人間関係

⑪在籍した児童 生徒の進路

⑫口コミなどの評判

⑬フリースクール等の方が子供に合っていた。

⑭フリースクール等との併用が難しい。

⑮その他

69 「⑮その他」について、具体的に教えてください。

70 2番に当てはまるものを選んでください。 ※選択肢は Q68

71 「⑮その他」について、具体的に教えてください。

72 3番に当てはまるものを選んでください。 ※選択肢は Q68

73 「⑮その他」について、具体的に教えてください。

74 今後、再度、教育支援センター（適応指導教室）に通室することを検討していますか。

①検討している。

②検討していない。

75 前の質問のお答えの理由について教えてください。

76 教育支援センター（適応指導教室）での活動内容について教えてください。（複数回答可）

①個別のドリル学習

②講義（授業）形式の学習

③タブレットを活用した学習（ドリル・インターネット等）

④個人の興味関心に基づく活動

⑤子供たちによるミーティング

⑥オンライン学習等（自宅、施設内含む）

⑦社会体験（見学、職場体験など）

⑧自然体験（自然観察、農業体験など）

⑨スポーツ活動

- ⑩施設内での文化・芸術活動（調理、音楽活動、工芸など）
- ⑪施設外での文化・芸術活動（お菓子づくり、音楽活動、工芸など）
- ⑫宿泊体験
- ⑬地域活動（地域住民や施設との連携）
- ⑭相談・カウンセリング
- ⑮家庭への訪問
- ⑯その他

77 「⑯その他」について、具体的に教えてください。

78 お子様は別室登校、教育支援センター（適応指導教室）以外の施設 機関（医療機関等）から何らかの支援を受けたことがありますか。

- ①過去に支援を受けていた。
- ②今も支援を受けている。
- ③支援を受けたことはない。

79 どこでどのような支援を受けていたか教えてください。（自由記述）

80 お子様に、休みたいという様子が見られてから休み始めるまでの期間はどの程度でしたか。

81 お子様が休み始めるまでの間、あなた（保護者）はどなたに相談しましたか。（複数回答可）

- ①学校の先生（保健室の先生を除く）
- ②保健室の先生
- ③学校にいるカウンセラー
- ④家族
- ⑤電話相談やSNS（LINE など）相談の相談員
- ⑥行政等（教育相談所等）の相談窓口
- ⑦医療機関
- ⑧誰にも相談しなかった
- ⑨その他

82 「⑨その他」について、具体的に教えてください。

83 お子様が休み始めた時、学校やお子様のご友人からどのような対応を期待しましたか。（複数回答可）

- ①学校の先生からの声かけ
- ②学校にいるカウンセラーとの面談
- ③学校の友達からの声かけ
- ④学校行事（文化祭、運動会など）への参加の声かけ
- ⑤部活動などへの参加の声かけ
- ⑥個別対応(放課後を含む)
- ⑦行政等の相談窓口の紹介
- ⑧教育支援センター（適応指導教室）やフリースクール等の紹介
- ⑨不登校の要因の解決
- ⑩その他

84 「⑩その他」について、具体的に教えてください。

85 差し支えない範囲で、お子様の不登校の要因として考えられることを教えてください。

【Ⅵ 学校との連絡や通学の状況について伺います。】

86 お子様の学校への通学の状況を教えてください。

- ①通学することがある。
- ②全く通学していない。

87 どの程度、通学していますか。

- ①気が向いたら通学することがある。
- ②他の子供がいないときに行くことがある。
- ③曜日を決めて通っている。
- ④その他

88 「④その他」について、具体的に教えてください。

89 通学した際にはどのような活動を行っていますか。（複数回答可）

- ①個別学習
- ②学級での授業や活動
- ③行事への参加
- ④給食
- ⑤面談
- ⑥分からない
- ⑦その他

90 「⑦その他」について、具体的に教えてください。

91 フリースクール等での活動の出席の取り扱いについて教えてください。

- ①全て出席扱い
- ②一部出席扱い（活動内容によって）
- ③出席扱いではない

【Ⅶ 学校や教育支援センター（適応指導教室）、フリースクール等からの受けた支援についてお考えや御意見について伺います。】

92 お子様が学校を休み始めてから現在までに学校や教育支援センター（適応指導教室）、フリースクール等からの受けた支援のうち、有効であったことについて教えてください。

93 学校や教育支援センター（適応指導教室）、フリースクール等に今後期待したい支援について教えてください。

調査項目Ⅱ：保護者 定期調査

【 保護者の方とお子様について伺います。 】

- 1 はじめに、整理番号をご記入ください。
- 2 お子様のお名前を教えてください。
- 3 お子様の年齢（令和 5 年 3 月 31 日現在／令和 6 年 3 月 31 日現在）を教えてください。
- 4 お子様の学年を教えてください。
- 5 保護者の方のお名前を教えてください。
- 6 連絡先の電話番号を教えてください。
- 7 現在通っているフリースクール等の名称教えてください。

===ここから=== 【 各月ごとの調査項目 】 4月から3月まで同一の質問 ===

【フリースクール等の状況について伺います。】

- 8 フリースクール等に通所していましたか。
 - ①通所していた
 - ②通所はしていないが、オンラインで支援を受けた
 - ③在籍していたが、通所せず、オンラインの支援も受けていない
 - ④在籍していなかった
- 9 フリースクール等に通所したおよその日数を教えてください。

およそ（ ）日
- 10 フリースクール等にオンラインで参加したおよその日数を教えてください。

およそ（ ）日
- 11 フリースクール等で行った活動の内容につきまして、あてはまるものを選んでください。（複数回答可）
 - ①個別のドリル学習
 - ②講義（授業）形式の学習
 - ③タブレットを活用した学習（ドリル・インターネット等）
 - ④個人の興味関心に基づく活動
 - ⑤子供たちによるミーティング
 - ⑥オンライン学習等（自宅、施設内含む）
 - ⑦社会体験（見学、職場体験など）
 - ⑧自然体験（自然観察、農業体験など）
 - ⑨スポーツ活動
 - ⑩施設内での文化・芸術活動（調理、音楽活動、工芸など）
 - ⑪施設外での文化・芸術活動（お菓子づくり、音楽活動、工芸など）
 - ⑫宿泊体験
 - ⑬地域活動（地域住民や施設との連携）
 - ⑭相談・カウンセリング
 - ⑮家庭への訪問
 - ⑯その他

12 「⑯その他」について、具体的に教えてください。

13 フリースクール等でのお子様の様子で特に気付いた点について教えてください。

【ここからは、学校への通学や連絡状況について伺います。】

14 お子様は学校へ通学しましたか。

①通学した

②通学していない

15 通学したおおよその日数を教えてください。

おおよそ（ ）日

16 お子様は学校に登校した際の主な活動内容について教えてください。（複数回答可）

①個別学習

②学級での授業や活動

③行事への参加

④給食

⑤面談

⑥その他

17 「⑥その他」について、具体的に教えてください。

18 あなた（保護者）と学校の連絡の状況を教えてください。

①担任等と電話や面談等を週に2度以上行っている。

②スクールカウンセラー（SC）やスクールソーシャルワーカー（SSW）と電話や面談等を週に2度以上行っている。

③担任等やSC、SSWと週に1度以上連絡を取っている。

④担任等やSC、SSWと月に1度以上連絡を取っている。

⑤ほとんど連絡を取っていない。

【ここからは、教育支援センター（適応指導教室）への通室について伺います。】

19 お子様は教育支援センター（適応指導教室）へ通室しましたか。

①通室した

②通室していない

20 通室したおおよその日数を教えてください。

おおよそ（ ）日

21 お子様は教育支援センター（適応指導教室）に通室した際の主な活動内容について教えてください。（複数回答可）

①個別学習

②集団での活動

③行事への参加

④昼食

⑤面談

⑥その他

22 「⑥その他」について、具体的に教えてください。

【ここからは、御家庭での様子についてお伺いします】

23 御家庭でのお子様の様子について、お気付きの点を教えてください。

===ここまで=== 【 各月ごとの調査項目 】 4月から3月まで同一の質問 ===

===ここから=== 【 実施期（Ⅰ・Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ期）共通の調査項目 】 ===

【 調査協力金についてお伺いします 】

56 調査協力金の主な使い道につきまして、差し支えの無い範囲で教えてください。（複数回答可）

- ①授業料
- ②授業料以外のフリースクール等の活動費
- ③フリースクール等で使用する教材を購入
- ④フリースクール等に通う交通費
- ⑤その他

57 「⑤その他」について、具体的に教えてください。

58 調査協力金があることによるフリースクール等に通う上での収支面での効果について教えてください。
（複数回答可）

- ①家計にとって大変助かる。
- ②フリースクール等に通う日数を増やすことができる。
- ③今までよりも多くの教材等を準備できる。
- ④今までよりも参加できる活動が増える。
- ⑤特に変化はない。
- ⑥その他

59 「⑥その他」について、具体的に教えてください。

【 フリースクール等へ通うことについてのお考えや御意見について伺います 】

60 フリースクール等へ通うために課題になっていることはありますか。

- ①ある
- ②ない

61 フリースクール等へ通うための課題を教えてください。（複数回答可）

- ①経済的な負担が大きい。
- ②自身の仕事との両立が難しい。
- ③フリースクール等を選ぶ際の情報が少ない。
- ④家族の理解が得られない。
- ⑤相談相手がいない。
- ⑥子供の意思が分からない。
- ⑦フリースクール等のスタッフと十分なコミュニケーションがとれていない。
- ⑧その他

62 「⑧その他」について、具体的に教えてください。

63 現在考えているお子様の今後の方向性について教えてください。

- ①在籍校等への通学
- ②在籍校とフリースクール等の併用
- ③フリースクール等から高等学校（中学校）等への進学
- ④フリースクール等への進学
- ⑤今は考えていない

64 フリースクール等にどのようなことを期待しているのか教えてください。（複数回答可）

- ①学校での学習に代わる学習・体験活動の確保
- ②フリースクール等独自の学習・体験活動の充実
- ③友人関係の構築
- ④お子様の特性に合わせた支援（発達障害等の支援を含む）
- ⑤進学・就労のための支援
- ⑥生活リズムの構築
- ⑦外出する機会の確保
- ⑧食事の機会の確保
- ⑨その他

65 「⑨その他」について、具体的に教えてください。

【 現在のお子様の御様子について伺います 】

66 最近のお子様の御様子で、次のようなことが見られますでしょうか。当てはまるものに印を付けてください。

「見られる ～ 一時期見られたが今は見られない ～ 全く見られない」

- ①誰かと一緒にいても、自分はひとりぼっちだと感じている様子が見られることがある。
- ②いやな夢をよくみている様子がみられることがある。
- ③すぐにイライラする様子がみられることがある。
- ④最近、物事に集中できない様子がみられることがある。
- ⑤思い出したくないようなことも、いろいろ思い出して、落ち着かない様子がみられることがある。
- ⑥なかなか寝付けなかったり、夜中に何度も目がさめたりする様子がみられることがある。
- ⑦学校のことを思い出させるような人や場所には近付かないようにしている様子がみられることがある。

【 その他 】

67 お子様がフリースクール等に通う当たり、通学定期乗車券制度の適用を受けていますか。

- ①受けている
- ②公共交通機関を使用しているが、適用を受けていない。
- ③公共交通機関を使用していない。

68 通学定期乗車券制度を適用している公共交通機関は、次のうちどれですか。

- ①電車
- ②バス
- ③電車とバス

69 お子様の進路についてお伺いします。現在の学年教えてください。

- ①小学生（１年生～６年生）

②中学生（１年生～３年生または７年生～９年生）

70 （小学生のお子様の）進路について、現在のお考えを教えてください。

①居住地区の公立中学校

②国立、都立、私立中学校

③フリースクール等民間団体 民間施設

④その他

71 「④その他」について、具体的に教えてください。

72 （中学生のお子様の）進路について、現在のお考えを教えてください。

①高等学校（全日制過程）、高等専門学校

②高等学校（定時制課程、通信制課程）

③フリースクール等民間団体 民間施設

④専修 専門学校等

⑤就職

⑥未定

⑦その他

73 「⑦その他」について、具体的に教えてください。

===ここまで=== 【 実施期（Ⅰ・Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ期）共通の調査項目 】 ===

調査項目Ⅲ：児童・生徒 初回調査

【Ⅰ 保護者の方とお子様について伺います。】

- 1 はじめに、整理番号を記入してください。
- 2 自分の名前をひらがなで記入してください。
- 3 保護者の方の名前をひらがなで記入してください。
- 4 保護者の方の電話番号を記入してください。
- 5 現在、通っているフリースクール等の名前教えてください。

【Ⅱ フリースクール等での活動の様子についてうかがいます。】

6 フリースクール等で楽しさや興味を感じた活動を、下の①～⑭から3つ選んでください。

その中で1番楽しさや興味を感じた活動を選んでください。

- ①一人で行うドリル学習 ②授業の形の学習
- ③タブレットを活用した学習（ドリル・インターネット等）
- ④やりたいことを考え、計画して行う活動
- ⑤子供たちでのミーティング
- ⑥オンライン学習等（施設または、自宅とフリースクール等をオンラインでつないで行う学習）
- ⑦社会体験（工場見学、職場体験など） ⑧自然体験（自然観察、農業体験など）
- ⑨スポーツ活動
- ⑩施設内での文化・芸術活動（調理、音楽活動、工芸など）
- ⑪施設外での文化・芸術活動（お菓子づくり、音楽鑑賞、工芸体験など）
- ⑫宿泊体験 ⑬地域活動（地域の人や施設の人などとの連携）
- ⑭その他

7 「⑭その他」について、具体的に教えてください。

8 2番に楽しさや興味を感じた活動を選んでください。 ※選択肢は Q 6

9 「⑭その他」について、具体的に教えてください。

10 3番に楽しさや興味を感じた活動を選んでください。 ※選択肢は Q 6

11 「⑭その他」について、具体的に教えてください。

【Ⅲ フリースクール等の先生方との関わりについてうかがいます。】

12 フリースクール等の先生とやりとりをしているときに、次のようなことがありますか。

あてはまるものを選んでください。いくつ選んでもかまいません。

- ①自由に話をしやすいようなふんいきにしてくれる。
- ②何かが少しできるようになったり、わかるようになったりしたら、よろこんでほめてくれる。
- ③何かをしようとするとき、いろいろなやり方を示して、選ばせてくれる。
- ④自分の気持ちを伝えようとするとき、先生は自分の気持ちを確かめながら気持ちを聞いてくれる。
- ⑤自分ではできないことを、「できない」と言っても、それを受け止めてくれるので、楽に言える。
- ⑥自分でできることは口出しはせずまかせてくれるが、いざ困ったら助けたり、はげましたりしてくれる。
- ⑦自分のことを自分でどのように考えたらいいのかについて、しんけんにいっしょに考え、自分の気持ちを確かめながらいろいろなアドバイスをしてくれる。

- ⑧自分が失敗したときも、いっしょに残念がったあとで、むしろ次のちょうせんのエネルギーになるよいこととして、はげましてくれる。
- ⑨どれにも、あてはまらない。

【Ⅳ フリースクール等に来る前の学校での様子について伺います。】

13 学校ではどのような時に楽しさや興味を感じましたか。あてはまるものを選んでください。いくつ選んでもかまいません。

- ①友達と会話したり、遊んだりしていたとき
- ②先生と話しているとき
- ③先生や友達から頼られたり、感謝されたりしたとき
- ④好きな教科の授業を受けているとき
- ⑤社会科見学や遠足などの校外学習
- ⑥休み時間
- ⑦給食
- ⑧クラブ活動 部活動のとき
- ⑨クラスとしての活動、文化祭、運動会、部活動のとき
- ⑩楽しいと感じたことはない。
- ⑪その他（選択した場合は、具体的に教えてください。）

14 「⑪その他」について、具体的に教えてください。

15 学校の先生とやりとりをしているときに、次のようなことがありましたか。あてはまるものを選んでください。いくつ選んでもかまいません。

- ①自由に話をしやすいようなふんいきにしてくれる。
- ②何かが少しできるようになったり、わかるようになったりしたら、よろこんでほめてくれる。
- ③何かをしようとするとき、いろいろなやり方を示して、選ばせてくれる。
- ④自分の気持ちを伝えようとするとき、先生は自分の気持ちを確かめながら気持ちを聞いてくれる。
- ⑤自分ではできないことを、「できない」と言っても、それを受け止めてくれるので、楽に言える。
- ⑥自分でできることは口出しはせずにかかせてくれるが、いざ困ったら助けたり、はげましたりしてくれる。
- ⑦自分のことを自分でどのように考えたらいいのかについて、しんけんにいっしょに考え、自分の気持ちを確かめながらいろいろなアドバイスをしてくれる。
- ⑧自分が失敗したときも、いっしょに残念がったあとで、むしろ次のちょうせんのエネルギーになるよいこととして、はげましてくれる。
- ⑨どれにも、あてはまらない。

16 学校を休みたいと感じはじめたときに、そのことを相談した人はいますか。

あてはまるものを選んでください。いくつ選んでもかまいません。

- ①学校の先生（保健室の先生をのぞく）
- ②保健室の先生
- ③学校にいるカウンセラー
- ④友達
- ⑤家族
- ⑥電話相談やSNS（LINE など）相談の相談員

⑦誰にも相談しなかった

⑧その他（選択した場合は、具体的に教えてください。）

17 「⑧その他」について、具体的に教えてください。

【Ⅴ 今のあなたの気持ちについて、教えてください。】

18 今のあなたの気持ちについて、あてはまるものを選んでください。

「思わない ～ あまり思わない ～ どちらでもない ～ 少し思う ～ 思う」

- ①フリースクール等になじんでいる
- ②フリースクール等には自由に話せるふんいきがある
- ③フリースクール等でゆったりしてられる
- ④フリースクール等で自分は幸せである
- ⑤フリースクール等で友だちと助けあっている
- ⑥フリースクール等で居心地がよい
- ⑦フリースクール等で自分はみとめられている
- ⑧フリースクール等で楽にられる
- ⑨フリースクール等で自分は受け入れられている
- ⑩フリースクール等で安心してられる

19 さいきんのあなたにあてはまるものをえらんでください。いくつ選んでもかまいません。

- ①だれかといっしょにいても、自分はひとりぼっちだと感じる
- ②いやなゆめをよく見る
- ③すぐにイライラする
- ④最近、集中できない
- ⑤思い出したくないのに、色々なことを思い出して、落ち着かない
- ⑥なかなか寝付けなかったり、夜中に何度も目がさめたりする
- ⑦学校のことを思い出させるような人や場所には、近付かないようにしている
- ⑧どれにもあてはまらない

調査項目Ⅳ：児童・生徒 定期調査

【 保護者の方とお子様について伺います。（間違いが無いよう、保護者の方に聞いて教えてください。） 】

- 1 はじめに、整理番号をご記入ください。
- 2 自分の名前をひらがなで記入してください。
- 3 保護者の方の名前をひらがなで記入してください。
- 4 保護者の方の電話番号を記入してください。
- 5 現在、通っているフリースクール等の名前を教えてください。

===ここから=== 【 各月ごとの調査項目 】 4月から3月まで同一の質問 ===

【フリースクール等の状況についてうかがいます。】

- 6 フリースクール等に通所していましたか。

- ①通所していた
- ②通所していない

- 7 この月にフリースクール等で楽しさや興味を感じた活動を、下の①～⑭から3つ選んでください。

まず、1 番楽しさや興味を感じた活動を選んでください。

- ①一人で行うドリル学習 ②授業の形の学習
- ③タブレットを活用した学習（ドリル・インターネット等）
- ④やりたいことを考え、計画して行う活動
- ⑤子供たちでのミーティング
- ⑥オンライン学習等（施設または、自宅とフリースクール等をオンラインでつないで行う学習）
- ⑦社会体験（工場見学、職場体験など） ⑧自然体験（自然観察、農業体験など）
- ⑨スポーツ活動
- ⑩施設内での文化・芸術活動（調理、音楽活動、工芸など）
- ⑪施設外での文化・芸術活動（お菓子づくり、音楽鑑賞、工芸体験など）
- ⑫宿泊体験 ⑬地域活動（地域の人や施設の人などとの連携）
- ⑭その他

- 8 「⑭その他」について、具体的に教えてください。

- 9 2 番に楽しさや興味を感じた活動を選んでください。 ※選択肢は Q 7

- 10 「⑭その他」について、具体的に教えてください。

- 11 3 番に楽しさや興味を感じた活動を選んでください。 ※選択肢は Q 7

- 12 「⑭その他」について、具体的に教えてください。

- 13 この月のフリースクール等での出来事で、特に思い出に残っていること教えてください。

【学校の先生がたとの関わりについてうかがいます】

- 14 あなたは学校へ通学しましたか。

- ①通学した
- ②登校はしていないが、先生と連絡をとった
- ③していない

15 この月のあなたの気持ちについて、あてはまるものを選んでください。

「思わない ～ あまり思わない ～ どちらでもない ～ 少し思う ～ 思う」

- ①学校になじんでいる
- ②学校には自由に話せるふんいきがある
- ③学校でゆったりしてられる
- ④学校で自分は幸せである
- ⑤学校で友だちと助けあっている
- ⑥学校で居心地がよい
- ⑦学校で自分はみとめられている
- ⑧学校で楽にられる
- ⑨学校で自分は受け入れられている
- ⑩学校で安心してられる

16 学校の先生とやりとりをしているときに、次のようなことがありますか。

当てはまるものを選んでください。いくつ選んでもかまいません。

- ①自由に話をしやすいようなふんいきにしてくれる。
- ②何かが少しできるようになったり、わかるようになったりしたら、よろこんでほめてくれる。
- ③何かをしようとするとき、いろいろなやり方を示して、選ばせてくれる。
- ④自分の気持ちを伝えようとするとき、先生は自分の気持ちを確かめながら気持ちを聞いてくれる。
- ⑤自分ではできないことを、「できない」と言っても、それを受け止めてくれるので、楽に言える。
- ⑥自分でできることは口出しはせずまかせてくれるが、いざ困ったら助けたり、はげましたりしてくれる。
- ⑦自分のことを自分でどのように考えたらいいのかについて、しんけんにいっしょに考え、自分の気持ちを確かめながらいろいろなアドバイスをしてくれる。
- ⑧自分が失敗したときも、いっしょに残念がったあとで、むしろ次のちょうせんのエネルギーになるよいこととして、はげましてくれる。
- ⑨どれにも、あてはまらない。

【教育支援センター（適応指導教室）への通室についてうかがいます】

17 この月は教育支援センター（適応指導教室）に通室しましたか。

- ①した
- ②していない

18 教育支援センター（適応指導教室）で、印象に残っている活動について教えてください。

【家での過ごし方についてうかがいます】

19 この月の家族との思い出について教えてください。

===ここまで=== 【 各月ごとの調査項目 】 4月から3月まで同一の質問 ===

===ここから=== 【 実施期（Ⅰ・Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ期）共通の調査項目 】 ===

【Ⅷ 今のあなたの気持ちについて、おしえてください。】

48 【フリースクール等の先生方との関わりについてうかがいます】

フリースクール等の先生とやりとりをしているときに、次のようなことがありますか。あてはまるものを選んでください。
いくつえらんでもかまいません。

- ①自由に話をしやすいようなふんいきにしてくれる。
- ②何かが少しできるようになったり、わかるようになったりしたら、よろこんでほめてくれる。
- ③何かをしようとするとき、いろいろなやり方を示して、選ばせてくれる。
- ④自分の気持ちを伝えようとするとき、先生は自分の気持ちを確かめながら気持ちを聞いてくれる。
- ⑤自分ではできないことを、「できない」と言っても、それを受け止めてくれるので、楽に言える。
- ⑥自分でできることは口出しはせずにかかせてくれるが、いざ困ったら助けたり、はげましたりしてくれる。
- ⑦自分のことを自分でどのように考えたらいいのかについて、しんけんにいっしょに考え、自分の気持ちを確かめながらいろいろなアドバイスをしてくれる。
- ⑧自分が失敗したときも、いっしょに残念がったあとで、むしろ次のちょうせんのエネルギーになるよいこととして、はげましてくれる。
- ⑨どれにも、あてはまらない。

49 今のあなたの気持ちについて、あてはまるものを選んでください。

「思わない ～ あまり思わない ～ どちらでもない ～ 少し思う ～ 思う」

- ①学校になじんでいる
- ②学校には自由に話せるふんいきがある
- ③学校でゆったりしてられる
- ④学校で自分は幸せである
- ⑤学校で友だちと助けあっている
- ⑥学校で居心地がよい
- ⑦学校で自分はみとめられている
- ⑧学校で楽にられる
- ⑨学校で自分は受け入れられている
- ⑩学校で安心してられる

50 最近のあなたに当てはまるものを選んで○をつけてください。いくつ選んでもかまいません。

- ①だれかといっしょにいても、自分はひとりぼっちだと感じる
- ②いやなゆめをよく見る
- ③すぐにイライラする
- ④最近、集中できない
- ⑤思い出したくないのに、色々なことを思い出して、落ち着かない
- ⑥なかなか寝付けなかったり、夜中に何度も目がさめたりする
- ⑦学校のことを思い出させるような人や場所には、近付かないようにしている
- ⑧どれにもあてはまらない

第Ⅲ部 フリースクール等への訪問及び聞き取り調査

第1章 目的

現在、多様なフリースクール等が設立されており、主に民間による運営がされている。行政としてフリースクール等の実態を把握することは、今後の東京都教育委員会の施策の策定の上で重要であるため、フリースクール等を対象にインタビュー調査を実施した。

第2章 方法

2-1 調査対象スクール等の選定

本事業に御協力いただいている御家庭の児童・生徒が通所しているフリースクール等を対象とした。本事業の対象193施設のうち、172施設より訪問調査の協力を得た。

※ 複数の施設を運営しているフリースクール等については、まとめて回答いただいた施設もある。

2-2 調査方法と内容

訪問調査は、アンケート調査（事前アンケート）とインタビュー調査によって実施した。アンケート調査では、主にスタッフの人数等の運営体制について、インタビュー調査では主に活動内容や在籍校との連携等の活動実態について調査を行った。アンケート調査およびインタビュー調査の内容は、付録（p.244～）に示した。

2-3 調査実施の手順

訪問調査を実施するに当たり、東京都教育委員会と国立大学法人東京学芸大学の連名で調査協力の依頼の文書を各施設に送付し、その後、国立大学法人東京学芸大学の調査員が各施設に電話で訪問によるインタビュー調査の依頼をした。インタビュー調査の依頼の際にアンケート調査への回答も依頼した。

なお、本調査への協力は任意であり、協力の可否による施設および通所している児童・生徒、家庭への不利益はないことを調査依頼の文書に明記した。インタビュー調査の結果は施設が特定される形で公表することはないことを事前に説明した。

基本的に施設への訪問調査としたが、新型コロナウイルス感染症対策等の観点から、一部の施設はオンラインによって実施した。

調査時期 令和4年10月1日～令和6年4月17日

協力施設 172施設（※）

※ 協力施設のうち、アンケート調査への回答数は148施設で（回収率86.0%）で、その中で分析可能な回答数は140施設であった。第3章からの分析は140施設を対象とした。

第3章 結果

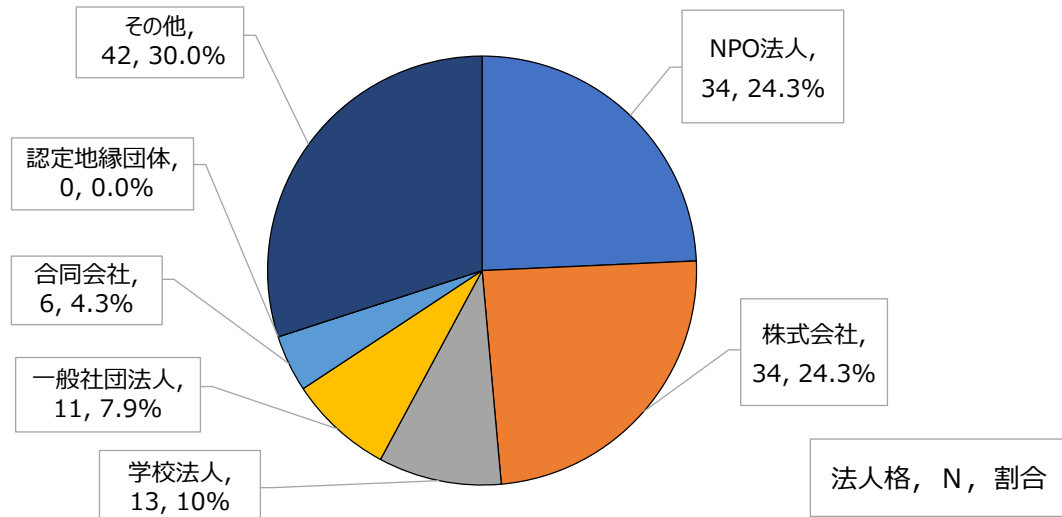
アンケート調査による結果は「アンケート」、訪問調査による結果は「インタビュー」として調査結果を以下に示す。

なお、小数第2位を四捨五入し、少数第1位までを示しているため、割合の合計が100%にならない場合がある。

3-1 施設概要

3-1-1 法人格

アンケート（1）法人格をお選びください。（N=140）



その他：公益社団法人、有限会社、宗教法人、個人事業など

図 3-1-1 法人格

3-1-2 設立年

アンケート（2）設立年をお教えてください。（N=140）

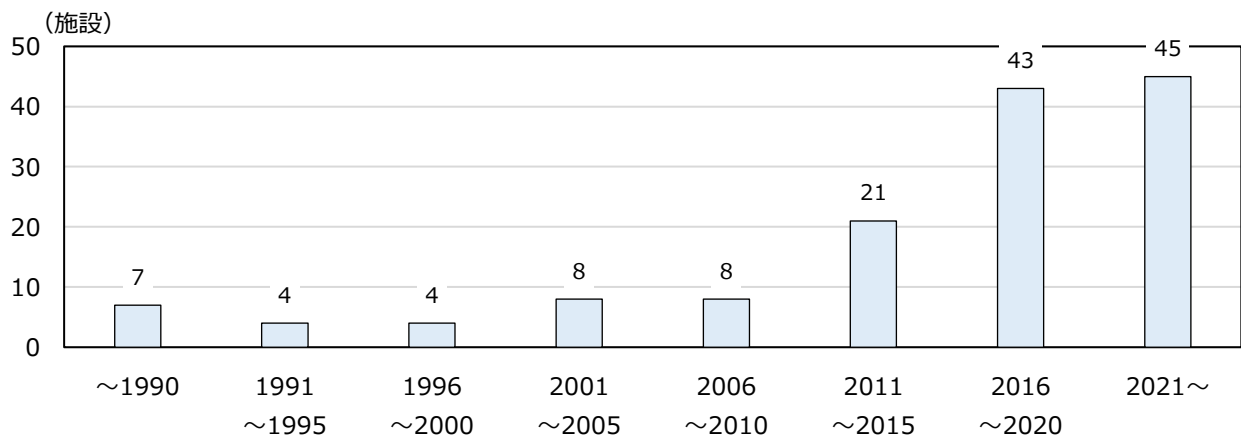


図 3-1-2 設立年ごとの施設数の推移

- ・ 2010 年頃から、フリースクール等の設立が多くなり、新型コロナウイルス感染症が流行した 2020 年頃から、急速に増えていると言える。

3-1-3 スタッフの総数

アンケート(3) 運営に関係しているスタッフの総数をお答えください。常勤や非常勤、ボランティア等に関わらず、運営に関係している人の総数をお答えください。(N=140)

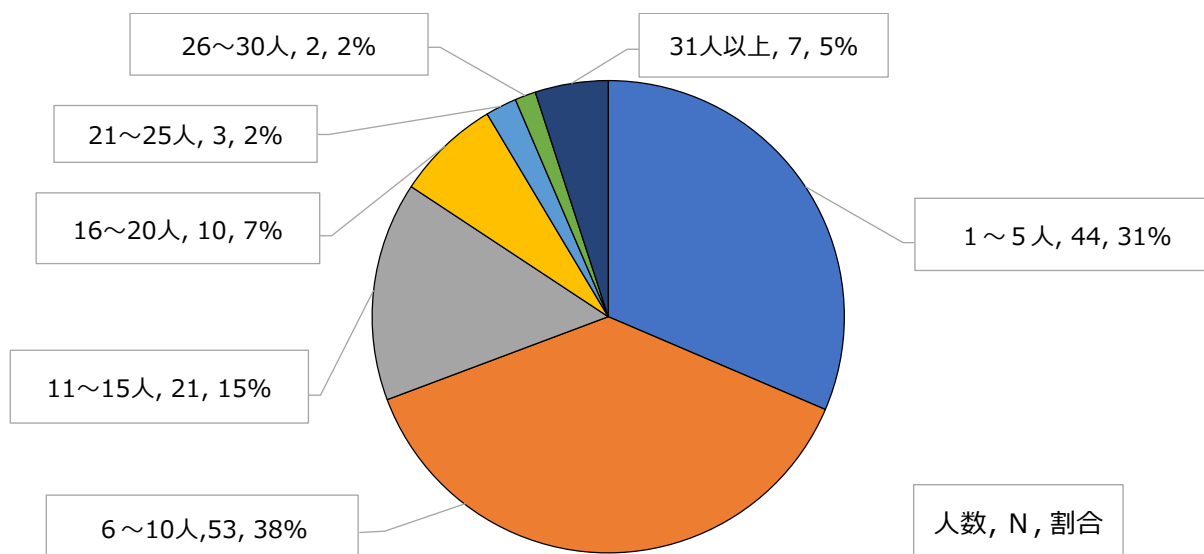


図 3-1-3 運営に関係しているスタッフ数

- ・ 1人～5人が31.4%、6人～10人が37.9%であり、約70%の施設が、10人以下のスタッフで運営している。

3-1-4 1日当たりのスタッフ数

アンケート(4) 1日当たりに勤務されている職員の方のおおよその人数をお教えてください。(N=140)

※「2人～3人」と回答があった場合は2.5人として算出

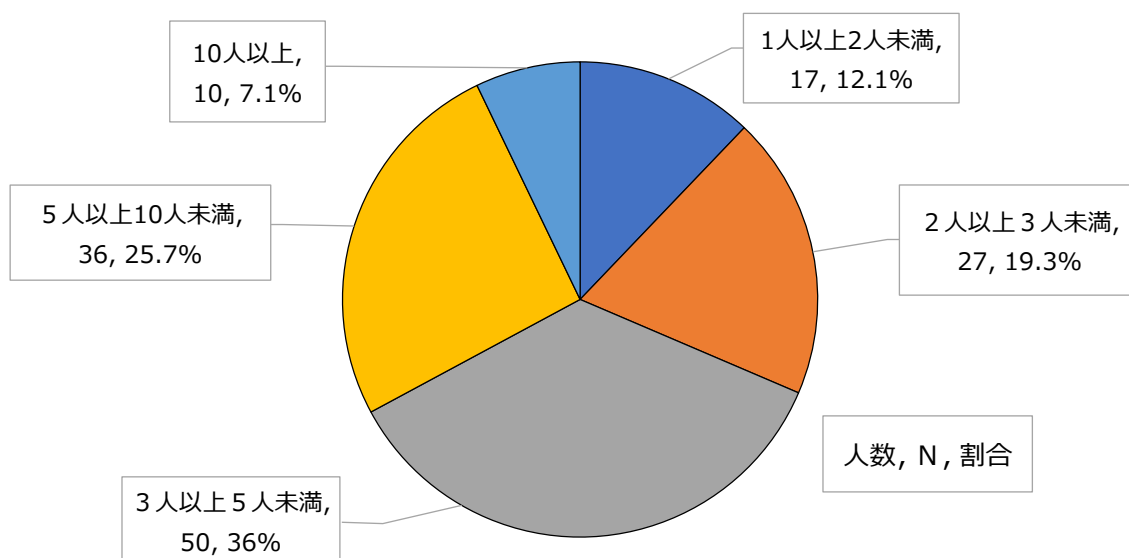


図 3-1-4 1日当たりのスタッフ数

- ・ 1人以上2人未満12.1%、2人以上3人未満19.3%、3人以上5人未満35.7%であり、約70%が1日当たり5人未満のスタッフで運営している。

3-1-5 スタッフの構成

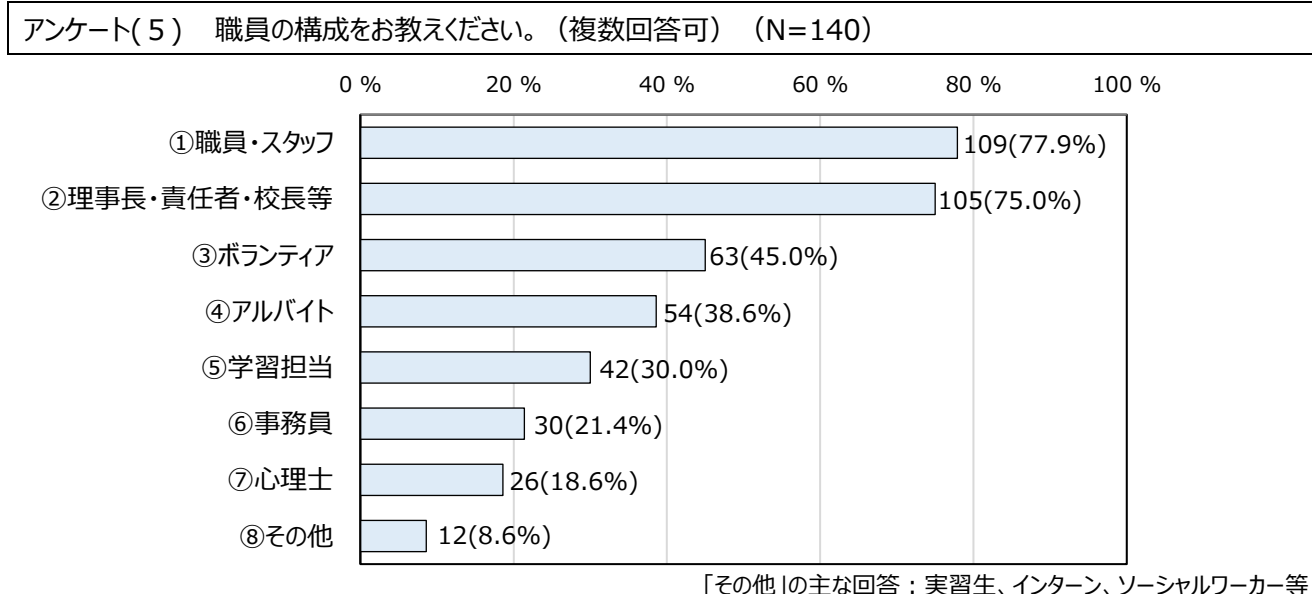


図 3-1-5 スタッフの構成

- ・ ボランティア 45.0%、アルバイト 38.6%となっており、フリースクール等の運営においてボランティアやアルバイトが重要な存在であると言える。

3-1-6 スタッフが所有している資格

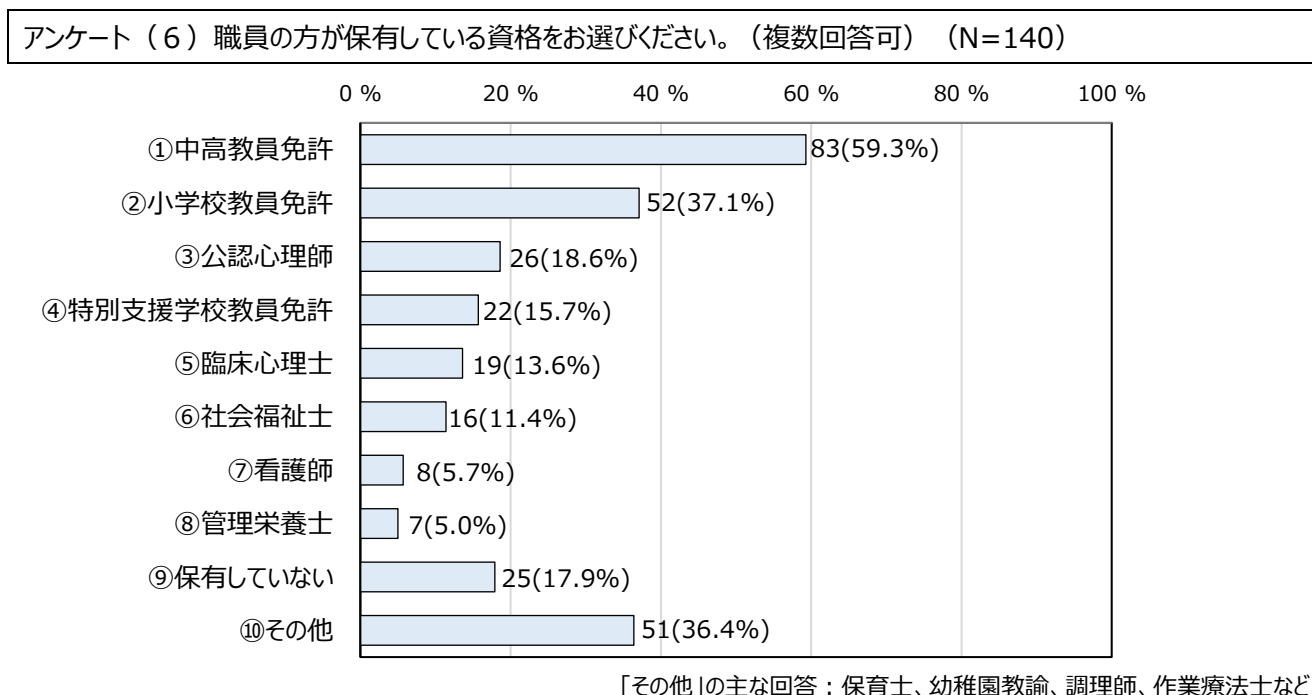
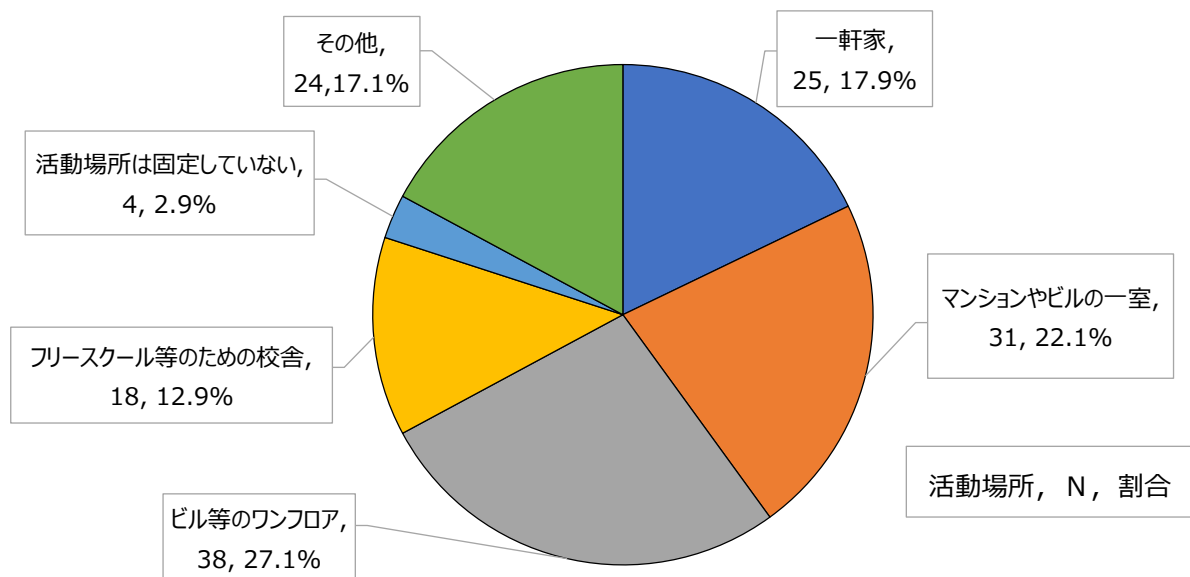


図 3-1-6 スタッフが所有している資格

- ・ 約 60%が中高の教員免許を所有しており、小学校や特別支援の教員免許を所有している者もいる。公認心理師、臨床心理士といった心理学関連の資格を所有する者がスタッフにいる場合もある。資格を所有している者がいない施設も 17.9%あった。

3-1-7 活動場所

アンケート（7）フリースクール等の環境・設備面についてお選びください。（N=140）



「その他」の主な回答：公園、市の施設、商業施設の一部など

図 3-1-7 フリースクール等の活動場所

- ・「マンションやビルの一室」が 22.1%、「ビル等のワンフロア」が 27.1%であり、約半数はビルやマンションが活動場所であった。「一軒家」は、自宅の一部を利用している場合も含まれている。

3-1-8 活動場所の面積

アンケート（８）運営場所の広さ（屋内）についてお答えください。（N=140）

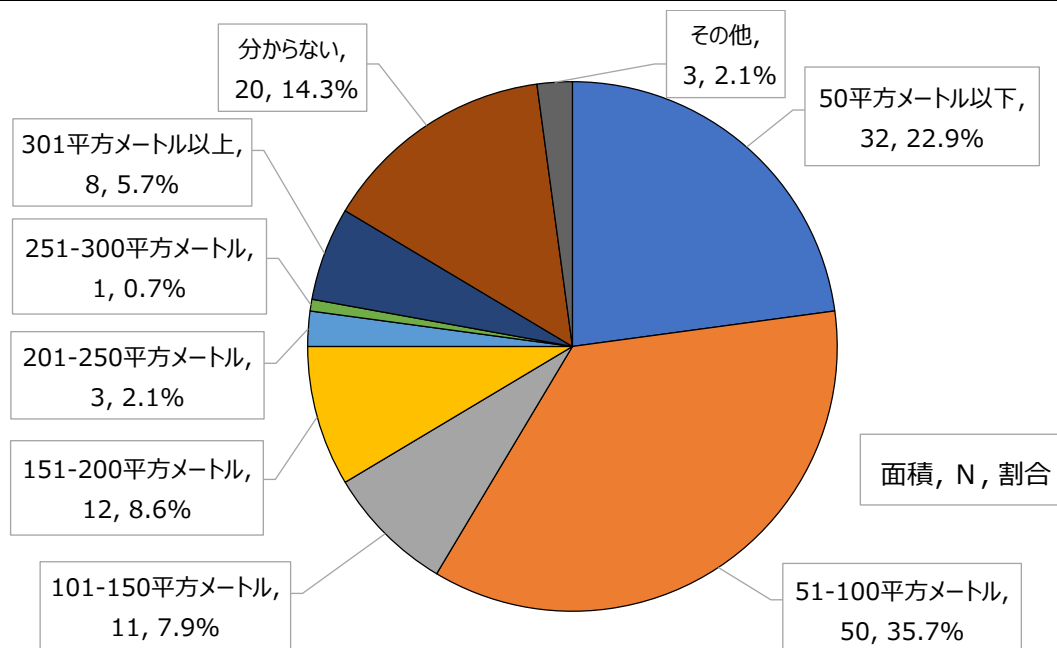


図 3-1-8 活動場所の広さ

- ・「50m²以下」が 22.9%、「51m²～100m²」が 35.7%であり、約 6 割が 100m² 以下の広さであった。

3-1-9 活動する部屋の数

アンケート（９）活動する部屋の数をお選びください。（N=140）

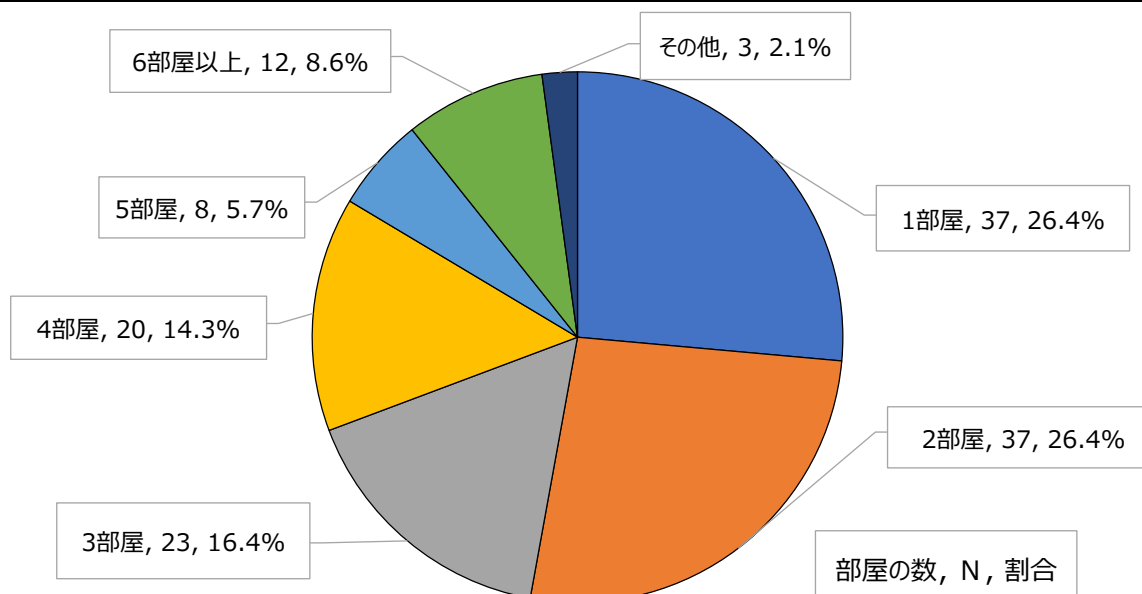


図 3-1-9 活動する部屋の数

- ・活動する部屋数は「1 部屋」が 26.4%であり、約 4 分の 1 の施設は 1 部屋で活動していた。「2 部屋」が 26.4%、「3 部屋」が 16.4%、「4 部屋」が 14.3%、「5 部屋」が 5.7%、「6 部屋以上」が 8.6%であり、複数の部屋が用意されている場合、2 部屋～4 部屋が多かった（全体の約 6 割）。

3-1-10 設備

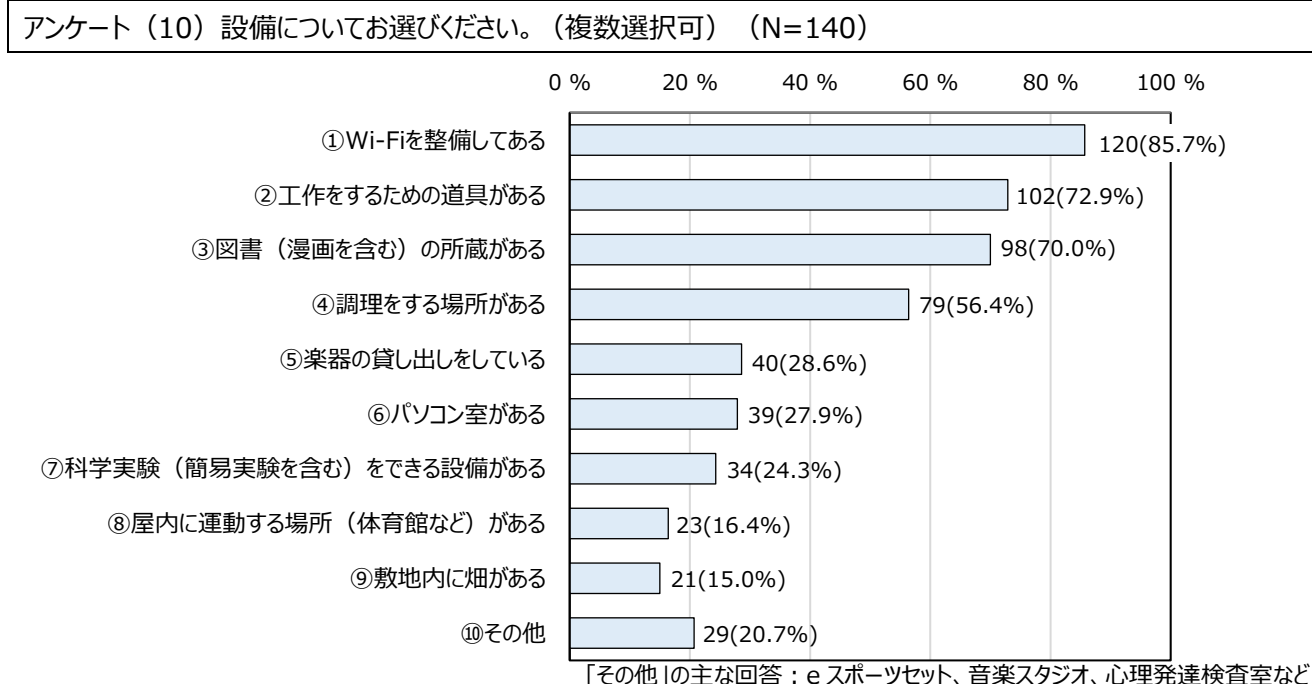


図 3-1-10 施設設備

・「Wi-Fiの整備をしている」が85.7%であり、活動する上で通信環境を整えておくことが重要と捉えていると推察できる。次いで、工作するための道具、図書、調理となっており、いずれも活動内容を反映したものである。

3-1-11 日常的に行っている屋外での活動の場所

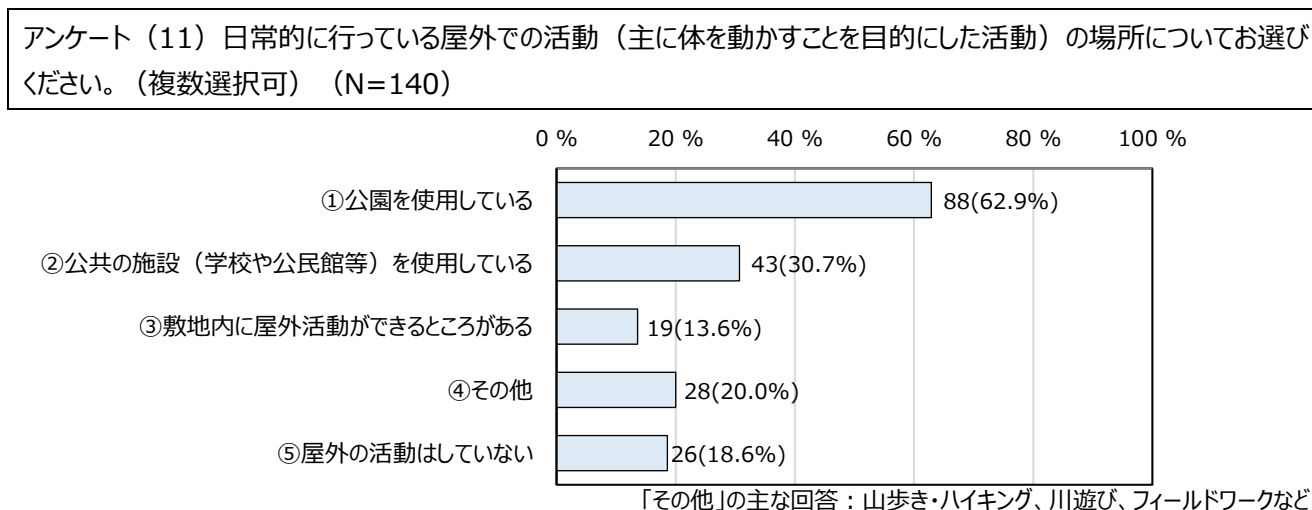
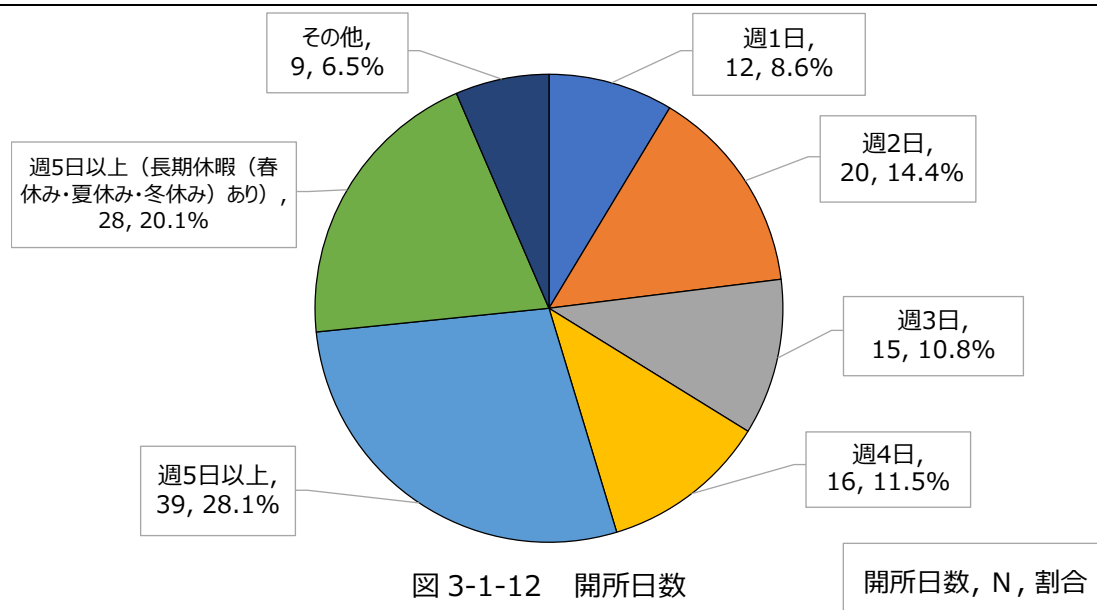


図 3-1-11 屋外での活動場所

・「公園を使用している」が62.9%と最も多く、公園はフリースクール等の運営においても重要な環境となっていると言える。「公共の施設を使用している」は30.7%であった。

3-1-12 開所日数

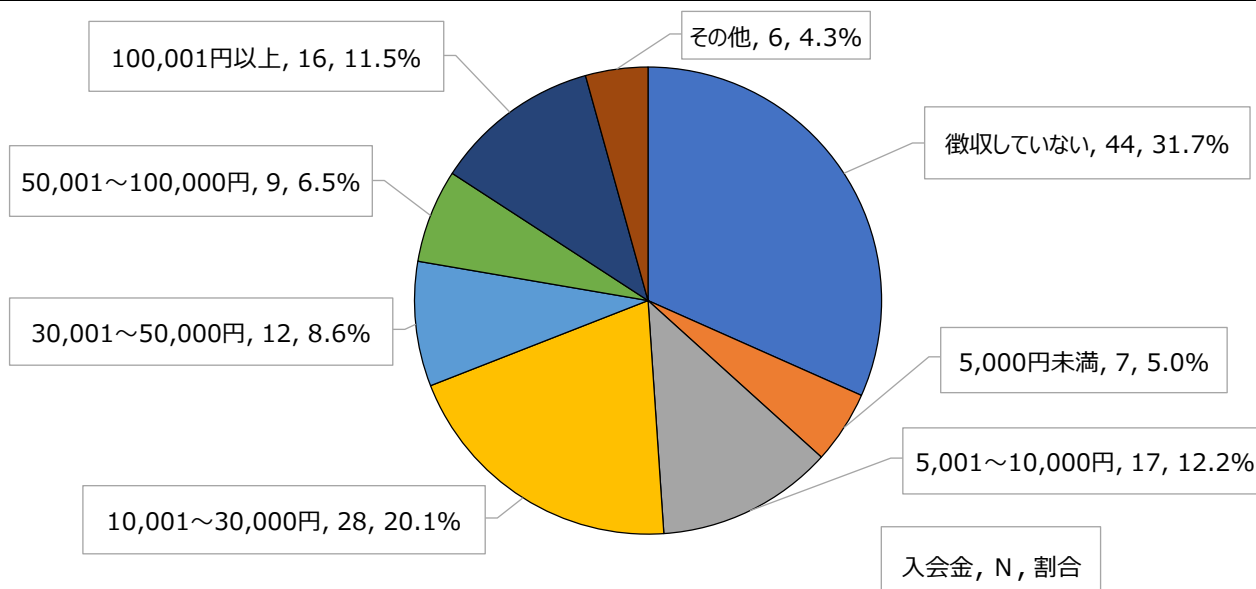
アンケート（12） 開所日数をお選びください。（N=139）



- ・「週1日」が8.6%、「週2日」が14.4%、「週3日」が10.8%、「週4日」が11.5%であった。「週5日以上」は48.2%であった（「長期休暇なし」が28.1%、「長期休暇あり」が20.1%）。

3-2 入会金・授業料・施設使用料

アンケート（13） フリースクール等の入会金等（在籍に必要な入会金等）をお教えてください。（N=139）



（「その他」の主な回答）

所属するコースによって異なる、在住地によって異なる等

- ・ 入会金を徴収していない施設が31.7%と最も多く、徴収している場合は「10,001～30,000円」が20.1%、「5,001～10,000円」が12.2%、「100,000円以上」が11.5%の順になっており、施設によって様々であった。

アンケート（14） フリースクール等の授業料（ひと月当たりのおおよその授業料）をお教えてください。（N=139）

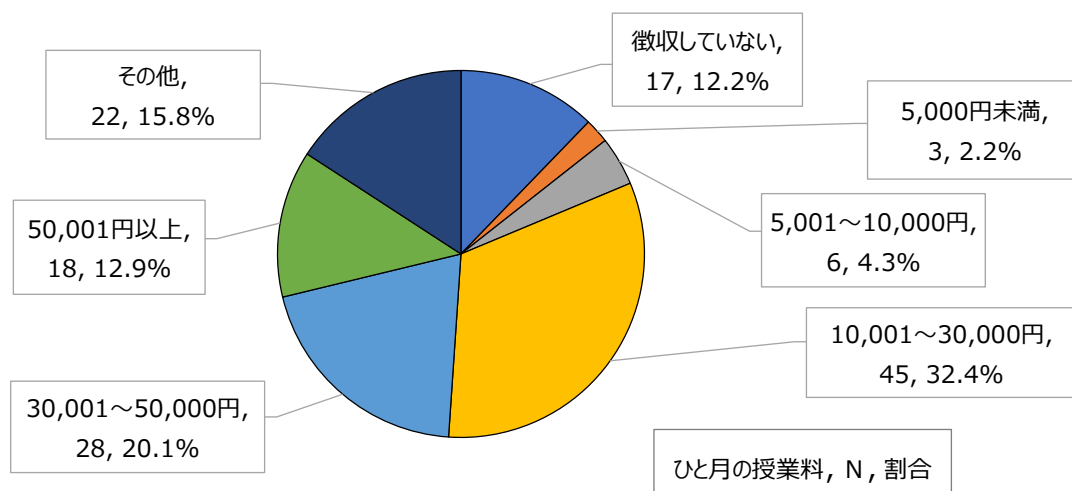


図 3-2-2 授業料

（「その他」の主な回答）

通所の日数によって変動、所属するコースによって異なる、在住地によって異なる等

- ・ 最も多いのは「10,001~30,000 円」で 32.4%であり、次いで「30,001~50,000 円」が 20.1%、「50,001 円以上」が 12.9%であった。「徴収していない」は 12.2%であった。

アンケート（15） フリースクール等の施設利用料をお教えてください。（N=139）

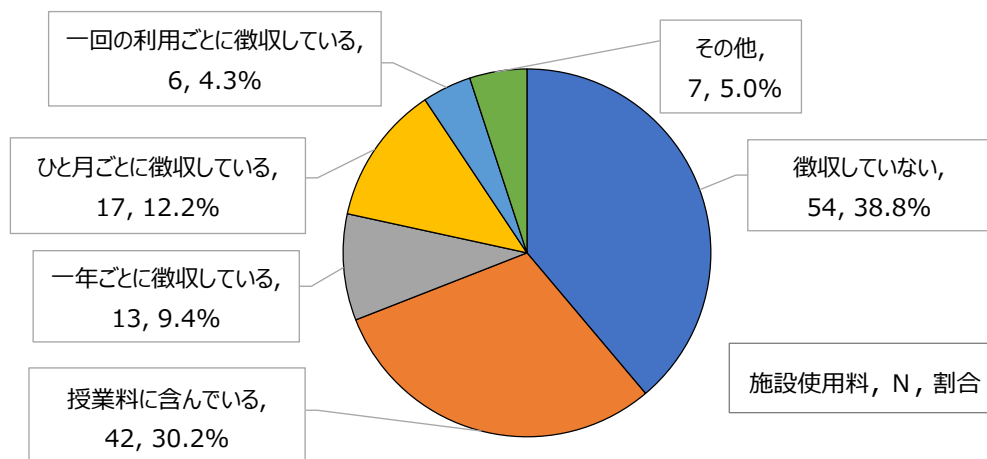


図 3-2-3 施設利用料

- ・ 「徴収していない」が 38.8%、「授業料に含んでいる」が 30.2%であった。

3-3 在籍人数

3-3-1 受け入れ対象年齢

アンケート（16）受け入れ対象について当てはまるものを全てお選びください。（N=140）

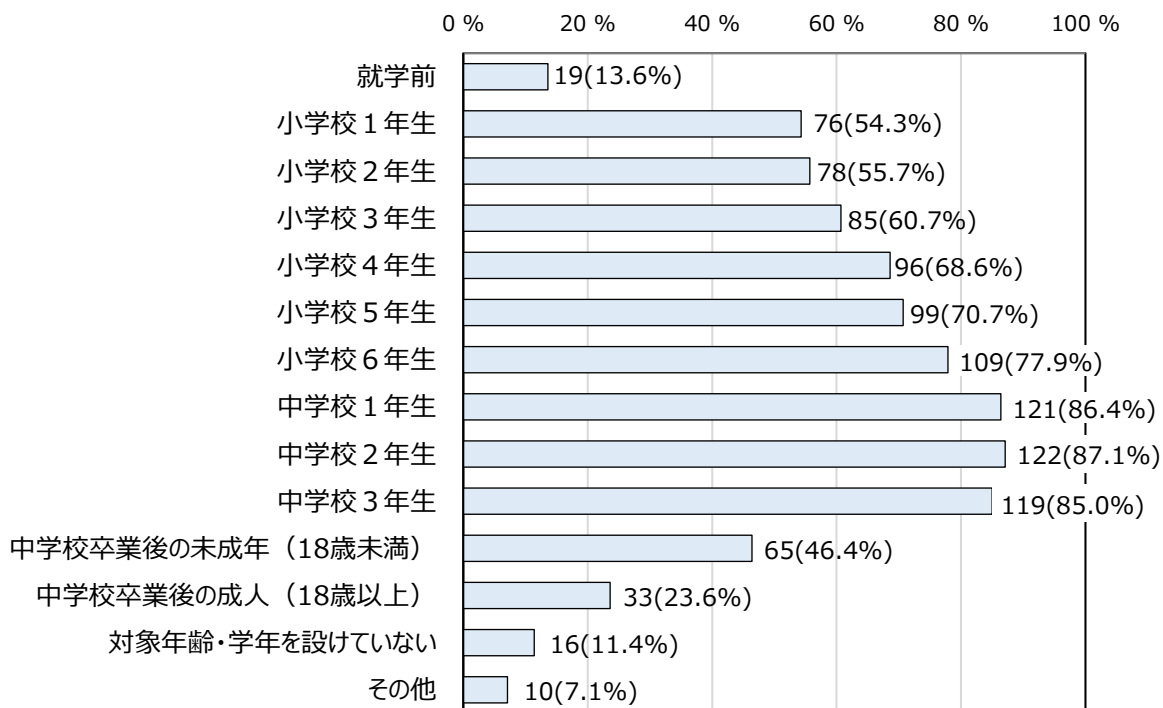


図 3-3-1 受け入れ対象年齢

- ・ 受け入れ対象年齢は中学1年生～中学3年生が 85.0%～87.1%であり、中学生を対象とした施設が多いと言える。低年齢になるほど受け入れ対象外となっている施設が多くなっている。

3-3-2 在籍人数

アンケート（17）2018（平成 30）年度～2023（令和 5）年度のおおよその在籍数をお教えてください。
（2018 年度～2022 年度：N=139、2023 年度：N=140）

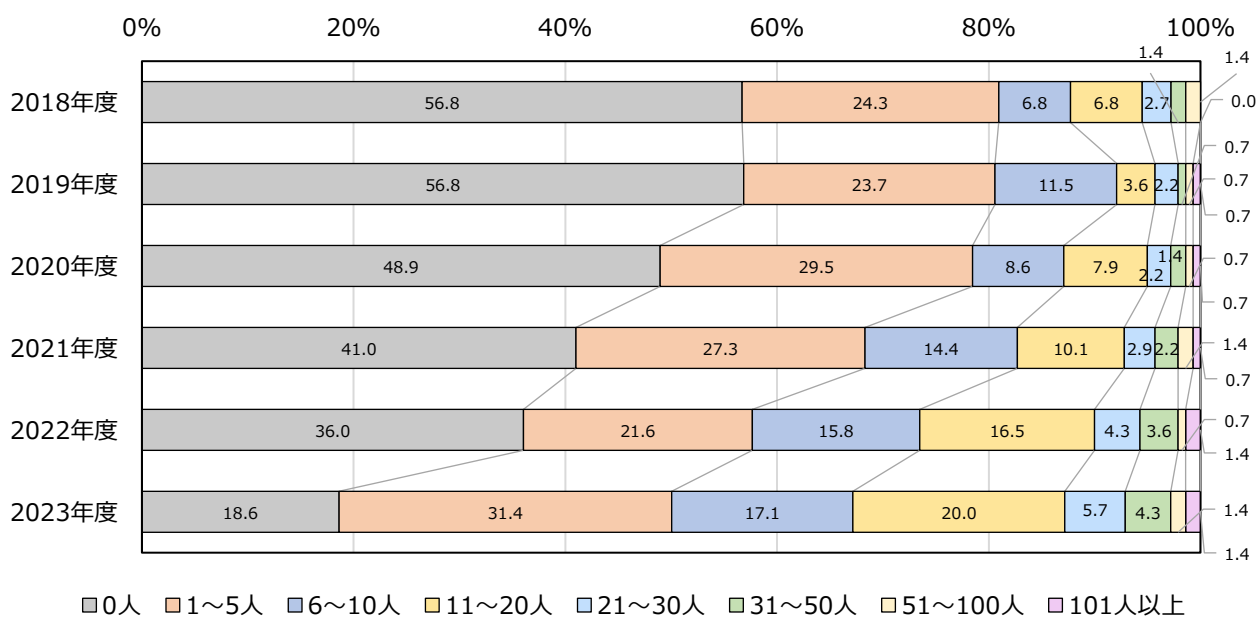


図 3-3-2 【小学校段階】2018（平成 30）年度～2023（令和 5）年度における施設ごとの在籍者の割合

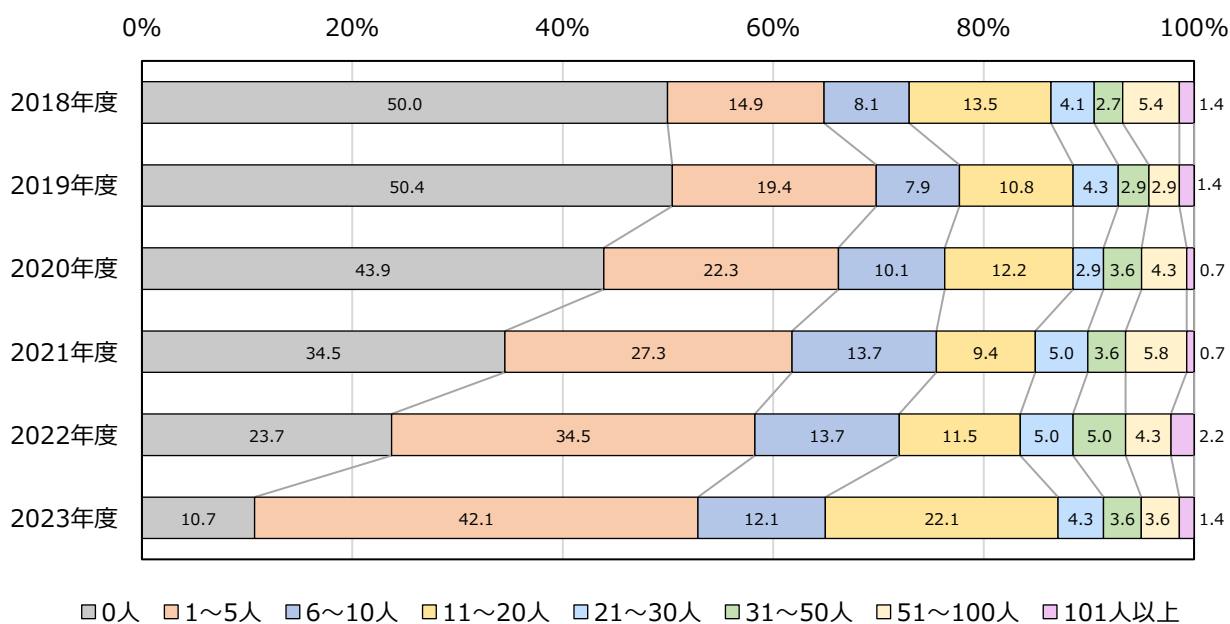


図 3-3-3 【中学校段階】2018（平成 30）年度～2023（令和 5）年度における施設ごとの在籍者の割合

- ・ 小学校段階の子供の在籍者数が 0 人の施設の割合は、2018 年度から 2023 年度にかけて約 3 分の 1 に減少している一方で、6～10 人、11～20 人、21～30 人、31～50 人の施設は増加している。中学校段階の子供の在籍者が 0 人の施設の割合は、2018 年度から 2023 年度にかけて約 5 分の 1 に減少している一方で、1～5 人、6～10 人、11～20 人、21～30 人、31～50 人の団体・施設は、増加している。以上のことから、フリースクール等の在籍者数は増加傾向であると言える。

- ・ 2023 年度における施設の在籍者数が 20 人以下の施設は、小学校段階の子供が通所する施設では全体の約 70%、中学校段階の子供が通所する施設では全体の約 75%を占めている。特に、中学校段階の子供が通所する施設では、2023 年度は最も割合が多い在籍者数は 1 ～ 5 人（42.1%）となっており、少人数制で対応していることが分かる。

3-4 児童・生徒の入所までのおおまかな流れ

インタビュー(1) 児童・生徒の入所までの流れで多く見られるものをお教えてください。

最も多かった回答は、「ネット検索」であった。多くの場合、保護者がネットの検索により施設のホームページや SNS にたどり着き、電話やメールによって問い合わせを行うとのことであった。次いで、多かったのは知人や親の会による「口コミ（紹介を含む）」であった。また、「学校」、「教育支援センター」、「スクールカウンセラー」、「スクールソーシャルワーカー」、「医療機関」等、児童・生徒と関わりのある者の紹介との回答もあった。

<まとめ>

- ・ 「ネット検索」や「口コミ」が多いことから、保護者が何らかの行動を起こすことがフリースクール等への入所につながるということが推察される。
- ・ フリースクール等への入所には「学校」、「教育支援センター」、「スクールカウンセラー」、「スクールソーシャルワーカー」、「医療機関」等による働きかけも有効であると言える。

3-5 不登校の要因についての情報

インタビュー(2) 児童・生徒が不登校になった要因として考えられることをお教えてください。

最も多かった回答は発達及び本人の特性が不登校につながったというものであった。次いで、友人や担任との人間関係の悪化であった。発達や本人の特性が人間関係のトラブルの一因になっているのではないかという指摘もあった。かつては友人との関わりが不登校の要因になることが多かったが、近年では発達の特性による学校生活への不適応が増えているという回答もあった。学校のシステムが要因として挙げられており、「一斉授業が合わない」、「集団行動、大人数が合わない」、「海外の学校文化との違いになじめない」といった回答があった。学習面では、「学習のペースが合わない」との回答があり、勉強に付いていけないための学習の遅れと、特定分野に特異な才能のあると思われる児童・生徒が授業時間をもて余すことなどが挙げられた。

少数の回答として、生活環境として、家庭の状況への言及も見られた。また、コロナ禍による影響という理由が挙がり、具体的には休校後に登校できなくなった、価値観の変化により学校へ通う意味が見いだせなくなった、幼稚園から小学校への切り替えができないといった回答があった。また、「理由は明確ではない」、「分からない」、「いろいろなことが複雑に絡み合っていて具体的には挙げられない」という回答もあった。本人の中で葛藤はありそうだが言語化できていないように見受けられるという指摘もあった。なお、多くの施設では、不登校の要因について積極的に把握していなかったため、上記の内容は本人や保護者との面談の中での発言からスタッフが推測した内容が多数を占める。在籍校での様子については全く聞いていないという施設もあった。

<まとめ>

- ・ フリースクール等側が推測する不登校の要因として、「発達および本人の特性」、「人間関係の悪化」、「集団行動・活動への苦手意識」、「学習ペースの不適合」などが挙げられる。

3-6 フリースクール等の位置付け

アンケート(18) フリースクール等の位置付けをどのように捉えていますか。(複数回答可) (N=139)

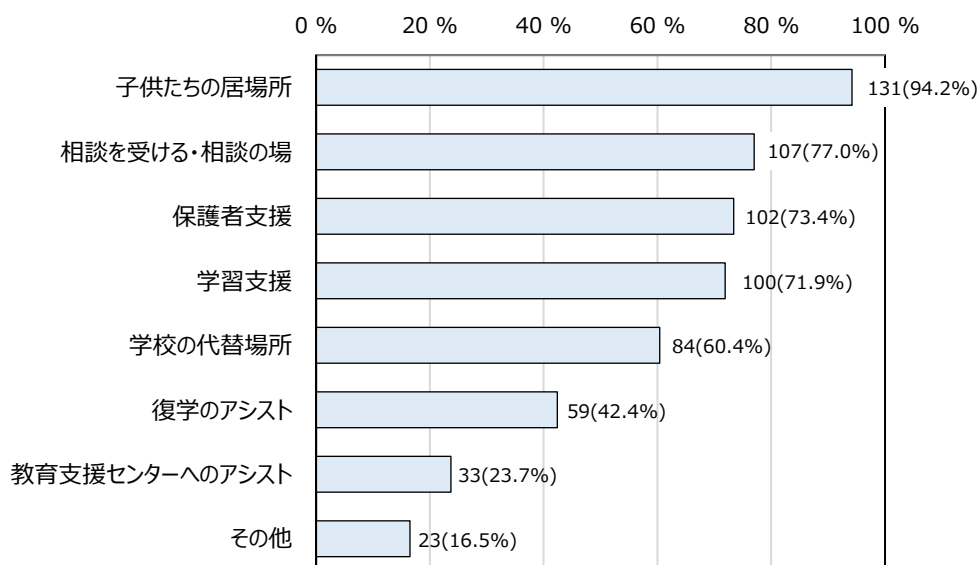


図 3-6 フリースクール等の位置付け

(「その他」の主な回答)

カウンセリング、それぞれのペースで自分を育てる場、公教育ではなかなかできない教育の実現、いろいろな学びを探る場、新しい選択肢、社会復帰できるための力を付ける場所（キャリア教育・アウトリーチ支援など）、高校入学前の学校体験、引きこもり対策、凸凹（主に発達障害、ギフテッド児含む）がある子供たちへの心理・個性・学習面に関しての柔軟なサポート等

インタビュー(3) フリースクール等の位置付けとして最も大切にしている点についてお教えてください。

最も多い回答は、「居場所」であり、同じ主旨で「安心・安全な場所」と回答した施設もあった。「居場所」、「安心・安全な場所」と回答した施設にその背景を伺ったところ、主に次の2点が挙げられた。1点目は「引きこもりの防止」である。フリースクール等が人とのつながりを提供することによって家庭や学校以外の居場所になることを目指している、また、保護者が多忙な場合は生活リズムを整える場としての役割も担っているとの回答があった。2点目は「エネルギーを取り戻すための場」という意識である。不登校の状態になっている児童・生徒は、精神的にも体力的にもエネルギーを消耗している状態が多いので、まずはエネルギーを蓄えることができるよう支援をしており、エネルギーを取り戻すようになると、学習に対する意欲や物事への興味・関心が湧いてくると感じているとの回答があった。

次いで多かったのは、「学習支援」、「学びの場」、「学習の場」、「やりたいことを実現する場」、「成長の場」等、「学び」に関連する場という内容の回答であった。「3-5 不登校の要因についての情報」(p.192)で述べたとおり、学校の学習ペースが不適合と見られることがフリースクール等に通うことにつながっている児童・生徒もいるため、学習に不安のある児童・生徒に対しては学習支援をしているという施設があった。

「保護者支援」については、子供の不登校により保護者も追い詰められて精神的に余裕がなくなっている場合もあるため、保護者の支援も同時に必要であるという回答があった。「学校の代替」については、学習に関わる学びだけではなく、人間関係等についても学ぶ場と捉えられていた。「復学支援」については、施設によって考え方が全く異なっており、復学を目指して学校との架け橋になるような役割を果たしたいと回答する施設がある一方で、復学が目標ではないとする施設もあった。

その他の回答として、「学びの多様性を担保するための学校以外に学べる場」、「生活のリズムを整える場」、「社会的自立を支援する場」等の回答があった。

<まとめ>

- ・ アンケート調査の結果より、子供たちの居場所とする団体・施設が 94.2%と最も多く、相談を受ける・相談の場が 77.0%、保護者支援が 73.4%、学習支援が 71.9%であった。
- ・ インタビュー調査でも子供たちの「居場所」との回答が最も多く、不登校の児童・生徒の居場所を作ることがまずは重要であると言える。
- ・ インタビュー調査でフリースクール等における「学び」は教科学習の支援から主体的に物事に取り組む力の育成や社会生活に関わるあらゆる事象を学ぶことまで多岐にわたっていた。「学びの場」としての側面も大きいと捉えていることが分かった。

3-7 児童・生徒がフリースクール等に求めていること

アンケート(19) 在籍している児童・生徒が、フリースクール等に求めていることとして考えるものをお選びください。(複数回答可) (N=139)

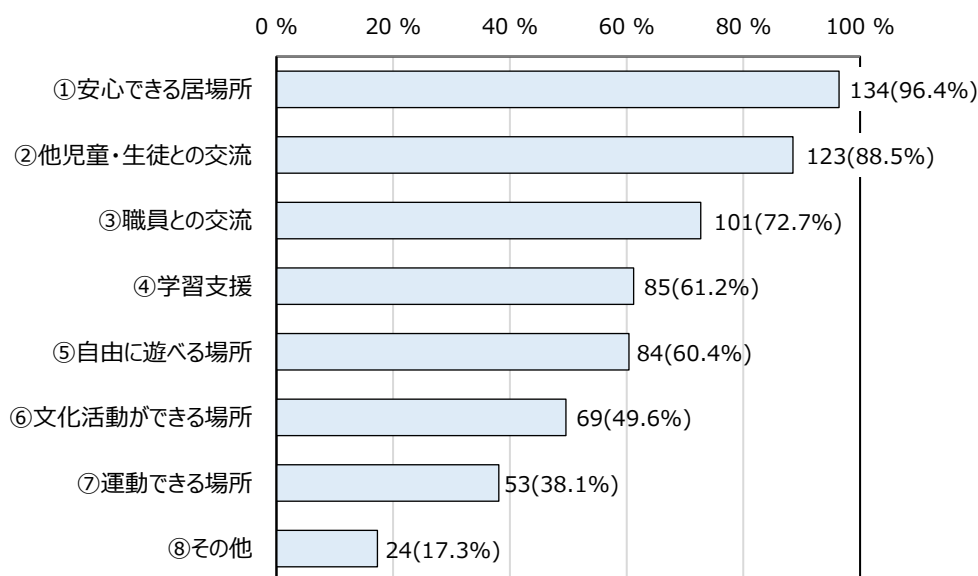


図 3-7 児童・生徒がフリースクール等に求めていること

(「その他」の主な回答)

自分のペースややりたいことを尊重される場所、生活リズムの安定、進路指導、心理的サポート、仲間を作る、社会を学べる場所、日中の居場所、生活・学校・家庭上の問題改善等

インタビュー(4) 児童・生徒が求めていることとして特に重要だと思う点についてお教えてください。

最も多かった回答は、「安心できる居場所」である。「安心できる居場所」が土台・前提となり、その他の活動につながっていくという回答もあった。「3-6 フリースクール等の位置付け」(p.193)において、「居場所」の回答が最も多かったことから、児童・生徒が安心して過ごせる環境づくりが重要であることが分かる。次いで「仲間(スタッフを含む)と過ごせる場・交流できる場」との回答が多かった。朝、通所してから、まず仲間やスタッフとおしゃべりを始める児童・生徒もあり、人との関わりをもつことを求めているのではないかという回答があった。フリースクール等への通所以外は、家で過ごす児童・生徒もいるが、小学校高学年から中学生になると興味・関心事の専門性が高まり、家族では話に付いていけないこともあり、フリースクール等で他者と交流することで解消できているとの回答もあった。

次いで、「自由に過ごせる・遊べる場」、「興味関心があることに没頭できる場」、「学習支援」との回答があった。自分の興味・関心のあることに十分にに取り組める時間と環境をフリースクール等に求めていると言える。また、学習に不安がある場合には学習の支援も重要となる。

少数の回答として「他人から認めてほしい」、「自分の誇れるものを見付けたい」、「行き先が欲しい（平日の昼間に学校へ行かずに1人で街中にいると奇異な目で見られることがある）」、「カリキュラムの柔軟性」、「文化活動ができる場」、「運動ができる場」、「現状を変える場」等が挙げられた。

<まとめ>

- ・ 安心できる居場所とする施設が96.4%で、次いで他児童・生徒との交流が約88.5%であった。
- ・ インタビュー調査より、自分らしくいられる場が確保されていること（「安心できる居場所」、「自由に過ごせる・遊べる場」）、人間関係を構築できること（「仲間（スタッフを含む）と過ごせる場・交流できる場」）、学びの場（「興味関心があることに没頭できる場」、「学習支援」）を、児童・生徒は求めていると捉えている。

3-8 主な活動内容

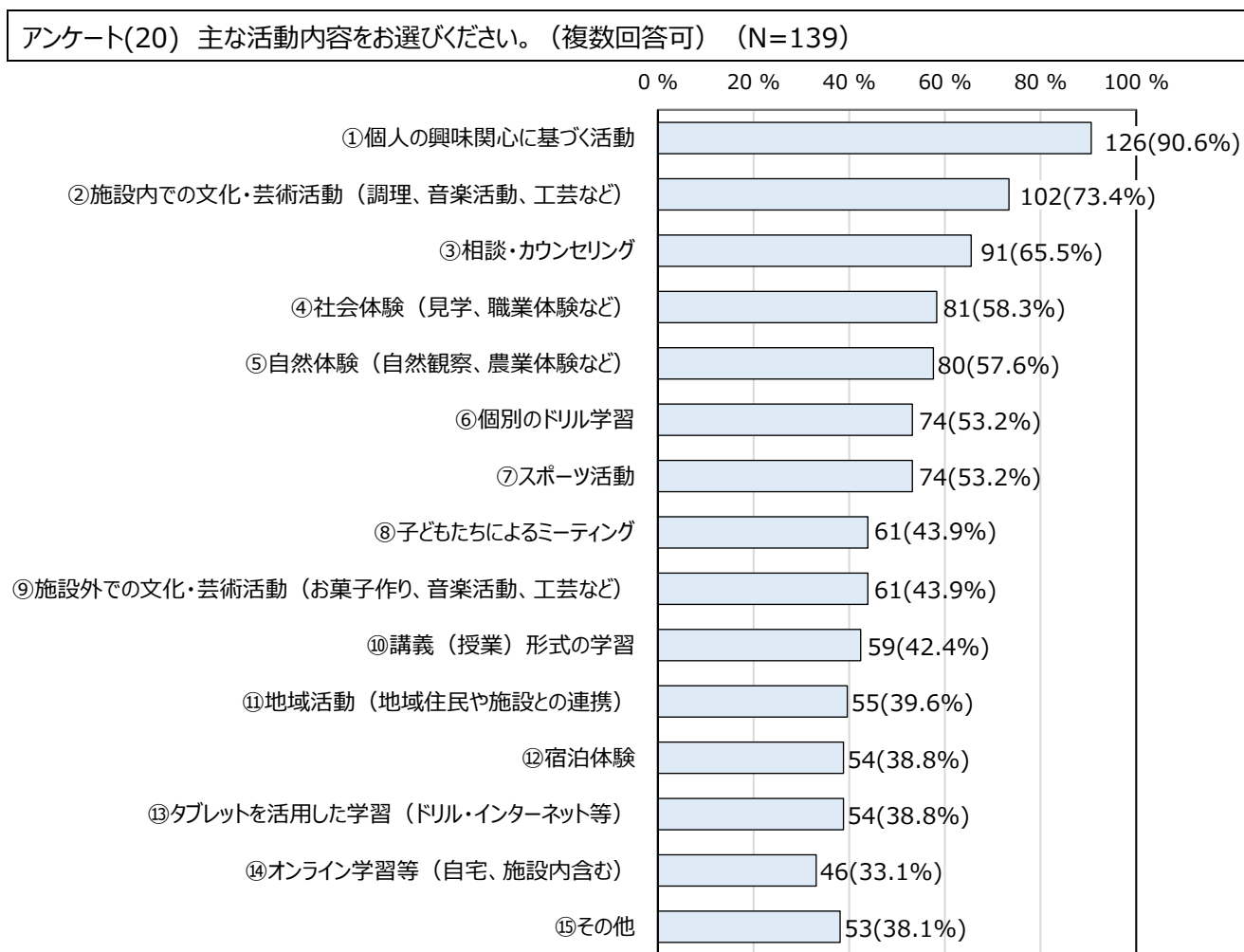


図 3-8 主な活動内容

（「その他」の主な回答）

療育的学習支援、ネット・ゲームなどデジタル世界の中での主体的な活動、児童・生徒同士のコミュニケーションのための遊びの時間、日常生活の活動（コンビニ、郵便局、スーパーへの買い物）等

インタビュー(5) 活動内容の中で特に効果的だと考えられる取組とその効果についてお教えてください。

【効果的だと考えられる取組】

回答内容は、活動の形態と具体的な活動に分けられた。活動の形態として最も多かった回答は「課外活動（イベント）」、次いで「子供の興味・関心を伸ばす活動」、「子供同士の活動・ミーティング」、「学習支援」であった。具体的な活動としては、「ゲーム（カードゲーム、オンラインゲームを含む）」、「運動」、「工作」、「調理・食事」、「音楽活動」、「友人・スタッフとの交流」、「自然体験」、「社会体験」等があった。

少数の回答の中で、スタッフとの関係性について「大人とのフラットな関係性を作る」、「大人が寄り添い過ぎないようにする」、学び方について「遊びを通して学ぶ」、「活動内容よりも人間関係を重視して展開する」といった回答も見られた。また、具体的な活動ではなく、「フリースクール等に通うこと・フリースクール等で過ごすこと自体」という回答もあった。

【見られた効果】

活動形態別の活動による効果は、「自然体験」・「社会体験」等の「課外活動（イベント）」では、「友人との仲が深まる」、「意欲の向上」、「自信が付く」、「生き生きする」、「コミュニケーションが活発になる」、「自分の考えを表現できるようになる」、「生活習慣の改善のきっかけになる」、「その子本来の姿に戻る」、「興味が広がる」、「自己肯定感が高まる」、「学びのきっかけを得る」、「将来の夢をもつ」、「通所回数の増加」等といった多岐にわたる回答が見られた。「子供の興味・関心を伸ばす活動」では、「遊びながら学ぶ」、「学ぶ態度の育成」、「意欲の向上」、「生き生きとする・表情が明るくなる」、「他者との交流」、「成功体験」、「復学への意欲」、「自分の行動に責任をもつ」、「通所回数の増加」等の回答があった。「子供同士の活動・ミーティング」では、「自信が付く」、「人間関係を学ぶ」、「他者理解が深まる」、「話し合いや遊びに工夫が見られるようになる」、「成功体験」、「自己肯定感が高まる」等の回答があった。「学習支援」では、「自分に合った学習の方法が分かった」、「前向きになった」、「成功体験」、「物事に取り組む力が付いた」、「学習によって視野の広がりが出てきた」等の回答があった。いずれの活動形態においても「自信が付く」、「意欲の向上」、「自己肯定感が高まる」等の効果を感じていることが分かる。

具体的な活動として、例えば、調理では「コミュニケーションを取るようになった」、「団結するようになった」、「楽しむことを覚えた」等の変化に加え、「家でも料理をするようになった」、「偏食が改善した」等の生活面への効果が見られたとの回答があった。「友人・スタッフとの交流」では、スタッフとの関わりの中で「大人への信頼感の回復」や「生活を変えるきっかけ」等の回答があった。

以上のように、フリースクール等における活動によって、児童・生徒は多様な変化をしていることが分かる。その他の変化として「生活のリズムが整う」、「気力・体力の向上」、「自分を解放できるようになる」、「自分自身への理解が深まる」、「保護者が安心する」、「発達の特徴が丸くなる」、「一人でできることが増える」等、多様な回答を得た。一方で、「変化が見られたからといって、すぐにうまくいくというわけではない」という指摘もあった。

<まとめ>

- ・ アンケート調査より、主な活動内容について、個人の興味・関心に基づく活動を行っている施設が 90.6%、施設内での文化・芸術活動（調理、音楽活動、工芸など）は 73.4%であった。学習に関する活動は、個別のドリル学習は 53.2%、講義（授業）形式の学習は 42.4%、タブレットを活用した学習（ドリル・インターネット等）は 38.8%、オンライン学習等（自宅、施設内含む）は 33.1%であった。
- ・ インタビュー調査より、課外活動（イベント）は特に効果的と捉えられており、工夫しながら実施している施設が多く見られた。活動によって見られた効果として「自信が付く」、「意欲の向上」、「自己肯定感が高まる」の回答に見られるように、内面の変化に言及したものが多かった。

3-9 学習計画の提示

3-9-1 活動計画の有無

アンケート(21) 活動内容や学習・進路支援などについて、活動計画や目安となるものはありますか。※令和5年度のみ(N=65)

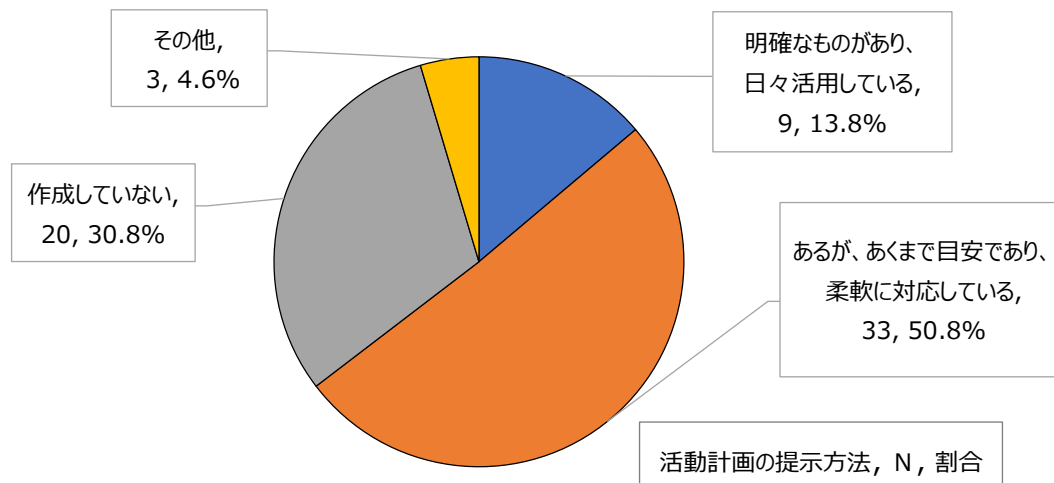


図 3-9-1 活動計画の有無

- ・ 何らかの活動計画がある施設は 64.6%であり、作成していない施設は 30.8%であった。

3-9-2 活動計画の報告状況

アンケート(22) 保護者の方に対して学習の計画（学習の流れが分かるもの）を示していますか。最も当てはまるものをお選びください。（N=139）

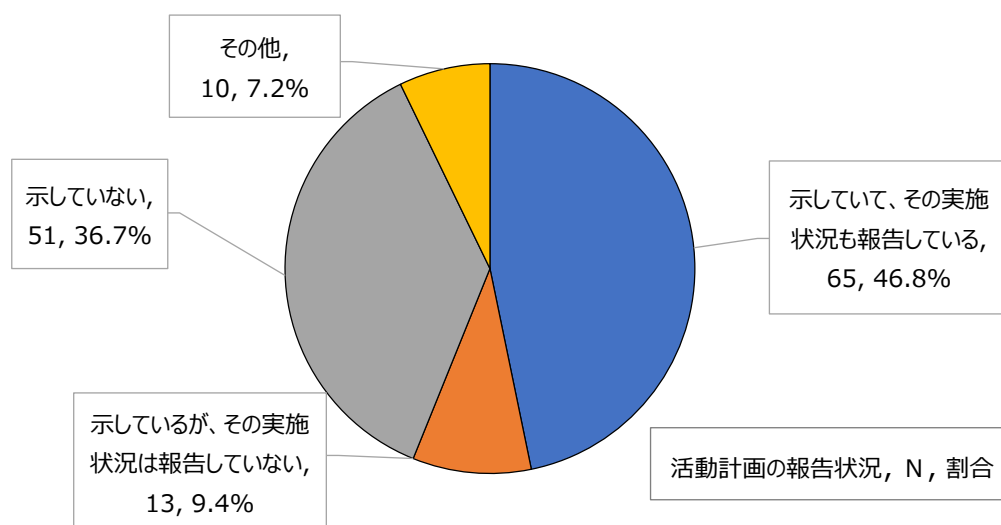


図 3-9-2 学習計画の報告状況

（「その他」の主な回答）

個別のニーズがある場合は示している、そもそも計画書の作成はしておらず臨機応変に課題を渡している、示していない（子供たちの状況に柔軟に調整するので計画が意味をなさないので）が実施状況は都度報告している等

インタビュー(6) 学習計画がある場合には、どのようなものか教えてください。ない場合には作成しない意図や考えをお教えてください。

【ある場合（「明確なものがあり、日々活用している」・「あるが目安であり、柔軟に対応している」）】

学習計画としては「年間計画」、「月（週）ごとの活動予定表」、「時間割（1日の流れ）」として示している施設が多かった。学習計画は全体で共通のものを作成する施設と子供に応じて個別に立てる施設があった。また、学習指導要領に対応するように学習計画を立てると回答した施設もあった。本校がある場合（インターナショナルスクール等）は、本校のカリキュラムに沿って学習を進めているとのことであった。

【ない場合（作成していない）】

学習計画を作成しない理由として、「子供たち自身で学びを作るため」、「柔軟に対応できるようにするため」、「課題は子供によって異なるため」、「登校が安定しない子供も多いため」が挙げられた。学習計画は作成していないものの活動記録は残しており、振り返りという形で活用している施設もあった。

<まとめ>

- ・ 学習計画を提示しており、実施状況も報告している施設は 46.8%、示していないとするのが 36.7%であった。
- ・ インタビュー調査より、学習計画としては「年間計画」、「月（週）ごとの活動予定表」、「時間割」の形で示す場合が多かった。
- ・ 学習計画を示していない理由として、子供たちが主体になって学びを作り上げていくことを重視しているためと捉えることができる。

3-10 ICT の活用実態

3-10-1 活用している ICT 機器

アンケート(23) ICT を活用した支援について、御活用している ICT 機器をお選びください。（複数回答可）
(N=139)

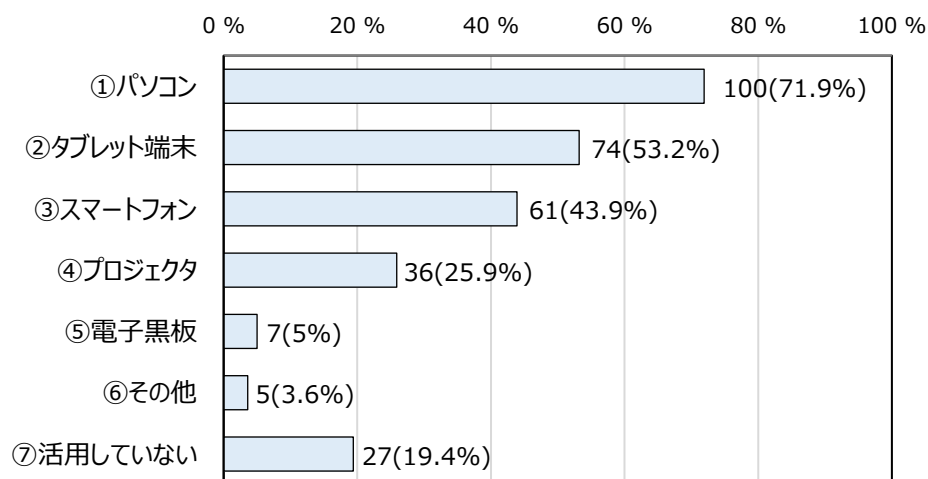


図 3-10-1 活用している ICT 機器

（「その他」の主な回答）

ゲーム機、動画編集機器等

- ・ ICT 機器としてパソコンが 71.9%、タブレット端末が 53.2%活用されていた。

3-10-2 ICT 機器の費用負担者

アンケート(24) ICT を活用した支援について、ICT 機器の費用負担者をお選びください。(N=139)

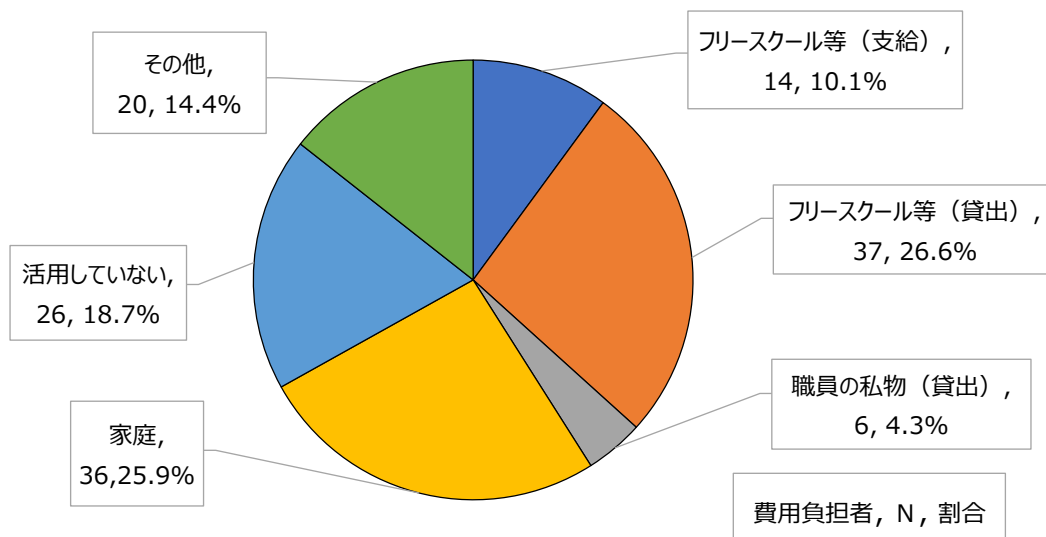


図 3-10-2 ICT 機器の費用負担者

(「その他」の主な回答)

スタッフの私物、施設と家庭の双方、提携校、地域からの貸し出し等

- ・費用負担は施設からが 41.0%（フリースクール等（支給）10.1%、フリースクール等（貸し出し）26.6%、職員の私物 4.3%）、家庭が 25.9%であった。

3-10-3 ICT 活用の目的・用途

アンケート(25) ICT を活用した支援について、ICT 活用の目的・用途をお選びください。(複数回答可)
(N=139)

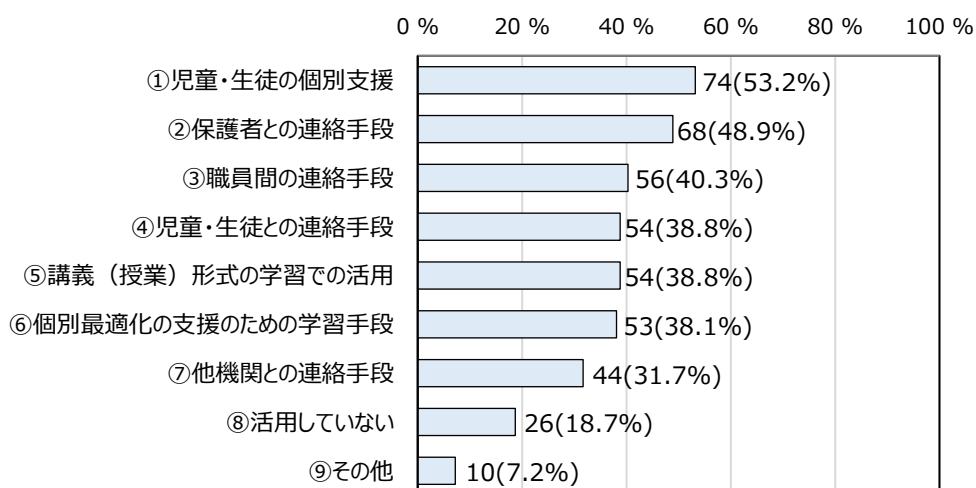


図 3-10-3 ICT 活用の目的・用途

(「その他」の主な回答)

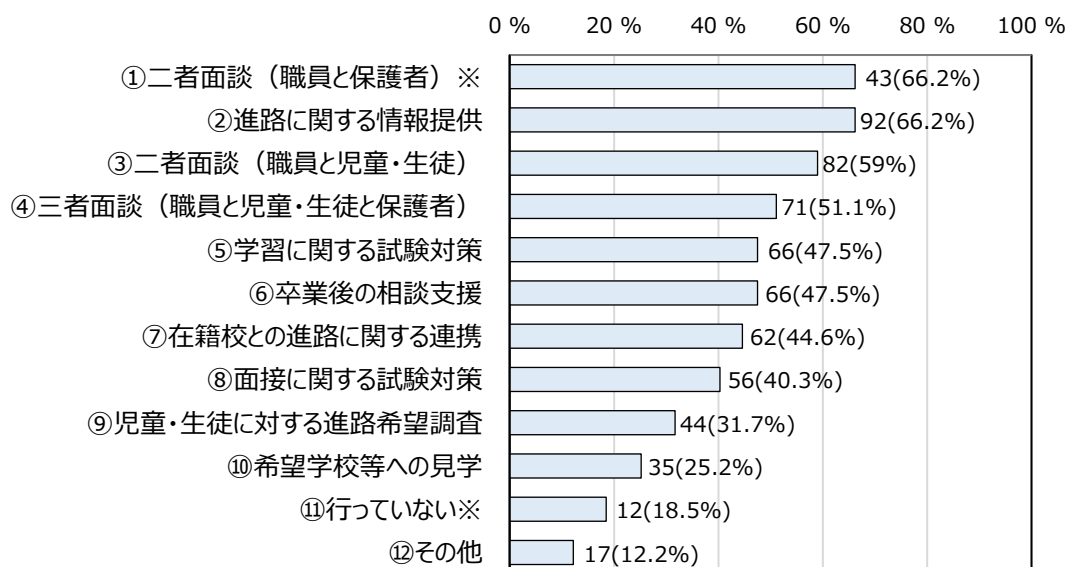
全国の他の教室とのハイブリット授業での活用、活動上必要なことを調べるため、フリースペース内での活用等

- ・ICT 活用の目的は、児童・生徒の個別支援が 53.2%、保護者との連絡手段が 48.9%、職員間との連絡手段が 40.3%であった。

3-11 進路

3-11-1 進路に関する支援

アンケート(26) 進路に関する支援として行っていることをお選びください。(複数回答可) (N=139)



※ ①、⑪は、R5に追加した設問であるため、R5年度のみの結果となっている

※ ⑤は、中・高受験、英語検定、漢字検定等

図 3-11-1 進路支援

(「その他」の主な回答)

二者面談（職員と保護者）、保護者向けの説明会、申し出があった際に個別対応、学校見学、進路指導は行っていない等

インタビュー(7) 進路の支援において、特に効果的であると考えられる取組とその効果についてお教えてください。

【効果的であると考えられる取組】

最も多かった取組は「面談」であった。次いで「情報の発信・提供」、「受験対策・学習支援」、「提携校との連携」、「サポート校の紹介」、「進路説明会・相談会」といった回答があった。取り組む過程において「子供の考え（意思）を尊重する」、「保護者も交えて考える」、「在籍校と連携する」、「卒業生との座談会」との回答があった。一方で、進路に関する支援を進学支援に限定せずに「将来を見通す支援」、「生涯にわたる自立に向けた支援」と捉えて、「職業の紹介」、個人の「興味・関心を伸ばすための支援」を実施しているとの回答も複数あった。

なお、進路の支援については「積極的に行っていない」との回答も複数あった。

【見られた効果】

「面談」による児童・生徒の変化として、最も挙げられたのは「目標を見据えることができるようになる」であった。それに伴い、「自分のことを把握できるようになった」、「生活面が改善し、学習への意欲が向上した」、「将来の選択肢が増えた」、「自分の考えを発信できるようになった」、「保護者の意識が変化した」、「復学への意識が高まった」等の変容も見られるとの回答があった。「情報の発信・提供」では、保護者について「進路に対する保護者の理解が深まる」、「保護者の不安感の軽減につながっている」等、児童・生徒について「選択肢の幅が増えた」、「学習の意欲が向上した」等の回答があった。「受験対策・学習支援」では、「キャリアの途上という意識が芽生える」、「主体的になる」、「アイデンティティがはっきりする」、「他の児童・生徒との交流が生まれる」、「進路について意識が向上する」等の回答があった。

＜まとめ＞

- ・ アンケート結果より、進路支援の主な内容は面談（二者面談（保護者とスタッフ）66.2%、二者面談（児童・生徒とスタッフ）59.0%、三者面談 51.1%）と情報提供（66.2%）であると言える。
- ・ インタビュー調査の結果より、進路支援が将来の目標を見据えることにつながっていることが分かる。特に面談により、本人の意向と丁寧に向き合うことが効果的であることが示された。また、進路に関しては保護者の不安も大きいことから、情報提供等による保護者への支援も重要であると考えられる。

3-11-2 進路の内訳

3-11-2-1 フリースクール等退所後

アンケート(27) フリースクール等退所後の所属先として多いものを、多い順に3つお選びください。(N=139)

表 3-11-1 フリースクール等退所後の所属先 順位別の施設数

区分	1 位	2 位	3 位	得点※
ア. 在籍校	67	19	13	252
イ. 在籍校以外の公立小・中学校	2	20	11	57
ウ. 在籍校以外の私立小・中学校	9	11	12	61
エ. 他のフリースクール等	3	18	16	61
オ. 教育支援センター	2	4	5	19
カ. 不登校特例校	3	3	2	17
キ. 特別支援学校	0	2	3	7
ク. 中学校夜間学級	0	0	0	0
ケ. 把握していない	2	4	5	19
コ. 該当する児童・生徒がいない	20	23	32	138
サ. その他	31	35	40	203
計	139	139	139	

※施設数に対して1位に3点、2位に2点、3位に1点を与え、得点化した

（「その他」の主な回答）

ほぼ全ての生徒が中等部を卒業するまで在籍する、所属先なし（家での引きこもり等）、複数の選択肢を利用、把握していない等

3-11-2-2 小学校卒業後の所属

アンケート(28) 小学校卒業後の所属先（主な活動場所）として多いものを、多い順に3つお選びください。
(N=139)

表 3-11-2 小学校卒業後の所属先（主な活動場所） 順位別の施設数

区分	1 位	2 位	3 位	得点※
ア. 在籍校の地域の公立中学校	34	33	12	180
イ. 在籍校の地域以外の公立中学校	2	5	10	26
ウ. 私立中学校	8	10	15	59
エ. 現在通っているフリースクール等	45	22	6	185
オ. それ以外のフリースクール等	2	3	13	25
カ. 教育支援センター	1	2	5	12
キ. 不登校特例校	1	3	1	10
ク. 特別支援学校	0	1	2	4
ケ. 中学校夜間学級	0	1	0	2
コ. 把握していない	3	4	4	21
サ. 該当する児童・生徒がいない	20	26	35	141
シ. その他	23	29	36	163
計	139	139	139	

※施設数に対して1位に3点、2位に2点、3位に1点を与え、得点化した

(「その他」の主な回答)

所属先なし（家での引きこもり等）、オルタナティブスクール、把握していない等

3-11-2-3 小学校卒業後の所属（主な活動場所以外）

アンケート(29) 小学校卒業後に2つ以上の施設に所属する児童・生徒について、上記の質問で御回答いただいた主な活動場所以外の所属先（例：主な活動場所ではない在籍校・主な活動場所のアシストとして通う施設等）として多いものを、多い順に3つお教えてください。(N=139)

表 3-11-3 小学校卒業後の所属先（2つ以上所属している場合の主な活動場所以外） 順位別の施設数

区分	1 位	2 位	3 位	得点※
ア. 在籍校の地域の公立中学校	21	18	10	109
イ. 在籍校の地域以外の公立中学校	2	8	5	27
ウ. 私立中学校	2	3	9	21
エ. 現在通っているフリースクール等	30	14	4	122
オ. それ以外のフリースクール等	1	4	7	18
カ. 教育支援センター	4	5	3	25
キ. 不登校特例校	0	0	3	3
ク. 特別支援学校	0	0	1	1
ケ. 中学校夜間学級	0	0	0	0
コ. 把握していない	8	7	8	46
サ. 該当する児童・生徒がいない	52	60	68	344
シ. その他	19	20	21	118
計	139	139	139	

※施設数に対して1位に3点、2位に2点、3位に1点を与え、得点化した

(「その他」の主な回答)

学習塾、各種習い事(ピアノ、ダンスなど)、把握していない等

3-11-2-4 中学校卒業後の進路

アンケート(30) 中学校卒業後の進路先として多いものを、多い順に3つお選びください。(N=139)

表 3-11-4 中学校卒業後の所属先 順位別の施設数

区分	1 位	2 位	3 位	得点※
ア. 公立高校（全日制）	8	9	17	59
イ. 公立高校（通信制）	3	8	6	31
ウ. 公立高校（定時制）	10	13	7	63
エ. 私立高校（全日制）	6	13	18	62
オ. 私立高校（通信制）	43	26	4	185
カ. 私立高校（定時制）	1	2	1	8
キ. 高等専門学校	0	0	3	3
ク. 高等専修学校	0	0	0	0
ケ. 技能連携校	1	1	1	6
コ. 現在通っているフリースクール等	16	7	12	74
サ. それ以外のフリースクール等	0	2	2	6
シ. サポート校	12	8	7	59
ス. 特別支援学校	0	1	3	5
セ. 就職	0	0	1	1
ソ. 把握していない	2	2	4	14
タ. 該当する生徒がいない	19	24	27	132
チ. その他	18	23	26	126
計	139	139	139	

※施設数に対して1位に3点、2位に2点、3位に1点を与え、得点化した

（「その他」の主な回答）

海外の学校への進学、把握していない等

<まとめ>

- ・ フリースクール等の退所後の所属先は、在籍校（252 点）が最も多かった。退所の理由として復学が最も多いと言える。
- ・ 小学校卒業後の主な活動場所としての所属先は、在籍中のフリースクール等（185 点）、在籍校の地域の公立中学校（180 点）が多く見られた。フリースクール等にそのまま通い続けるが最も多いが、進学のタイミングで地域の公立中学校に通う生徒もいることが分かる。
- ・ 小学校卒業後に複数の施設に所属する場合、主な活動場所以外の所属先は、在籍中のフリースクール等（122 点）と在籍校の地域の公立中学校（109 点）が多く、教育支援センター、在籍校の地域以外の公立中学校や私立中学校、新規のフリースクール等も数件見られた。
- ・ 中学校卒業後の進路先は、「私立高校（通信制）」（185 点）が最も多く、「公立高校（全日制）」、「公立高校（通信制）」、「公立高校（定時制）」、「私立高校（全日制）」、「フリースクール」、「サポート校」の回答も見られた。

3-12 在籍校・在籍校以外との連携

アンケート(31) 連携している・関わりのある機関等について、それぞれ連携頻度をお選びください。(令和5年度のみ) (N=65)

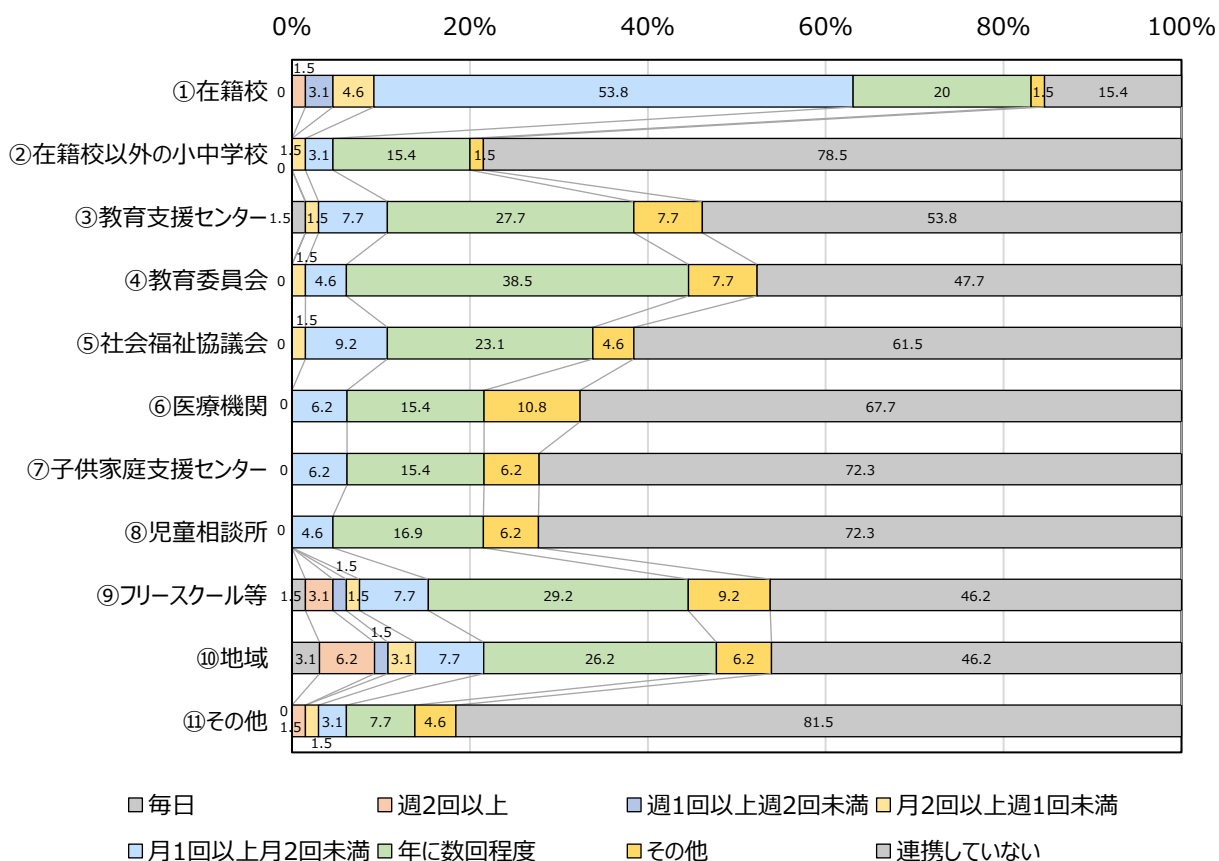


図 3-12-1 在籍校・在籍校以外との連携

<参考：令和4年度>

※ 令和4年度は、「児童・生徒の直接的な支援を目的とした連携」と「他機関との交流を目的とした連携」とに分けて質問を設けたが、支援と交流の区別が難しいため、令和5年度は、「連携・関わり」と統合して質問をした。

(a) 児童・生徒の直接的な支援を目的とした連携頻度

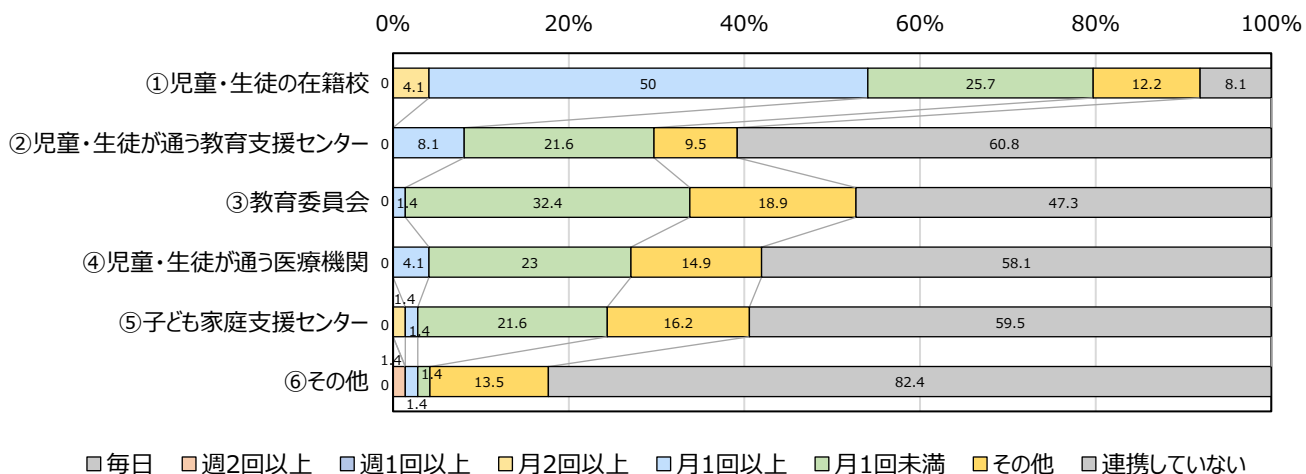


図 3-12-1(a) 児童・生徒の直接的な支援を目的とした連携頻度

(b) 他機関との交流を目的とした連携頻度

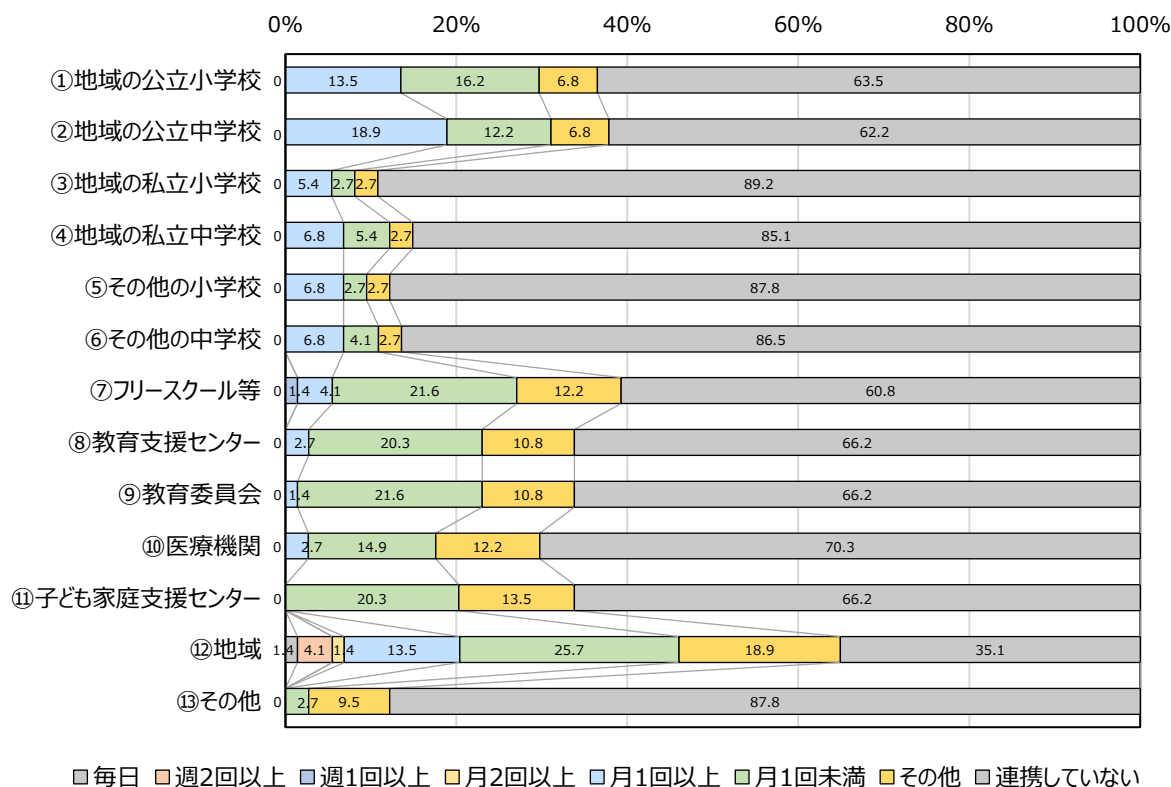


図 3-12-1(b) 他機関との交流を目的とした連携頻度

インタビュー(8) 在籍校との具体的な連携内容と連携における要望をお教えてください。

【具体的な連携内容】

連携の主な内容としては、在籍校への「出席日数の報告」、「出席日数と活動内容の報告」であった。連携の方法は、フリースクール等から学校に直接連絡する場合とフリースクール等が保護者に資料を渡して保護者が学校に提出する場合がある。連携の頻度は、月に1回が最も多かった。フリースクール等への通所が決まった段階で在籍校へ連絡をしている施設もあった。

出席日数と活動内容以外の連携内容としては、「子供に関する情報の共有および対応の検討」、「在籍校の管理職や担任の訪問」、「在籍校へのあいさつ」、「在籍校への登校の仕方の検討」、「スクールカウンセラーとの連携」、「スクールソーシャルワーカーとの連携」、「ケース会議」、「担任と本人・保護者との橋渡し」等との回答があった。

また、フリースクール等側としては、在籍校の管理職（校長や副校長、教頭）との関わりがある場合、連携が取りやすい、あるいはうまくいっていると感じているようだった。さらに、校長会等でフリースクール等の存在を紹介してもらうことで、地域の学校への浸透が早いと感じているフリースクール等もあった。

なお、児童・生徒の在籍校と連携していないと回答したフリースクール等は、あくまでも回答時点の状況であり、学校や保護者と連携する準備はあるとのことであった。

【連携における要望】

最も多かった回答は、「自治体・学校ごとに対応が異なるので一本化してほしい」であった。特に、自治体・学校において前例があるか否かという点で対応が異なるという回答が複数あった。限られたスタッフで対応しているので、連携するための業務が多すぎるとの回答もあった。

その他には、「もっときめ細やかに連携を取りたい」、「先生方が忙し過ぎて連絡がとれないので改善してほしい」、「フリ

ースクールが何をしているのか知らない先生もいるので、学校との相互理解を深めたい」、「在籍校とフリースクールの連携体制を専門家（スクールソーシャルワーカー等）が入る形で構築していきたい」、「在籍校との情報共有方法をオンライン化してほしい」、「ケース会議の開催頻度を多くしてほしい」、「個人情報の観点からスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携がしたくともできない」、「家庭への支援をする上でもう少し在籍校と連携したい」等の回答があった。「学校の年間スケジュールやお便りの送付」は、学校へのイメージづくりや子供たちの方を押すヒントになったとの指摘もあった。また、「学校からフリースクールの情報を渡されることで学校から見放されたと思う児童・生徒もいるだろうから、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとも連携が大事だと思う」との意見もあった。

フリースクール等の今後の取組として「不登校の状態になる前の行き渋りが見られた段階でフリースクール等にアクセスし、引きこもりにならないように学校との連携を模索したい」と回答した施設も複数あった。

「今のままでよい」との回答もあり、理由として「すでに良好な関係を築いているので維持していきたい」、「学校との距離をある程度とった状況での運営をしたい」等が挙げられた。学校と児童・生徒の関わりについては状況に応じて要望が異なると言える。

＜まとめ＞

- ・ 児童・生徒の在籍校と連携している施設は84.6%で、平均して月1回以上2回未満の頻度での連携が53.8%と最も多い。
- ・ 連携の内容は主に出席日数と活動内容の報告であった。在籍校の教員がフリースクール等を訪問したり、フリースクール等のスタッフが在籍校を訪問したりするという交流もある。連携を行っていくに当たり、フリースクール等と管理職の関わりも重要であると言える。
- ・ 連携における要望としては自治体・学校ごとに対応が異なるので一本化してほしいという現状の体制の改善への要望が最も多かった。その他の要望は施設によって異なっていることが多いため画一的な対応は難しく、学校は状況に応じた対応が求められていると言える。

インタビュー（9） 在籍校以外との具体的な連携先や連携内容と連携における要望をお教えてください。

【具体的な連携先や連携内容】

連携先として多く挙げられたのは、「教育委員会」、「医療機関」、「教育支援センター」、「子ども家庭支援センター」、「児童相談所」、「社会福祉協議会」、「他のフリースクール」、「地域」であった。連携の内容としては、「教育委員会」とは、東京都教育委員会主催のフリースクール等協議会等の会議への出席が多く挙げられた。

その他の連携先は多岐にわたっており、「スクールカウンセラー」、「スクールソーシャルワーカー」、「警察」、「就職支援センター」、「企業」、「地元の大学生」、「ボランティアセンター」、「フリースクール全国ネットワーク」、「児童養護施設」、「NPO 団体」、「子ども食堂」、「市役所」、「市議・都議」、「地域の小中学校」、「放課後等デイサービス」、「大学」等の回答があった。

連携の内容としては、地域イベントへの参加が最も多く（企業主催のイベントも含む）、イベント以外にも花壇の手入れや公園の清掃、ゴミ拾い等の日々の地域の活動への参加との回答があった。また、ボランティアの受け入れを積極的に行うことによって人との交流を図っているという回答もあった。行政の視察を受け入れることによって相互理解を図っている施設もあった。その他には、地域の方に向けた研修会・講演会、ピアサポート活動、施設の開放（オープンコミュニティという位置付け）、虐待や貧困への対応との回答があった。

【連携における要望】

自治体との連携については「自治体によって対応が異なる」、「そもそもどこに相談したらよいかわからない」、「担当者が変わると対応が変わってしまう」、「教育支援センターの機能の外注先として検討してほしい」との回答があった。

児童・生徒とその家庭に不登校支援に関する情報が行きわたっていないと感じている施設もあり、行政等と連携することで「情報を必要としている家庭に情報が届くようにしてほしい」との回答があった。フリースクール等がつながりをもつことで「児童・生徒の情報を共有することで適切な支援につなげたい」、「ミスマッチがあった場合に支援が途切れないようにしたい」等との意見がある一方で、「連携を取りたいものの個人情報等の観点から横のつながりを作るのが難しい」という回答が複数あった。行政が中心になって「フリースクール説明会のようなものを開催してほしい」との要望もあった。また、「フリースクール同士のつながりを作りたいが理念等の点からうまくいかない」、「横のつながりの作り方が分からない」といった回答もあった。

その他として、「フリースクールは学習支援のみの場ではないことを様々な方に理解してほしい」、「発達特性について誤解している方も多いので理解を深めてほしい」、「不登校になった児童・生徒が、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとつながれていないと感じる」、「個人によって状況が異なり、復学だけが最終的な目的でないことを理解してほしい」等との回答があった。

<まとめ>

- ・ 在籍校以外の連携先として、「他のフリースクール等」が 53.8%、「地域」が 53.8%、「教育委員会」が 52.3%、「教育支援センター」が 46.2%、「社会福祉協議会」が 38.5%、「医療機関」が 32.3%、「こども家庭支援センター」が 27.7%、「児童相談所」が 27.7%であった。
- ・ 地域とのつながりについては、地域のイベントや日々の活動への参加という連携を行っている施設が複数あった。
- ・ 行政に対して、フリースクール等の横の連携に向けた体制づくりの構築や自治体による対応の違いを改善してほしいという要望があった。

3-13 アウトリーチ支援

アンケート（32）アウトリーチ支援（在籍しているものの家庭等において支援が行き届いていない児童・生徒に対する、訪問支援や ICT 機器や SNS を活用した支援）を行っていますか。※令和 5 年度のみ（N=65）

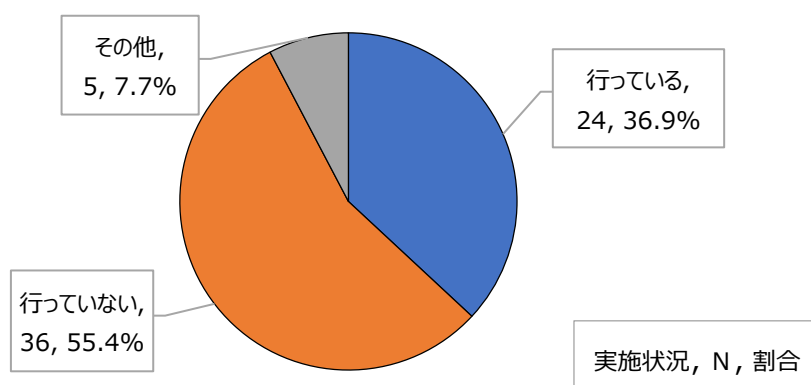


図 3-13 アウトリーチ支援の有無

<参考：令和 4 年度の結果>

※ 令和 4 年度アウトリーチ支援と児童・生徒の支援を目的としていない保護者への連絡等が混同した回答が多数見られたため、令和 5 年度調査では質問の仕方を変更した

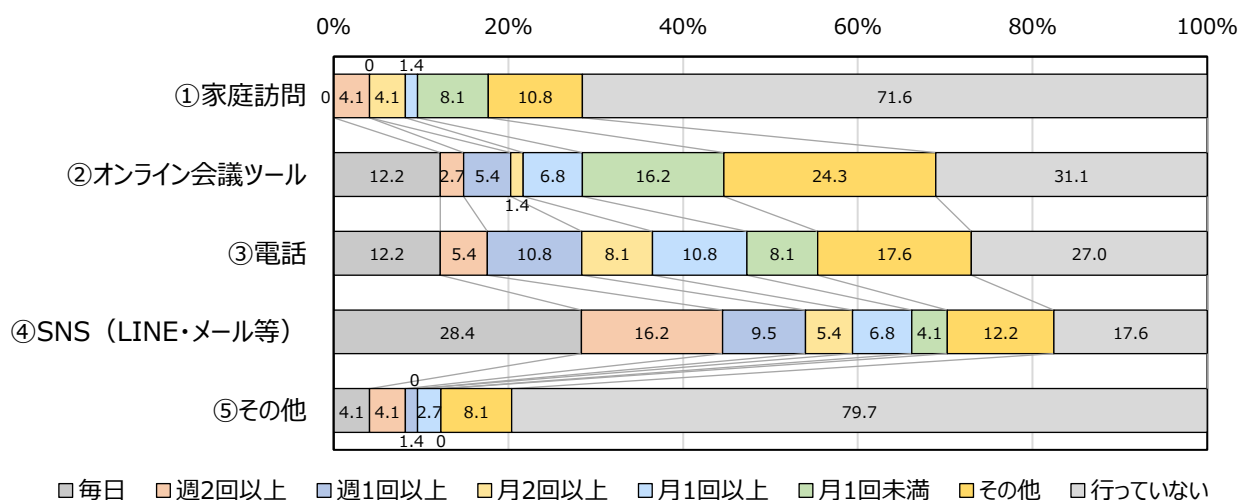


図 3-13(a) アウトリーチ支援の頻度

インタビュー（10）アウトリーチ支援について具体的にどのような支援をしているか教えてください。

最も多かった回答は「SNS」、次いで「家庭訪問」、「オンライン面談」であった。SNS は支援ツールとして身近なものであると言える。アウトリーチ支援を行うに当たり、「福祉と教育の境目が難しくどこまで介入したらよいか分からない」との意見もあった。

<まとめ>

- ・ アウトリーチ支援を行っている施設は 38%であり、支援の方法として SNS が最も多かった。

3-14 保護者との情報共有

インタビュー（11）児童・生徒が実際に行った日々の活動の様子について保護者の方との共有は行っていますか。※令和5年度のみ（N=65）

「行っている」が 48 施設、「行っていない」が 6 施設であった（諸事情により、10 施設は質問していない）。共有の方法は、「SNS（LINE 等）」が最も多く、次いで「面談」、「メール」、「施設通信（お便り）」であった。送り迎えの際に当日の様子を報告する場合もある。共有の内容としては、出席状況、活動内容等、指導計画、本人との面談の内容等であった。「SNS（LINE 等）」が多く活用されており、施設によっては日常的に情報発信や保護者とのコミュニケーションを取っていた。

3-15 成果報告

アンケート（33）フリースクール等での取組について、成果や課題の確認（データとして蓄積している／する予定のもの）は行っていますか。（複数選択可）※令和5年度のみ（N=65）

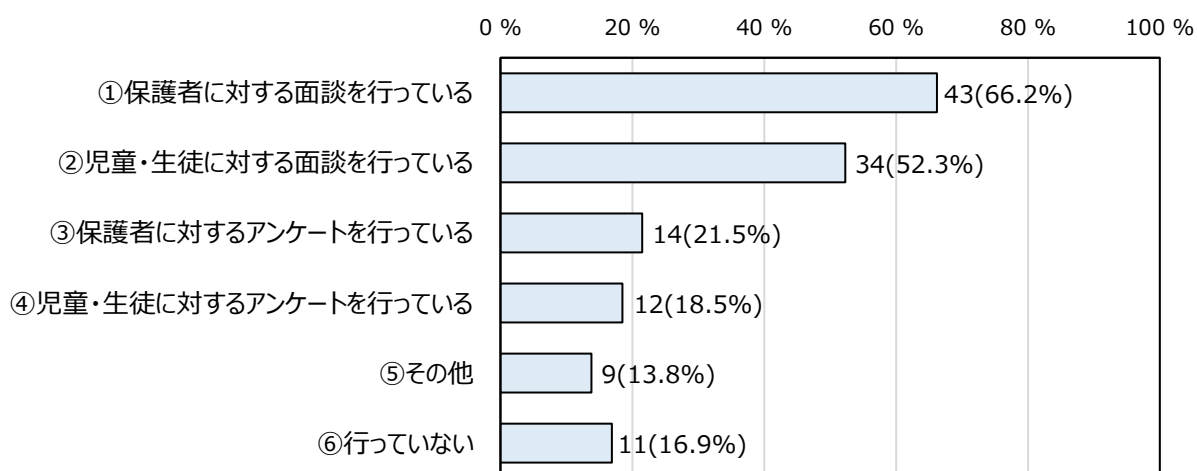


図 3-15 成果・課題の確認の方法

インタビュー（12）フリースクール等の取組についての成果や課題について教えてください。

成果や課題を把握するためにアンケート調査を実施している施設は、運営改善に生かしているとの回答だった。アンケートでは日常行動に関する内容や学びに関する尺度を使用し、児童・生徒の実態を捉えている施設もあった。多くの施設では活動の記録として、面談結果やアンケート結果を活用しており、「フリースクールにおける課題や成果が何かというのは答えるのが難しい」との回答があった。

3-16 運営する上での課題

インタビュー（13）在籍している児童・生徒の保護者の方や問い合わせのある保護者の方の経済状況と、フリースクール等の運営や今後の方針との関係性について、感じることやお考えがありましたらお聞かせください。※令和5年度のみ

「各家庭の経済状況について積極的に把握していないので確実なことは言えない」との前提で多くの施設に御回答いただいた。最も多かった回答は、「今回の調査協力金があって助かっている、という家庭が多いと思う」であった。「経済的な理由から通所日数に制限のある御家庭もあるので、学ぶ環境を得ることにつながっていると思う」等の回答も複数あった。「子供が不登校になった場合、親の就労形態が変更になったり退職したりする例もあり、家計の収入が減少するので経済的な負担が大きい」、「一人親家庭は特に厳しい」、「生活保護を受けている家庭もある」、「月謝とスタッフの賃金のバランスが難しい」、「スタッフはボランティアにお願いしているので持続可能な活動にはなっていない」等、家庭の経済状況と施設運営の厳しさを関連付けた回答があった。

家庭の経済状況の困窮状況をあまり感じないとした施設からは、「費用を公開で示しているので、支払いが厳しい御家庭はそもそもアクセスしてこない」、「費用がかかっていることが児童・生徒や御家庭にとっていい意味での緊張感になっているため、費用を下げた場合に現在の支援が維持できなくなる可能性がある」、「ある程度経済力のある御家庭が多い印象」といった回答もあった。

調査協力金に関連して「フリースクールの施設への支援も検討してほしい」という強い要望がある一方で、「仮にフリースクールの施設側が支援を受けるとなると設置条件や活動内容を問われることになると思うので、そうなると自由な活動ができなくなる可能性がある。現状のまま御家庭への支援を続けてほしい」といった意見も複数あった。

インタビュー(14) 運営・支援や活動上の課題等があれば教えてください。

資金面、活動場所の確保に対する回答が多かったのは、＜資金面＞、＜活動場所＞、＜その他＞に分けて、以下に示す。

＜資金面＞

「フリースクールの事業はビジネスとして成立していないため、運営に苦心している」等、資金繰りの厳しさを回答する施設が非常に多かった。資金面の厳しさは「資金が足りないため、スタッフをボランティアに頼らざるを得ない」、「学生アルバイトをお願いしているが安定的に求人が埋まるわけではない」、「スタッフの研修が十分に行えていない」、「スタッフの質を維持することが難しい」等、人材確保の難しさとも関わっている。専門的な支援が必要な（発達に特性のある）児童・生徒を受け入れている施設は、スタッフ不足が深刻であった。さらに、「ICT 機器を充実させたいが現状では難しい」等の設備面や、「資金面が改善すればもっと様々な支援ができるようになる」等の活動内容にも影響を及ぼしているとの回答があった。安定的な運営の見通しがもてないことへの不安の声も聞かれた。

＜活動場所・設備＞

固定の活動場所が確保できていない場合、「安定した活動を続けていく見通しが立ちづらい」という回答があった（御厚意で場所を無償あるいは相場より安く提供してもらっている・自治体の施設を利用している等の場合、今後の活動場所の確保が約束されていない）。また、「子供たちの特性上、広いスペースが欲しい（音の過敏さを持っていたり、不安感が強かったりする場合、狭い場所で大人数で過ごすのが難しい）」、「子供たちがのびのびと活動できる設備が足りない（大きなグラウンドや体育館、調理場、実験器具やその他用具など）」といった回答もあった。一方で、学校との連携がスムーズに行われている施設では近隣の学校から物品や施設を借りている例もあった。また、「子供たちが自力で通える立地といった条件下での固定費を抑えた活動場所の確保に苦心している」という回答もあった。

他には、拠点以外の場所を使用することができたとしても、移動の際の安全性等を考えたときに新たに人員が必要になるので、「活動場所の拡大はスタッフの増員とセットである」、「保険をかけていないので外には連れていけない」等の課題も示された。

＜その他＞

- ・ フリースクール等の情報に関する周知：不登校の児童・生徒とその家庭に支援に関する情報の周知方法は、「行政と連携して模索していきたい」、「スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連携したい」という意見があった。また、「個人活動が中心であったり、集団での活動が中心であったり施設によって全く異なるため、通所希望者とのミスマッチを防ぎたい」、「勇気を出してフリースクールに来たものの方針に合わず入所に至らなかったときの利用希望者の落胆が大きい」といった声も聞かれ、情報提供が重要であると言える。
- ・ フリースクール等の特性：フリースクール等は 1 施設の規模が小さいため、「1 施設で全てに対応できるわけではなくやれることは限られている」ということを広く一般に理解してほしいという回答があった。施設によっては「学校の役割の一部をフリースクールが担う形で連携したい」、「教育支援センターを外注という形で引き受けたい」といった提案もあった。
- ・ 低年齢層への対応：近年、増えている小学校低学年の受け入れに関する問い合わせへの対応（受け入れ学年の低年齢化）について、中学生を対象としている施設からは「ノウハウがなく、事業拡大には躊躇している」といった回答があった。
- ・ 外国籍等による日本語困難者、困窮家庭への対応：外国籍等による日本語困難者への対応として、「現状の運営体制では受け入れる余裕がない」との回答があった。「困窮家庭も含めて、教育支援センター等の公的な機関にリードしてほしい」との回答もあった。
- ・ フリースクール等に通った場合のキャリアプラン：フリースクール等に通った場合のキャリアプランについて、特に保護者

が不安に思うことが多い。「進学、就職についての見通しを示せるようにしていきたい」との回答があった。

- ・ その他の少数回答として、人材の確保について「理念を共有できる人材を確保することやフリースクールのことを理解した上で従事する人材の育成について苦心している」、活動内容に関して「学習面の保障」、「成果物が見える授業の展開」、「保険適応の範囲による活動内容の制限」等、フリースクール等の在り方として「貧困層を受け入れることが難しい」、「フリースクールの存在意義（何をすべき場所なのか）」、「通所者が減るとフリースクールが存続できない」、「円滑な学校復帰の捉え方」、等、今後の運営と関連して「不登校支援の普及活動」、「家から出られない子供への支援」、「子供や保護者のニーズを捉え続けること」、「保護者の経済的負担への対応」等が挙げられた。

＜まとめ＞

- ・ 様々な課題が示されたが、多くが資金の調達と関連する課題であり、安定的な運営に向けて資金面は課題であると言える。

3-17 その他

インタビュー調査において、質問項目以外でフリースクール等側から出された意見等より「フリースクール等の役割意識」について以下に示す。

（１）在籍校と児童・生徒、保護者の関係性の維持

児童・生徒、保護者と在籍校の関係性が良好な場合には、児童・生徒、保護者と在籍校のつながりを保つために、出席連絡等を施設から在籍校へ直接連絡するのではなく、保護者や子供を通じて学校に渡すという例があった。

（２）保護者への支援

フリースクール等に入所する段階で保護者（多くの場合、母親）がいろいろなことを抱え込んでおり、家庭の状況がよくないこともある。したがって、保護者にも寄り添い、信頼関係を築くことを大切にしている施設もあった。多くの施設では、保護者の変化は子供により影響を与えると感じていた。また、在籍校の三者面談への同席や、在籍校での教科書の受け取り等を保護者の代わりに行うといった形での支援も行われていた。

第4章 施設一覧

令和4年度、令和5年度に本事業に御協力いただいた施設は以下の193施設（ただし、1施設は運営の都合上掲載していない）である。以下に施設名の一覧と施設概要を示す。

※ 本資料に記載しているフリースクール等の施設名は、フリースクール等の担当者に確認をした名称を使用している。

※ 「4-2 施設の概要」は、公表の同意をいただいた139施設を示す。

4-1 施設名と所在地

No.	施設名（アルファベット順、五十音順）	R 4	R 5	概 要	所在地
1	Allight Educational Consulting		○		新宿区
2	amazing college		○	○	埼玉県東松山市
3	AOi スクール		○	○	神奈川県藤沢市
4	Branch room	○	○	○	渋谷区
5	DE-SCHOOL（ディースクール）	○	○	○	新宿区
6	GIFT School	○	○	○	渋谷区
7	Hope International Creative School		○	○	町田市
8	HSC 対応リベラルスクール		○	○	千葉県船橋市
9	LITALICO ワンダー		○	○	北区
10	NAZELAB		○	○	埼玉県秩父郡
11	NPO フリースクール僕んち	○	○	○	世田谷区
12	NPO 法人 Feelosopher's Path Japan	○	○		茨城県つくばみらい市
13	NPO 法人 Unippo		○	○	武蔵野市
14	NPO 法人 青梅の虹 any フリースクール Rainbow Room	○	○	○	青梅市
15	NPO 法人 オニバスの種	○	○	○	東久留米市
16	NPO 法人 興学社教育研究所 フリースクール 興学社		○	○	千葉県松戸市
17	NPO 法人 翔和学園	○	○	○	中野区
18	NPO 法人 青少年自立援助センター YCS グローバルスクール		○	○	福生市

No.	施設名（アルファベット順、五十音順）	R 4	R 5	概 要	所在地
19	NPO 法人 フリースクール鈴蘭学園	○	○	○	神奈川県相模原市
20	NPO 法人 フリースクール多摩川	○	○	○	府中市
21	NPO 法人 フリースペースロビンソン	○	○	○	青梅市
22	RE : VISION フリースクール		○	○	立川市
23	TAMA ユースセンター		○	○	府中市
24	TDC フリースクール	○	○	○	千葉県市川市
25	TOS 高等学院中等部フリースクール	○		○	神奈川県相模原市
26	YES インターナショナルスクール 東京校	○	○	○	渋谷区
27	YUME School 川崎ラチッタデッラ校		○	○	神奈川県川崎市
28	アソマナ学園		○	○	埼玉県さいたま市
29	アトラスインターナショナルスクール		○		品川区
30	アトリエのある てらこや →てらこや maple（令和 6 年 2 月時点）	○	○	○	世田谷区
31	イエナスクールゆめまる	○	○		八王子市
32	池袋アートフリースクール		○	○	豊島区
33	一般社団法人 Education for Orphans シオンクリスチャン国際学校		○	○	羽村市
34	一般社団法人 自在能力開発研究所スプラウツ	○	○	○	小金井市
35	一般社団法人 早期親子支援 GROW		○	○	小平市
36	一般社団法人 寺子屋いづみ フリースクールまる		○		世田谷区
37	一般社団法人 フリースクール IF ラボ	○	○	○	三鷹市
38	いもいも→いもいもデイスクール（令和 6 年 4 月時点）	○	○	○	新宿区
39	エノコログサ		○	○	あきる野市
40	エルムアカデミー	○	○	○	品川区
41	おおぞら高等学院 東京キャンパス	○			新宿区

No.	施設名（アルファベット順、五十音順）	R 4	R 5	概 要	所在地
42	おおぞらみらいスクール 立川キャンパス	○	○		立川市
43	おおぞらみらいスクール 東京秋葉原キャンパス	○	○		台東区
44	おおぞらみらいスクール 町田キャンパス	○	○		町田市
45	奥沢数学サロン		○	○	世田谷区
46	絵画教室アトリエ CHICORA		○	○	新宿区
47	カウンセリング研修センター学舎ブレイブ	○	○	○	小金井市
48	学習支援塾ビーンズ	○	○		新宿区
49	学研のサポート校 WILL 学園 高田馬場キャンパス	○	○	○	新宿区
50	学研のサポート校 WILL 学園 立川キャンパス	○	○	○	立川市
51	学研のサポート校 WILL 学園 横浜キャンパス		○	○	神奈川県横浜市
52	学校外の学び場「いろいろダネ」		○	○	埼玉県入間市
53	学校法人 角川ドワンゴ学園 N 中等部 秋葉原キャンパス	○	○	○	千代田区
54	学校法人 角川ドワンゴ学園 N 中等部 池袋キャンパス	○	○	○	豊島区
55	学校法人 角川ドワンゴ学園 N 中等部 新宿キャンパス	○	○	○	渋谷区
56	学校法人 角川ドワンゴ学園 N 中等部 町田キャンパス	○	○	○	町田市
57	学校法人 角川ドワンゴ学園 N 中等部 横浜キャンパス		○	○	神奈川県横浜市
58	学校法人三幸学園 飛鳥未来中等部・初等部 お茶の水教室	○	○	○	文京区
59	学校法人三幸学園 飛鳥未来中等部・初等部 立川教室	○	○	○	立川市
60	株式会社 Stars&Stripes English	○	○		府中市
61	カルバリーチャペル府中（Wegoeigo）	○		○	府中市
62	キズキ共育塾 秋葉原校		○		台東区
63	キズキ共育塾 池袋校		○		豊島区
64	キズキ共育塾 吉祥寺校	○	○		武蔵野市

No.	施設名（アルファベット順、五十音順）	R 4	R 5	概 要	所在地
65	キズキ共育塾 西新宿校		○		新宿区
66	キズキ共育塾 代々木校	○	○		渋谷区
67	きっずくらぶあすばる（フリースクールあすばる）		○	○	江東区
68	共育ステーション 地球の家		○	○	千葉県松戸市
69	くにきたベーす		○	○	国分寺市
70	国立音楽院（ピアセタがや学習センター）	○		○	世田谷区
71	くにたち はたけんぼ （特定非営利活動法人くにたち農園の会）		○	○	国立市
72	恵友学園	○	○	○	台東区
73	公益財団法人 こども教育支援財団 東京大志学園 柏校	○	○	○	千葉県柏市
74	公益財団法人 こども教育支援財団 東京大志学園 東京本校	○	○	○	新宿区
75	考学舎 青山教室		○	○	渋谷区
76	心と学びの支援センター ここま田無		○	○	西東京市
77	こちゃっこい		○	○	三鷹市
78	子どもたちのためのフリースペースそらいろのいえ		○	○	練馬区
79	こどもの未来探求学習（コトナハウス内）	○	○	○	国立市
80	個別支援学習塾・フリースクール ありんくりん		○	○	立川市
81	さくらんぼ教室 東陽町教室		○	○	江東区
82	サドベリースクール アルママ		○	○	荒川区
83	私塾 自学舎		○	○	八王子市
84	自然感覚体験保育・フリースクールにちにちのはら	○	○		埼玉県飯能市
85	社会福祉法人 上越市社会福祉協議会 自由の学び舎 やすづか学園	○	○	○	新潟県上越市
86	自由な学び場 HIRU-net	○		○	武蔵野市
87	シン・スクール	○	○	○	清瀬市

No.	施設名（アルファベット順、五十音順）	R 4	R 5	概 要	所在地
88	瑞祥学園	○	○	○	狛江市
89	星槎学園中等部 大宮校		○	○	埼玉県さいたま市
90	星槎学園北斗校	○	○	○	神奈川県横浜市
91	星槎ジュニアスクール PAL 立川	○	○	○	立川市
92	星槎中野サテライトキャンパス フェリーチェ高等学院 フェリーチェフリースクール		○	○	中野区
93	せいさフリースクールはちおうじ	○	○	○	八王子市
94	全国フリースクール 伊藤幸弘塾	○			神奈川県横浜市
95	ダーウィン学習塾		○	○	渋谷区
96	第一学院中等部 秋葉原キャンパス	○	○		千代田区
97	第一学院中等部 川越キャンパス		○	○	埼玉県川越市
98	第一学院中等部 立川キャンパス		○		立川市
99	滝野川高等学院	○	○	○	北区
100	タネノバのテラコヤ		○	○	神奈川県相模原市
101	探求フリースクール・マチラボ		○	○	町田市
102	小さなイエナスクール ゆに〜く	○	○		町田市
103	中央高等学院 吉祥寺本校	○	○		武蔵野市
104	中央高等学院 渋谷原宿校	○			渋谷区
105	つばさスクール 板橋校	○	○		板橋区
106	適応支援室「いぶお〜る」		○	○	町田市
107	適応指導・学習支援教室 まほろび吉祥寺	○	○		武蔵野市
108	適応指導・学習支援教室 まほろび人形町	○	○	○	中央区
109	デモクラティックスクール さくらんぼ学園	○			八王子市
110	東京 YMCA あっと Y 中学生の居場所＆学び場		○	○	新宿区

No.	施設名（アルファベット順、五十音順）	R 4	R 5	概 要	所在地
111	東京 y'sBe 学園		○	○	三鷹市
112	東京インターハイスクール	○	○	○	渋谷区
113	東京未来大学こどもみらい園	○	○	○	足立区
114	東京未来大学みらいフリースクール	○	○	○	足立区
115	特定非営利活動法人 ウイズアイ 不登校の子ども の居場所「みんなのおうち ゆいゆい」		○	○	清瀬市
116	特定非営利活動法人 東京コミュニティスクール	○		○	中野区
117	特定非営利活動法人 ならはらの森なかの学舎	○	○	○	八王子市
118	特定非営利活動法人 文化高等学院		○		東大和市
119	トライ式高等学院 飯田橋キャンパス		○		千代田区
120	トライ式高等学院・中等部 吉祥寺キャンパス		○		武蔵野市
121	トライ式中等部 池袋キャンパス		○		豊島区
122	トライ式中等部 大泉学園キャンパス		○		練馬区
123	トライ式中等部 錦糸町キャンパス	○	○		墨田区
124	トライ式中等部 国分寺キャンパス		○		国分寺市
125	トライ式中等部 渋谷キャンパス	○	○		渋谷区
126	トライ式中等部 立川キャンパス		○		立川市
127	トライ式中等部 八王子キャンパス	○			八王子市
128	トライ式中等部 府中キャンパス		○		府中市
129	トライ式中等部 町田キャンパス		○		町田市
130	なゆたふらっと		○	○	練馬区
131	にしおぎ学院		○	○	杉並区
132	認定 NPO 法人 Learning for All	○	○		葛飾区
133	認定 NPO 法人 工芸技能研究所 フリースクール工芸技能学院		○	○	日野市

No.	施設名（アルファベット順、五十音順）	R 4	R 5	概 要	所在地
134	認定 NPO 法人 高卒支援会		○	○	千代田区
135	野川のえんがわ こまち	○	○	○	狛江市
136	のびーくフリースクール	○	○	○	練馬区
137	発達相談支援センター CORONOA orange	○	○		多摩市
138	花まるエレメンタリースクール	○	○		武蔵野市
139	原宿 AIA 高等学院		○	○	渋谷区
140	ビリーバーズ広尾	○	○	○	港区
141	昼間の塾フレップ	○	○	○	八王子市
142	ヒロック初等部	○	○		世田谷区
143	ヒロック初等部 代々木校		○	○	渋谷区
144	ふくろうの部屋	○	○	○	文京区
145	不登校の子どもたちの居場所『いまごち』		○	○	立川市
146	フリースクール ito-いと-		○	○	中野区
147	フリースクール Luana		○	○	西東京市
148	フリースクール PIT 恵比寿校		○	○	渋谷区
149	フリースクール T&M	○	○	○	神奈川県平塚市
150	フリースクール@なります		○	○	板橋区
151	フリースクール鹿の子クラブ多摩センターキャンパス		○	○	多摩市
152	フリースクールグレス		○	○	昭島市
153	フリースクール元気学園	○	○	○	静岡県静岡市
154	フリースクールゴーシュ	○		○	東村山市
155	フリースクールだーちゃ	○	○	○	豊島区
156	フリースクール太陽の学園		○	○	神奈川県相模原市

No.	施設名（アルファベット順、五十音順）	R 4	R 5	概 要	所在地
157	フリースクール寺子屋のびの〜び		○	○	日野市
158	フリースクール東京シュレ王子	○	○		北区
159	フリースクール東京シュレ大田	○	○		大田区
160	フリースクール東京シュレ新宿	○	○		新宿区
161	フリースクール東京シュレ流山	○	○		千葉県流山市
162	フリースクールネモ市川	○		○	千葉縣市川市
163	フリースクール育海（はぐみ）	○	○	○	岡山県笠岡市
164	フリースクールはっちゃく	○		○	町田市
165	フリースクール「フェルマータ」	○		○	中野区
166	フリースクール・プラス	○			豊島区
167	フリースクールゆうがく	○	○	○	渋谷区
168	フリースクールゆずらぼ	○	○	○	墨田区
169	フリースペース Aoba	○	○	○	荒川区
170	フリースペース KOPPIE	○			狛江市
171	フリースペースコスモ （NPO 法人 文化学習協同ネットワーク）	○	○	○	三鷹市
172	フリースペースしんじゅく		○	○	新宿区
173	フリースペース「たけのこ」	○	○		日野市
174	フリースペースゆりの木		○	○	八王子市
175	フレネ自由教育 フリースクールジャパンフレネ	○	○	○	豊島区
176	松実高等学園 中等部	○		○	埼玉県春日部市
177	学び舎トーカ 用賀中町キャンパス		○	○	世田谷区
178	未来学園 HOPE フリースクール	○	○	○	新宿区
179	みらいゲート秋葉原		○	○	千代田区

No.	施設名（アルファベット順、五十音順）	R 4	R 5	概 要	所在地
180	無料フリースクール 自由な学び場 SOU！→フリースクール 自由な学び場 SOU！（令和6年4月時点）	○	○	○	町田市
181	明蓬館高等学校東京・国立 SNEC	○	○	○	国立市
182	明蓬館中等部 品川・御殿山		○		品川区
183	もうひとつの居場所 第2の学校「ももの木」		○	○	日野市
184	八洲学園中等部 池袋キャンパス	○	○		豊島区
185	八洲学園中等部 新宿キャンパス	○	○		新宿区
186	八洲学園中等部 町田分室		○	○	町田市
187	楽ちん堂（Studio Gorron）	○	○	○	世田谷区
188	ルネ中等部 池袋校		○	○	豊島区
189	ルネ中等部 新宿代々木キャンパス	○	○	○	渋谷区
190	レインボープラス 要町教室		○	○	板橋区
191	ワイズアカデミー 品川キャンパス	○			品川区
192	早稲田自由スクール 柏校		○	○	千葉県柏市

4-2 施設の概要

No.	2	施設名	amazing college
住所	〒355-0014 埼玉県東松山市松本町 2-10-30		
連絡先	080-4767-4284	代表者	雙田 茂樹
URL	https://www.amazing-college.com/		
アクセス	東武東上線「東松山駅」より路線バス「鴻巣免許センター線 鴻巣駅西口行」にて5分（5駅）乗車、「百穴入口」バス停より徒歩4分（300m）		

No.	3	施設名	AOi スクール
住所	〒251-0871 神奈川県藤沢市善行 1-28-2 小田急マルシェ善行 2F		
連絡先	aoi.school@odakyu-dentetsu.co.jp	代表者	小田急電鉄株式会社 デジタル事業創造部 AOi スクール 別所 堯俊
URL	https://aoi-school-odakyu.hp.peraichi.com		
アクセス	小田急江ノ島線「善行駅」の改札を出て左手すぐ		

No.	4	施設名	Branch room
住所	〒150-0034 東京都渋谷区代官山町 9-10 Sodacco 2T02		
連絡先	090-2217-5293	代表者	中里 祐次
URL	https://branchkids.jp/		
アクセス	東急東横線「代官山駅」より徒歩7分／JR 山手線ほか「渋谷駅」より徒歩10分		

No.	5	施設名	DE-SCHOOL（ディースクール）
住所	〒162-0044 東京都新宿区喜久井町 20 西川ビル1F		
連絡先	050-3138-2845	代表者	藤井 準人
URL	https://de.gftd.school/		
アクセス	東京メトロ東西線「早稲田駅」より徒歩5分、都営大江戸線「牛込柳町駅」徒歩より7分		

No.	6	施設名	GIFT School
住所	〒107-0061 東京都渋谷区北青山 3-3-17		
連絡先	info@gift-ed.org	代表者	富田 直樹
URL	www.gift-ed.org		
アクセス	東京メトロ銀座線・千代田線・半蔵門線「表参道駅」より徒歩10分		

No.	7	施設名	Hope International Creative School
住所	〒195-0054 東京都町田市三輪町 392-1		
連絡先	https://x.gd/gx3WP	代表者	西村 真理
URL	http://hallelujah-ics.com/		
アクセス	小田急線「柿生駅」より徒歩23分／小田急バス「亀井橋」より徒歩7分		

No.	8	施設名	HSC 対応リベラルスクール
住所	〒273-0021 千葉県船橋市海神 2-9-24		
連絡先	toriienglishschool@gmail.com	代表者	鳥居 佐織
URL	https://wp.me/P3Dkw-192		
アクセス	JR 総武線「船橋駅」または東葉高速鉄道線「東海神駅」より徒歩 6～7 分		

No.	9	施設名	LITALICO ワンダー
住所	〒115-0045 東京都北区赤羽 1-4-8 千和ビル 6F		
連絡先	info_akabane_wd@litalico.jp	代表者	毛利 優介
URL	https://wonder.litalico.jp/		
アクセス	JR 埼京線「赤羽駅」より徒歩 4 分、埼玉高速鉄道「赤羽岩淵駅」より徒歩 10 分		

No.	10	施設名	NAZELAB
住所	〒368-0072 埼玉県秩父郡横瀬町大字横瀬 1926		
連絡先	info@nazelab.com 0494-40-1021	代表者	館野 繁彦
URL	https://nazelab.com/		
アクセス	西武秩父線「横瀬（よこぜ）駅」より徒歩約 10 分		

No.	11	施設名	NPO フリースクール僕んち
住所	〒155-0033 東京都世田谷区代田 4-32-17 サンハイツ B		
連絡先	090-3905-8124	代表者	高橋 徹
URL	https://www.facebook.com/npo.bokunchi/		
アクセス	小田急線「世田谷代田駅」より徒歩 6 分、京王井の頭線「東松原駅」より徒歩 10 分		

No.	13	施設名	NPO 法人 Unippo
住所	〒180-0004 東京都武蔵野市吉祥寺本町 2-17-2 マリオンワンビル B 1		
連絡先	080-5679-8726	代表者	慶徳 大介
URL	https://unippo.jp/		
アクセス	JR 中央線・京王井の頭線「吉祥寺駅」より徒歩 3 分		

No.	14	施設名	NPO 法人 青梅の虹 any フリースクール Rainbow Room
住所	〒198-0024 東京都青梅市新町 2-23-33		
連絡先	090-9134-3482	代表者	松原 陽子
URL	https://rainbowroom7.wixsite.com/website		
アクセス	JR 青梅線「小作駅」よりバス（河辺駅北口行）、「霞町新町」バス停下車徒歩 2 分		

No.	15	施設名	NPO 法人 オニバスの種
住所	203-0032 東京都東久留米市前沢 2-1-45 コムネハウス		
連絡先	080-6568-3757 (草刈)	代表者	草刈 智のぶ
URL	https://www.npoont.com/		
アクセス	西武バス (東久留米駅・清瀬駅⇄武蔵小金井駅)、「前沢四丁目」バス停より徒歩 10 分		

No.	16	施設名	NPO 法人 興学社教育研究所 フリースクール 興学社
住所	〒270-0034 千葉県松戸市新松戸 4-35-4 F		
連絡先	khs-shinmatsudo@kohgakusha.com	代表者	佐藤 純平
URL	http://www.kgs-ed.or.jp/		
アクセス	JR 常磐線・JR 武蔵野線「新松戸駅」より徒歩 3 分		

No.	17	施設名	NPO 法人 翔和学園
住所	〒164-0011 東京都中野区中央 1-38-1		
連絡先	03-5338-0338	代表者	伊藤 寛晃
URL	https://showa-gakuen.net/		
アクセス	都営大江戸線・東京メトロ丸ノ内線「中野坂上駅」A 1 出口より徒歩 0 分		

No.	18	施設名	NPO 法人 青少年自立援助センター YSC グローバルスクール
住所	〒197-0023 東京都福生市志茂 183-2		
連絡先	042-552-7400	代表者	今岡 光枝
URL	https://www.kodomo-nihongo.com/index.html		
アクセス	JR 青梅線「牛浜駅」より徒歩 9 分		

No.	19	施設名	NPO 法人 フリースクール鈴蘭学園
住所	〒252-0232 神奈川県相模原市中央区矢部 3-1-8		
連絡先	080-6577-1545	代表者	中村 鳴美
URL	https://www.fs-suzuran-gakuen.org/		
アクセス	JR 横浜線「矢部駅」南口より徒歩 3 分		

No.	20	施設名	NPO 法人 フリースクール多摩川
住所	〒183-0055 東京都府中市府中町 2-18-17		
連絡先	042-319-0408	代表者	吉川 尚
URL	https://huritama.wixsite.com/huritama		
アクセス	京王線「府中駅」北口より徒歩 6 分		

No.	21	施設名	NPO 法人 フリースペースロビンソン
住所	〒198-0032 東京都青梅市野上町 4-4-20		
連絡先	042-823-1054	代表者	駒井 陽子
URL	https://omerobinson.jimdofree.com		
アクセス	JR 青梅線「青梅駅」より徒歩 5 分		

No.	22	施設名	RE:VISION フリースクール
住所	〒190-0022 東京都立川市錦町 3 - 6 - 6 中村 LKビル B01B		
連絡先	08013399098	代表者	八田 一彦
URL	https://re-vision-tachikawa.com/		
アクセス	JR 中央線「立川駅」南口より徒歩 8 分		

No.	23	施設名	TAMA ユースセンター
住所	〒183-0004 東京都府中市紅葉丘 2-29-7		
連絡先	042-203-3479	代表者	辻 由美
URL	https://www.youmezemi.com/		
アクセス	西武多摩川線「多磨駅」より徒歩 9 分		

No.	24	施設名	TDC フリースクール
住所	〒272-0144 千葉県市川市新井 1-15-7		
連絡先	090-8346-2657	代表者	戸田 徹弥
URL	https://tdc-tetsuya194.com/		
アクセス	東京メトロ東西線「浦安駅」より徒歩 15 分／「東京ベイ浦安市川医療センター」より徒歩 3 分		

No.	25	施設名	TOS 高等学院中等部フリースクール
住所	〒252-0303 神奈川県相模原市南区相模大野 8-2-6 4 階		
連絡先	school@tos-kc1.com	代表者	中村 利治
URL	https://tos-kc1.com/free-school/		
アクセス	小田急線「相模大野駅」より徒歩 3 分		

No.	26	施設名	YES インターナショナルスクール 東京校
住所	〒150-0011 東京都渋谷区東 4-11-8		
連絡先	03-6427-2922	代表者	小正 理文
URL	https://yesinternationalschool.com		
アクセス	JR 山手線ほか「渋谷駅」より徒歩 15 分		

No.	27	施設名	YUME School 川崎ラチッタデッラ校
住所	〒210-0023 神奈川県川崎市川崎区小川町 4-1 ラ チッタ デッラ内 マッジョーレ 2F		
連絡先	044-201-8188	代表者	三國 隼平
URL	https://school.yume.support/kawasaki/		
アクセス	JR 京浜東北線「川崎駅」・京浜急行「京急川崎駅」より徒歩 10 分		

No.	28	施設名	アソマナ学園
住所	〒330-0061 埼玉県さいたま市浦和区常盤 9-17-1		
連絡先	048-866-0000	代表者	太田 樹男
URL	https://asomana.jp/		
アクセス	JR 京浜東北線「北浦和駅」より徒歩 5 分		

No.	30	施設名	てらこや maple
住所	〒158-0091 東京都世田谷区等々力 1-22-36		
連絡先	maple_mst@yahoo.co.jp	代表者	佐田 真有子
URL	https://terakoya-maple.com/		
アクセス	東急大井町線「等々力駅」より徒歩 8 分		

No.	32	施設名	池袋アートフリースクール
住所	〒171-0014 東京都豊島区池袋 4 丁目 1-12		
連絡先	03-5979-9095	代表者	杉本 良行
URL	https://www.kyokei.ac.jp/afs/		
アクセス	JR 山手線「池袋駅」西口 C6 出口より徒歩 8 分		

No.	33	施設名	一般社団法人 Education for Orphans シオンクリスチャン国際学校
住所	〒205-0014 東京都羽村市羽東 1-13-26		
連絡先	042-502-7851	代表者	ビショップ リンウッド ガイ
URL	https://www.education4orphans.com		
アクセス	JR 青梅線「羽村駅」西口より徒歩 2 分		

No.	34	施設名	一般社団法人 自在能力開発研究所スプラウツ
住所	〒184-0013 東京都小金井市前原町 4-22-28-101		
連絡先	otsuhata@jizaiken.com	代表者	乙幡 和重
URL	https://www.jizaiken.com		
アクセス	JR 中央線「武蔵小金井駅」より徒歩 15 分		

No.	35	施設名	一般社団法人 早期親子支援 GROW		
住所	〒186-0032 東京都小平市小川町二丁目 1862-10 シャルム小平 102				
連絡先	grow.smile2021@gmail.com		代表者	両角 美映	
URL	https://www.oyakosiengrow.com/				
アクセス	西武多摩湖線「青梅街道駅」・JR 武蔵野線「新小平駅」より徒歩 5 分				

No.	37	施設名	一般社団法人 フリースクール IF ラボ		
住所		〒181-0002 東京都三鷹市牟礼 7-4-25-2			
連絡先		info@iflab.education	代表者	赤沼 美里	
URL		https://iflab.education			
アクセス		JR 中央線「三鷹駅」・「吉祥寺駅」、京王線「仙川駅」よりバス 15 分、徒歩 8 分			

No.	38	施設名	いもいもデイスクール	
住所	〒160-0008 東京都新宿区四谷三栄町 1－2 Xe 2 階			
連絡先	info@imoimo.jp		代表者	井本 陽久
URL	https://imoimo.jp/imoimo_day/ （2024 年 4 月より変更予定）			
アクセス	JR 山手線「四ツ谷駅」より徒歩 4 分			

No.	39	施設名	エノコログサ		
住所		〒197-0823 東京都あきる野市野辺 110-4			
連絡先		enokorogusa001@gmail.com	代表者	村野 晴巳	
URL		http://enokorogusa.localinfo.jp			
アクセス		JR 五日市線「東秋留駅」より徒歩 15 分			

No.	40	施設名	エルムアカデミー	
住所		〒142-0064 東京都品川区旗の台 3-11-6 いこいビル		
連絡先		03-3784-5676	代表者	矢沢 宏之
URL		https://elm-ac.jp/		
アクセス		東急大井町線・池上線「旗の台駅」東口より徒歩 1 分		

No.	45	施設名	奥沢数学サロン	
住所		〒158-0083 東京都世田谷区奥沢 1 丁目 35- 1		
連絡先		080-5546-3838	代表者	顧問：一飯 高茂 講師：宮本 憲一
URL		http://okusawa.math.com		
アクセス		東急目黒線「奥沢駅」より徒歩 10 分		

No.	46	施設名	絵画教室アトリエ CHICORA
住所	〒160-0004 東京都新宿区四谷 1-7 装備ビル 2 階		
連絡先	info@woman-college.com	代表者	矢野 慎也
URL	https://atelier-chicora.com/freeschool/		
アクセス	JR 山手線「四ツ谷駅」四ツ谷口／東京メトロ丸ノ内線・南北線「四ツ谷駅」3 番出口より徒歩 2 分 ※ 駐輪・駐車ができません。		

No.	47	施設名	カウンセリング研修センター学舎ブレイブ
住所	〒184-0004 東京都小金井市本町 2-20-18-102		
連絡先	042-207-6885	代表者	小林 正幸
URL	https://www.genpuro.org/		
アクセス	JR 中央線「武蔵小金井駅」より徒歩 5 分		

No.	49	施設名	学研のサポート校 WILL 学園 高田馬場キャンパス
住所	〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 1-14-9		
連絡先	03-5272-3643	代表者	金谷 俊幸
URL	https://www.willschool.net/		
アクセス	JR 山手線・西武新宿線・東京メトロ東西線「高田馬場駅」より徒歩 5 分／東京メトロ副都心線「西早稲田駅」より徒歩 5 分		

No.	50	施設名	学研のサポート校 WILL 学園 立川キャンパス
住所	〒190-0023 東京都立川市柴崎町 3-10-20 渡辺ビル 4 F		
連絡先	0120-883-122	代表者	田村 啓
URL	https://www.willschool.net/		
アクセス	JR 中央線「立川駅」より徒歩 4 分／多摩都市モノレール「立川南駅」より徒歩 2 分		

No.	51	施設名	学研のサポート校 WILL 学園 横浜キャンパス
住所	〒221-0835 神奈川県横浜市神奈川区鶴屋町 2-21-1 ダイアビル 6 F		
連絡先	0120-883-122	代表者	長谷川 有紀
URL	https://www.willschool.net/		
アクセス	JR 東海道線ほか「横浜駅」より徒歩 4 分		

No.	52	施設名	学校外の学び場「いろいろダネ」
住所	〒358-0026 埼玉県入間市小谷田 1681-1 青少年活動センター		
連絡先	manabidane@gmail.com	代表者	土橋 秀子
URL	https://www.manabidane.org/		
アクセス	西武池袋線「仏子（ぶし）駅」より徒歩 20 分		

No.	53	施設名	学校法人角川ドワンゴ学園 N 中等部 秋葉原キャンパス
住所	〒101-0042 東京都千代田区神田東松下町 14 番 東信神田 THビル 2 階		
連絡先	support@n-jr.jp	代表者	N 中等部名誉スクールプレジデント 奥平 博一
URL	https://n-jr.jp/		
アクセス	JR 中央線「神田駅」より徒歩 4 分／都営新宿線「岩本町駅」より徒歩 3 分／JR 総武線「秋葉原駅」より徒歩 8 分		

No.	54	施設名	学校法人角川ドワンゴ学園 N 中等部 池袋キャンパス
住所	〒171-0014 東京都豊島区池袋 4 丁目 32 番 8 号 サンポウ池袋ビル 1 階		
連絡先	support@n-jr.jp	代表者	N 中等部名誉スクールプレジデント 奥平 博一
URL	https://n-jr.jp/		
アクセス	JR 山手線「池袋駅」より徒歩 10 分／「池袋四丁目バス停」より徒歩 0 分		

No.	55	施設名	学校法人角川ドワンゴ学園 N 中等部 新宿キャンパス
住所	〒151-0053 東京都渋谷区代々木 4 丁目 29 番地 3 西参道梅村ビル 2 階		
連絡先	support@n-jr.jp	代表者	N 中等部名誉スクールプレジデント 奥平 博一
URL	https://n-jr.jp/		
アクセス	京王新線「初台駅」より徒歩 6 分／小田急線「参宮橋駅」より徒歩 9 分		

No.	56	施設名	学校法人角川ドワンゴ学園 N 中等部 町田キャンパス
住所	〒194-0021 東京都町田市中町 1-5-1 フレグラント町田 1 階		
連絡先	support@n-jr.jp	代表者	N 中等部名誉スクールプレジデント 奥平 博一
URL	https://n-jr.jp/		
アクセス	JR 横浜線「町田駅」より徒歩 9 分／小田急小田原線「町田駅」より徒歩 5 分		

No.	57	施設名	学校法人角川ドワンゴ学園 N 中等部 横浜キャンパス
住所	〒221-0031 神奈川県横浜市神奈川区新浦島町 1 丁目 1 番地 32 アクアリアタワー横浜 2 階 (低層棟)		
連絡先	support@n-jr.jp	代表者	N 中等部名誉スクールプレジデント 奥平 博一
URL	https://n-jr.jp/		
アクセス	京急本線「神奈川新町駅」より徒歩 7 分		

No.	58	施設名	学校法人三幸学園 飛鳥未来中等部・初等部 お茶の水教室
住所	〒113-0034 東京都文京区湯島 2-31-8		
連絡先	03-3868-3519	代表者	千田 桃世
URL	https://www.sanko.ac.jp/asuka-fs/		
アクセス	東京メトロ丸ノ内線「本郷三丁目駅」より徒歩 5 分		

No.	59	施設名	学校法人三幸学園 飛鳥未来中等部・初等部 立川教室		
住所	〒190-0012 東京都立川市曙町 2 丁目 19-12 2F				
連絡先	042-540-3011		代表者	長谷川 円香	
URL	https://www.sanko.ac.jp/asuka-fs/				
アクセス	JR 中央線「立川駅」より徒歩 5 分				

No.	61	施設名	カルバリーチャペル府中（Wegoeigo）	
住所	〒183-0004 東京都府中市紅葉丘 1-38-35			
連絡先	042-361-5460		代表者	Richard Rose
URL	https://www.wegoeigofuchu.com/			
アクセス	西武多摩川線「多磨駅」より徒歩 6 分			

No.	67	施設名	きっずくらぶあすぱる（フリースクールあすぱる）	
住所	〒136-0071 東京都江東区亀戸 3-62-11 エコールビル 1F			
連絡先	03-6822-2383		代表者	植木 安紀
URL	https://r.goope.jp/asuparu-kids			
アクセス	JR 中央総武線・東武線「亀戸駅」より徒歩 8 分			

No.	68	施設名	共育ステーション 地球の家		
住所	〒271-0076 千葉県松戸市岩瀬 38 （葛飾区内でも活動中）				
連絡先	chikyunoie.2013@gmail.com		代表者	熊谷 亜希子	
URL	https://chikyunoie.amebaownd.com/				
アクセス	JR 常磐線「松戸駅」東口より徒歩 9 分				

No.	69	施設名	くにきたベース	
住所	〒185-0034 東京都国分寺市光町 1 -39- 9			
連絡先	kunikita.base@gmail.com	代表者	佐藤 和之	
URL	https://kunikitabase.mystrikingly.com/			
アクセス	JR 中央線「国立駅」より徒歩 5 分			

No.	70	施設名	国立音楽院（ピアセタがや学習センター）		
住所	〒154-0001 東京都世田谷区池尻 3-28-8				
連絡先	03-5431-8085		代表者	新納 智保	
URL	https://www.kma.co.jp/				
アクセス	東急田園都市線「池尻大橋駅」より徒歩 10 分／東急田園都市線「三軒茶屋駅」より徒歩 15 分				

No.	71	施設名	くにたち はたけんぼ（特定非営利活動法人くにたち農園の会）		
住所		〒186-0011 東京都国立市谷保 661			
連絡先		042-505-7200	代表者	佐藤 有里	
URL		https://hatakenbo.org/freespace			
アクセス		JR 南武線「谷保駅」より徒歩 15 分			

No.	72	施設名	恵友学園		
住所	〒110-0015 東京都台東区東上野 5-11-9 上野奉英ビル1階				
連絡先	03-5246-6730		代表者	木村 基一	
URL	http://kugakuen.com/				
アクセス	東京メトロ銀座線「稲荷町駅」より徒歩3分／JR山手線「上野駅」より徒歩6分				

No.	73	施設名	公益財団法人 こども教育支援財団 東京大志学園 柏校		
住所	〒277-0852 千葉県柏市旭町 2-2-3				
連絡先	04-7141-6655		代表者	及川 拓也	
URL	https://tokyo-taishi.net/campuses/kashiwa				
アクセス	JR 常磐線・東武アーバンパークライン「柏駅」より徒歩 3 分				

No.	74	施設名	公益財団法人 こども教育支援財団 東京大志学園 東京本校		
住所	〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 1-16-17				
連絡先	03-5155-8845		代表者	瀬戸 隆博	
URL	https://tokyo-taishi.net/campuses/tokyo				
アクセス	JR 山手線・東京メトロ東西線・西武新宿線「高田馬場駅」より徒歩 5 分				

No.	75	施設名	考学舎 青山教室	
住所	〒150-0002 東京都渋谷区渋谷 1 - 7 - 5 青山セブンハイツ 503			
連絡先	03-3498-7758		代表者	坂本 聡
URL	https://edu.kogakusha.co.jp			
アクセス	JR 山手線「渋谷駅」より徒歩 7 分			

No.	76	施設名	心と学びの支援センター ここま田無		
住所	〒188-0001 東京都西東京市田無町 3-9-6-102				
連絡先	atyoyaku@gmail.com		代表者	曽我部 和広	
URL	http://athome204.org				
アクセス	西武新宿線「田無駅」北口より徒歩 5 分				

No.	77	施設名	こちゃっこい
住所	〒181-0015 東京都三鷹市大沢 6-3-15（活動は都立野川公園）		
連絡先	042-382-7315	代表者	下津 彩子
URL	https://kochakkoi.jimdofree.com		
アクセス	西武多摩川線「多磨駅」より徒歩 15 分		

No.	78	施設名	子どもたちのためのフリースペースそらいろのいえ
住所	〒178-0062 東京都練馬区大泉町 6-15-16		
連絡先	080-5193-2844	代表者	金 麻衣子
URL	Arrow to the Sun そらいろのいえ (hp-ez.com)		
アクセス	西武池袋線「大泉学園駅」より徒歩 18 分		

No.	79	施設名	こどもの未来探求学習（コトナハウス内）
住所	〒186-0003 東京都国立市富士見台 1 丁目 8-38		
連絡先	090-4137-6183	代表者	小保方 亜依
URL	https://note.com/mirai_tankyu		
アクセス	JR 南武線「谷保駅」より徒歩 5 分／JR 中央線「国立駅」よりバス 5 分（富士見台第一団地）		

No.	80	施設名	個別支援学習塾・フリースクール ありんくりん
住所	〒190-0021 東京都立川市羽衣町 3-15-18		
連絡先	042-506-1290	代表者	丸山 亮子
URL	http://arinkurin.org		
アクセス	JR 南武線「西国立駅」より徒歩 10 分		

No.	81	施設名	さくらんぼ教室 東陽町教室
住所	〒135-0016 東京都江東区東陽 2-4-46 ASK ビル 5F		
連絡先	03-6666-3511	代表者	上田 拓実
URL	https://www.sakuranbo-class.com		
アクセス	東京メトロ東西線「東陽町駅」より徒歩 2 分		

No.	82	施設名	サドベリースクール アルママ
住所	〒116-0002 東京都荒川区荒川 1-57-6		
連絡先	alumama.stuff@gmail.com	代表者	園田 たさね
URL	https://alumama.net		
アクセス	東京メトロ日比谷線「三ノ輪駅」より徒歩 9 分／JR 常磐線「三河島駅」より徒歩 9 分／都電荒川線「荒川区役所前駅」・「荒川一中前駅」より徒歩 7 分		

No.	83	施設名	私塾 自学舎
住所	〒193-0942 東京都八王子市梶田町 241-9 第2 藤ビル 1 階		
連絡先	k_koura@jigakusha.com	代表者	小浦 清
URL	https://jigakusha.com		
アクセス	京王高尾線「めじろ台駅」より徒歩 20 分、京王バス「要石停留所」前		

No.	85	施設名	社会福祉法人 上越市社会福祉協議会 自由の学び舎 やすづか学園
住所	〒942-0539 新潟県上越市安塚区円平坊 941		
連絡先	025-593-2004	代表者	竹田 一昭
URL	https://yasudukagakuen.com		
アクセス	北越急行ほくほく線「虫川大杉駅」(学園が送迎)		

No.	86	施設名	自由な学び場 HIRU-net
住所	〒180-0005 東京都武蔵野市御殿山 1-5-5 つばみビル 3 階		
連絡先	090-1966-0960	代表者	今田 剛士
URL	https://www.hirunet.com/		
アクセス	JR 中央線「吉祥寺駅」より徒歩 5 分		

No.	87	施設名	シン・スクール
住所	〒204-0004 東京都清瀬市野塩 4-81-13ST ビル 1 階		
連絡先	support@shin-school.com	代表者	吉澤 一雅
URL	https://www.shin-school.com/		
アクセス	西武池袋線「秋津駅」より徒歩 13 分		

No.	88	施設名	瑞祥学園
住所	〒201-0003 東京都狛江市和泉本町 3-33-6-2F		
連絡先	03-5761-7733	代表者	勘米良 俊彦
URL	https://www.sash-leads.com/		
アクセス	小田急小田原線「狛江駅」・京王線「調布駅」より小田急バス・京王バス「御台橋」下車徒歩 3 分		

No.	89	施設名	星槎学園中等部 大宮校
住所	〒331-0804 埼玉県さいたま市北区土呂町 2-12-10		
連絡先	048-788-2471	代表者	矢部 智也
URL	https://seisafs.jp/omiya/		
アクセス	JR 宇都宮線「土呂駅」より徒歩 5 分		

No.	90	施設名	星槎学園北斗校
住所	〒226-0025 神奈川県横浜市緑区十日市場町 1726-4		
連絡先	045-530-1313	代表者	矢吹 勝彌
URL	https://seisagakuen.jp/hokuto/		
アクセス	JR 横浜線「十日市場駅」より徒歩 12 分		

No.	91	施設名	星槎ジュニアスクール PAL 立川
住所	〒190-0022 東京都立川市錦町 6-9-5		
連絡先	042-521-3699	代表者	犬山 遼
URL	https://seisa.ed.jp/tach/freeschool/		
アクセス	JR 中央線「立川駅」より徒歩 15 分／JR 南武線「西国立駅」より徒歩 10 分／多摩都市モノレール「柴崎体育館駅」より徒歩 7 分		

No.	92	施設名	星槎中野サテライトキャンパス フェリーチェ高等学院 フェリーチェフリースクール
住所	〒164-0012 東京都中野区本町 2-13-2		
連絡先	03-5308-1616	代表者	神林 栄
URL	https://felicegakuen.jp		
アクセス	東京メトロ丸ノ内線・都営大江戸線「中野坂上駅」より徒歩 7 分		

No.	93	施設名	せいさフリースクールはちおうじ
住所	〒193-0826 東京都八王子市元八王子町 2-1419 星槎国際高校八王子内		
連絡先	042-661-6092	代表者	浅川 公一
URL	http://www.seisa.ed.jp		
アクセス	JR 中央線「西八王子駅」・「高尾駅」より西東京バス「元八 2 丁目北」・「石神坂」下車徒歩 5 分		

No.	95	施設名	ダーウィン学習塾
住所	〒151-0072 東京都渋谷区幡ヶ谷 3-20-2 TS ビル		
連絡先	03-3370-1653	代表者	坂詰 敦
URL	https://www.darwindarwindarwing.com		
アクセス	京王新線「幡ヶ谷駅」より徒歩 5 分		

No.	97	施設名	第一学院中等部 川越キャンパス
住所	〒350-0045 埼玉県川越市南通町 14-4 三番町ビル 2F		
連絡先	049-228-2320	代表者	田箆 苑子
URL	https://www.daiichigakuin-jr.jp/campus/kawagoe/		
アクセス	東武東上線・JR 埼京線「川越駅」東口より徒歩 5 分／西武新宿線「本川越駅」より徒歩 7 分		

No.	99	施設名	滝野川高等学院
住所	〒115-0051 東京都北区浮間 1-1-6KMP 北赤羽駅前ビル 3F		
連絡先	03-5916-8900	代表者	豊田 毅
URL	https://takenogawa.club/		
アクセス	JR 埼京線「北赤羽駅」浮間口より徒歩 1 分		

No.	100	施設名	タネノバのテラコヤ
住所	〒252-0175 神奈川県相模原市緑区若柳 1208		
連絡先	tanenobanpo@gmail.com	代表者	首藤 幸一郎
URL	https://www.facebook.com/tanenobanpo		
アクセス	JR 中央本線「相模湖駅」よりバス「内郷診療所前」下車徒歩 1 分		

No.	101	施設名	探求フリースクール・マチラボ
住所	〒194-0021 東京都町田市中町 3-10-6		
連絡先	https://x.gd/Rxpz6	代表者	広田 悠大
URL	https://machida-labo.com/		
アクセス	小田急線「町田駅」北口より徒歩 10 分／町田シバヒロ（旧町田市役所）より徒歩 4 分		

No.	106	施設名	適応支援室「いぐお〜る」
住所	〒195-8585 東京都町田市金井ヶ丘 5 丁目 1-1 和光大学		
連絡先	igall@wako.ac.jp	代表者	高坂 康雅
URL	—		
アクセス	小田急線「鶴川駅」より徒歩 15 分		

No.	108	施設名	適応指導・学習支援教室 まほろび人形町
住所	〒103-0006 東京都中央区日本橋富沢町 8-10 4F		
連絡先	03-3527-2213	代表者	守矢 俊一
URL	https://www.manabure.com/		
アクセス	都営新宿線「馬喰横山駅」A3 出口より徒歩 6 分		

No.	110	施設名	東京 YMCA あつと Y 中学生の居場所 & 学び場
住所	〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-18-12		
連絡先	highschool@tokyoyymca.org	代表者	重留 真幸
URL	https://tokyo.ymca.or.jp/highschool/feature/#program		
アクセス	JR 山手線ほか「高田馬場駅」より徒歩 7 分		

No.	111	施設名	東京 y'sBe 学園
住所	東京都三鷹市 (以下、非公開)		
連絡先	(URL 経由にて)	代表者	清水 夏子
URL	https://www.ysbegakuen.com/		
アクセス	京王線「仙川駅」より徒歩 16 分		

No.	112	施設名	東京インターハイスクール
住所	〒150-0002 東京都渋谷区渋谷 1-23-18 ワールドイーストビル 4F		
連絡先	03-6427-3450	代表者	渡辺 克彦
URL	https://www.inter-highschool.ne.jp/		
アクセス	JR 山手線ほか「渋谷駅」B1 出口より徒歩 1 分		

No.	113	施設名	東京未来大学こどもみらい園
住所	〒120-0005 東京都足立区綾瀬 2-30-6		
連絡先	03-5629-3789	代表者	池田 準
URL	https://miraien.tokyomirai.ac.jp/		
アクセス	東京メトロ千代田線「綾瀬駅」より徒歩 3 分		

No.	114	施設名	東京未来大学みらいフリースクール
住所	〒120-0005 東京都足立区綾瀬 2-30-6		
連絡先	03-5629-3790	代表者	川口 真澄
URL	https://www.freeschool.tokyomirai.ac.jp/		
アクセス	東京メトロ千代田線「綾瀬駅」より徒歩 3 分		

No.	115	施設名	特定非営利活動法人 ウイズアイ 不登校の子どもの居場所「みんなのうち ゆいゆい」
住所	〒204-0024 東京都清瀬市梅園 2-2-29		
連絡先	070-3827-8612	代表者	後藤 和之 (理事長)
URL	https://x.gd/WyQey		
アクセス	西武池袋線「清瀬駅」・「秋津駅」より徒歩 20 分		

No.	116	施設名	特定非営利活動法人 東京コミュニティスクール
住所	164-0001 東京都中野区中野 1-62-10		
連絡先	school@tokyocs.org	代表者	堀江 由香里
URL	http://tokyocs.org		
アクセス	JR 中央線・東京メトロ東西線「中野駅」南口より徒歩 9 分		

No.	117	施設名	特定非営利活動法人 ならはらの森なかの学舎		
住所		〒193-0803 東京都八王子市檜原町 1378-16			
連絡先		naraharanakano@gmail.com	代表者	高橋 恵子	
URL		https://nakanogakusya.com			
アクセス		JR 中央線「八王子駅」・京王線「京王八王子駅」より西東京バス 20 分			

No.	130	施設名	なゆたふらっと	
住所	〒177-0041 東京都練馬区石神井町 1-24-6 原田ビル 3F			
連絡先	nayutaflat@gmail.com		代表者	鈴木 秀和
URL	https://nayutaflat3.blogspot.com/			
アクセス	西武池袋線「石神井公園駅」南口より徒歩 3 分			

No.	131	施設名	にしおぎ学院	
住所	〒167-0042 東京都杉並区西荻北 3-31-7 石田ビル 2 階			
連絡先	03-5303-5336	代表者	田中 勢記	
URL	https://www.nishiogi-gakuin.jp			
アクセス	JR 中央総武線「西荻窪駅」北口より徒歩 2 分			

No.	133	施設名	認定 NPO 法人 工芸技能研究所 フリースクール工芸技能学院		
住所		〒191-0034 東京都日野市落川 993（２F）			
連絡先		k-kougeiginou@nifty.com	代表者	和田 伊都子	
URL		https://kougeiginou.com/			
アクセス		京王線「百草園駅」より徒歩 1 分			

No.	134	施設名	認定 NPO 法人 高卒支援会	
住所	〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町 2 丁目 2-15 Daiwa 三崎町ビル 5 階			
連絡先	03-5937-0513	代表者	竹村 聡志	
URL	https://kousotsu.jp/			
アクセス	JR 総武線「水道橋駅」・「神保町駅」より徒歩 5 分			

No.	135	施設名	野川のえんがわ こまち		
住所		〒201-0001 東京都狛江市西野川 2-31-1			
連絡先		nogawa@comarch.tokyo	代表者	梶川 朋	
URL		https://nogawa.comarch.tokyo			
アクセス		京王線「柴崎駅」より徒歩 17 分			

No.	136	施設名	のびーくフリースクール
住所	〒177-0041 東京都練馬区石神井町 6-26-10		
連絡先	info-fs@nobiiku.com	代表者	東 美希
URL	https://fs.nobiiku.com/		
アクセス	西武池袋線「石神井公園駅」より徒歩 12 分		

No.	139	施設名	原宿 AIA 高等学院
住所	〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 6-18-12 イー・ハラジुक 4F		
連絡先	050-536-98423	代表者	青池 浩生
URL	https://harajuku-aia.com/		
アクセス	東京メトロ副都心線「渋谷駅」・「明治神宮前駅」より徒歩 5 分		

No.	140	施設名	ビリーバーズ広尾
住所	〒106-0047 東京都港区南麻布 5-3-20 有栖川ビル 2F		
連絡先	info.believers2021@gmail.com	代表者	熊野 英一
URL	https://peraichi.com/landing_pages/view/believershiroo/		
アクセス	東京メトロ日比谷線「広尾駅」より徒歩 7 分		

No.	141	施設名	昼間の塾フレップ
住所	〒192-0063 東京都八王子市元横山町 1-10-3 池田ビル 2-C		
連絡先	050-3573-8256	代表者	朴 未来
URL	http://frep.jp		
アクセス	京王線「京王八王子駅」より徒歩 10 分／西東京バス「浅川大橋南」下車徒歩 5 分		

No.	143	施設名	ヒロック初等部 代々木校
住所	〒151-0063 渋谷区富ヶ谷 1-11-12 Loビル 1F		
連絡先	hillock.shotobu@gmail.com	代表者	五木田 洋平
URL	https://www.hillock-primary.com/		
アクセス	東京メトロ千代田線「代々木公園駅」より徒歩 2 分／小田急線「代々木八幡駅」より徒歩 5 分		

No.	144	施設名	ふくろうの部屋
住所	〒112-0001 東京都文京区白山 2-19-9 2 階アトリエ 1		
連絡先	03-4400-5526	代表者	金木 悠
URL	https://woods-c.com/		
アクセス	東京メトロ南北線「後楽園駅」・都営三田線「白山駅」より徒歩 15 分		

No.	145	施設名	不登校の子どもたちの居場所『いまごち』
住所	〒190-0021 東京都立川市栄町 5-13-2		
連絡先	r_kugenuma@yahoo.co.jp	代表者	久下 沼諒
URL	https://lit.link/yutreal		
アクセス	JR 中央線「立川駅」北口より「東栄会」バス停下車徒歩 1 分		

No.	146	施設名	フリースクール ito-いと-
住所	〒164-0001 レンタルスペース@RooM 東京都中野区中野 1-31-4 セラビーヌーベルマンション 111 号室		
連絡先	ibasho.ito@gmail.com	代表者	山田 紀代美
URL	https://ito.tunagatter.com/		
アクセス	JR 中央線「中野駅」より徒歩 13 分		

No.	147	施設名	フリースクール Luana
住所	〒188-0001 東京都西東京市田無町 2-10-6 グレイスランド 201		
連絡先	Luana.school524@gmail.com	代表者	TOMOKA
URL	https://playwithmetime.jimdofree.com/		
アクセス	西武新宿線「田無駅」北口より徒歩 3 分		

No.	148	施設名	フリースクール PIT 恵比寿校
住所	〒1500013 渋谷区恵比寿 4-11-9 クオーレエビス 101		
連絡先	090-1116-2899	代表者	坪内 俊憲
URL	https://kosodatejouhou.com/		
アクセス	JR 山手線「恵比寿駅」から徒歩 6 分		

No.	149	施設名	フリースクール T&M
住所	〒254-0035 神奈川県平塚市宮の前 6-18-2F		
連絡先	090-6124-4214	代表者	安村 俊毅
URL	http://www.tm-education-services.com/		
アクセス	JR 東海道線・湘南新宿ライン・踊り子「平塚駅」北口より徒歩 7 分		

No.	150	施設名	フリースクール@なります
住所	〒175-0094 東京都板橋区成増 4-31-11		
連絡先	03-6784-1205	代表者	久保 正敏
URL	https://www.asahi-net.or.jp/~bx9m-kb/home		
アクセス	東武東上線「成増駅」・都営三田線「西高島平駅」より徒歩 20 分／国際興業バス「成増 4 丁目」バス停下車		

No.	151	施設名	フリースクール鹿の子クラブ多摩センターキャンパス
住所	〒206-0033 東京都多摩市落合 1-9-3 セゾン・ド大貫ビル 5F		
連絡先	042-373-7370	代表者	永井 崇康
URL	https://www.kg-tama.jp		
アクセス	京王線「京王多摩センター駅」・小田急線「多摩センター駅」より徒歩 1 分		

No.	152	施設名	フリースクールグレス
住所	〒196-0034 東京都昭島市玉川町 1-1-12 エルビル 3 階 A 号室		
連絡先	042-519-2385	代表者	菅原 崇史
URL	https://freeschoolgres.hp.peraichi.com/		
アクセス	JR 青梅線「東中神駅」南口より徒歩 1 分		

No.	153	施設名	フリースクール元気学園
住所	〒422-8034 静岡県静岡市駿河区高松 1969-7		
連絡先	054-236-5011	代表者	小林 高子
URL	http://www.genki-gakuen.gr.jp/index.html		
アクセス	JR 東海道本線「静岡駅」より車で約 15 分		

No.	154	施設名	フリースクールゴーシュ
住所	〒189-0014 東京都東村山市本町 1-20-20 小高ビル 1F		
連絡先	042-313-3180	代表者	堀内 航
URL	https://gauche0.webnode.jp/		
アクセス	西武新宿線・西武国分寺線「東村山駅」より徒歩 7 分		

No.	155	施設名	フリースクールだーちゃ
住所	〒170-0003 東京都豊島区駒込 4-10-17 モリス駒込 201		
連絡先	dachalabo@gmail.com	代表者	松葉 百合香・加納 佳奈
URL	https://freeschooldacha.amebaownd.com/		
アクセス	JR 山手線「駒込駅」より徒歩 5 分		

No.	156	施設名	フリースクール太陽の学園
住所	〒252-0239 神奈川県相模原市中央区中央 2-7-9-3 階		
連絡先	042-707-0160	代表者	吉川 さやか
URL	https://taiyounomura.com/		
アクセス	JR 横浜線「相模原駅」より神奈川中央交通「市役所前」バス停下車 2 分		

No.	157	施設名	フリースクール寺子屋のびの〜び
住所	〒191-0052 東京都日野市東豊田 3-23-3		
連絡先	terakoya.nobinobi@gmail.com	代表者	森 美歌
URL	https://nobinobi.crayonsite.info/		
アクセス	JR 中央線「豊田駅」北口より徒歩 7 分		

No.	162	施設名	フリースクールネモ市川
住所	〒272-0035 千葉県市川市新田 5-5-15		
連絡先	info@nponemo.net	代表者	松島 裕之
URL	https://nponemo.net/		
アクセス	JR 総武線「市川駅」より徒歩 8 分／京成本線「市川真間駅」より徒歩 2 分		

No.	163	施設名	フリースクール育海（はぐみ）
住所	〒714-0302 岡山県笠岡市飛島 5920-2		
連絡先	hishimagakuen@gmail.com	代表者	堂野 博之
URL	https://www.hugkumi2021.com/		
アクセス	JR 山陽本線「笠岡駅」より港まで徒歩 5 分、さらに定期船で 40 分		

No.	164	施設名	フリースクールはっちゃく
住所	〒195-0063 東京都町田市野津田町 2024		
連絡先	090-5571-0958	代表者	禿 拓史
URL	https://fshacchaku.com		
アクセス	小田急線「鶴川駅」より神奈川中央交通バス「野津田車庫」バス停下車 10 分		

No.	165	施設名	フリースクール「フェルマータ」
住所	〒164-0001 中野区中野 3-19-2-102		
連絡先	03-6382-5304	代表者	大橋 勲
URL	http://free-school-fermata.com/		
アクセス	JR 中央線「中野駅」より徒歩 7 分		

No.	167	施設名	フリースクールゆうがく
住所	〒151-0053 東京都渋谷区代々木 1-29-5 3F		
連絡先	03-3320-3371	代表者	遊佐 希子
URL	http://www.yuugaku.net		
アクセス	JR 山手線「代々木駅」西口より徒歩 0 分		

No.	168	施設名	フリースクールゆずらぼ
住所	〒130-0003 東京都墨田区横川 3-12-2-101		
連絡先	050-3556-8393	代表者	末崎 葵
URL	https://deko-boko.jp/		
アクセス	都営浅草線「押上駅」B2 出口より徒歩 7 分／JR 総武線「錦糸町駅」北口より徒歩 12 分		

No.	169	施設名	フリースペース Aoba
住所	〒116-0001 東京都荒川区西尾久 7-32-3 アオバビル 2F.3F		
連絡先	2021mothership@gmail.com	代表者	岸 ゆり
URL	https://2021mothership.amebaownd.com/		
アクセス	都電荒川線「荒川車庫駅」から徒歩 2 分／JR 高崎線「尾久駅」から徒歩 5 分		

No.	171	施設名	フリースペースコスモ（NPO 法人 文化学習協同ネットワーク）
住所	〒181-0013 東京都三鷹市下連雀 1-14-3		
連絡先	0422-47-8706	代表者	佐藤 真一郎
URL	https://www.npobunka.net/		
アクセス	JP 中央線「三鷹駅」より徒歩 16 分／京王バス・小田急バス・みたかシティバス「万助橋」下車 2 分		

No.	172	施設名	フリースペースしんじゅく
住所	〒161-0031 新宿区西落合 3-6-9-109		
連絡先	080-2168-7377	代表者	本岡 陽子
URL	https://www.freespace-shinjuku.com		
アクセス	都営大江戸線「落合南長崎駅」より徒歩 7 分		

No.	174	施設名	フリースペースゆりの木
住所	〒192-0363 東京都八王子市別所 2-38-91		
連絡先	090-7583-7003	代表者	成井 木綿子
URL	https://yurinokifree.crayonsite.info		
アクセス	京王線「京王堀之内駅」より徒歩 20 分／小田急多摩川線「唐木田駅」より徒歩 18 分		

No.	175	施設名	フレネ自由教育 フリースクールジャパンフレネ
住所	豊島区雑司が谷 1-7-2 雑司が谷ビル 202 号		
連絡先	03-3988-4050	代表者	木幡 寛
URL	http://www.jfreinet.com		
アクセス	東京メトロ副都心線「雑司が谷駅」より徒歩 5 分		

No.	176	施設名	松実高等学園 中等部
住所	〒344-0067 埼玉県春日部市中央 1 丁目 58 番 2 号		
連絡先	048-795-9755	代表者	松井 寛
URL	https://matsumi-gakuen.net/		
アクセス	東武スカイツリーライン「春日部駅」より徒歩 5 分		

No.	177	施設名	学び舎トーカ 用賀中町キャンパス
住所	〒158-0091 東京都世田谷区中町 5 丁目 3 1 - 1 2 白井ビル 3 階		
連絡先	y-oka@touka-group.jp	代表者	岡 裕介
URL	https://touka-group.jp		
アクセス	東急大井町線「上野毛駅」より徒歩 15 分／東急田園都市線「用賀駅」より徒歩 17 分		

No.	178	施設名	未来学園 HOPE フリースクール
住所	〒162-0828 東京都新宿区袋町 24-25		
連絡先	080-1231-0511	代表者	梶谷 希美
URL	https://miraigakuenhopefreeschool.studio.site/		
アクセス	東京メトロ東西線「神楽坂駅」より徒歩 10 分		

No.	179	施設名	みらいゲート秋葉原
住所	〒101-0041 東京都千代田区神田須田町 1 - 25 JR 神田万世橋ビル 2 F		
連絡先	03-5289-0281	代表者	阪本 美樹
URL	https://nursery.cocofump.co.jp/miraigate/		
アクセス	J R 山手線「秋葉原駅」・「神田駅」より徒歩 5 分・東京メトロ千代田線「新御茶ノ水駅」より徒歩 5 分・東京メトロ丸の内線「淡路町駅」より徒歩 5 分・都営新宿線「小川町駅」より徒歩 5 分		

No.	180	施設名	フリースクール 自由な学び場 SOU !
住所	〒195 - 0053 東京都町田市能ヶ谷 1-8-8 パレス・リッツ 609		
連絡先	080-4198-2619	代表者	福田 有美子
URL	https://tsurukawa-k-commons.jp/		
アクセス	小田急線「鶴川駅」より徒歩 3 分		

No.	181	施設名	明蓬館高等学校東京・国立 SNEC
住所	〒186-0002 東京都国立市東 1 - 16 - 17 ポポロビル 2 階		
連絡先	042-505-4353	代表者	日野 公三
URL	https://x.gd/zNNDt		
アクセス	JR 中央線「国立駅」南口より徒歩 5 分		

No.	183	施設名	もうひとつの居場所 第2の学校「もの木」		
住所	〒191-0062 東京都日野市多摩平 2-5-1 クレヴィア豊田多摩平の森 森レジデンス1階				
連絡先	momo.jiku.info@gmail.com		代表者	寺前 桃子	
URL	https://momojuku.com/				
アクセス	JR 中央線「豊田駅」より徒歩 8 分				

No.	186	施設名	八洲学園中等部 町田分室	
住所		〒194-0022 東京都町田市森野 1-27-14		
連絡先		s-machida@yashima.ac.jp	代表者	植木 真也
URL		https://yashima-jfs.jp/		
アクセス		小田急線「町田駅」より徒歩 4 分、JR 横浜線「町田駅」より徒歩 8 分		

No.	187	施設名	楽ちん堂（Studio Gorron）	
住所		〒158-0092 東京都世田谷区野毛 2-28-23		
連絡先		03-6809-7388	代表者	森田 清子
URL		https://www.lalala.or.jp/		
アクセス		東急大井町線「上野毛駅」より徒歩 14 分		

No.	188	施設名	ルネ中等部 池袋校		
住所	〒170-0013 東京都豊島区東池袋 1 丁目 30- 6 セイコーサンシャインビル XII 5F				
連絡先	03-6914-1449		代表者	内山 聖也	
URL	https://www.r-ac.jp/junior/				
アクセス	JR 山手線「池袋駅」東口より徒歩 5 分				

No.	189	施設名	ルネ中等部 新宿代々木キャンパス	
住所	〒151-0053 東京都渋谷区代々木 1-13-5			
連絡先	03-6300-9985	代表者	橋本 太郎	
URL	http://www.r-ac.jp/junior/			
アクセス	JR 山手線「代々木駅」より徒歩 4 分／JR 山手線ほか「新宿駅」より徒歩 9 分			

No.	190	施設名	レインボープラス 要町教室	
住所	〒173-0027 東京都板橋区南町 12-9 南町ビル 1 階			
連絡先	03-5926-8515	代表者	松坂 一彦	
URL	https://rainbowplus-grow.com/			
アクセス	東京メトロ副都心線・有楽町線「要町駅」より徒歩 7 分			

No.	192	施設名	早稲田自由スクール 柏校		
住所		〒277-0005 千葉県柏市柏 4－5－10 サンプラザビル 6 階			
連絡先		04-7168-0061	代表者	守谷 たつみ	
URL		https://www.fswaseda.jp			
アクセス		JR 常磐線「柏駅」東口より徒歩 7 分			

付録 調査内容

	アンケート	インタビュー
①施設概要	(1)～(12)	
②入会金・月謝等	(13)～(15)	
③在籍人数	(16)(17)	
④児童・生徒の入所までのおおまかな流れ		(1)
⑤不登校の要因についての情報		(2)
⑥フリースクール等の位置付け	(18)	(3)
⑦児童・生徒がフリースクール等に求めていること	(19)	(4)
⑧主な活動内容	(20)	(5)
⑨学習計画の提示	(21)(22)	(6)
⑩ICT の活用実態	(23)～(25)	
⑪進路	(26)～(30)	(7)
⑫在籍校・在籍校以外との連携	(31)	(8)(9)
⑬アウトリーチ支援	(32)	(10)
⑭保護者との連絡方法		(11)
⑮成果報告	(33)	(12)
⑯運営する上での課題		(13)(14)

【アンケート調査の内容】

- (1) 法人格をお選びください。
- (2) 設立年をお教えてください。
- (3) 運営に関係しているスタッフの総数をお答えください。常勤や非常勤、ボランティア等に関わらず、運営に関係している人の総数をお答えください。
- (4) 1日当たりに勤務されている職員の方のおおよその人数をお教えてください。
- (5) 職員の構成をお教えてください。（複数回答可）
- (6) 職員の方が保有している資格をお選びください。（複数回答可）
- (7) フリースクール等の環境・設備面についてお選びください。
- (8) 運営場所の広さ（屋内）についてお答えください。
- (9) 活動する部屋の数をお選びください。
- (10) 設備についてお選びください。（複数回答可）
- (11) 日常的に行っている屋外への活動（主に体を動かすことを目的にした活動）の場所についてお選びください。（複数回答可）
- (12) 開所日数をお選びください。
- (13) フリースクール等の入会金等（在籍に必要な入会金等）をお教えてください。
- (14) フリースクール等の授業料（ひと月当たりのおおよその授業料）をお教えてください。
- (15) フリースクール等の施設利用料をお教えてください。
- (16) 受け入れ対象について当てはまるものを全てお選びください。
- (17) 2018（平成30）年度～2023（令和5）年度のおおよその在籍数をお教えてください。

- (18) フリースクール等の位置付けをどのように捉えていますか。(複数回答可)
- (19) 在籍している児童・生徒が、フリースクール等に求めていることとして考えうるものをお選びください。(複数回答可)
- (20) 主な活動内容をお選びください。(複数回答可)
- (21) 活動内容や学習・進路支援などについて、活動計画や目安となるものはありますか。
- (22) 保護者の方に対して学習の計画(学習の流れがわかるもの)を示していますか。最も当てはまるものをお選びください。
- (23) ICTを活用した支援について、御活用しているICT機器をお選びください。(複数回答可)
- (24) ICTを活用した支援について、ICT機器の費用負担者をお選びください。
- (25) ICTを活用した支援について、ICT活用の目的・用途をお選びください。(複数回答可)
- (26) 進路に関する支援として行っていることをお選びください。(複数回答可)
- (27) フリースクール等退所後の所属先として多いものを、多い順に3つお選びください。
- (28) 小学校卒業後の所属先(主な活動場所)として多いものを、多い順に3つお選びください。
- (29) 小学校卒業後に2つ以上の施設に所属する児童・生徒について、上記の質問で御回答いただいた主な活動場所以外に所属先(例: 主な活動場所ではない在籍校・主な活動場所のアシストとして通う施設等)として多いものを、多い順に3つお教えください。
- (30) 中学校卒業後の進路先として多いものを、多い順に3つお選びください。
- (31) 連携している・関わりのある機関等について、それぞれの連携頻度をお選びください。
- (32) アウトリーチ支援(在籍しているものの家庭等にいて支援が行き届いていない児童・生徒に対する、訪問支援やICT機器やSNSを活用した支援)を行っていますか。
- (33) フリースクール等での取組について、成果や課題の確認(データとして蓄積している/する予定のものは)は行っていますか。(複数選択可)

【インタビュー調査の内容】

- (1) 児童・生徒の入所までの流れで多く見られるものをお教えください。
- (2) 児童・生徒が不登校になった要因として考えられることをお教えください。
- (3) フリースクール等の位置付けとして最も大切にしている点についてお教えください。
- (4) 児童・生徒が求めていることとして特に重要だと思う点についてお教えください。
- (5) 活動内容の中で特に児童・生徒に変化が見られたものについてお教えください。
- (6) 学習計画がある場合にはどのようなものをお教えください。ない場合には作成しない意図やお考えをお教えください。
- (7) 進路の支援において、特に児童・生徒に変化が見られたものについてお教えください。
- (8) 在籍校との具体的な連携内容と連携における要望をお教えください。
- (9) 在籍校以外との具体的な連携先や連携内容と連携における要望をお教えください。
- (10) アウトリーチ支援について具体的にどのような支援をしているか教えてください。
- (11) 児童・生徒が実際に行った日々の活動の様子について保護者の方との共有は行っていますか。
- (12) フリースクール等の取組についての成果や課題について教えてください。
- (13) 在籍している児童・生徒の保護者の方や問い合わせのある保護者の方の経済状況とフリースクール等の運営や今後の方針との関係性について、感じることやお考えがありましたらお聞かせください。
- (14) 運営・支援や活動上の課題等があればお教えください。

参考

1 参考文献・資料

- * 早川恵子・松添万里子・小林正幸・大月友（2020）．「子供・若者の適応障害に対する効果的な支援に関する研究（1）：時期により対象の状態像及び支援はどのように変化するか？」東京学芸大学教育実践研究, 16, 53-62.
- * 河内絵莉子・小林正幸（2009）．「学校における居心地のよさと学校適応の関連について ―学校居心地感尺度の作成―」．日本カウンセリング学会第42回大会, 135.
- * 国立成育医療研究センター（2021）．「コロナ×子供アンケート 第6回調査報告書」, p.41より抜粋（許諾有）．

2 国立大学法人東京学芸大学 担当者・執筆者一覧

教育インキュベーション推進機構	機構長 前機構長 専門研究員 専門研究員 専門研究員 共同研究員 共同研究員 共同研究員	國仙 久雄 松田 恵示（訪問調査） 高橋 美登梨（調査全体の分析と執筆） 塚田 夏織（調査全体の分析と執筆） フルノ なな子（訪問調査の分析と執筆） 岸 学（アンケート調査の分析と執筆） 小林 正幸（調査構成と執筆） 三石 初雄（内容確認）
総合教育科学系特別支援科学講座 教育インキュベーションセンター 子供の学び困難支援センター	講師 准教授 センター長 講師 専門研究員 共同研究員	村尾 愛美（アンケート調査の分析と執筆） 荻上 健太郎（内容確認） 加瀬 進 田嶋 大樹（訪問調査） 宮下 佳子（訪問調査） 小林 拓哉（訪問調査） 千野 たみ（訪問調査補助）
修士課程		

3 東京都教育庁指導部 担当者一覧

【令和4年度】

東京都教育庁 東京都教育庁指導部	指導部長 指導企画課長 主任指導主事 統括指導主事 指導主事 指導主事	小寺 康裕 栗原 健 美越 英宣 小鍛冶 誠一 春原 裕太 岡野 幸一
東京都教育庁指導部指導企画課		（職名は令和5年3月現在）

【令和5年度】

東京都教育庁 東京都教育庁指導部	指導部長 指導企画課長 主任指導主事 統括指導主事 指導主事 指導主事 指導主事 課長代理	小寺 康裕 土屋 秀人 美越 英宣 佐藤 誠 金子 将之 古川 裕平 岡野 幸一 小池 瑛
東京都教育庁指導部指導企画課		（職名は令和6年3月現在）

【令和6年度】

東京都教育庁 東京都教育庁指導部	指導部長 指導企画課長 主任指導主事 統括指導主事 指導主事 指導主事 指導主事	山田 道人 藤田 修史 美越 英宣 佐藤 誠 古川 裕平 岡野 幸一 小池 瑛
東京都教育庁指導部指導企画課		（職名は令和6年8月現在）